

青森県埋蔵文化財調査報告書 第234集

# 野尻(1)遺跡Ⅰ

— 国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

1998年3月

青森県教育委員会



青森県埋蔵文化財調査報告書 第234集

# 野尻(1)遺跡Ⅰ

—国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

1998年3月

青森県教育委員会







野尻 (1) 遺跡と周辺の遺跡 (北から)



野尻 (1) 遺跡北側全景 (東から)



## 序

青森県教育委員会は、遺跡の登録、遺跡地図の作成、分布調査や発掘調査など、埋蔵文化財保護について諸施策措置を講じております。

このたび、国道101号浪岡五所川原道路建設事業の実施に伴い、建設省東北建設局青森工事事務所から委託を受けて、平成8年度に当教育委員会が発掘調査を実施した南津軽郡浪岡町に所在する野尻(1)遺跡の発掘成果がまとまり、ここに報告書を刊行することになりました。

調査の結果、平安時代の数多くの遺構や遺物が出土し、浪岡町及びその周辺地域などの古代史を知る上で、貴重な資料が多数得られました。

この発掘成果が、広く文化財の保護と研究に活用され、また、地域社会の歴史学習や地域住民の文化財保護の意識の高揚につながることを期待したいと存じます。

最後になりましたが、平素より埋蔵文化財の保護に対し、御理解を賜っている建設省東北建設局青森工事事務所並びに浪岡町教育委員会、また、発掘調査の実施と報告書の作成にあたり御協力、御指導を賜りました関係各位に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成10年3月

青森県教育委員会

教育長 松森 永祐

# 例 言

- 1 本報告書は、国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴い平成8年度に実施した南津軽郡浪岡町野尻(1)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 この遺跡は、平成4年3月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』に、遺跡番号29-060として登録されている。
- 3 執筆者の氏名は、依頼原稿については文頭に記載し、その他は文末に記してある。遺物観察表は、佐藤 智生が作成した。
- 4 資料の分析、鑑定については、下記の方に依頼した(敬称略)。  
放射性炭素による年代測定 学習院大学教授 木越 邦彦
- 5 本書に掲載した地形図(遺跡の位置)は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図を複写したものである。
- 6 挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。
- 7 遺物写真の縮尺は不統一である。
- 8 遺構内外の堆積土の注記は、色については『新版標準土色帖』(小山正忠、竹原秀雄 1993)を用いた。混入物の大きさについては、便宜的に次のとおりとした。粒状のものについては、2mm以下のものを「粒」、2~5mm程度のものを「中粒」、5~10mm程度のものを「大粒」とした。塊状のものについては、径10mm以下のものは「小塊」、径10~20mm程度のものは「中塊」、径20~50mm程度のものを「大塊」とした。
- 9 観察表については、表の直前頁に凡例を設けた。
- 10 本稿で使用した遺構の略号はS J=竪穴住居跡、S B=掘立柱建物跡、S K=土坑、S D=溝跡、S F=焼土遺構である。
- 11 引用文献については、巻末に収めた。
- 12 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 13 発掘調査及び本報告書の作成にあたり、次の方々から御教授、御指導をいただいた(順不同、敬称略)。  
木村 浩一、高橋 智佳子、宇部 則保

# 目 次

口絵

序

例 言

目 次

<b>第1章 発掘調査の概要</b> .....	1
第1節 調査要項 .....	1
第2節 調査の方法 .....	2
第3節 調査の経過 .....	2
<b>第2章 遺跡の環境</b> .....	3
第1節 遺跡周辺の地形および地質 .....	3
第2節 周辺の遺跡 .....	7
<b>第3章 遺構と遺物</b> .....	11
第1節 概要 .....	11
第2節 平安時代の遺構と遺物 .....	11
第3節 その他の時代の遺構と遺物 .....	132
遺物観察表凡例 .....	135
遺物観察表 .....	136
<b>第4章 自然科学的分析</b> .....	148
第1節 放射性炭素年代測定 .....	148
<b>第5章 考察とまとめ</b> .....	149
第1節 外周溝の付け替えについて .....	149
第2節 所謂ムシロ底の土器について .....	152
第3節 所謂焼成粘土塊に類似する遺物について .....	153
引用・参考文献 .....	155
写真図版 .....	157
報告書抄録 .....	182



## 挿図目次

<p>図1 浪岡周辺の地形分類図(山口 1996) …… 3</p> <p>図2 浪岡周辺の火山灰の層序を示す模式柱状図 (山口 1996) …… 4</p> <p>図3 各遺跡内における土層の模式柱状図 …… 5</p> <p>図4 野尻(1)遺跡基本土層 …… 6</p> <p>図5 周辺の遺跡の遺構配置図 …… 8</p> <p>図6 遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 10</p> <p>図7 野尻(1)遺跡遺構配置 …… 12</p> <p>図8 第1号建物跡 …… 14</p> <p>図9 第2号建物跡(カマド) …… 15</p> <p>図10 第1号建物跡(柱穴) …… 15</p> <p>図11 第1号建物跡(S B 1断面) …… 16</p> <p>図12 第1号建物跡(S D 1断面) …… 16</p> <p>図13 第1号建物跡出土遺物 (S J 1・S D 1部分) …… 17</p> <p>図14 第2号住居跡 …… 18</p> <p>図15 第2号住居跡(柱穴) …… 19</p> <p>図16 第2号住居跡出土遺物 …… 19</p> <p>図17 第3号建物跡 …… 21</p> <p>図18 第3号建物跡(S J 3柱穴) …… 22</p> <p>図19 第3号建物跡(S B 2柱穴) …… 22</p> <p>図20 第3号建物跡(S D 3・S D 7～9断面) …… 23</p> <p>図21 第3号建物跡出土遺物 (S J 3・S D 3部分) …… 24</p> <p>図22 第4号建物跡 …… 26</p> <p>図23 第4号建物跡(S J 4・S D 10断面) …… 27</p> <p>図24 第4号建物跡出土遺物(S D 10部分) …… 27</p> <p>図25 第5号建物跡 …… 29</p> <p>図26 第5号建物跡(S J 5・S D 11断面) …… 30</p> <p>図27 第5号建物跡出土遺物 (S J 5・S D 11部分) …… 31</p> <p>図28 第5号建物跡出土遺物(S D 11部分) …… 32</p> <p>図29 第6号建物跡 …… 34</p>	<p>図30 第6号建物跡(S J 6・S B 6断面) …… 35</p> <p>図31 第6号建物跡(S D 16断面) …… 36</p> <p>図32 第6号建物跡出土遺物 (S J 16内S K 2部分) …… 37</p> <p>図33 第6号建物跡出土遺物(S D 16内S K 1・S D 16内S K 2部分) …… 38</p> <p>図34 第6号建物跡出土遺物 (S D 16内S K 1部分) …… 39</p> <p>図35 第7号建物跡 …… 41</p> <p>図36 第7号建物跡(S J 7部分断面) …… 42</p> <p>図37 第7号建物跡(S J 7断面・カマド) …… 42</p> <p>図38 第7号建物跡(S B 16・S D 17断面) …… 43</p> <p>図39 第7号建物跡出土遺物(S J 7・S D 17・S D 22部分) …… 44</p> <p>図40 第8号建物跡 …… 46</p> <p>図41 第8号建物跡(S J 8、S D 18断面) …… 47</p> <p>図42 第8号建物跡(S J 8カマド・柱穴) …… 48</p> <p>図43 第8号建物跡出土遺物 (S J 8・S D 18部分) …… 49</p> <p>図44 第8号建物跡(S D 22) …… 50</p> <p>図45 第8号建物跡出土遺物(S D 22部分) …… 50</p> <p>図46 第9号建物跡 …… 52</p> <p>図47 第9号建物跡(S J 9・S B 5断面) …… 53</p> <p>図48 第9号建物出土遺物 (S D 9・S D 19部分) …… 53</p> <p>図49 第10号建物跡 …… 55</p> <p>図50 第10号建物跡(S J 10・S D 20断面) …… 56</p> <p>図51 第10号建物跡出土遺物 (S J 10・S D 20部分) …… 57</p> <p>図52 第11号建物跡 …… 59</p> <p>図53 第11号建物跡(S J 11・S D 23断面) …… 60</p> <p>図54 第11号建物跡出土遺物 (S J 11・S D 23部分) …… 61</p>
--	--



図55	第11号建物跡出土遺物 (S D23部分) ……62	(S D30部分その1) ……93
図56	第12号建物跡……………64	
図57	第12号建物跡 (S J12・S B7・S D21) ……65	
図58	第12号建物跡出土遺物 (S J12・S D21部分) ……66	
図59	第13号建物跡……………68	
図60	第13号建物跡 (S J13・S D26・S B8断面) ……69	
図61	第13号建物跡出土遺物 (S D26部分その1) ……70	
図62	第13号建物跡出土遺物 (S D26部分その2) ……71	
図63	第13号建物跡出土遺物 (S D26部分その3) ……72	
図64	第14号建物跡……………74	
図65	第14号建物跡 (S B13・S D27断面) ……75	
図66	第14号建物跡出土遺物 (S D27部分) ……76	
図67	第15号建物跡……………78	
図68	第15号建物跡 (S J15・S B9・S D28断面) ……79	
図69	第15号建物跡出土遺物 (S D28部分その1) ……80	
図70	第15号建物跡出土遺物 (S D28部分その2) ……81	
図71	第16号建物跡……………83	
図72	第16号建物跡 (S J16・S B10・S D29断面) ……84	
図73	第16号建物跡出土遺物 (S D29部分) ……85	
図74	第17号建物跡……………87	
図75	第17号建物跡 (S J17) ……88	
図76	第17号建物跡 (S D30) ……89	
図77	第17号建物跡 (S J17柱穴) ……90	
図78	第17号建物跡 (S B12・15断面) ……91	
図79	第17号建物跡出土遺物 (S J17・S B12部分) ……92	
図80	第17号建物跡出土遺物 (S D30部分その2) ……94	
図81	第17号建物跡出土遺物 (S D30部分その3) ……95	
図82	第17号建物跡出土遺物 (S D30部分その4) ……96	
図83	第17号建物跡出土遺物 (S D30部分その4) ……96	
図84	土坑 (S K1~7・10~12) ……105	
図85	土坑 (S K13~22) ……106	
図86	土坑 (S K23~27・S B14) ……107	
図87	土坑 (S K28~33・36~39) ……108	
図88	土坑出土遺物 (S K18・19・21・22・23・27) ……109	
図89	土坑出土遺物 (S K31・32・33・36) ……110	
図90	溝跡 (S D2) ……115	
図91	溝跡 (S D4・5・6) ……116	
図92	溝跡 (S D12・13・14・32) ……117	
図93	溝跡 (S D15・24) ……118	
図94	溝跡 (S D25・33・34) ……119	
図95	溝跡 (S D35) ……120	
図96	溝跡 (S D36) ……121	
図97	溝跡出土遺物 (S D2) ……122	
図98	溝跡出土遺物 (S D2・4) ……123	
図99	溝跡出土遺物 (S D5・6・13・15・24) ……124	
図100	溝跡出土遺物 (S D25・32・33) ……125	
図101	溝跡出土遺物 (S D36) ……126	
図102	掘立柱建物跡 (S B11) ……128	
図103	1号埋設土器出土状態……………129	
図104	1号埋設土器……………129	
図105	焼土遺構 (S F1) ……130	
図106	焼土遺構 (S F2・3・4) ……131	
図107	溝状土坑 (S K8・9) ……132	
図108	遺構外出土土器……………134	
図109	遺構外出土石器……………134	
図110	外周溝付け替え模式図……………150	

## 写真図版目次

写真1 調査区全景（東から）	157	写真7 第2号～5号建物跡	163
写真2 調査区全景	158	1 第2号住居跡	
1 調査区全景（西から）		2 第2号建物跡断面	
2 調査区南側		3 第3号建物跡（南から）	
3 調査区東側		4 第3号建物跡（東から）	
写真3 調査区全景	159	5 第3号建物跡（SD7・8・9）	
1 調査区南側全景（東から）		6 第4号建物跡（西から）	
2 調査区北側全景（東から）		7 第4号建物跡 掘り方	
写真4 基本層序	160	8 第5号建物跡（北から）	
1 基本層序（DF36）		写真8 第5号～6号建物跡	164
2 基本層序（DF36拡大）		1 第5号建物跡（西から）	
3 基本層序（CA38）		2 第5号建物跡 SD11部分断面	
4 基本層序（CU18）		3 第6号建物跡（西から）	
5 基本層序（CG15）		4 第6号建物跡（東から）	
6 基本層序（BF14）		5 第6号建物跡 掘り方	
写真5 縄文時代の遺構	161	6 第6号建物跡 SD16部分断面	
1 第8号土坑（溝状土坑）		7 第6号建物跡 SD16部分断面	
2 第8号土坑（溝状土坑）		8 第6号建物跡 SD16内SK1 遺物出土状態	
3 第9号土坑（溝状土坑）		写真9 第6号～9号建物跡	165
4 第9号土坑（溝状土坑）		1 第6号建物跡 SD16内遺物出土状態	
5 第9号土坑（溝状土坑）		2 第7号・8号建物跡（南西から）	
写真6 第1号建物跡	162	3 第7号建物跡 カマド	
1 第1号建物跡（北西から）		4 第8号建物跡（南東から）	
2 第1号建物跡（北東から）		5 第8号建物跡 SJ8部分	
3 第1号建物跡（東から）		6 第8号建物跡 掘り方	
4 第1号建物跡 掘り方		7 第8号建物跡 SD18部分断面	
5 第1号建物跡 SJ1部分掘り方		8 第9号建物跡（北西から）	
6 第1号建物跡 カマド遺物出土状態		写真10 第9号～13号建物跡	166
7 第1号建物跡 カマド断面		1 第9号建物跡（南西から）	
8 第1号建物跡 カマド		2 第10号建物跡（北西から）	
		3 第10号建物跡 SD20部分断面	

4	第11号建物跡（南西から）	2	第17号建物跡 S D30部分断面
5	第12号建物跡（北西から）	3	第17号建物跡 S D30部分遺物出土状態
6	第12号建物跡（南東から）	4	第17号建物跡 S D12-pit 6 遺物出土状態
7	第13号建物跡（西から）	5	第3号土坑
8	第13号建物跡 掘り方	6	第4号土坑
写真11	第13号～第15号建物跡 ……………167	7	第5号土坑
1	第13号建物跡（北西から）	8	第6号土坑
2	第13号建物跡（北東から）	写真15	第7号～第19号土坑 ……………171
3	第13号建物跡（南東から）	1	第7号土坑（断面）
4	第14号建物跡（北西から）	2	第12号土坑
5	第14号建物跡（南東から）	3	第13号土坑
6	第14号建物跡 掘り方	4	第14号土坑
7	第15号建物跡（北西から）	5	第15号土坑
8	第15号建物跡 掘り方	6	第16号土坑
写真12	第15号～第16号建物跡 ……………168	7	第17号土坑
1	第15号建物跡（北西から）	8	第18・19号土坑
2	第15号建物跡（東から）	写真16	第20号～第26号土坑 ……………172
3	第15号建物跡（北から）	1	第20号土坑
4	第16号建物跡 掘り方	2	第22号土坑（断面）
5	第16号建物跡（南東から）	3	第22号土坑（完掘）
6	第16号建物跡（東から）	4	第22号土坑（掘り方）
7	第16号建物跡（掘り方）	5	第23号土坑（断面）
8	第16号建物跡 S D29部分断面	6	第24号土坑
写真13	第16号～第17号建物跡 ……………169	7	第25号土坑
1	第16号建物跡 S D29部分断面	8	第26号土坑
2	第16号建物跡 S D29部分断面	写真17	第27号～第29号土坑 ……………173
3	第16号建物跡 S D29部分遺物出土状態	1	第27号土坑（断面）
4	第17号建物跡（北西から）	2	第27号土坑（遺物出土状態）
5	第17号建物跡 S J17部分	3	第27号土坑（遺物出土状態）
6	第17号建物跡 S J17部分掘り方	4	第27号土坑
7	第17号建物跡 炭化材出土状態	5	第28号土坑（断面）
8	第17号建物跡 炭化材出土状態	6	第28号土坑
写真14	第17号建物跡・第3号～6号土坑 ……………170	7	第29号土坑（断面）
1	第17号建物跡 S D30部分断面	8	第29号土坑

写真18 第30号～第39号土坑 .....	174
1 第30号土坑 (断面)	
2 第33号土坑 (断面)	
3 第33号土坑	
4 第36号土坑	
5 第37号土坑	
6 第38号土坑	
7 第39号土坑	
写真19 溝跡 .....	175
1 第2号溝跡 南半 (北から)	
2 第2号溝跡 北半 (北から)	
3 第2号溝跡 遺物出土状態	
4 第2号・5号・6号溝跡 (北から)	
5 第5号・6号溝跡	
6 第12・13・14号溝跡 (北から)	
7 第25号溝跡 (北から)	
8 第32号溝跡 (南から)	
写真20 溝跡・掘立柱建物跡・焼土遺構他 .....	176
1 第36号溝跡	
2 第36号溝跡断面	
3 第36号溝跡断面	
4 第11号掘立柱建物跡	
5 第1号焼土遺構	
6 調査風景	
7 調査風景	
8 調査風景	
写真21 遺構内出土遺物 (1) .....	177
写真22 遺構内出土遺物 (2) .....	178
写真23 遺構内出土遺物 (3) .....	179
写真24 遺構内出土遺物 (4) .....	180
写真25 遺構外出土遺物 .....	181

# 第1章 発掘調査の概要

## 第1節 調査要項

### (1) 調査目的

国道101号浪岡五所川原道路建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する浪岡町野尻（1）遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財活用に資する。

(2) 発掘調査期間 平成8年5月7日から同年10月31日まで

(3) 遺跡名及び所在地 野尻（1）遺跡（青森県遺跡台帳番号 29-060）  
青森県南津軽郡浪岡町大字高屋敷字野尻155-4、外

(4) 発掘調査面積 12,000平方メートル

(5) 調査委託者 建設省青森工事事務所

(6) 調査受託者 青森県教育委員会

(7) 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター

(8) 調査協力機関 浪岡町教育委員会、中南教育事務所

### (9) 調査参加者

調査指導員 村越 潔 青森大学教授（考古学）

調査協力員 蝦名 俊吉 浪岡町教育委員会教育長

調査員 光谷 拓実 奈良国立文化財研究所発掘技術研究室長（植物材質学）

山口 義伸 青森県立板柳高等学校教諭（地質学）

工藤 清泰 浪岡町町史編纂室（考古学）

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

調査第二課

総括主幹

調査第二課長 鈴木 克彦

主 事 太田原 潤

主 事 山内 実（現 岩木町立常盤野小学校教諭）

調査補助員 金枝鉄明、野藤さおり、小田桐良、小山朋子

## 第 2 節 調査の方法

調査開始にあたって、道路建設用の中心杭ENO.7を基準点とし、中心杭ENO.3とENO.7を結ぶ基準線をCRラインとした。基準点ENO.7でCRラインに直交する基準線を15ラインとして4m四方のグリッドを設定した。各グリッド杭の呼称は、基準点ENO.7をCR-10になるように、北から南にAA、AB、AC、…、BA (=AZ)、BB、…、CA (=BZ)、CB、…の順に、アルファベット文字を、また、東から西へ0、1、2、3、…の順に算用数字を付して、アルファベットと算用数字との組み合わせで示した。具体的には、そのグリッド北東隅の基準杭の表示によるものとした。なお、グリッドの算用数字ラインの基準線は、磁北から2度西へ傾いている。

測量原点（ベンチマーク）は、遺跡近くにある道路工事用の仮ベンチマークからレベル移動を行い、調査区域内に3箇所設定した。

調査にあたっては、遺跡の土層の堆積状況を観察するために適宜セクションベルトを設け、グリッドごとに掘り進めていった。

遺物の取り上げは、グリッド単位に層位ごとに行うこととした。

土層の名称は、基本層序については表土から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を各々付すことにした。土層観察にあたっては、『標準土色帖』を用い注記した。写真撮影は、適宜行うこととし、カラーリバーサルとモノクロームの2種類のフィルムを使用することにした。

(山内 実)

## 第 3 節 調査の経過

平成8年5月7日（火）、調査器材を搬入し、野尻（1）遺跡の発掘調査を開始した。調査は、道路建設用のセンター杭の2本を基準とした中心軸線を設定し、グリッドの設定から始めた。これと併行して調査区内の上物の撤去を行った。

平成8年度の発掘調査は、グリッドの40ライン付近に位置する町道以東を対象とした。まず、BWライン以南の地区の表土を除去し、この中でも調査対象区南東端にあたる野尻（4）遺跡の隣接地付近から順次精査を実施した。ここまでの調査分は7月24日に空中写真撮影を行った。

BWライン以北の地区では、標高の高い西側から順次表土除去、精査を進めた。面積上での当初の調査予定区域は、25ライン付近以西までであったが、調査が比較的円滑に進行したため25ライン以東の表土除去、遺構精査も実施した。

10月18日にBWライン以北を中心とした空中写真撮影を行い、全体測量図等を作成して10月31日平成8年度の発掘調査を無事終了した。

なお、8年度の調査予定終了の目途がついた段階で、次年度以降の調査予定地の試掘調査も一部実施した。

(山内 実)



## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡周辺の地形及び地質

野尻(1)遺跡の所在する浪岡町は津軽平野南東縁に位置する。町内には浪岡川が貫流し、それに

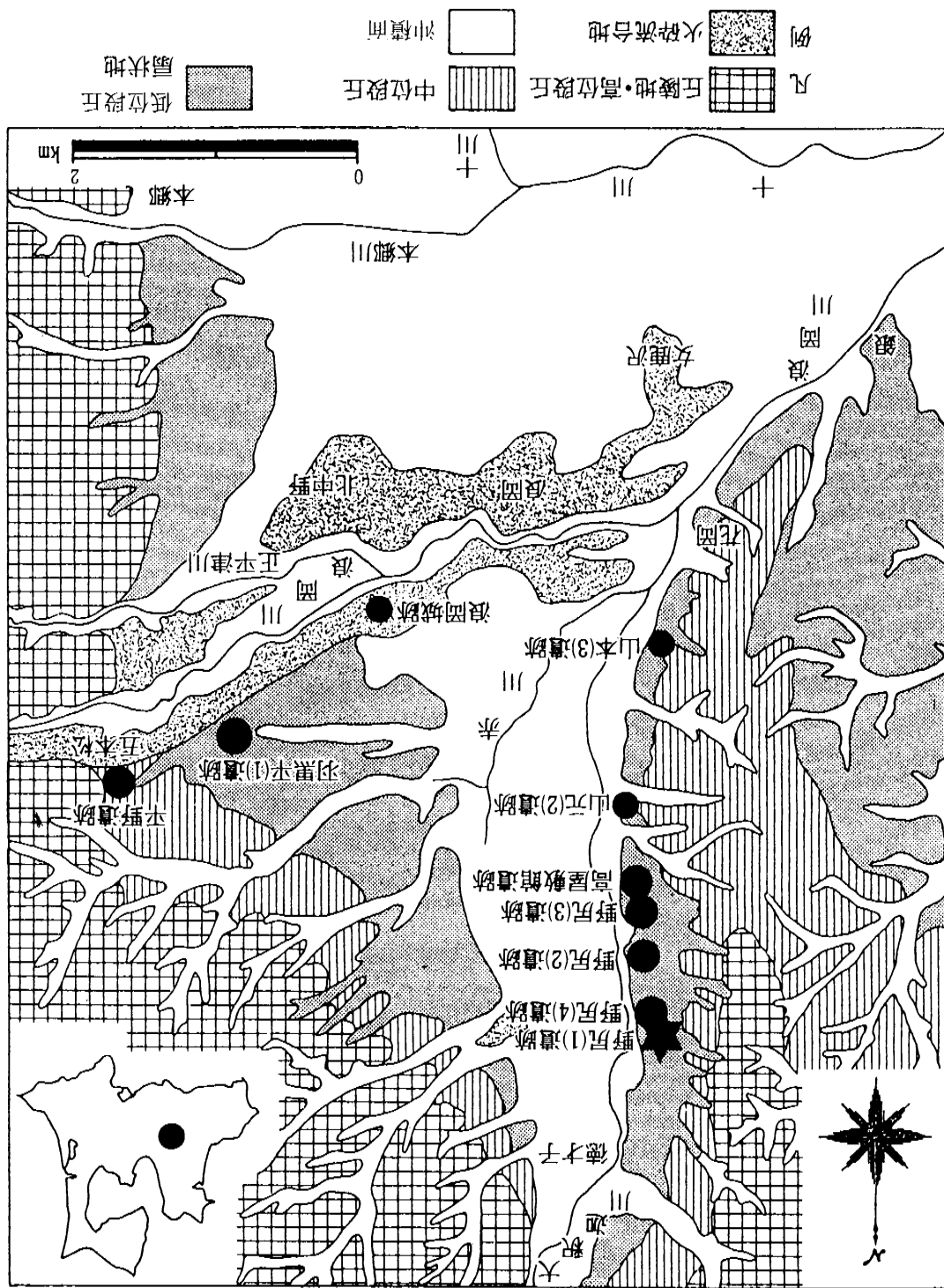


図1 浪岡周辺の地形分類図(山口 1996)

いくつかの河川が合流している。本遺跡はそうした河川の一つである大釈迦川の右岸に位置している。大釈迦川は北方の梵珠山（468m）に源を發し、梵珠山地、及び前田野目台地の東縁に沿うように南流し、女鹿沢付近で浪岡川に合流したのち、板柳町付近でさらに十川に合流する。

大釈迦川西方及び北方には馬の髪山及び梵珠山を中心とする梵珠山地が南北に帯状に広がり、その外縁部には大釈迦丘陵が、そしてさらにその縁辺部には前田野目台地が弧状に連なっている。前田野目台地は、約65万年前に流下したと思われる八甲田第一期火砕流堆積物及び砂、粘土を主体とする前田野目層からなる高位段丘、洞爺火山灰を指標とする中位段丘、その縁辺部に分布する低位段丘の3段からなる。

図1は浪岡町周辺の地形分類図であるが、図に示したように、大釈迦川右岸の低位段丘面上には平安時代の遺跡が多数連なっている。本遺跡もそうした遺跡の一つであり、すでに報告書が刊行されている野尻（4）遺跡は本遺跡の南東に隣接する遺跡である。同遺跡は段丘の東縁近くに位置しているが、この付近の段丘末端部は比高3～4 m程の急崖で大釈迦川に臨んでいる。今回の調査区域は標高

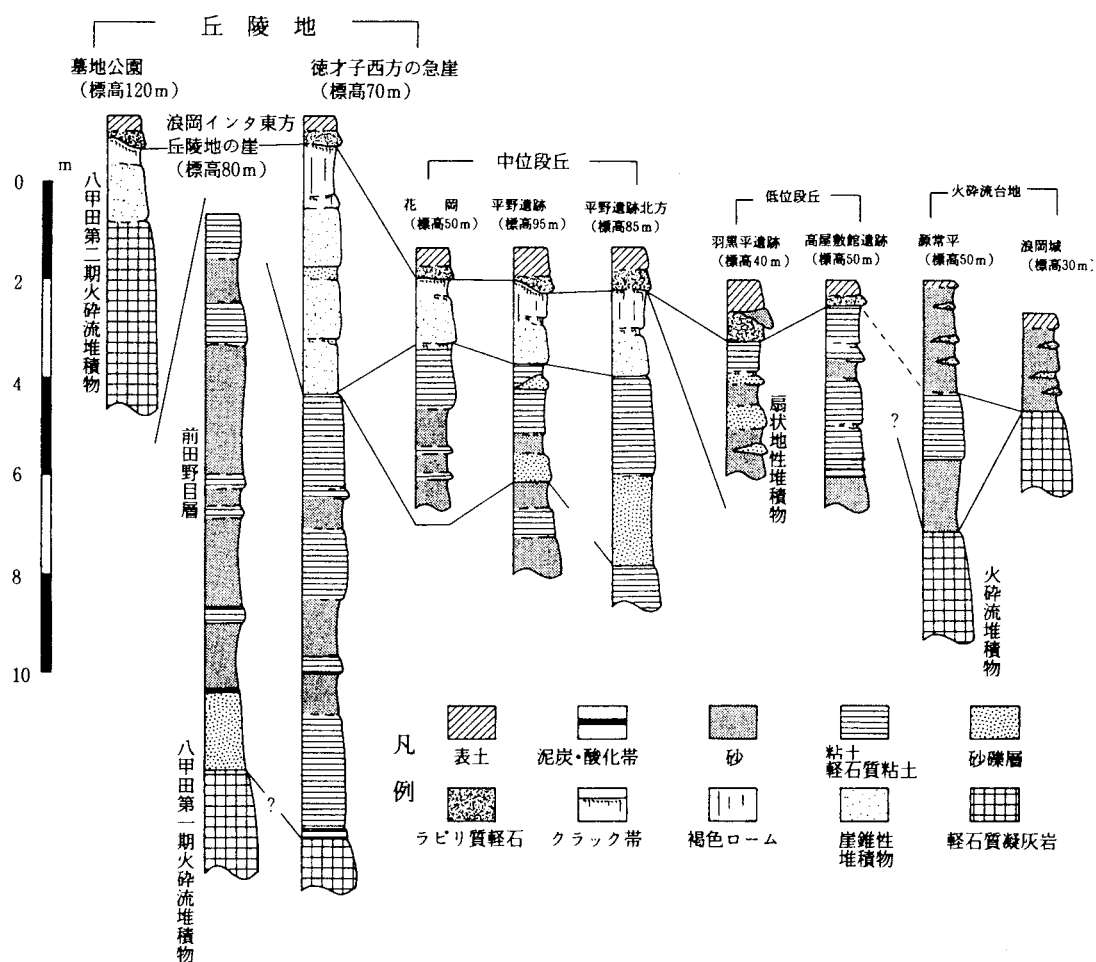


図2 浪岡周辺の火山灰の層序を示す模式柱状図（山口 1996）

が約45～52mであり、標高約40m前後の野尻（4）遺跡に比較すると、同じ段丘面でも、より丘陵に近いほうに位置している。

低位段丘面の標高は約40～60mで、面の解析度が小さく平坦ではあるが、東方に傾斜している。中位段丘は比高約20mの急崖で低位段丘の背後に接し、崖下の低位段丘面には崖錐性の堆積物が厚く堆積する。低位段丘面上には野尻（3）遺跡で確認されたような埋積された谷地形が多いことや、解析谷が少ないことから、中位段丘からの土砂は、流水とともに凹地を埋積しながら低位段丘面のほぼ全面を流路として流れ、大釈迦川に達していたものと推定されている。

また、高屋敷館遺跡で確認された周氷河現象等から、大釈迦川は浪岡撓曲の軸をなす構造谷であり、本遺跡等を載せる低位段丘面は構造谷の西翼に相当するものと考えられている。

以上が本遺跡周辺の地形、地質の概略であるが、これらの記述は全て『青森県埋蔵文化財調査報告書第186集 野尻（4）遺跡』所収の「遺跡周辺の地形及び地質」（山口 義伸 1996）に依拠したものである。本節は其中でも特に野尻（1）遺跡に関わる部分を中心に抜粋してまとめたものであり、より詳細な内容等については同書を参照されたい。

（太田原 潤）

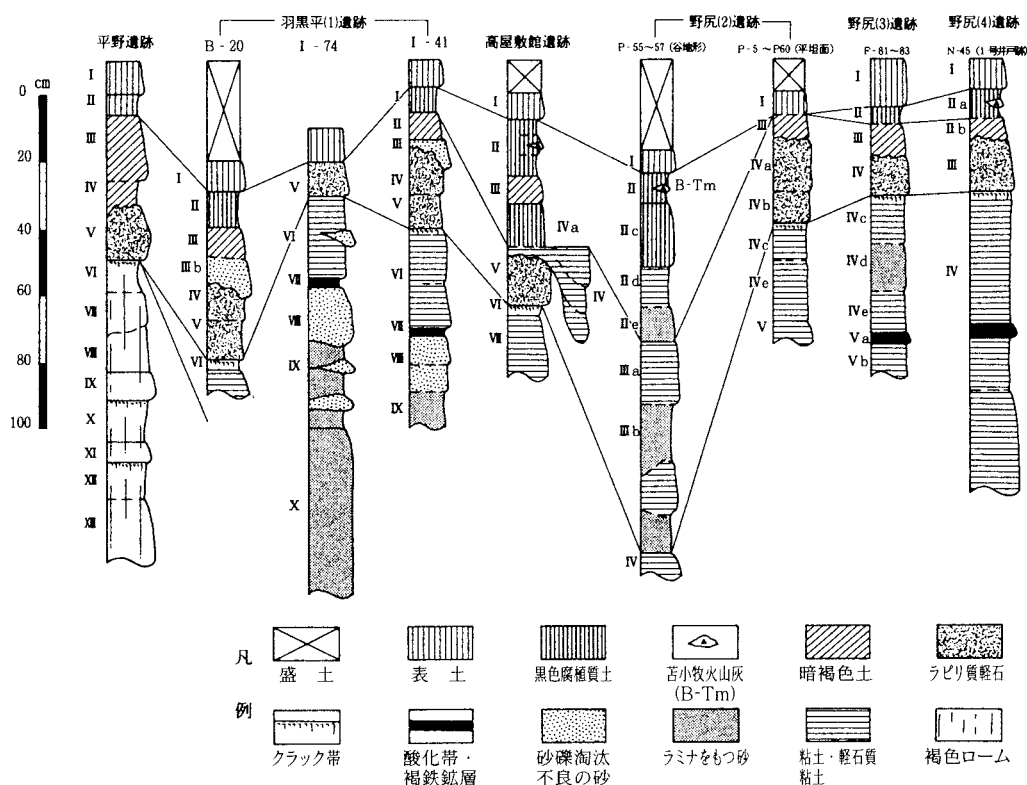


図3 各遺跡内における土層の模式柱状図（山口 1996）

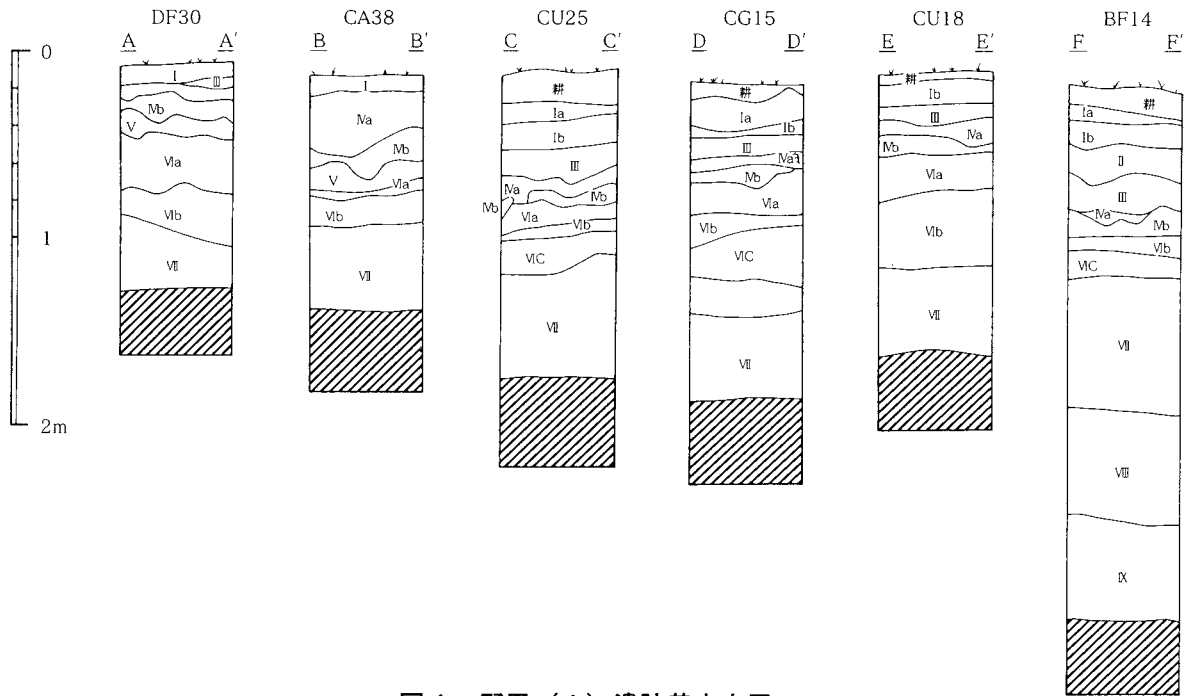


図4 野尻(1)遺跡基本土層

I 層 10YR2/1 黒褐色土

I a層 黒褐色土(耕作土) 非常にかたい。しまりに欠け、もろい。乾くとクラックが発達し格子状に割れやすい。黒灰色に変色しやすい。

I b層 表土 黒色土 粘性、湿性多少あり。非常にかたさはあるが、しまりに欠け、もろい感じ。

II 層 黒褐色土 粘性、湿性ややあり。しまりがあるが全体的にソフトである。苦小牧火山灰がブロック状に混入する(やや上部に位置する)。全体的に細粒砂質。また軽石粒の混入も多少みられる。

III 層 10YR1.7/1 黒色腐植質土 粘性、湿性あり。かたさ、しまりあるが、全体的にソフトな感じ。乾くとクラックが発達し、格子状の割れ目立つ。全体的に粘土質で低地に堆積する。

IV 層 漸移層

IV a層 10YR2/2 黒褐色土 腐植質で、軽石粒がより混入。かたさ、しまりややあり。粘性、湿性あり。全体的にソフトである。

IV b層 10YR3/4 暗褐色土 多少腐植質。軽石粒・ブロックの混入が多くややしまりに欠ける。

V 層 10YR4/4 褐色土 明黄褐色軽石層 緻密堅固。チビキ浮石に対比。軽石粒(径5~10)がより混入。

VI 層

VI a層 10YR5/6 黄褐色土 灰黄褐色凝灰質粘土 塊状無層理(浮石流堆積物の一部が)

VI b層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 黄灰色凝灰質粘土 多少縞模様なす。(浮石流堆積物の一部が)

VI c層 灰褐色~灰黄色凝灰質粘土質砂層(不淘汰) 縞模様をなす。

※ CG-15において

層全体が部分的に砂質になっているところもある。

b中に暗赤橙色の砂鉄混じりの中粒砂のブロックあり。

c中に暗灰褐色砂質粘土粒のブロックあり。

VII 層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄灰色~灰白色粘土 最上部に酸化被膜(5~10)あり。最上部が時として厚さ5cmにもなる。

\* BF-14において

II層、III層中に粘土粒がかなり混入。焼土粒多少混入(II層中が多い)

II層中にB-Tmの小ブロックが混入している。

III層中に砂のブロック(径5大)が混入している。

## 第2節 周辺の遺跡

国指定史跡浪岡城の所在する浪岡町は中世の里として知られる。浪岡城址の継続的な学術調査によって得られた情報は、質、量ともに充実したものであり、県内はもとより国内の中世史の研究に大きく貢献している。

近年、浪岡町内ではそれ以外の発掘調査も相次いでおり、中世以前の浪岡の様子が徐々に明らかになってきた。特に、浪岡バイパス建設事業に先立って実施された山本遺跡、野尻（2）、（3）、（4）遺跡、高屋敷館遺跡、山元（1）、（2）、（3）遺跡や、主要地方道青森浪岡線建設事業に先立って実施された松山遺跡、平野遺跡、羽黒平（1）遺跡からは平安時代の集落が確認され、それぞれに特徴的な遺構、遺物が多数検出された。

それらの遺跡と本遺跡との位置関係は、山本遺跡が本遺跡北東の隣接地、野尻（4）遺跡は南東の隣接地となる。

野尻（4）遺跡からは外周溝と掘立柱建物が付随する竪穴住居跡が多数検出されているが、本遺跡で確認された住居跡も17件中16件が同様のものであった。山本遺跡で確認された住居跡も、あらためて遺構配置図を検討してみると同様のものが多いようである。こうした住居跡は野尻（3）遺跡でも多数確認されており、大釈迦川西岸に比較的多く分布する。同様の例は近年徐々に確認例が増えてきており、浪岡町松元遺跡、松山遺跡、羽黒平（1）遺跡、青森市朝日山（3）遺跡、五所川原市隠川（3）遺跡等で確認されている。

他に周辺の遺跡から検出された遺構の中で特筆されるものとしては野尻（2）遺跡の円形周溝や、高屋敷館遺跡の環濠と土塁等が挙げられる。特に集落全体が環濠と土塁で囲まれた高屋敷館遺跡は平安時代の特殊な集落跡として注目されている。野尻（4）遺跡でも小規模ながらその先駆的な環濠が検出されている点も興味深い。

また、本遺跡北西の前田野目、持子沢等には五所川原須恵器古窯跡群があり、本遺跡周辺は生産地周辺の遺跡としても注目される。

（太田原 潤）

1 野尻（1）	2 早稲田館	3 山元	4 野尻（4）	5 野尻（2）
6 野尻（3）	7 高屋敷館	8 山元（1）	9 山元（2）	10 山元（3）
11 砂田C	12 砂田E	13 砂田D 1号窯	14 砂田D 2号窯	
15 砂田B 1号窯	16 砂田B 2号窯	17 鞠の沢	18 犬走（1）	
19 持子沢D	20 持子沢A	21 犬走（2）	22 持子沢B	23 持子沢C
24 隠川（2）	25 隠川（10）	26 隠川（4）	27 隠川（3）	28 川崎
29 真言館	30 桜ヶ峰（3）	31 桜ヶ峰	32 桜ヶ峰（2）	33 下下平
34 旭（2）	35 寺屋敷平	36 旭（1）	37 吉野田平野	38 熊沢溜池
39 神明宮	40 大林	41 長溜池	42 大堤沢	43 松山
44 平野	45 松山寺	46 羽黒平（2）	47 羽黒平（1）	48 源常平
49 加茂神社	50 浪岡崎（1）	51 王田館	52 桃里	53 杉の沢
54 吉内	55 中屋敷	56 本郷	57 田ノ沢	58 松元

図6 参照



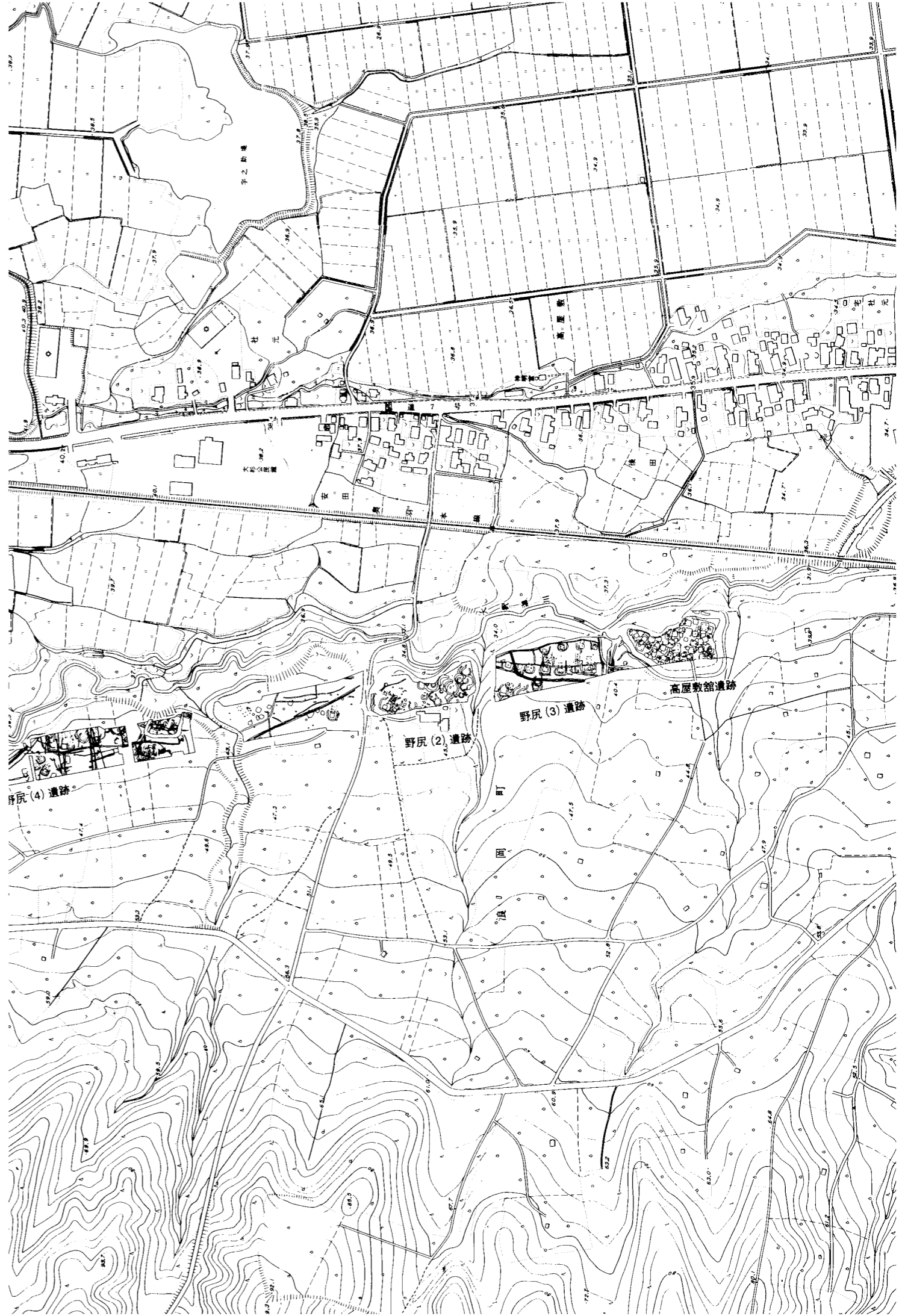


図5 周辺の遺跡の遺構配置





## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 概要

検出された遺構は、竪穴住居跡17軒、掘立柱建物跡15棟、土坑39基、溝跡36条、焼土遺構4基、溝状ピット1基である。これらのほとんどは平安時代のもものと推定され、それ以外で時期が特定できるのは縄文時代の溝状ピットの2基のみである。遺物が出土しなかった土坑の時期は必ずしも明確ではないが、覆土の状況等で判断した。

竪穴住居跡のうち16軒は掘立柱建物跡か外周溝、もしくはその両者が付随するものであり、竪穴住居跡単独のものは1軒だけである。

掘立柱建物跡のうち13棟は竪穴住居跡のカマド側に隣接するものであり、単独のものは2棟のみである。

溝跡は直線状に延伸するものと、コの字状に巡るものに大別される。後者は竪穴住居跡を囲むものが多く、22条は竪穴住居跡に伴う外周溝と考えられる。その他にも、本来竪穴住居跡の外周溝であった可能性が考えられる溝が3条ある。直線状の溝は南北方向に走行性をもち、両端とも調査区外にまで延伸している。

なお、それぞれの遺構は個別に番号を付してあるが、外周溝や掘立柱建物跡が付随する竪穴住居跡についてはそれらが一体の建物であるとみなし、本稿では第〇号建物跡と表記した。

平安時代の建物跡が最も集中するのは調査区北東のBF～BU-15～25グリッドにかけてであるが、他にも第6号建物跡付近や第8号建物跡付近にやや集中する傾向を見せる。全ての建物跡に共通するのは、外周溝が建物跡のほぼ西半側を囲み、東ないし南東側が開口する点、付随する掘立柱建物跡は外周溝が開口する側に位置する点、カマドは竪穴住居跡部分の掘立柱建物跡側の壁に構築される点等が挙げられる。調査区は全体的に西から東へ傾斜しているため、外周溝は建物の高い側を囲んでいることになる。最も規模の大きな建物跡は第17号建物跡であったが、この建物跡は唯一の焼失家屋でもあった。

(太田原 潤)

### 第2節 平安時代の遺構と遺物

#### (1) 建物跡

##### 第1号建物跡

[概要] 第1号竪穴住居跡(SJ1)、第1号掘立柱建物跡(SB1)、第1号溝跡(SD1)で構成される。

[位置・確認] CQ～CR-31～33、CS-30～33、CT-31～33、CU-31～32の各グリッドに位置している。主軸方向は北から126度東である。

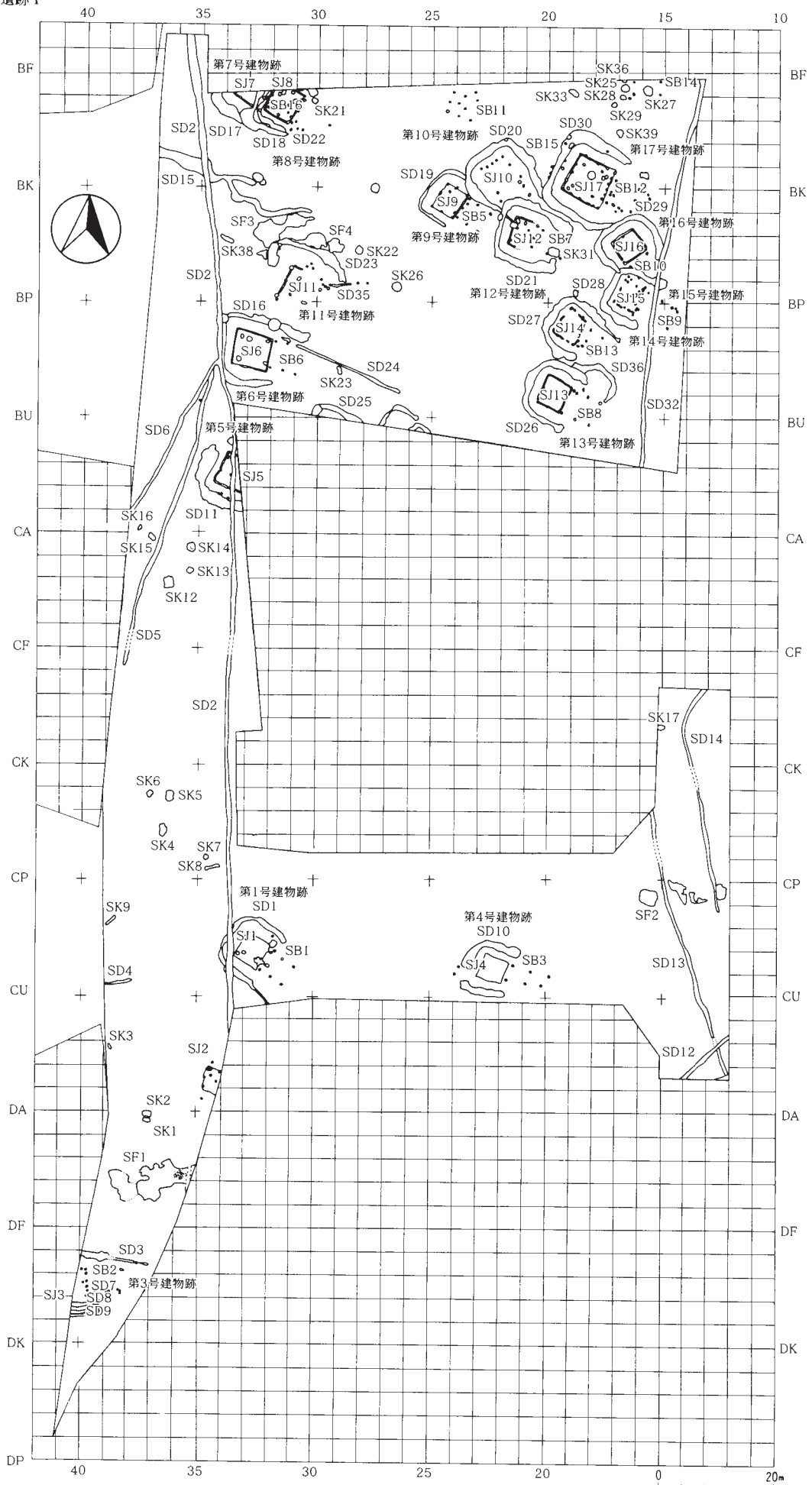


图7 野尻(1)遺跡遺構配置图

[重複] 第2号溝跡と重複するが、本遺構のほうが古い。エリア内に第10、11号土坑も所在するが新旧関係は不明確である。

[出土遺物] 竪穴住居部分のカマドから土師器甕等が出土している。床面からは内黒の土師器坏が確認されている。他の建物跡に付随する外周溝に比べると本建物跡の外周溝からの出土遺物は少ないが、土師器片、須恵器片が出土している。掘立柱建物部分からは出土していない。

#### 竪穴住居跡部分（S J 1）

[平面形・規模] 約4.6×5.0mのほぼ長方形に近い平面形である。

[壁・床] 床面はほぼ平坦で、確認面からの深さは約15cmである。

[壁溝] 全周に巡り、柱穴と重複する。

[柱穴・ピット] 竪穴部分では12個のピットが確認された。それぞれの規模は、Pit1-径50×40cm・深さは不明瞭、Pit2-径46×30cm・深さは不明瞭、Pit3-径55×24cm・深さ77cm、Pit4-径65×60cm・深さ71cm、Pit5-径58×50cm・深さ37cm、Pit6-径25×15cm・深さ38cm、Pit7-径28×20cm・深さ37cm、Pit8-径18cm・深さ60cm、Pit9-径20cm・深さ49cm、Pit10-径26×20cm・深さ52cm、Pit11-径14cm・深さ35cm、Pit12-径14cm・深さ42cmである。

[カマド] 住居跡南東壁やや西よりで確認されている。火床面が残存しており、土師器甕等の遺物も出土している。

[施設] 柱穴の並びから外れるが、住居東隅の床面でもピットが確認されている。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

#### 掘立柱建物跡部分（S B 1）

[規模] 4.7m×3.8mのほぼ長方形である。

[柱穴] それぞれの柱穴の規模はPit1-径32cm・深さ34cm、Pit2-径34×30cm・深さ20cm、Pit3-径45×34cm・深さ30cm、Pit4-径40cm・深さ13cm、Pit5-径40×26cm・深さ22cm、Pit6-径40×34cm・深さ20cmである。

[柱間寸法] 長軸方向の柱間は約2.3m、単軸方向の柱間は約3.8mである。

#### 外周溝（S D 1）

[形態・規模] 住居北西側を囲むように巡り、カマド側は開口する。南西端で極端に浅く細くなり、さらに南へ延伸する。S J 1の北辺の両端付近は幅がやや狭くなっている。

[壁・底面] 底面の深さは一様でなく、前述の幅が狭くなった部分で浅くなる。底面は比較的平坦で、壁は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 人為堆積を主体とするが、自然堆積も混在している。

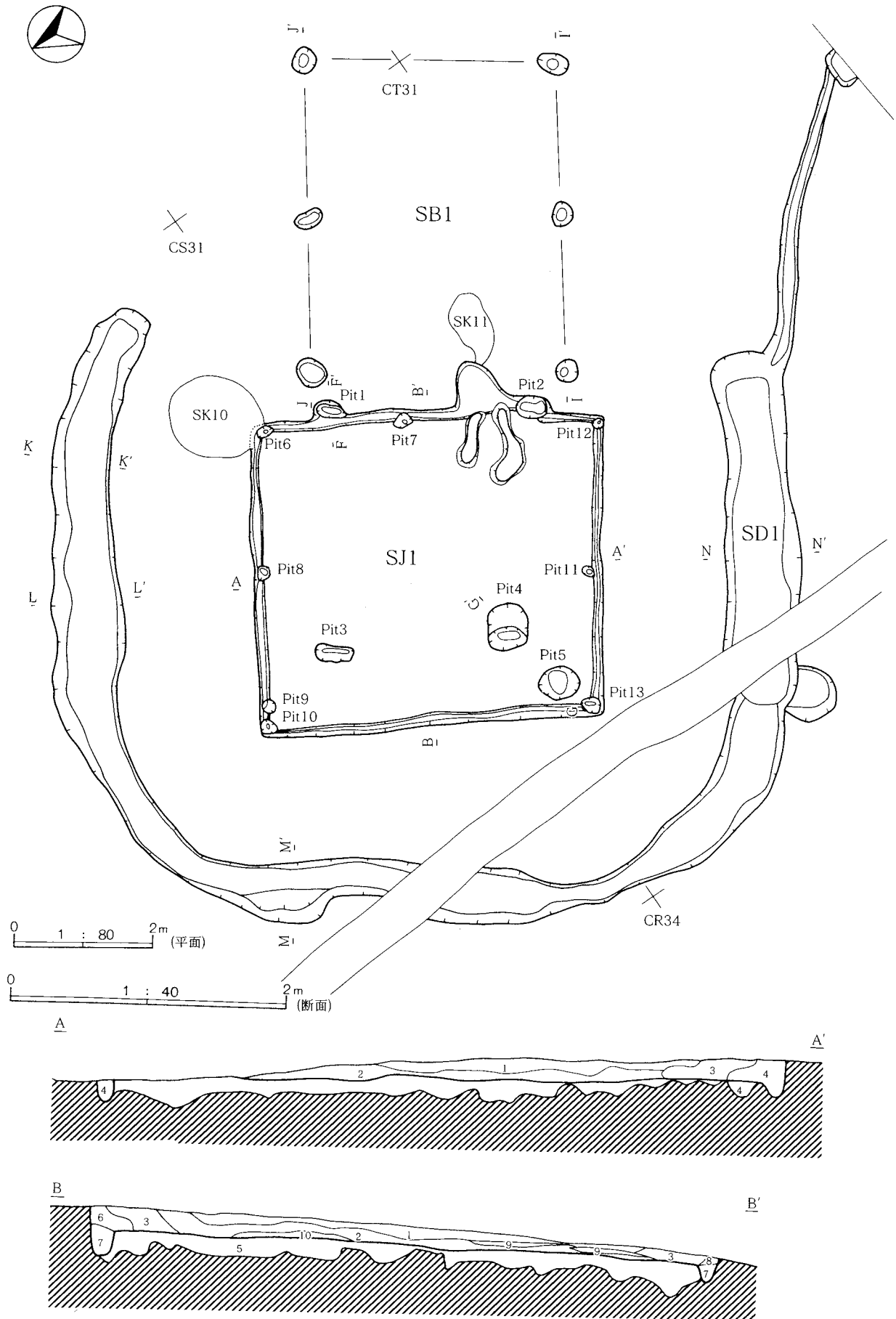


图8 第1号建物跡

SJ1

- |     |         |         |                                   |
|-----|---------|---------|-----------------------------------|
| 1層  | 黒褐色土主体  | 10YR2/2 | 炭化物粒5%・ローム粒10%混入                  |
| 2層  | 暗褐色土主体  | 10YR3/3 | 炭化物粒5%・ローム粒3%混入                   |
| 3層  | 暗褐色土主体  | 10YR3/4 | ローム粒50%・ローム中塊20%混入                |
| 4層  | 黒色土主体   | 10YR2/1 | ローム粒5%・草木根混入、しまりなし                |
| 5層  | 黒色土主体   | 10YR2/1 | 床面、掘り方の上部に黒土を入れ整地、上部にロームを入れかためている |
| 6層  | 黒褐色土主体  | 10YR2/3 | ローム粒20%混入                         |
| 7層  | 暗褐色土主体  | 10YR3/4 | ローム粒30%混入                         |
| 8層  | 黒色土主体   | 10YR2/1 | 炭化物粒5%・ローム粒10%混入、しまりあり            |
| 9層  | 黒褐色土主体  | 10YR3/1 | かたくしまっている                         |
| 10層 | 明黄褐色土主体 | 10YR6/6 | ローム層、かたくしまっている                    |

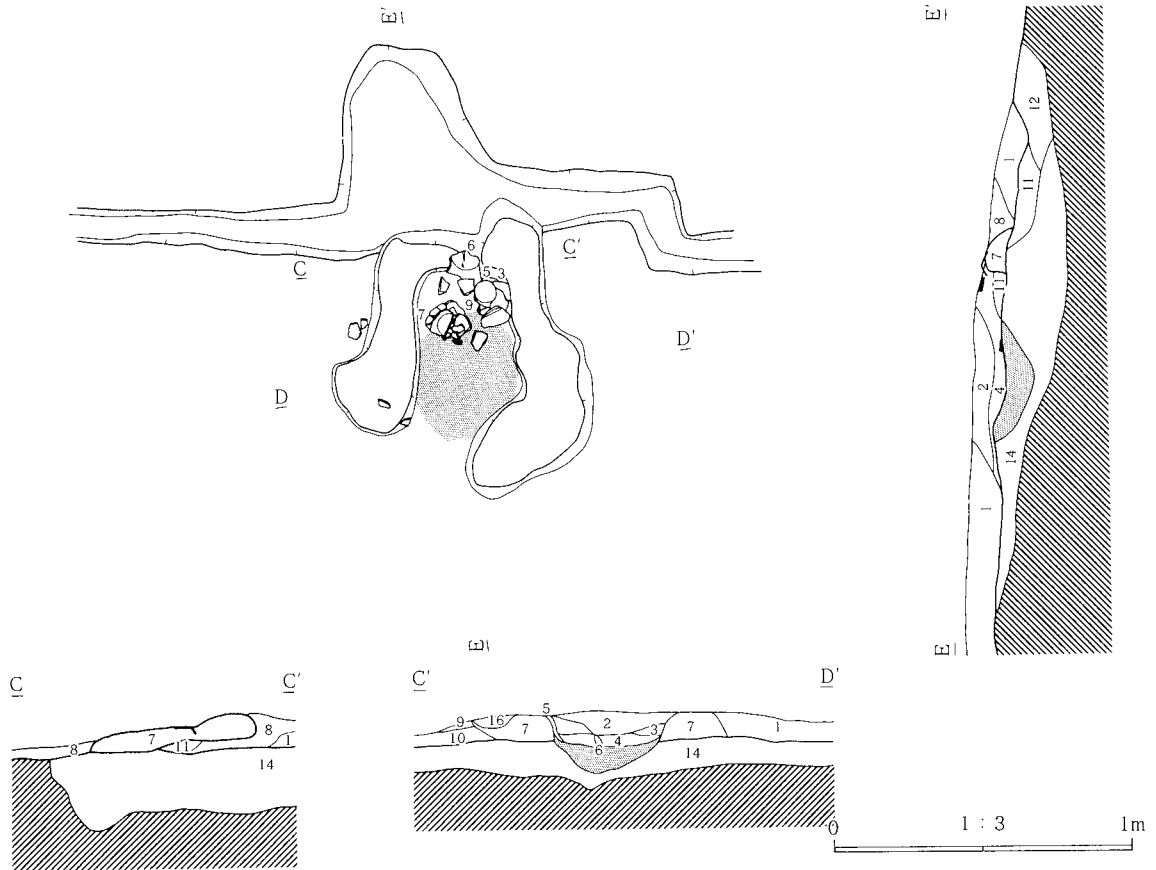


図9 第2号建物跡 (カマド)

SJ1 カマド

- |     |           |          |                                     |
|-----|-----------|----------|-------------------------------------|
| 1層  | 暗褐色土主体    | 10YR3/3  | ローム粒20%・ローム中粒10%混入 (住居2層に相当)        |
| 2層  | 黒色土主体     | 10YR3/2  | ローム粒20%・焼土粒10%混入                    |
| 3層  | 明赤褐色土主体   | 5YR5/6   | 焼土主体、粘土粒20%・焼土中塊10%混入               |
| 4層  | 暗赤褐色土主体   | 5YR3/6   | 焼土主体、焼土中粒10%・炭化物10%混入               |
| 5層  | 明赤褐色土主体   | 2.5YR5/8 | 焼土、板状の焼土塊 (火床面及び壁面)                 |
| 6層  | にぶい黄褐色土主体 | 10YR5/4  | 粘土主体、焼土粒10%混入                       |
| 7層  | 明黄褐色土主体   | 10YR7/6  | 粘土主体、黒色土粒10%・焼土粒10%混入               |
| 8層  | 暗褐色土主体    | 10YR3/3  | 1層土に焼土10%混入                         |
| 9層  | 黒褐色土主体    | 10YR2/2  | 炭化物粒5%・ローム粒10%混入 (SJ1東西セクションの1層と同じ) |
| 10層 | 暗褐色土主体    | 10YR3/3  | 炭化物粒5%・ローム粒30%混入 (SJ1東西セクションの1層と同じ) |
| 11層 | 褐色土主体     | 10YR4/4  | ローム粒10%・黒色土20%混入                    |
| 12層 | 暗褐色土主体    | 10YR3/3  | ローム粒10%混入                           |
| 13層 | 明赤褐色土主体   | 5YR5/8   | 焼土主体、火焼面の下の層                        |
| 14層 | 黒色土主体     | 10YR2/1  | 床面の下の層、ローム中〜大塊30%混入                 |

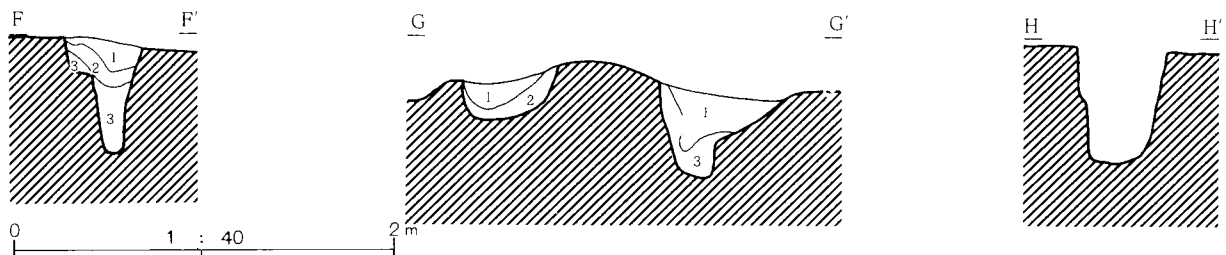


図10 第1号建物跡 (柱穴)



SJ 1 内SK 1

- 1層 褐色土主体 10YR4/4 炭化物粒5%・ローム中粒25%均等に混入
- 2層 暗褐色土主体 10YR3/3 炭化物粒10%・ローム粒2%混入
- 3層 明黄褐色土主体 10YR4/3 炭化物粒10%・ローム中粒20%混入、しまりにやや欠ける

SJ 1 Pit 4・5

- 1層 暗褐色土主体 10YR3/3 炭化物粒5%・ローム中塊30%混入
- 2層 明黄褐色土主体 10YR6/6 砂及び粘土粒が50%混入
- 3層 黒色土主体 10YR2/1 ローム中塊10%・粘土大塊30%混入

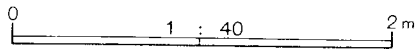
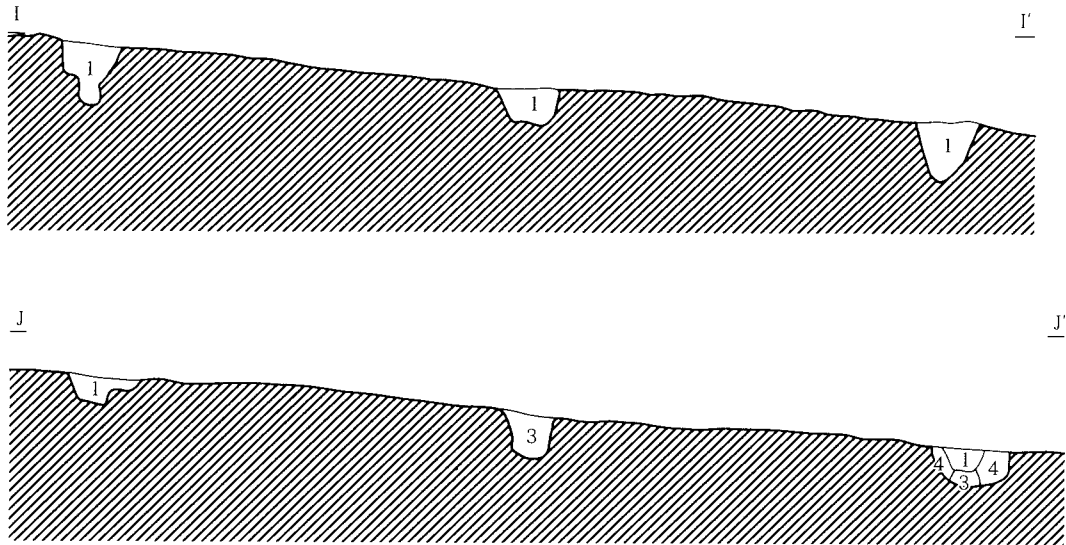
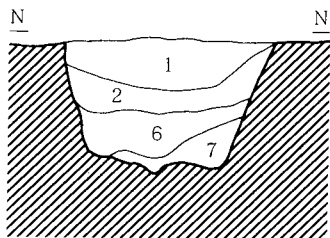
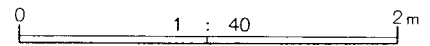
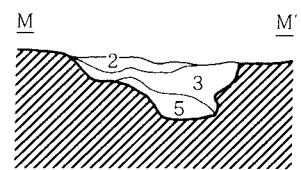
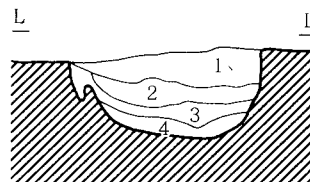
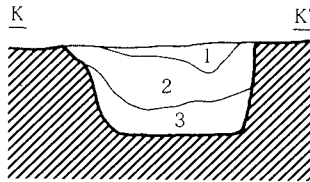
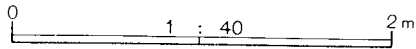


図11 第1号建物跡 (SB 1 断面)

SB 1

- 1層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒3%混入、しまりあり
- 2層 橙色土主体 7.5YR6/8 ローム主体(焼土ブロック)かたい
- 3層 黒褐色土主体 10YR2/3 炭化物粒3%・ローム粒10%混入
- 4層 黄褐色土主体 10YR10/8 ローム主体、ソフトな感じ



SD 1

- 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒10%・炭化物粒5%・上部に黄褐色粘土(10YR 6/6)混入(特にd-d'上部に多量混入)
- 2層 黒色土主体 10YR1.7/2 ローム粒5%・炭化物粒5%混入
- 3層 明黄褐色土主体 10YR6/6 ローム中塊を均等に混入
- 4層 褐灰色土主体 10YR5/1 ローム小塊10%混入、しまりあり
- 5層 黄褐色土主体 10YR7/8 粘土主体、地山と同色、同質のようだが、ソフトな感じ
- 6層 黒褐色土主体 10YR2/3 基本的には、2層と変わらない色で区別
- 7層 黒褐色土主体 10YR2/2 基本的には、2層と変わらない色で区別

図12 第1号建物跡 (SD 1 断面)

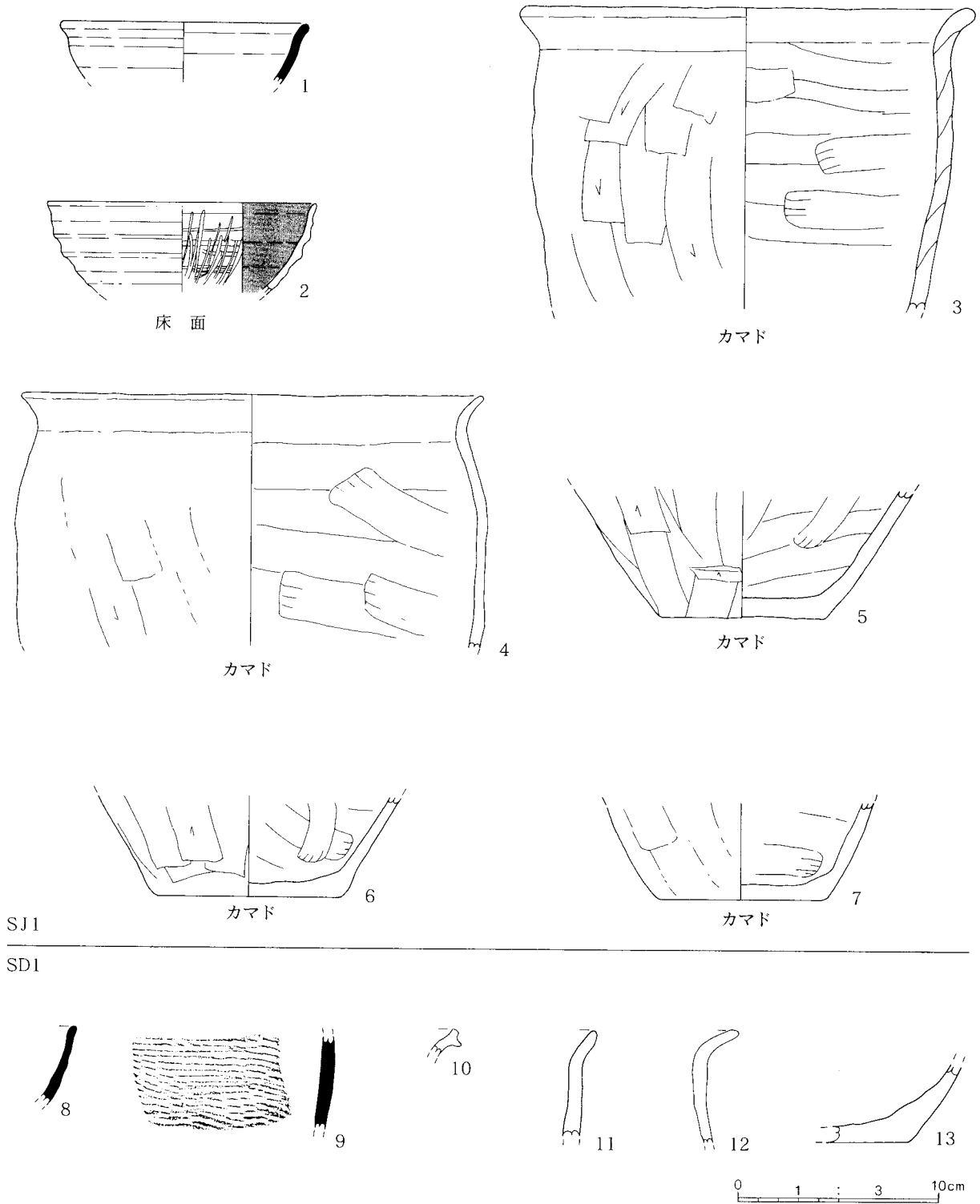


図13 第1号建物跡出土遺物 (SJ1・SD1部分)



第2号竖穴住居跡 (S J 2)

[概要] 住居東側が調査区外にかかるため全貌は不明確だが、外周溝等は伴わないものと思われる。

[位置・確認] CV-34、CX~CY-33~34の各グリッドに位置している。主軸方向は北から115度東である。

[重複] なし

[出土遺物] 須恵器片、土師器片が若干出土している。

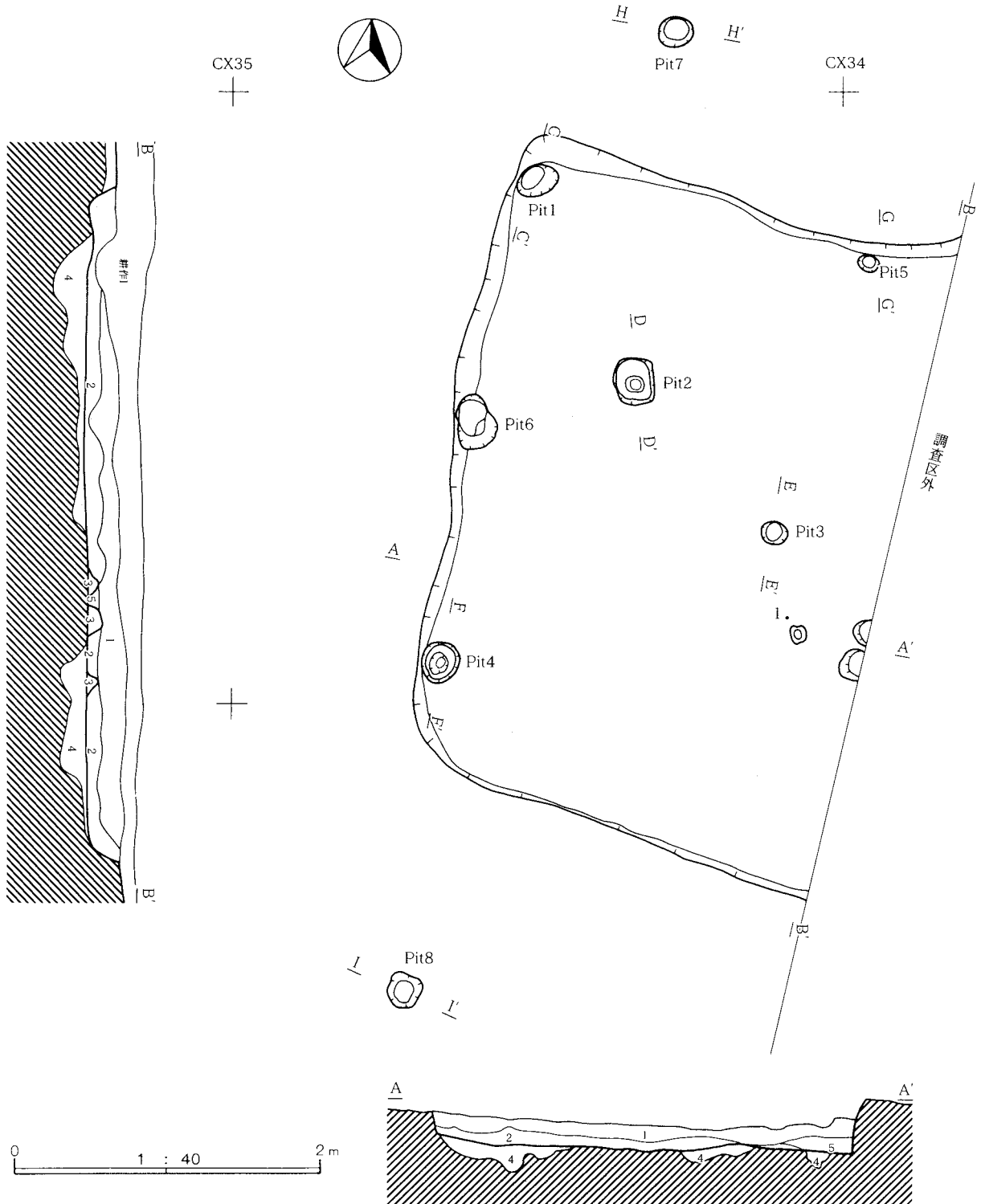


図14 第2号住居跡

[平面形・規模] 全長がわかるのは西辺のみであるが、一辺約4.2mの方形になるものと思われる。

[壁・床] 床面はほぼ平坦で壁はほぼ直立する。

[壁溝] 確認されなかった。

[柱穴・ピット] 床面で9基の小穴が検出されているが、住居西辺上に位置する3基が柱穴になるものと思われる。それぞれの規模はPit1-径30×20cm・深さ30cm、Pit2-径30×25cm・深さ50cm、Pit3-径14cm・深さ10cm、Pit4-径25cm・深さ40cm、Pit5-径10cm・深さ20cm、Pit6-径40×20cm・深さ40cmである。

[カマド] 確認されなかったが東側に位置する可能性が高い。

[施設] 住居内の施設は特に確認されなかった。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

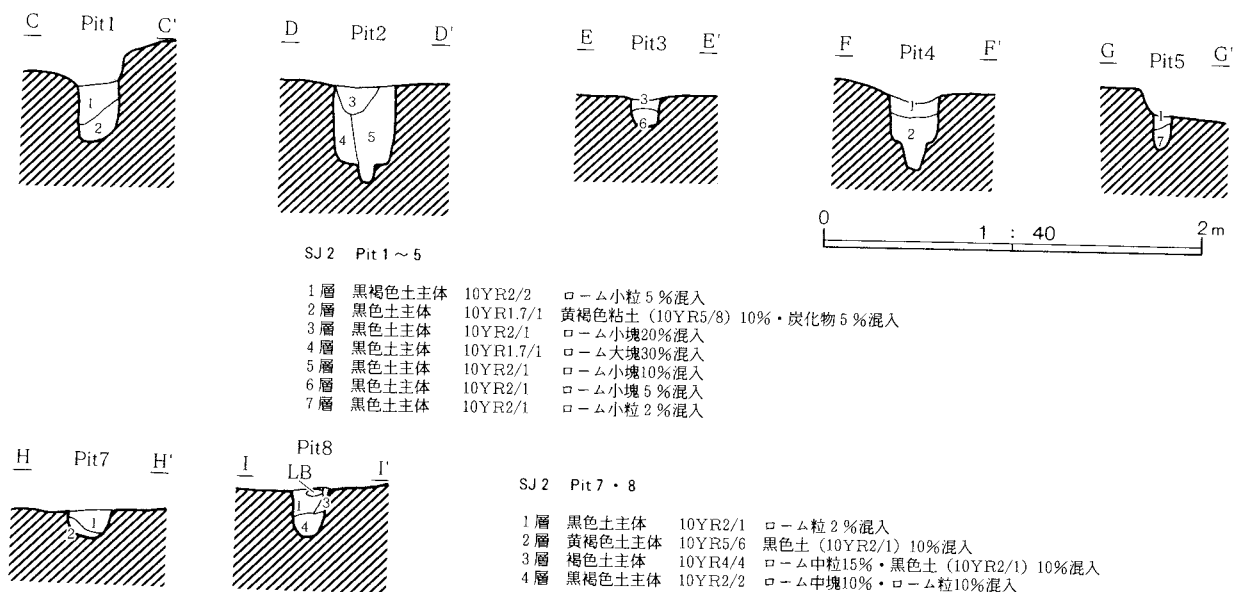


図15 第2号住居跡(柱穴)

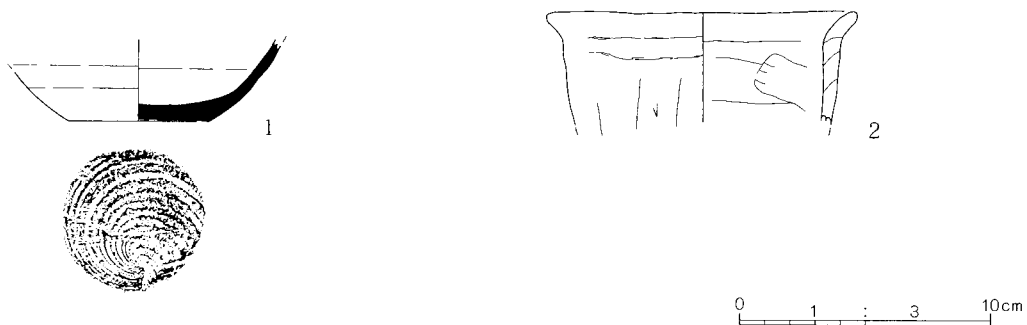


図16 第2号住居跡出土遺物

### 第 3 号建物跡

[概要] 第 3 号竪穴住居跡 (S J 3)、第 2 号掘立柱建物跡 (S B 2)、第 3 号、7 号、8 号、9 号溝跡 (S D 3, 7, 8, 9) で構成される。

[位置・確認] D G-37~40、D H-38~40、D I-38~40、D J-39~40 の各グリッドに位置している。主軸方向は北から 93 度東である。

[重複] なし。

[出土遺物] 竪穴住居部分と外周溝から土師器、須恵器の坏、甕片が出土している。

#### 竪穴住居跡部分 (S J 3)

[平面形・規模] 柱穴のみで確認されたので詳細は不明であるがほぼ方形になるものと思われる。

[壁・床] 床面はほぼ平坦である。壁面の高さはあまりなく、掘り込みもローム面まで達していなかったようである。

[壁溝] 確認されなかった。

[柱穴・ピット] 各々の柱穴の規模は、Pit 1-径 30×20cm・深さ 16cm、Pit 2-径 30×25cm・深さ 20cm、Pit 3-径 30×35cm・深さ 20cm、Pit 4-径 30cm・深さ 16cm、Pit 5-径 40×30cm・深さ 22cm、Pit 6-径 35×30cm・深さ 20cm、Pit 7-径 34×20cm・深さ 30cm、Pit 8-径 25cm・深さ 16cm、Pit 9-径 30×25cm・深さ 10cm である。

[カマド] 確認されなかった。住居東壁にあった可能性が高いが、削平されたものと思われる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

#### 掘立柱建物跡部分 (S B 2)

[規模] 4.3m×4.1m のほぼ長方形である。

[柱穴] それぞれの柱穴の規模は、Pit 1-径は攪乱による削平のため不明瞭・深さは 22cm、Pit 2-径 46×25cm・深さ 12cm、Pit 3-径 50×26cm・深さ 16cm、Pit 4-径 50×28cm、Pit 5-径 55×34cm・深さ 22cm、Pit 6-径 35×30cm・深さ 20cm、Pit 7-径 50×30cm・深さ 25cm である。

それぞれの柱穴に重複が見られることから、建て替えの可能性も考えられる。

[柱間寸法] Pit 5, 6 間は約 2.1m、Pit 1, 7 間は約 4.1m である。

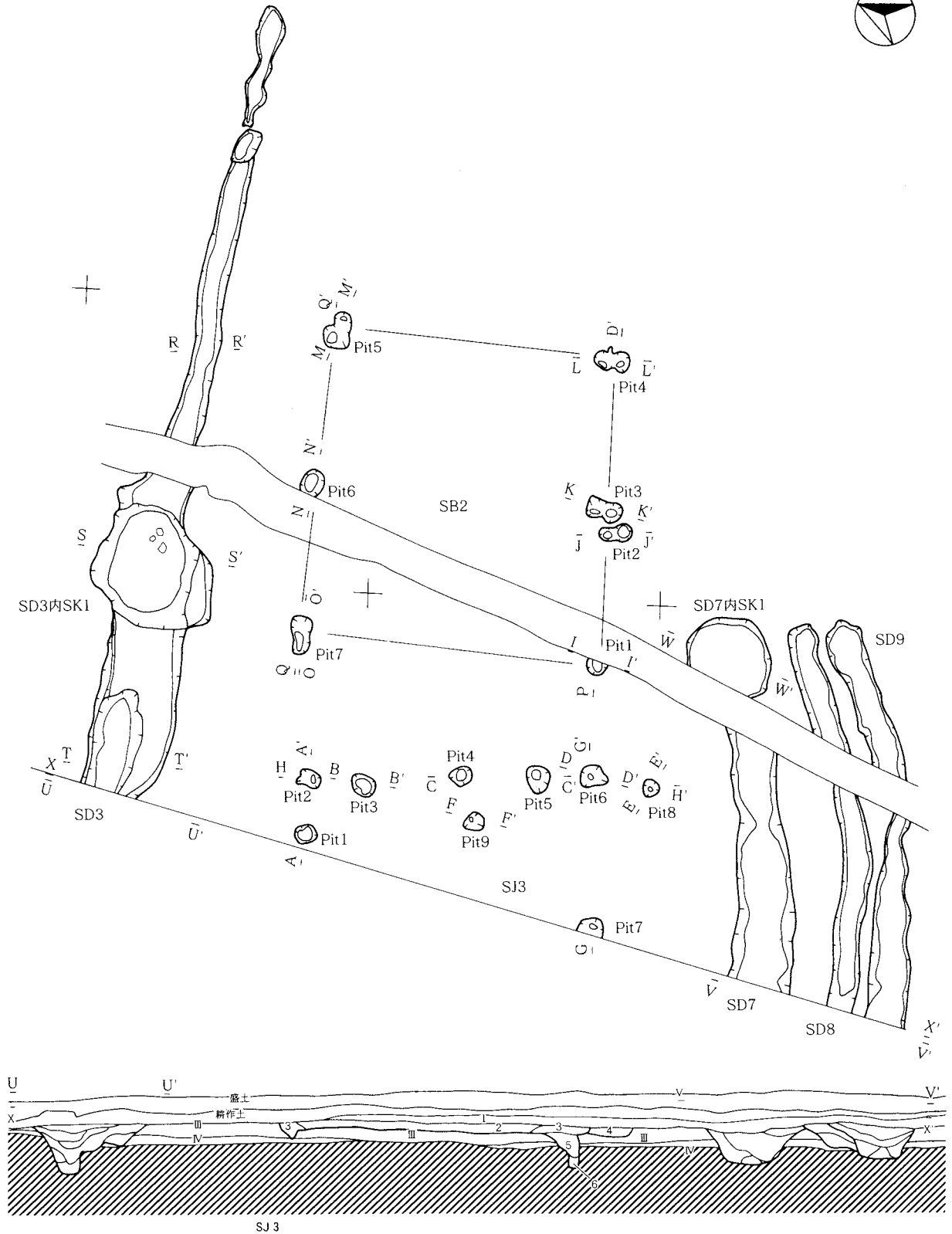
#### 外周溝 (S D 3, 7, 8, 9)

[形態・規模] それぞれ西から東へ延伸するが、本来は住居跡西側を囲むように巡っていたものと考えられ、S D 7, 8, 9 のいずれか、またはそれぞれが、S D 3 に連続していたものと推定される。断面での切り合いを見ると、S D 7, 8, 9 の順で新しくなることから、内側から外側へ外周溝を拡張したものと思われる。拡張にあたっては、南側部分のみを広げたようである。

[壁・底面] いずれの溝も底面から緩く外傾しながら立ち上がる。S D 3 の底面には掘ったときの工具痕と思われるものも観察された (写真 7-4.5)

[関連土坑] S D 3 と S D 7 に土坑が付随する。S D 3 に付随する土坑の東側の溝は西側より浅くなる。S D 7 に付随する土坑は溝の東端に位置する。

[堆積土] それぞれ人為堆積と自然堆積が混在しているようである。

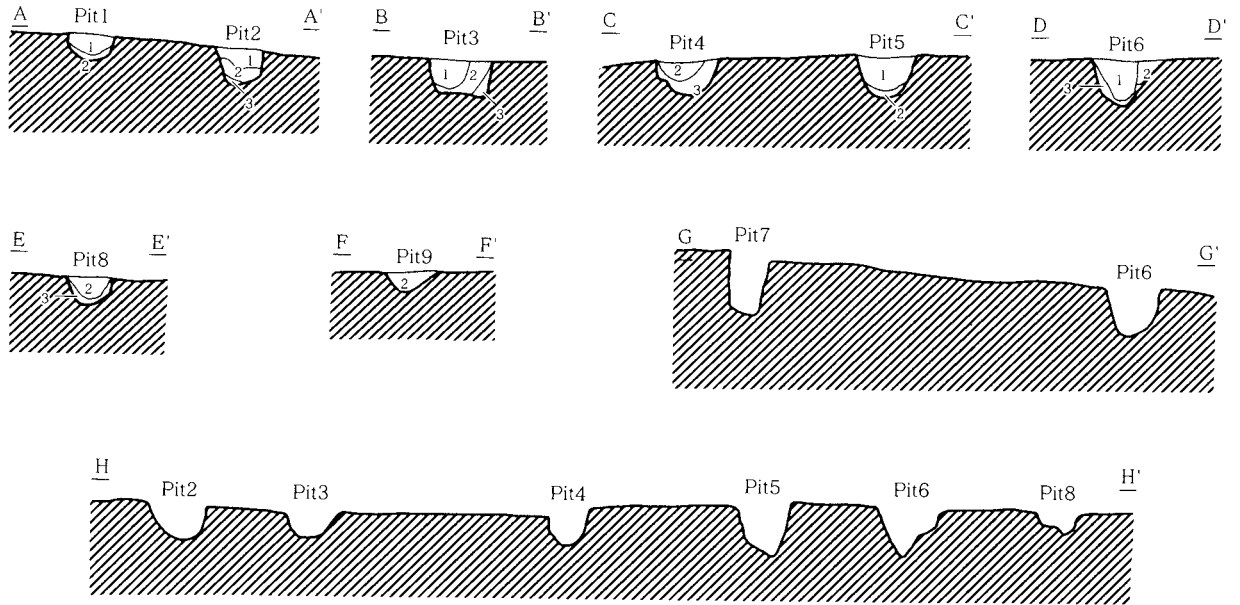


SJ3

- 1層 黒褐色土主体 10YR3/2 炭化物粒5%・ローム粒5%混入、かたくしまっている
- 2層 濃い黄褐色土主体 10YR4/3 炭化物粒10%・ローム中粒30%均等に混入
- 3層 暗褐色土主体 10YR3/3 炭化物粒5%・ローム粒10%混入
- 4層 暗褐色土主体 10YR3/3 3層と類似するが、粘土質の中塊(褐灰色土10YR4/1)が一部に混入
- 5層 黄褐色土主体 10YR5/6 ローム中塊~大塊50%混入
- 6層 濃い黄褐色土主体 10YR6/6 粘土の塊混入

0 1 : 80 2m

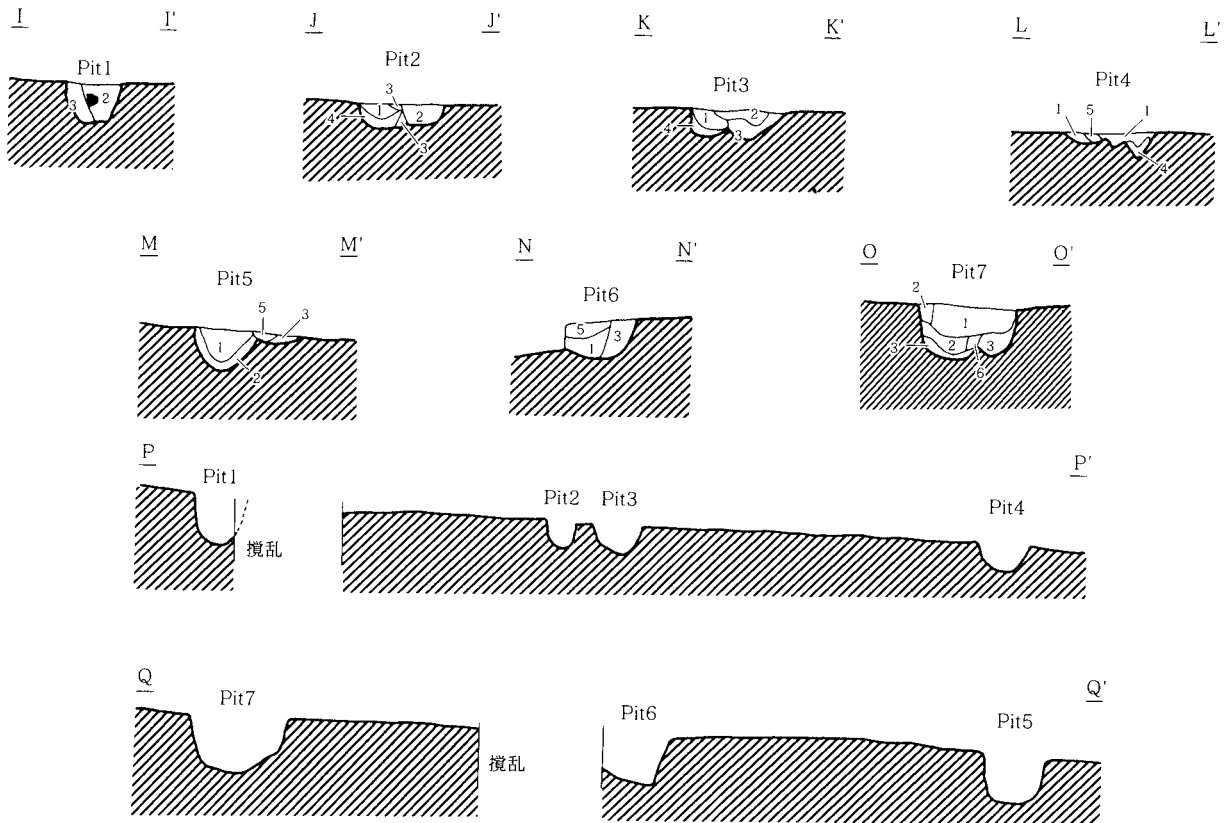
図17 第3号建物跡



SJ 3 Pit

- |    |        |          |                        |
|----|--------|----------|------------------------|
| 1層 | 黒色土主体  | 10Y R2/1 | ローム粒1%・ローム中塊1個混入       |
| 2層 | 黒褐色土主体 | 10Y R3/1 | ローム粒15%・ローム中塊5%・大塊1%混入 |
| 3層 | 黄褐色土主体 | 10Y R5/8 | 黒色土10%混入               |

图18 第3号建物跡 (SJ 3 柱穴)



SB 2

- |    |        |            |  |
|----|--------|------------|--|
| 1層 | 黒色土主体  | 10Y R1.7/1 | ローム粒2%・ローム中塊数個混入                       |
| 2層 | 黒色土主体  | 10Y R2/1   | ローム粒3%・ローム中塊3%・ローム大塊数個混入               |
| 3層 | 黒色土主体  | 10Y R2/1   | ローム粒3%・ローム中塊5%・ローム大塊数個・ロームブロック(5×12)混入 |
| 4層 | 黒褐色土主体 | 10Y R3/1   | 黄褐色土25%混入                              |
| 5層 | 黒褐色土主体 | 10Y R3/1   | ローム粒1%・ローム中塊数個混入                       |
| 6層 | 黒色土主体  | 10Y R2/1   | ローム粒1%・ローム中塊数個混入                       |

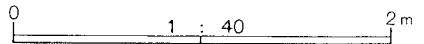


图19 第3号建物跡 (SB 2 柱穴)

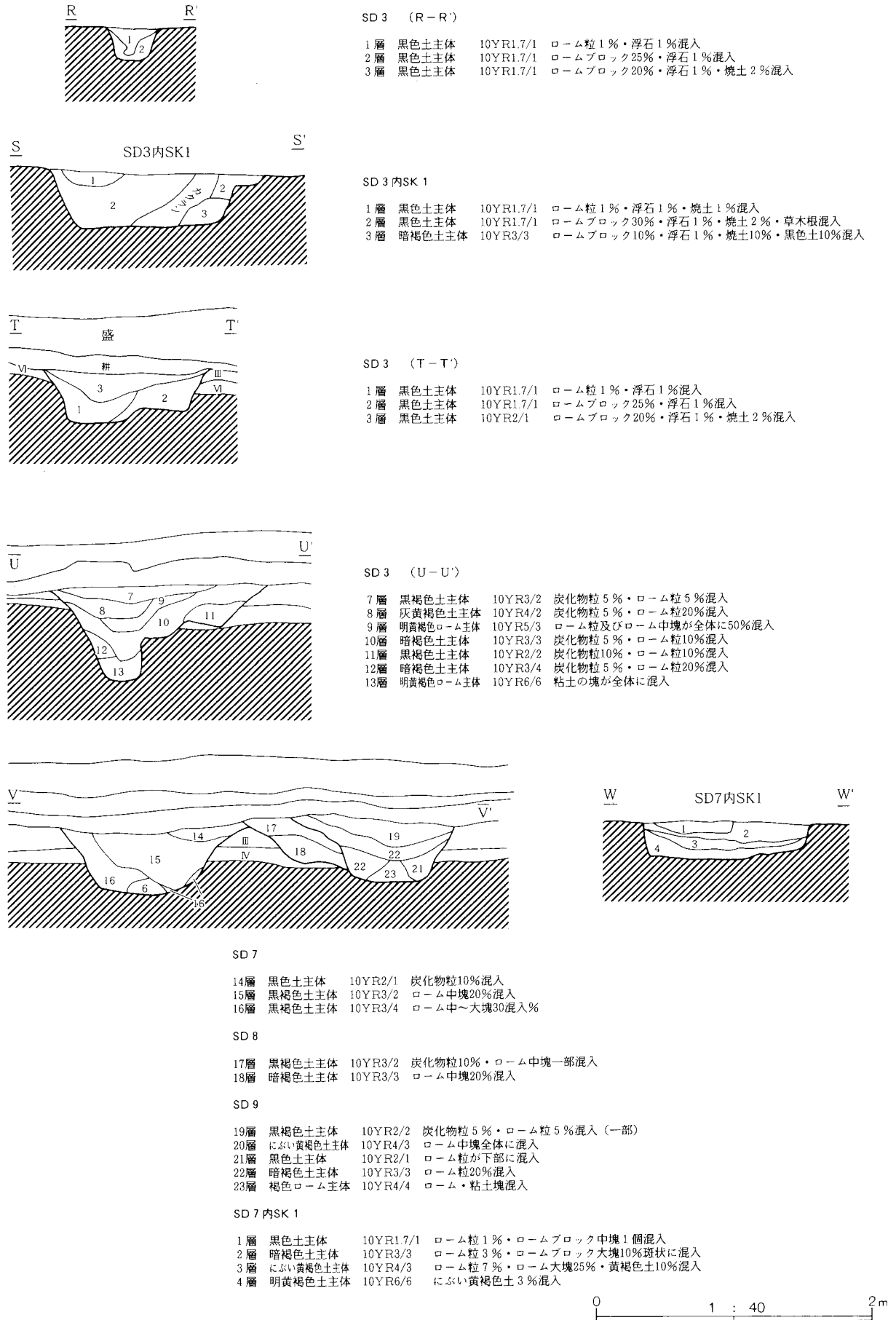


図20 第3号建物跡 (SD 3・SD 7～9 断面)

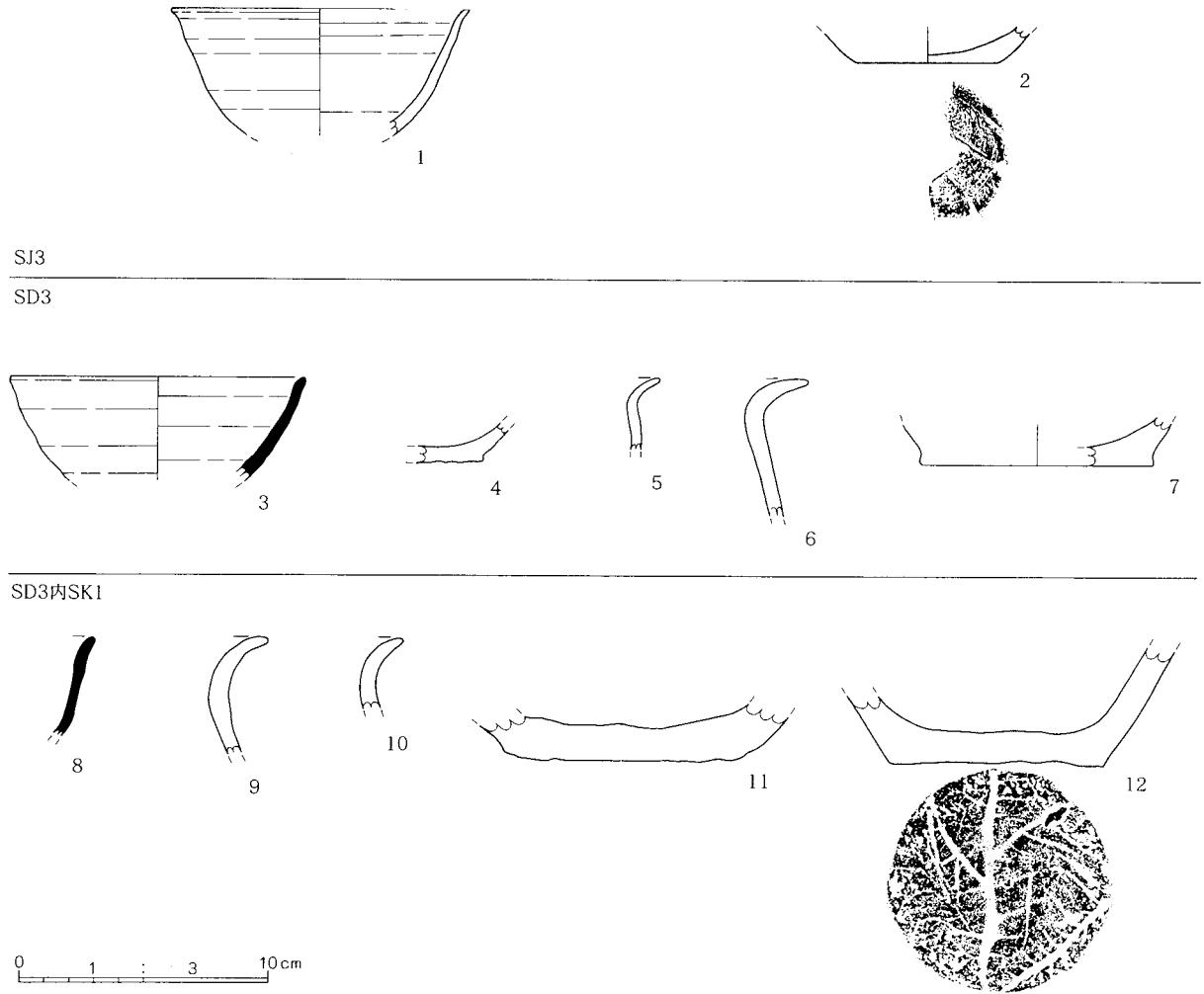


图21 第3号建物跡出土遺物 (SJ 3 · SD 3 部分)



#### 第4号建物跡

〔概要〕 第4号竪穴住居跡（S J 4）、第3号掘立柱建物跡（S B 3）、第10号溝跡（S D 10）で構成される。

〔位置・確認〕 C R - 21、C S - 20～23、C T - 19～23の各グリッドに位置している。主軸方向は北から114度東である。

〔重複〕 なし。

〔出土遺物〕 竪穴住居域、掘立柱建物域から遺物は出土していないが、外周溝S D 10の覆土中から土師器甕片等の遺物が若干出土している。

#### 竪穴住居跡部分（S J 4）

〔平面形・規模〕 約4.3×4.6mのややいびつな方形である。

〔壁・床〕 削平のため遺存状態は悪く、辛うじて床面が残っている程度なので、壁面の様子は不明確である。床面は平坦である。

〔壁溝〕 確認されていない。

〔柱穴・ピット〕 確認されていない。

〔カマド〕 確認されていない。住居東壁にあった可能性が高いが、削平のため失われたようである。

〔堆積土〕 床面下の掘り方は人為堆積であるが、床面より上位は不明確である。

#### 掘立柱建物跡部分（S B 3）

〔規模〕 約6.6×3.0m程度の長方形になるものと思われるが、ややいびつである。

〔柱穴〕 6本の柱穴が確認されている。それぞれの柱穴の規模はPit 1 - 径25cm・深さ30cm、Pit 2 - 径20×18cm・深さ32cm、Pit 3 - 径20×15cm・深さ22cm、Pit 4 - 径26cm・深さ20cm、Pit 5 - 径18×14cm・深さ48cm、Pit 6 - 径18×12cm・深さ10cmである。

〔柱間寸法〕 長軸方向の柱間は約3.2m、短軸方向の柱間は約2.8mである。

#### 外周溝（S D 10）

〔形態・規模〕 竪穴住居跡の西側を囲むようにコの字状に巡る。住居南西角付近は溝が寸断されているが、もともとそうだったのではなく、掘り込みの深さ以上に削平が及んだため、見かけ寸断されているように見えるだけで、本来は浅いながらも連続していた可能性が考えられる。寸断部付近に2基の柱穴も確認されているが、本建物跡に関連するものかどうかは明確でない。

〔壁・底面〕 底面の深さは一様でなく西側ほど浅い。壁の立ち上がり方も一定しない。

〔関連土坑〕 溝の両端部に土坑が付随している。

〔堆積土〕 人為的堆積を主体とするようである。

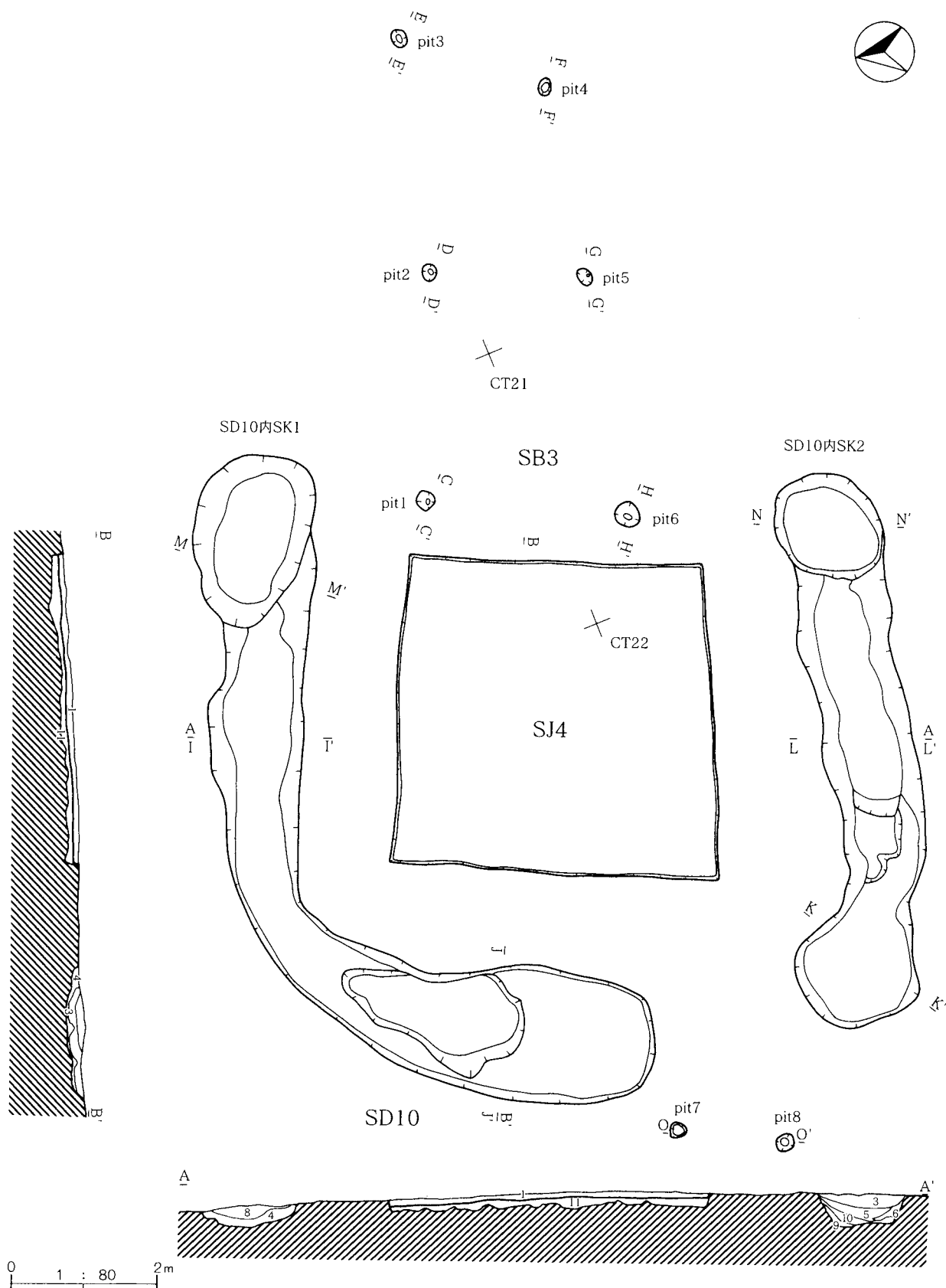


图22 第4号建物跡

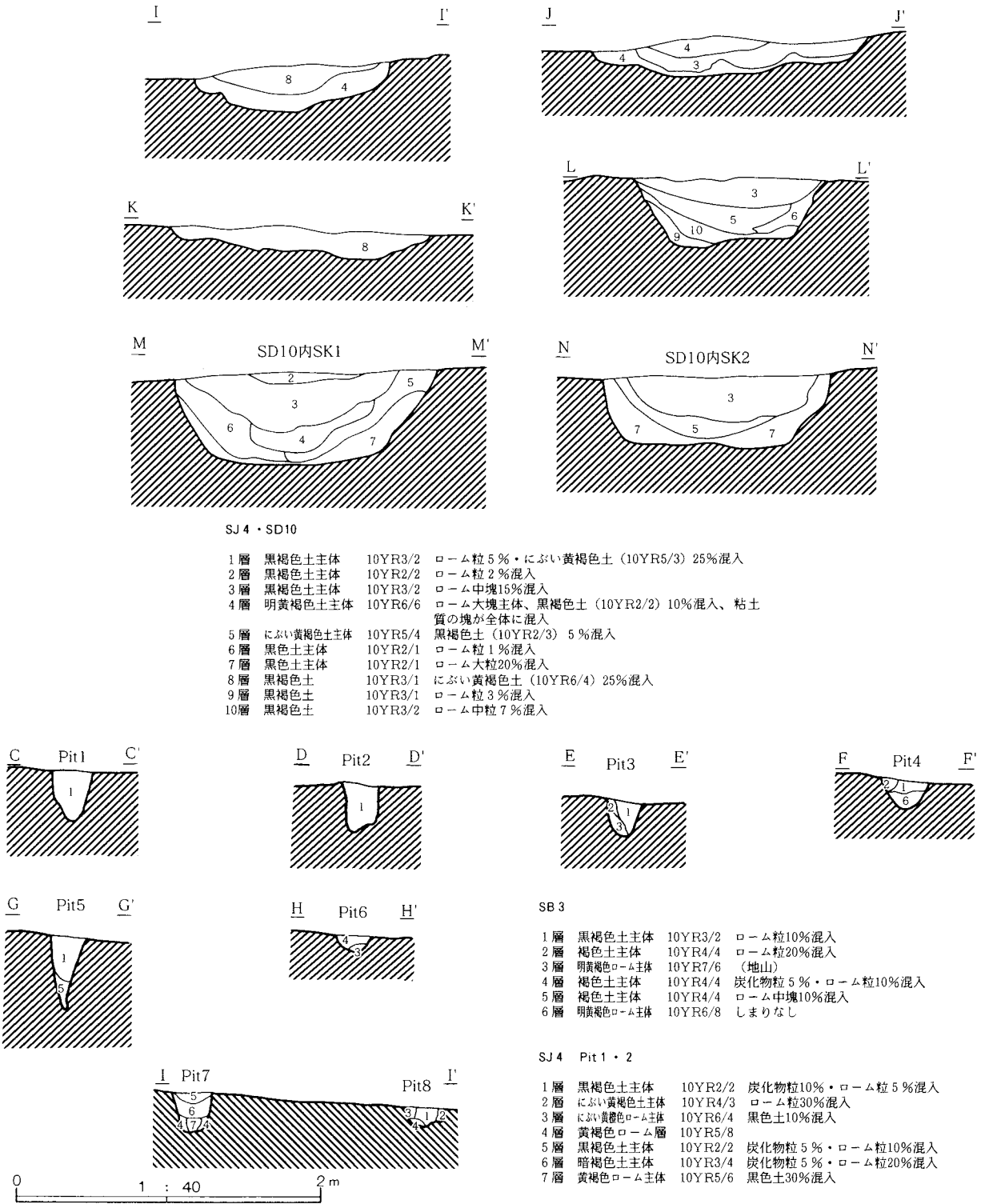


図23 第4号建物跡 (SJ 4 · SD10断面)

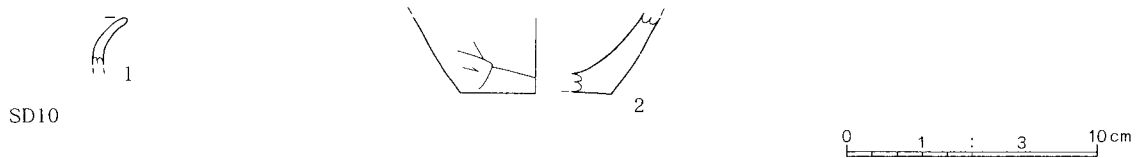


図24 第4号建物跡出土遺物 (SD10部分)

## 第5号建物跡

〔概要〕 第5号住居跡（S J 5）、第11号溝跡（S D 11）、で構成される。掘立柱建物跡が付随した可能性も高いが、想定される位置は調査区外である。

〔位置・確認〕 B V - 33~34、B W - 33~35、B X - 33~34、B Y - 33の各グリッドに位置している。東側は調査区境界と接する。主軸方向は北から119度東である。

〔重複〕 第2号溝跡と重複するが、本建物跡の方が古い。

〔出土遺物〕 竪穴住居跡部分からは土師器の甕片等が若干出土した程度だが、外周溝部分からは土師器の坏、甕、須恵器の甕等が出土している。底面からの出土は少ないが、覆土中の遺物のほとんどは白頭山・苫小牧火山灰の下位で確認された。

## 竪穴住居跡部分（S J 5）

〔平面形・規模〕 調査区境界と接するため全体は不明確だが、一辺約6 m程度の方形になるものと思われる。

〔壁・床〕 上半部は削平されているため遺存状態は悪いが、床面はほぼ平坦で壁は直立しているようである。

〔壁溝〕 確認されている範囲内ではほぼ全周に巡っている。

〔柱穴・ピット〕 Pit 1 - 径30×25cm・深さ40cm、Pit 2 - 径はS D 2との重複のため不明瞭・深さ16cm、Pit 3 - 径30cm・深さ13cm、Pit 4 - 径20cm・深さ14cm、Pit 5 - 径20cm・深さ14cm、Pit 6 - 径35×20cm・深さ32cm、Pit 7 - 径35×25cm・深さ22cm、Pit 8 - 径20cm・深さ25cmである。

〔カマド〕 確認されなかったが調査区外の住居跡東壁に位置するものと推定される。

〔堆積土〕 自然堆積と思われる。

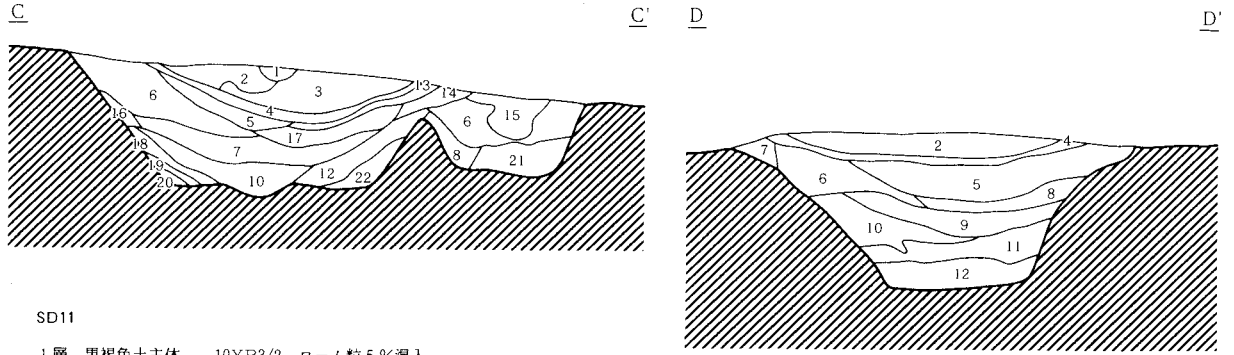
## 外周溝（S D 11）

〔形態・規模〕 竪穴住居跡部分を囲むように巡っているようであるが、住居跡南西角付近は極端に浅く狭くなっている。住居跡北西角付近は寸断されているように見えるが、元来の掘り込みが浅かったため部分的に床面まで削平されてしまったものと考えられる。西側部分は溝が部分的に重複しているようであり、埋め戻しと掘り返しが繰り返された可能性も考えられる。

〔壁・底面〕 底面の深さは一様でなく、住居跡の角付近では特に浅くなる。

〔堆積土〕 人為堆積を主体としつつも自然堆積も挟在する。覆土の上位に白頭山・苫小牧火山灰が層状に堆積している。

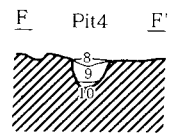
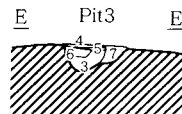
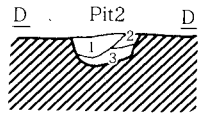
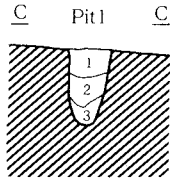




SD11

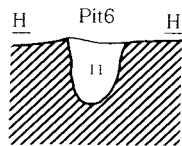
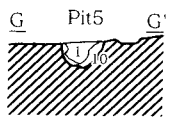
- 1層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム粒5%混入
- 2層 におい黄褐色土主体 10YR5/3 炭化物粒5%・ローム粒20%混入
- 4層 明黄褐色土主体 10YR7/6 火山灰主体、火山灰の層
- 5層 暗褐色土主体 10YR3/4 炭化物粒10%・ローム粒1%混入
- 6層 黒褐色土主体 10YR2/3 炭化物粒5%・ローム粒5%混入
- 7層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム粒15%混入
- 8層 黄褐色土主体 10YR5/6 炭化物粒5%・ローム中〜大塊50%
- 9層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒30%混入
- 10層 黒色土主体 10YR2/1 炭化物粒5%・ローム粒5%混入
- 11層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム中粒20%混入
- 12層 におい黄褐色土主体 10YR5/4 ローム主体、粘土20%混入、とてもかたくしまっている

- 13層 暗褐色土主体 10YR3/4 ローム粒5%混入
- 14層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒5%混入
- 15層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒20%混入
- 16層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒20%混入
- 17層 褐色土主体 10YR4/4 炭化物中粒10%・ローム中塊30%混入
- 18層 黄褐色土主体 10YR5/6 ローム主体、非常にかたい
- 19層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒3%混入
- 20層 褐色土主体 10YR4/6 粘性あり
- 21層 明黄褐色土主体 10YR6/6 ローム主体、粘性あり
- 22層 灰黄褐色土主体 10YR4/2 砂主体、砂層



SJ5 Pit 2

- 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 炭化物粒5%・ローム粒1%混入
- 2層 黒褐色土主体 10YR3/1 炭化物粒5%・ローム粒5%混入
- 3層 灰黄褐色土主体 10YR4/2 ローム粒3%混入

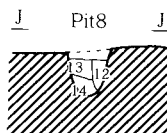
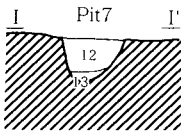


SJ5 Pit 3

- 4層 におい黄褐色土主体 10YR5/4 ローム中粒30%混入、非常に堅い
- 5層 灰黄褐色土主体 10YR4/4 ローム粒10%混入
- 6層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒5%混入
- 7層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒15%混入

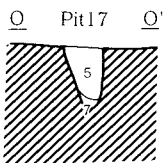
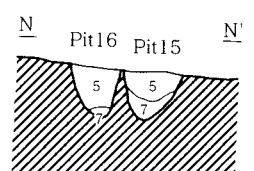
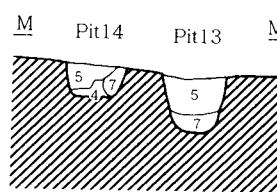
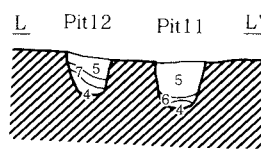
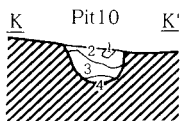
SJ5 Pit 4

- 8層 におい黄褐色土主体 10YR4/3 粘土ブロック一部に混入
- 9層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒1%混入
- 10層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒5%混入



SJ5 Pit 6

- 11層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒30%混入、やわらかい
- 12層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒1%混入
- 13層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒30%混入
- 14層 褐色土主体 10YR/ ローム主体(ローム層)



SJ5 住居外Pit 1

- 1層 褐色土主体 10YR4/6 ローム粒25%混入
- 2層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒10%混入
- 3層 褐色土主体 10YR4/6 ローム粒30%混入
- 4層 明黄褐色土主体 10YR6/6 ローム層(地山)
- 5層 黒色土主体 10YR2/1 炭化物粒5%・ローム粒1%混入
- 6層 黄褐色土主体 10YR5/6 ローム主体、黒色土20%混入
- 7層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒30%混入

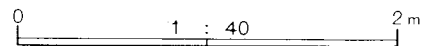


図26 第5号建物跡 (SJ5・SD11断面)

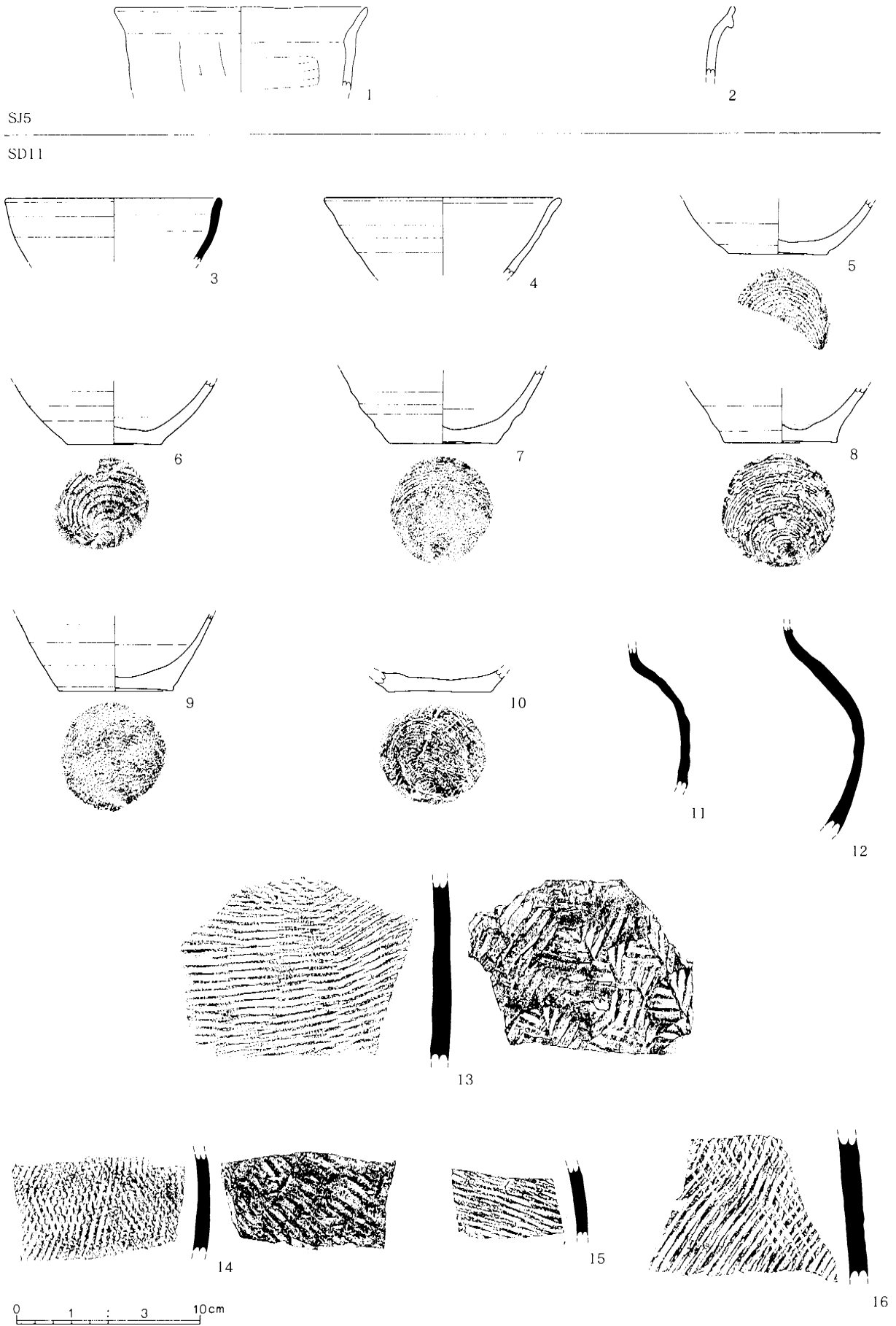


图27 第5号建物跡出土遺物 (SJ5・SD11部分)



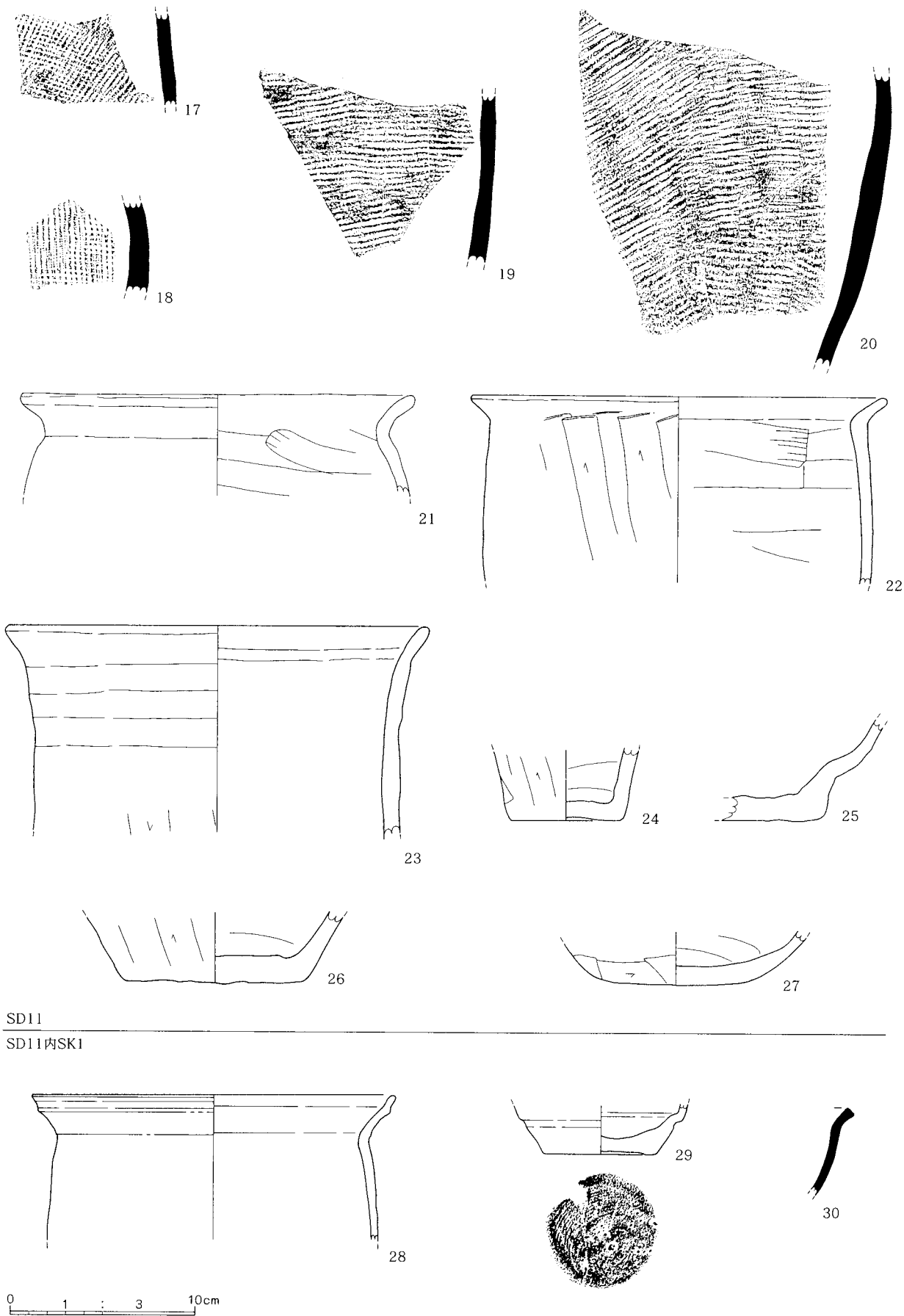


图28 第5号建物跡出土遺物 (SD11部分)

## 第6号建物跡

[概要] 第6号竪穴住居跡（S J 6）、第6号掘立柱建物跡（S B 6）、第16号溝跡（S D 16）で構成される。

[位置・確認] B P - 31～34、B Q～B S - 30～34の各グリッドに位置している。確認面の標高は約50.5mである。主軸方向は北から110度東である。

[重複] 第2号溝跡と重複するが本建物跡の方が古い。

[出土遺物] S D 16内S K 1の覆土からは土師器坏等の破片の他に須恵器の大甕の破片が出土している（図34-31は破片からの推定復元）。S D 16内S K 2の覆土からも土師器、須恵器の破片が出土している。前者からは白頭山・苦小牧火山灰は確認されなかったが、後者からは確認されており、底面以外の出土遺物は全て同火山灰の上位から出土した。

### 竪穴住居跡部分（S J 6）

[平面形・規模] 6.6m×6.4mのほぼ方形である。

[壁・床] 床面は平坦であるが西から東へ緩く傾斜している。壁の遺存状態は悪い。

[壁溝] 全周に巡っている。

[柱穴・ピット] Pit 1～4までは主柱穴になるものと思われる。住居跡北西角と南西角の周溝上にも小柱穴が確認された。各々の柱穴の規模は、Pit 1 - 径80×70cm・深さ38cm、Pit 2 - 径80×90cm・深さ53cm、Pit 3 - 径80×65cm・深さ58cm、Pit 4 - 径65×52cm・深さ28cm、Pit 5 - 径90×85cm・深さ70cmである。

[カマド] 遺存状態は極めて悪いが、竪穴住居跡東壁の南寄り付近にカマドの火床面と思われる焼土が確認されている。

[堆積土] 自然堆積と思われる。部分的に白頭山・苦小牧火山灰が混入している。

### 掘立柱建物跡部分（S B 6）

[規模] 約4.4×4.8mの長方形である。

[柱穴] それぞれの柱穴の規模はPit 1 - 径30×26cm・深さ11cm、Pit 2 - 径30cm・深さ12cm、Pit 3 - 径32cm・深さ22cm、Pit 4 - 径23cm・深さ14cm、Pit 5 - 径30×28cm・深さ20cm、Pit 6 - 径25×20cm・深さ20cmである。

[柱間寸法] 東西方向の柱間は約2.2m、南北方向の柱間は約4.8mである。

### 外周溝（S D 16）

[形態・規模] 竪穴住居跡部分の西側を囲むように巡る。S J 6部分の北東角付近にS D 16内S K 1が確認されたが、外周溝はそこからさらに東側に延び、S B 6の北側を囲んでいる。

[壁・底面] 底面の深さや幅は一定ではない。

[関連土坑] S J 6部分の北東角の北側付近でS D 16内S K 1が、南東角の西側付近でS D 16内S K 2が確認されている。

[堆積土] 人為堆積を主体としながら自然堆積も混在する。白頭山・苦小牧火山灰が堆積している。

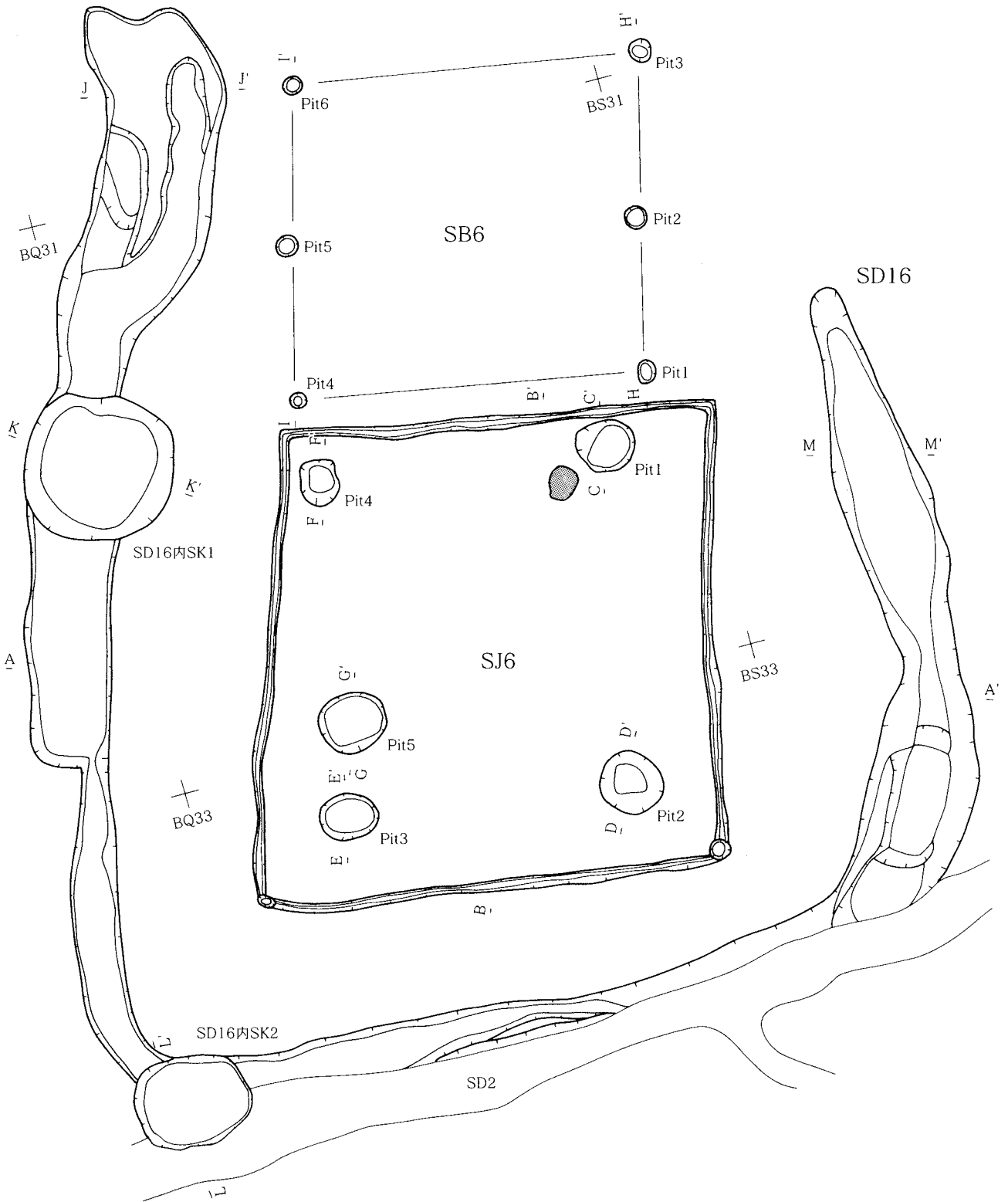


图29 第6号建物跡

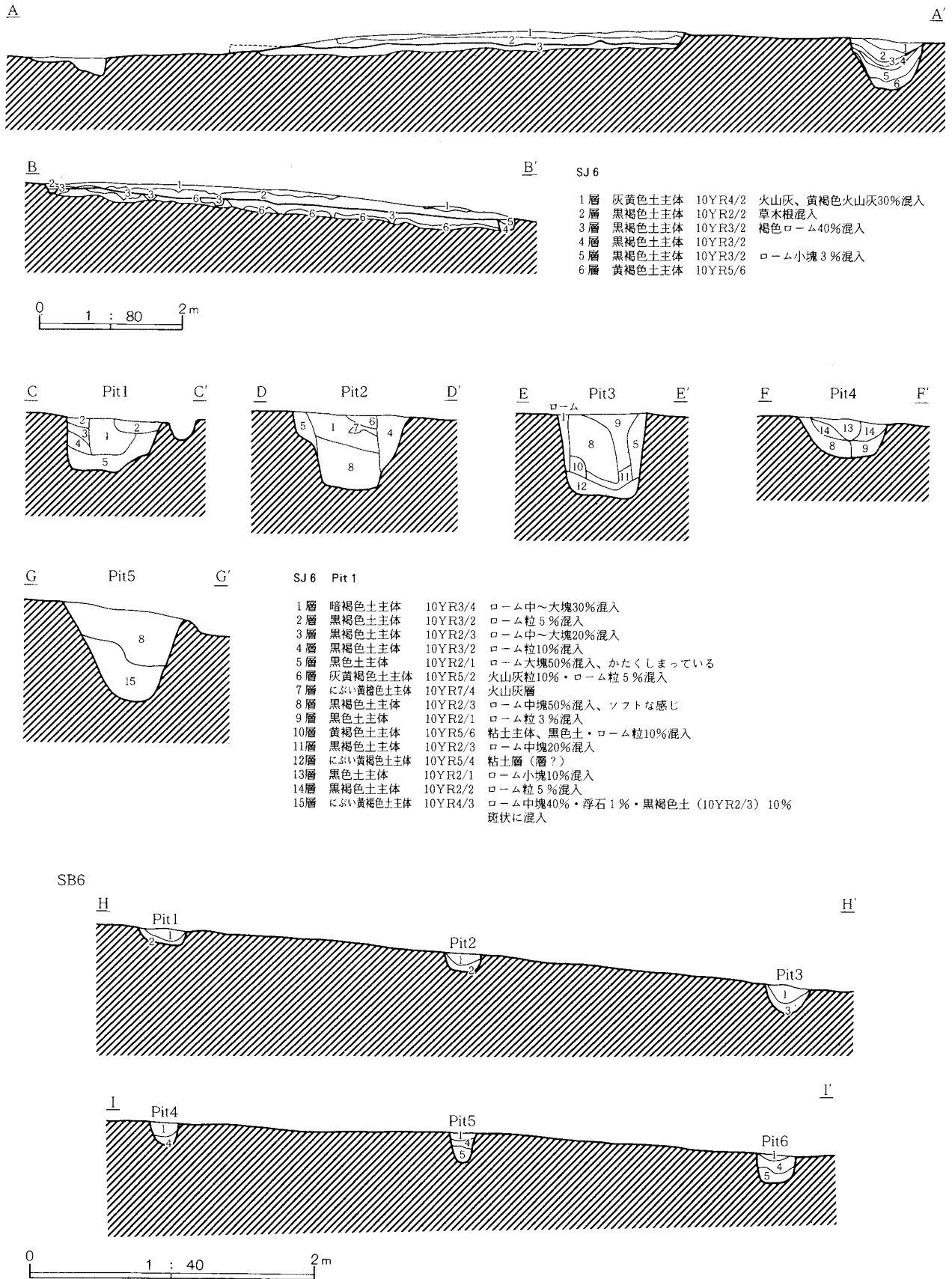
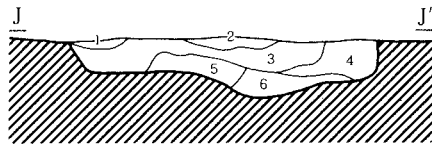
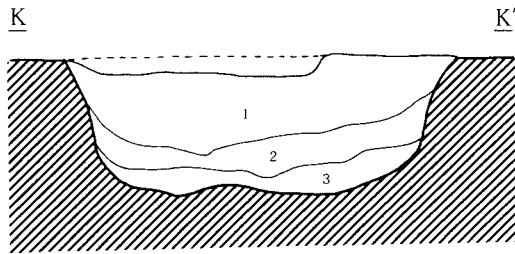


図30 第6号建物跡 (SJ6・SB6断面)



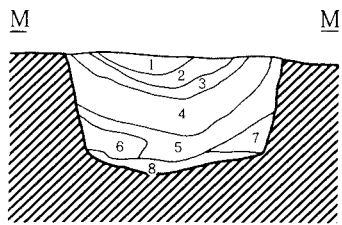
SD16 (J-J')

- |    |        |         |                                    |
|----|--------|---------|------------------------------------|
| 1層 | 灰黄色土主体 | 10YR4/2 | 焼土粒3%・炭化物粒1%・浮石1%・ローム粒2%混入         |
| 2層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/1 | ローム中塊7%・焼土粒3%・炭化物粒1%・浮石1%混入        |
| 3層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/2 | ローム大塊(50×30)7%・焼土粒5%・炭化物粒5%・浮石3%混入 |
| 4層 | 黒色土主体  | 10YR2/1 | ローム粒5%・焼土粒1%混入                     |
| 5層 | 暗褐色土主体 | 10YR3/3 | ローム粒7%・焼土粒3%・浮石1%混入                |
| 6層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/2 | 黒褐色土10%・ローム大塊20%・焼土粒1%・炭化物粒1%混入    |



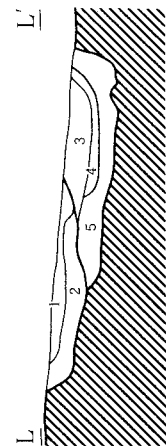
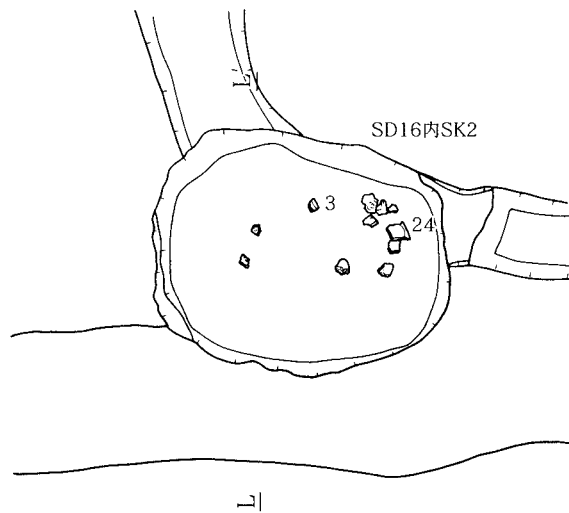
SD16 (K-K')

- |    |        |         |                                 |
|----|--------|---------|---------------------------------|
| 1層 | 暗褐色土主体 | 10YR3/3 | 炭化物粒5%・焼土1%・浮石2%・ローム粒5%混入       |
| 2層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2 | 黄褐色粘土15%しま状に混入                  |
| 3層 | 灰黄色土主体 | 10YR7/4 | 暗褐色土(10YR3/3)30%・炭化物粒1%・焼土粒1%混入 |



SD16内SK2 (L-L')

- |    |           |         |                       |
|----|-----------|---------|-----------------------|
| 1層 | 明黄褐色ローム主体 | 10YR6/8 | 黒色土10%混入(SD2)         |
| 2層 | 暗褐色土主体    | 10YR3/4 | ローム粒20%・焼土粒1%混入(SD2)  |
| 3層 | 明黄褐色火山灰層  | 10YR6/6 |                       |
| 4層 | 暗褐色土主体    | 10YR3/3 | 炭化物粒5%・ローム粒10%・焼土1%混入 |
| 5層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/2 | ローム粒5%混入              |
| 6層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/3 | ロームブロック50%混入          |
| 7層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/3 | ローム粒30%混入             |
| 8層 | 黄褐色ローム層   | 10YR5/6 |                       |



SD16 (M-M')

- |    |                |         |                                       |
|----|----------------|---------|---------------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土主体         | 10YR2/2 | 焼土粒3%・ローム粒2%・浮石1%混入                   |
| 2層 | 黒褐色土主体         | 10YR3/2 | 黒色土(10YR2/2)10%・焼土7%・ローム粒7%・浮石7%混入    |
| 3層 | 暗褐色土主体         | 10YR3/3 | 4層の火山灰(10YR6/6)10%・炭化物粒7%・浮石1%混入、鉄分沈着 |
| 4層 | 明黄褐色火山灰(BTM)主体 | 10YR6/6 | 黒褐色土(10YR3/2)10%混入                    |
| 5層 | 黒褐色土主体         | 10YR2/2 | 炭化物粒2%・焼土粒2%・火山灰7%混入鉄分沈着              |

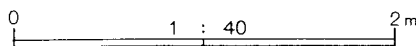


図31 第6号建物跡 (SD16断面)

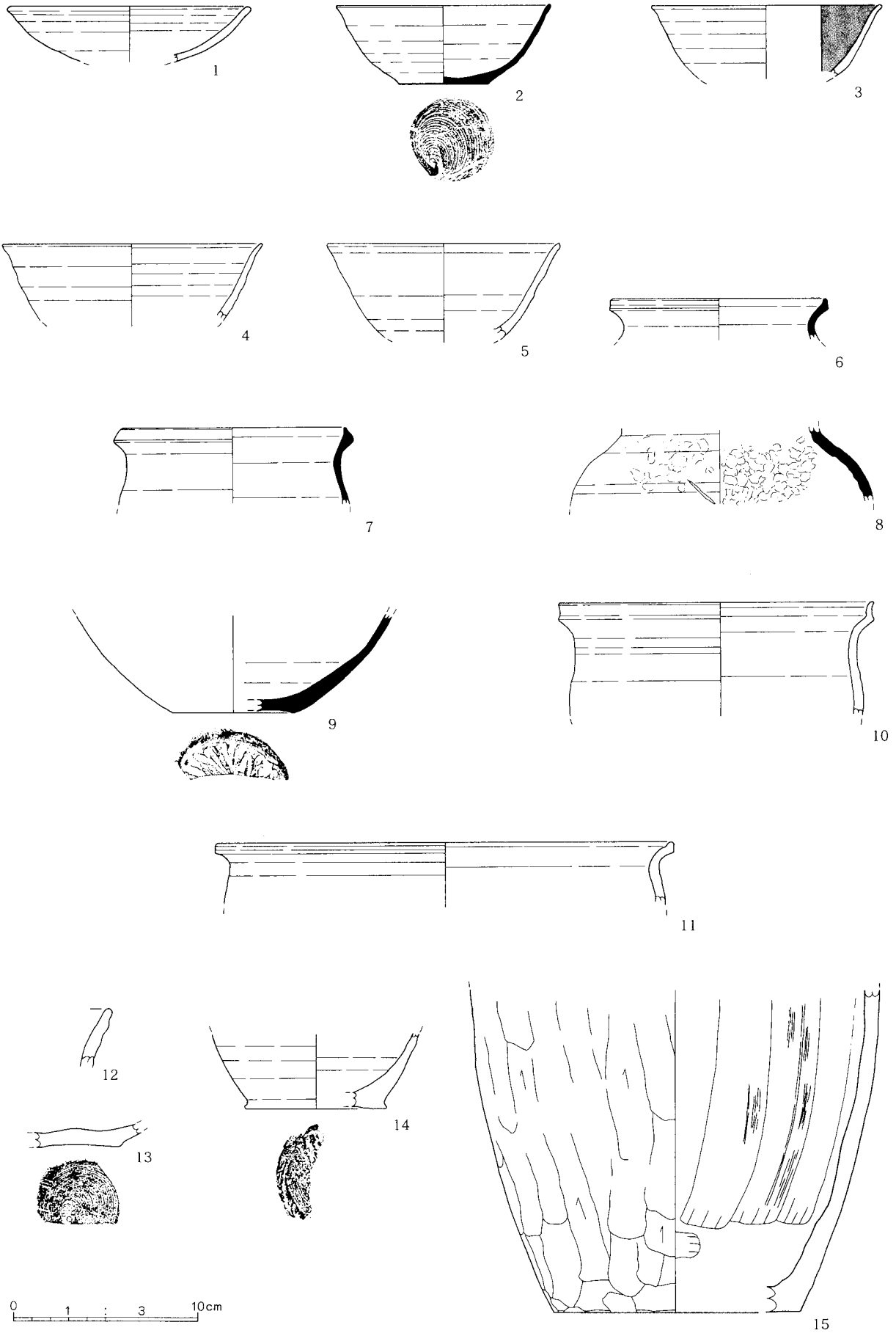


图32 第6号建物跡出土遺物 (SD16内SK 2部分)

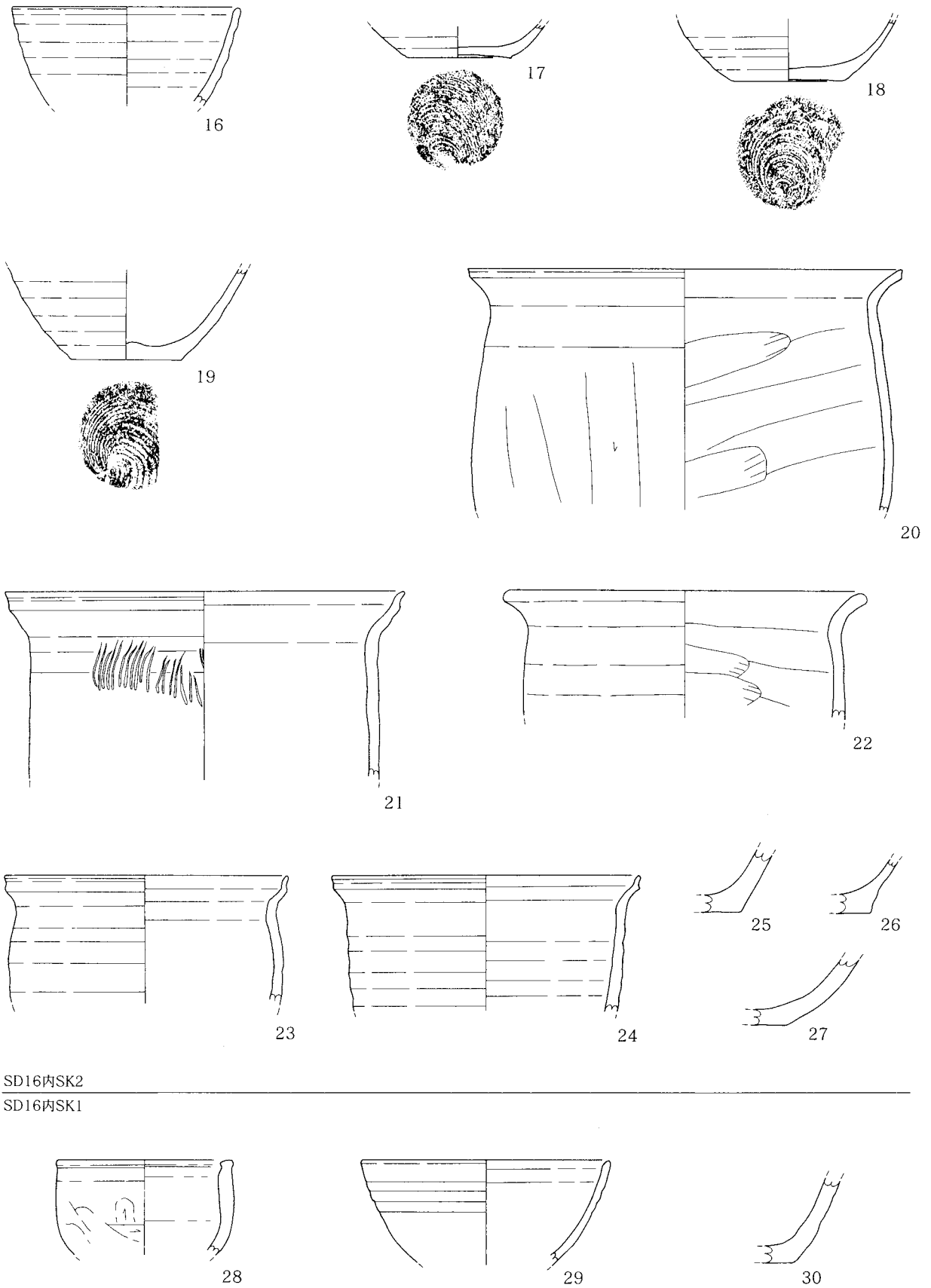


图33 第6号建物跡出土遺物 (SD16内SK 1・SD16内SK 2部分)



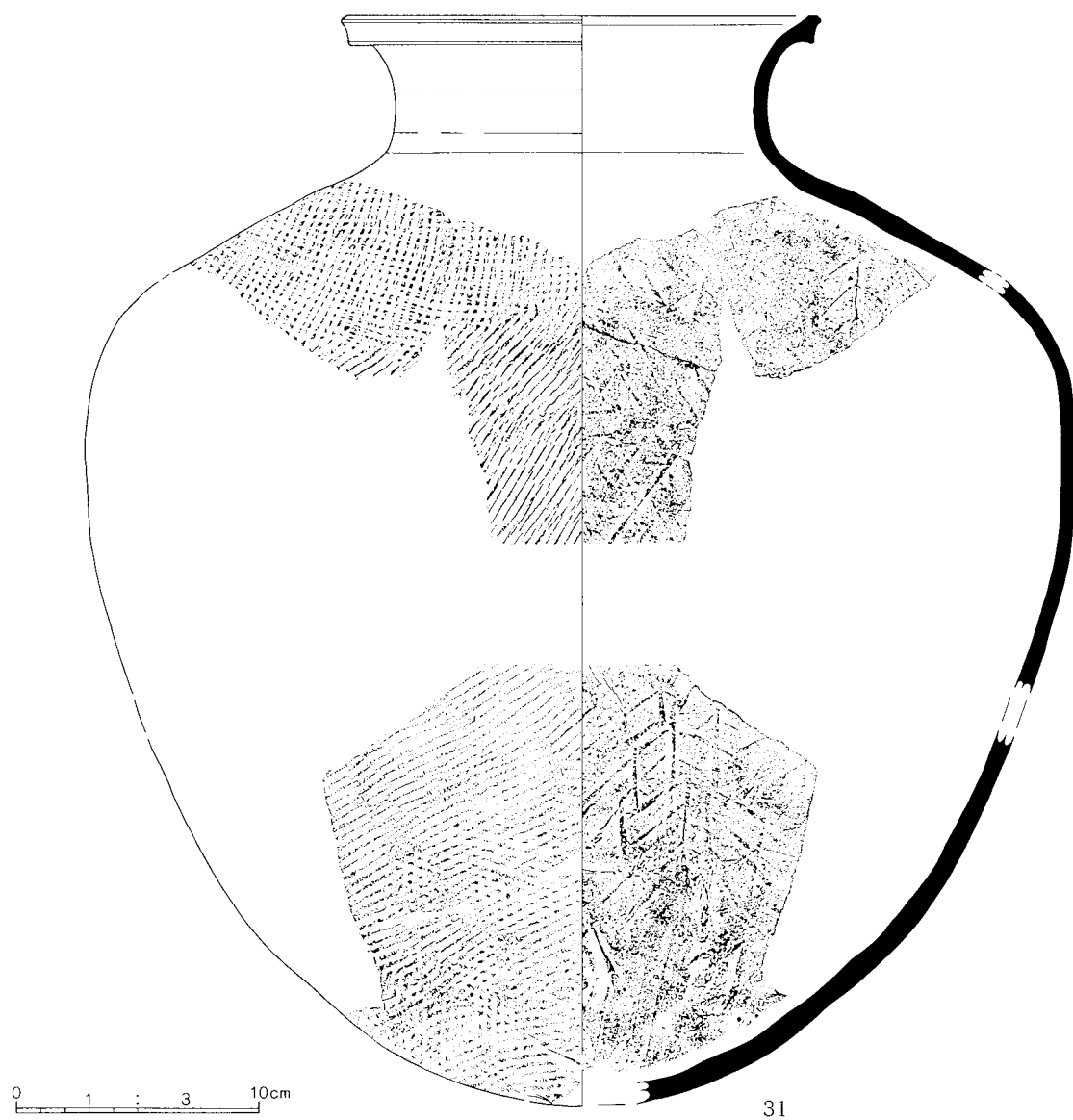


图34 第6号建物跡出土遺物 (SD16内SK 1部分)

## 第7号建物跡

〔概要〕 第7号竪穴住居跡（S J 7）、第16号掘立柱建物跡（S B 16）、第17号溝跡（S D 17）で構成される。主軸方向は北から123度東である。

〔位置・確認〕 B F - 31～34、B G - 32～34、B H - 33の各グリッドに位置している。

〔重複〕 第8号建物跡と重複している。本建物跡の方が古い。

〔出土遺物〕 土師器、須恵器の坏、甕等の破片が出土している。

### 竪穴住居跡部分（S J 7）

〔平面形・規模〕 北側部分が調査区境界に接しているため全貌は不明であるが、一辺約6 m程度の方形になるものと思われる。

〔壁・床〕 遺存状態はあまりよくないが床面は比較的平坦である。

〔壁溝〕 住居跡に南辺で確認されている。東辺はS D 22との重複で不明である。他辺は調査区外なので不明であるが、全周に巡っていた可能性が高い。

〔柱穴・ピット〕 住居跡内部では柱穴は確認されなかったが、東辺、南辺の周溝上で確認されている。各々の柱穴の規模は、Pit 1 - 径30cm・深さ30cm、Pit 2 - 径40×20cm・深さ24cm、Pit 3 - 径30cm・深さ27cmである。

〔カマド〕 住居跡東壁中央付近で確認されている。S D 22の構築と後世の削平のため遺存状態は良くないが、ソデ部分と火床面が残存している。

〔堆積土〕 自然堆積と思われる。

### 掘立柱建物跡部分（S B 16）

〔規模〕 5.3m×4.6mの長方形である。

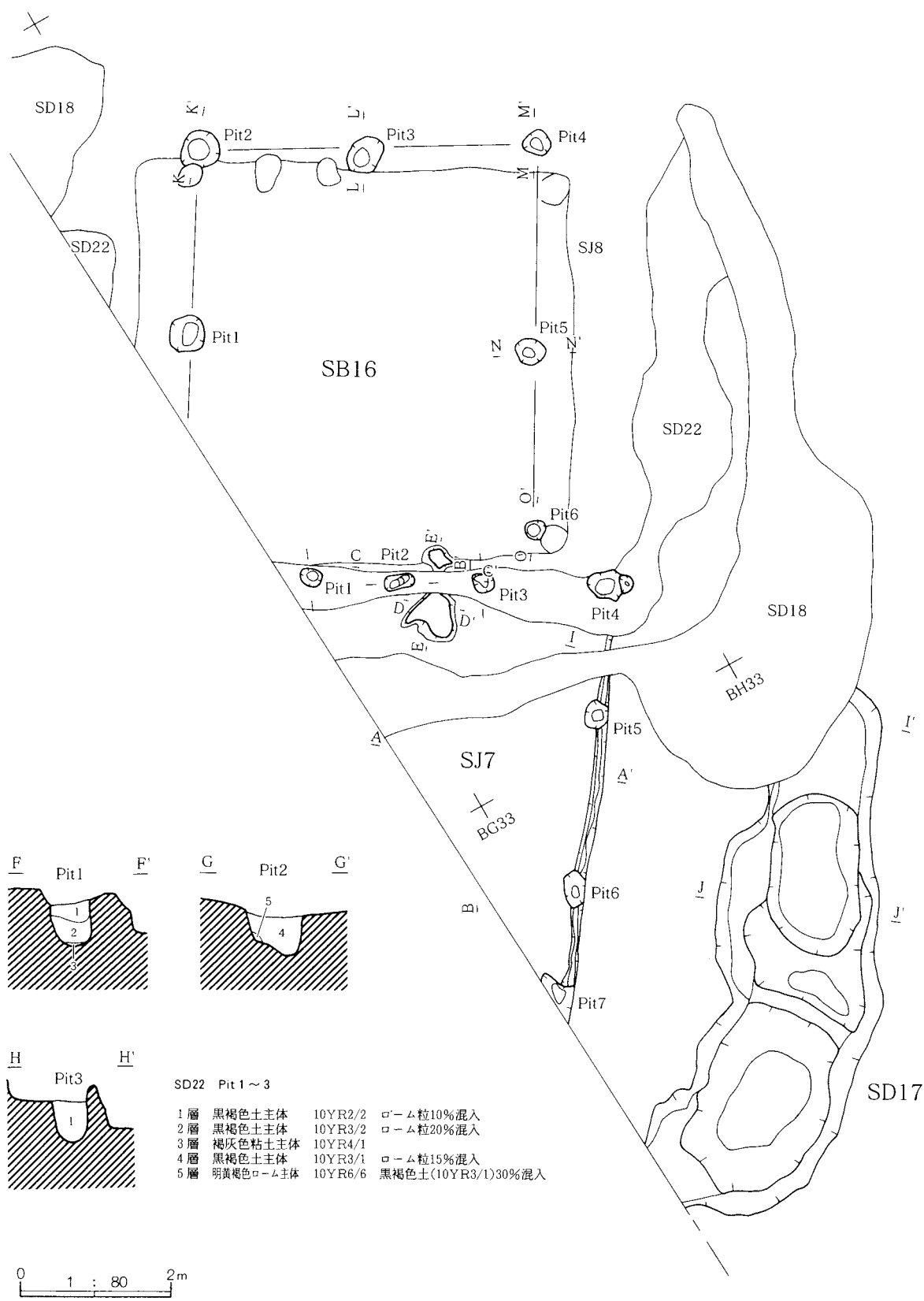
〔柱穴〕 S B 16はS J 8と重複するため、両者の柱穴との識別が困難であったが、各々の柱穴の規模は、Pit 1 - 径50×46cm・深さ15cm、Pit 2 - 径50cm・深さ50cm、Pit 3 - 径54×40cm・深さ50cm、Pit 4 - 径35cm・深さ42cm、Pit 5 - 径40×35cm・深さ32cm、Pit 6 - 径30cm・深さ25cmである。

### 外周溝（S D 17）

〔形態・規模〕 住居跡西側を囲んでいたものと思われるが、住居跡南側部分のみの確認で、大半は調査区外である。

〔壁・底面〕 底面の形状、深さは一定しない。

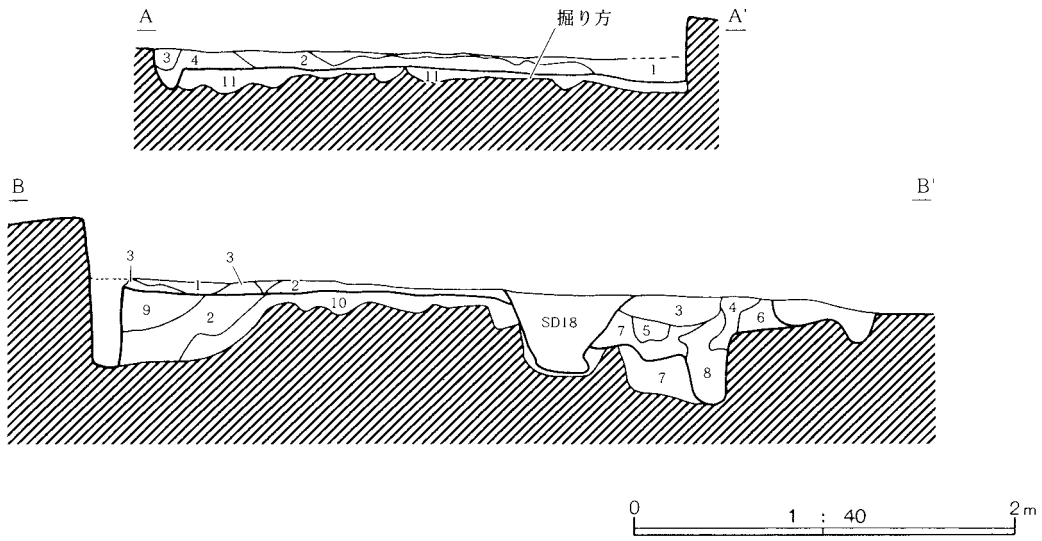
〔堆積土〕 主として人為堆積と思われるが、自然堆積も挟在する。白頭山・苦小牧火山灰を含む第8号建物跡のS D 18部分に切られているので、本遺構の構築時期は同火山灰降下以前と思われる。



SD22 Pit 1~3

1層	黒褐色土主体	10YR2/2	□-△粒10%混入
2層	黒褐色土主体	10YR3/2	□-△粒20%混入
3層	褐灰色粘土主体	10YR4/1	
4層	黒褐色土主体	10YR3/1	□-△粒15%混入
5層	明黄褐色□-△主体	10YR6/6	黒褐色土(10YR3/1)30%混入

图35 第7号建物跡



SJ 7

- |     |           |         |                                      |
|-----|-----------|---------|--------------------------------------|
| 1層  | 暗褐色土主体    | 10YR3/4 | ローム大粒 5%混入                           |
| 2層  | にがい黄褐色土主体 | 10YR4/3 | ロームブロック斑状25%・ローム大塊斑状に15%混入           |
| 3層  | 黒褐色土主体    | 10YR3/1 | ローム大粒30%・ローム大塊10%混入                  |
| 4層  | 褐色土主体     | 10YR4/4 | 黒色土 (10YR2/1) 10%混入                  |
| 5層  | 暗褐色土主体    | 10YR3/3 | ローム大塊15%斑状に混入                        |
| 6層  | にがい黄褐色土主体 | 10YR4/3 | ロームブロック15%・ローム大塊10%混入                |
| 7層  | 褐色土主体     | 10YR4/4 | 黒褐色土 (10YR3/2) 25%混入                 |
| 8層  | 褐色土主体     | 10YR4/6 |                                      |
| 9層  | 黒褐色土主体    | 10YR3/1 | ローム中塊 5%混入                           |
| 10層 | にがい黄褐色土主体 | 10YR4/3 | ローム中粒 2%・暗褐色土 (10YR3/3) 20%・焼土粒 1%混入 |

図36 第7号建物跡 (SJ 7 部分断面)

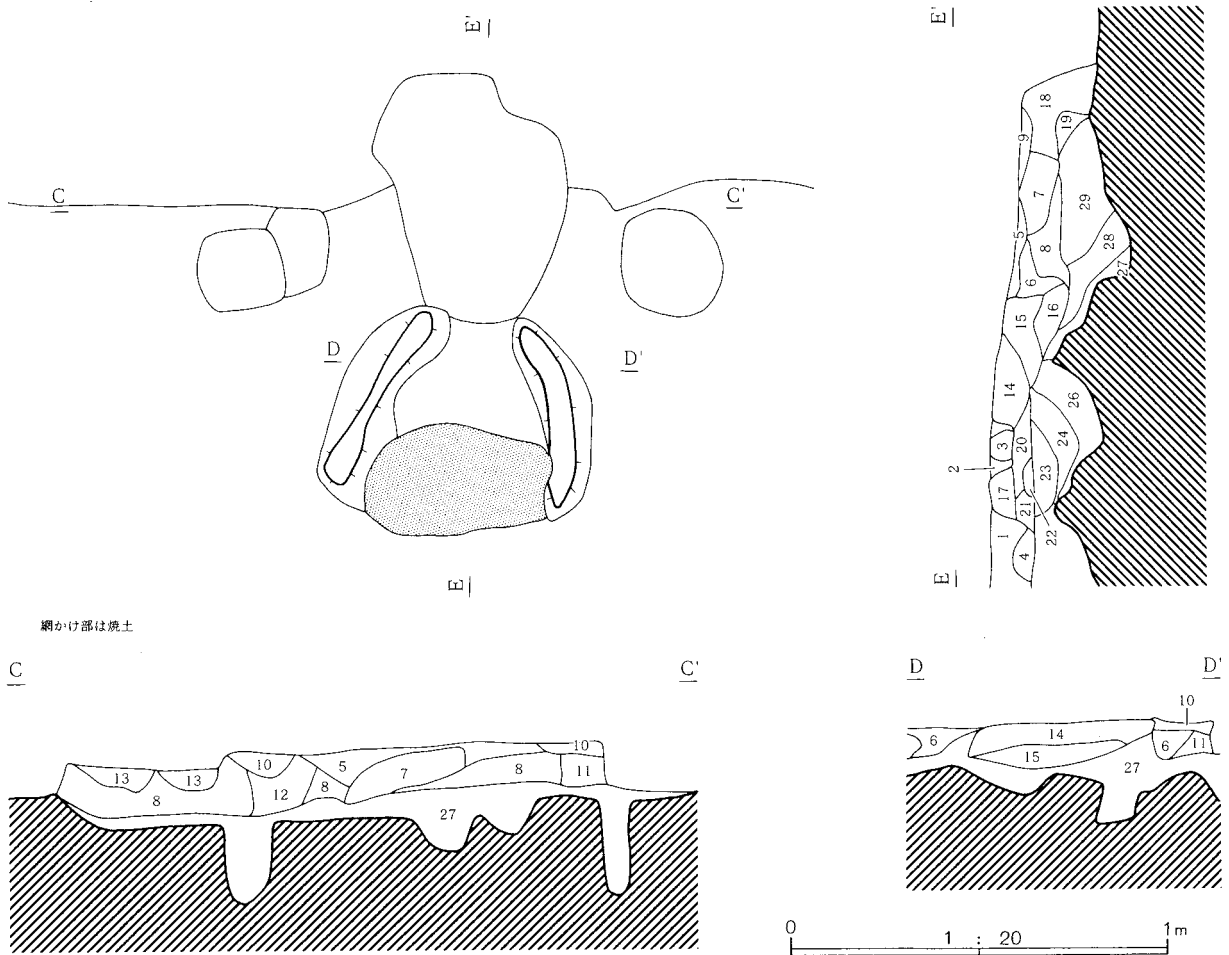
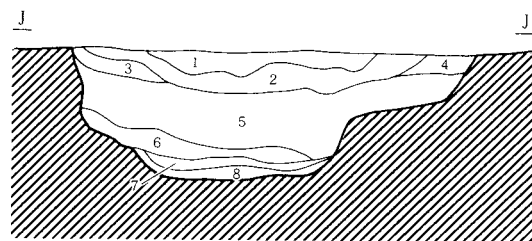
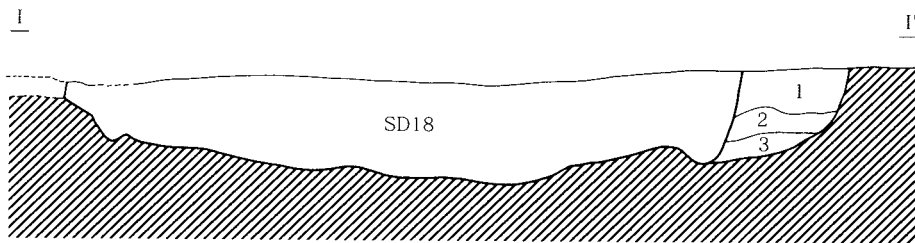


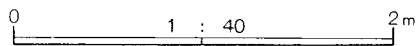
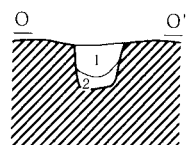
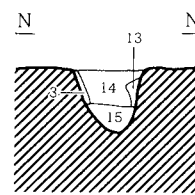
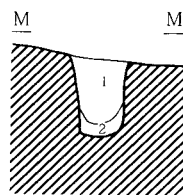
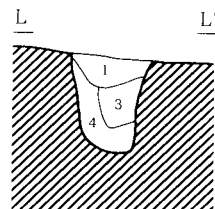
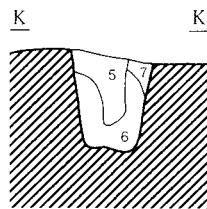
図37 第7号建物跡 (SJ 7 断面・カマド)

SJ7 カマド

- |     |           |            |                                  |
|-----|-----------|------------|----------------------------------|
| 1層  | にぶい黄褐色土主体 | 10YR5/4    | ローム中〜大塊30%・焼土粒3%混入               |
| 2層  | 褐色土主体     | 7.5Y R 4/4 | ローム粒3%・焼土ブロック10%混入               |
| 3層  | 黒褐色土主体    | 7.5Y R 3/2 | ローム粒5%・焼土ブロック10%混入               |
| 4層  | 褐色土主体     | 7.5Y R 4/6 | 焼土主体、黒色土30%混入、やわらかい              |
| 5層  | 暗褐色土主体    | 10YR3/3    | 炭化物粒5%・ローム粒10%混入、やわらかい           |
| 6層  | 黒褐色土主体    | 10YR2/2    | 炭化物粒3%・ローム粒10%混入                 |
| 7層  | 黒褐色土主体    | 10YR2/2    | 炭化物粒1%・ローム粒10%混入                 |
| 8層  | 褐色土主体     | 10YR4/6    | ローム主体、黒色土30%混入、やわらかい             |
| 9層  | 黄褐色土主体    | 10YR5/6    | 焼土ブロック30%混入、とてもかたい(袖)            |
| 10層 | にぶい黄褐色土主体 | 10YR5/4    | ローム粒30%混入、とてもかたくもろい              |
| 11層 | 黒褐色土主体    | 10YR3/2    | 炭化物粒10%・ローム粒30%・焼土10%混入(ピット1の覆土) |
| 12層 | 黒褐色土主体    | 10YR3/2    | ローム粒30%・焼土5%混入                   |
| 13層 | にぶい黄褐色土主体 | 10YR4/3    | ローム粒30%混入                        |
| 14層 | 褐色土主体     | 7.5Y R 4/6 | 焼土主体、焼土中粒3%混入                    |
| 15層 | 暗褐色土主体    | 7.5Y R 3/4 | 焼土主体、焼土粒5%混入                     |
| 16層 | 黒褐色土主体    | 7.5Y R 3/2 | 焼土粒1%混入                          |
| 17層 | 明褐色土主体    | 7.5Y R 5/6 | 焼土主体、橙色焼土(7.5YR6/8)小塊混入          |
| 18層 | 暗褐色土主体    | 10YR3/3    | 焼土粒3%・橙色焼土(7.5YR6/8)混入           |
| 19層 | にぶい黄褐色土主体 | 10YR4/3    |                                  |
| 20層 | 明褐色土主体    | 7.5Y R 5/6 | 焼土主体、黒色土(10YR2/1)5%混入            |
| 21層 | 褐色土主体     | 7.5Y R 4/4 | 焼土主体、黒色土(10YR2/1)30%混入           |
| 22層 | 明褐色土主体    | 7.5Y R 5/8 | 焼土主体、黒色土(10YR2/1)3%混入            |
| 23層 | 赤褐色土主体    | 5Y R 4/6   | 焼土主体、黒色土(10YR3/3)15%混入           |
| 24層 | 暗褐色土主体    | 10YR3/4    | ローム粒10%混入                        |
| 25層 | 黒色土主体     | 10YR2/1    | 焼土中塊1%・ローム粒10%混入                 |
| 26層 | 褐色土主体     | 10YR4/4    | 黒色土(10YR2/1)3%混入                 |
| 27層 | 黄褐色土主体    | 10YR5/8    | ローム主体                            |
| 28層 | 黒褐色土主体    | 10YR3/1    | ローム粒10%混入                        |

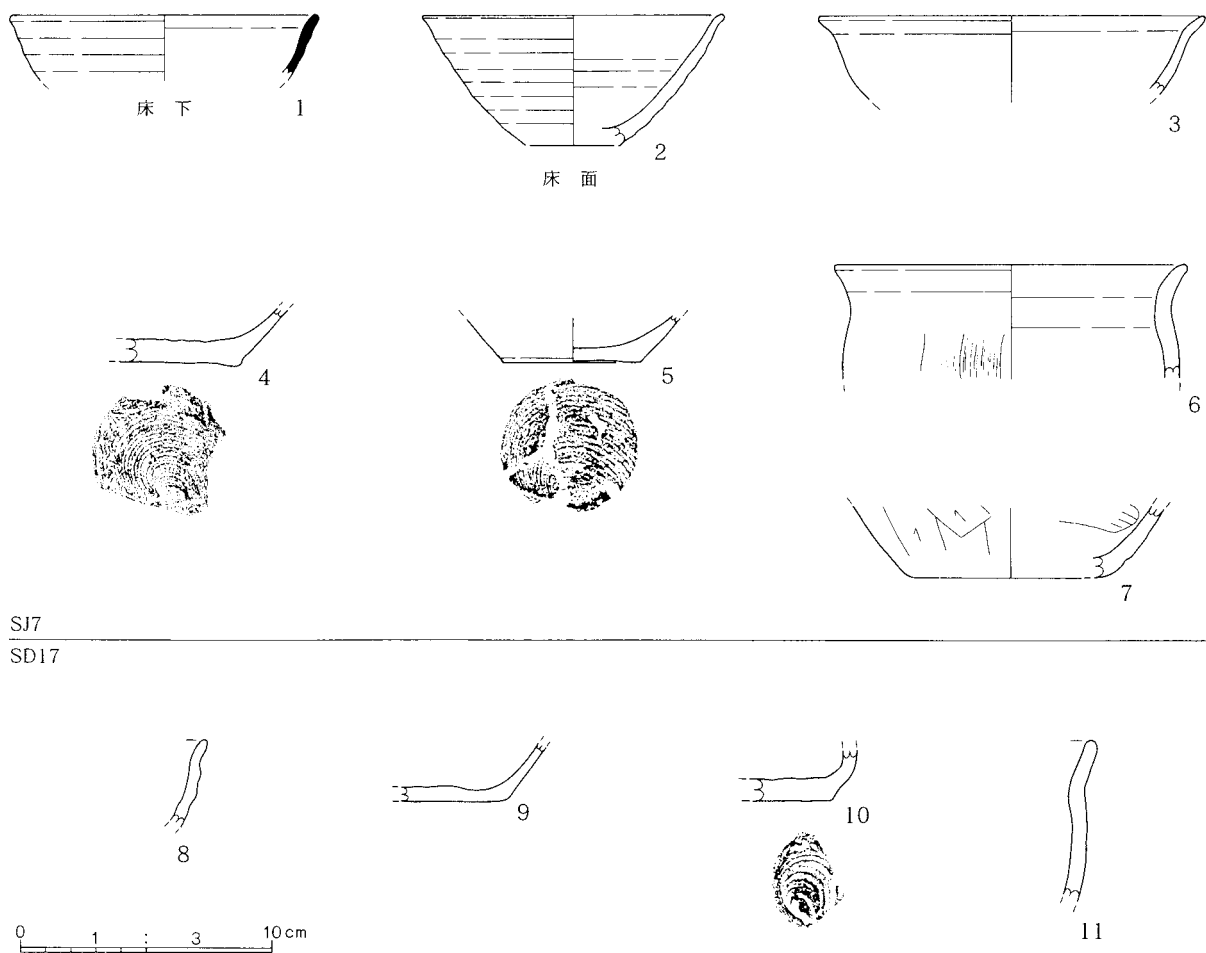


- SD17 C
- |    |            |           |   |
|----|------------|-----------|---|
| 1層 | 黒色土主体      | 10YR2/1   | ローム中粒5%・ローム中塊1%混入                                     |
| 2層 | 黒褐色土主体     | 10YR2/2   | ローム小塊3%・ローム中塊10%・鉄分10%混入                              |
| 3層 | 黒色土主体      | 10YR1.7/1 | ローム粒1%混入  |
| 4層 | 灰黄色土主体     | 10YR4/2   | ローム中塊2%混入   |
| 5層 | 黒褐色土主体     | 10YR2/3   | ローム大粒10%・鉄分8%・火山灰大粒5%・火山灰大5%塊斑状に混入、部分的(5層左上)に火山灰が濃集する |
| 6層 | 黒褐色土主体     | 10YR3/1   | 火山灰5%混入、褐灰色粘土(10YR5/1)が濃集する                           |
| 7層 | 黒褐色土主体     | 10YR3/2   | ローム粒1%混入  |
| 8層 | にぶい黄褐色粘土主体 | 10YR7/2   | 黒色土(10YR2/1)10%・鉄分6%混入                                |



- |     |           |         |                          |
|-----|-----------|---------|--------------------------|
| 1層  | 黒褐色土主体    | 10YR2/2 | ローム粒5%混入                 |
| 2層  | 明黄褐色土主体   | 10YR6/6 | ローム主体、黒褐色土(10YR2/3)20%混入 |
| 3層  | 黒褐色土主体    | 10YR3/2 | ローム粒1%混入                 |
| 4層  | にぶい黄褐色土主体 | 10YR4/3 | 黒色土(10YR2/1)40%混入        |
| 5層  | 暗褐色土主体    | 10YR3/3 | ローム粒20%混入                |
| 6層  | 褐色土主体     | 10YR4/6 |                          |
| 7層  | 灰褐色土主体    | 10YR4/2 | ローム中塊10%斑状に含む            |
| 8層  | 黒色土主体     | 10YR2/1 | ローム粒1%混入                 |
| 9層  | にぶい黄褐色土主体 | 10YR6/4 | 黒褐色土(10YR2/3)20%混入       |
| 10層 | 黒褐色土主体    | 10YR3/2 | ローム中粒30%混入               |
| 11層 | 灰褐色土主体    | 10YR4/1 | ローム大塊3%混入                |
| 12層 | 暗褐色土主体    | 10YR3/4 | ローム中粒30%混入               |
| 13層 | 黒色土主体     | 10YR2/1 | ローム中塊5%混入                |
| 14層 | 黒褐色土主体    | 10YR3/2 | ローム大粒1%混入                |
| 15層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/3 | ローム中粒30%混入               |

図38 第7号建物跡 (SB16・SD17断面)



SJ7  
SD17

图39 第7号建物跡出土遺物 (SJ 7 · SD17 · SD22部分)

## 第8号建物跡

〔位置・確認〕 BF-30~32、BG-30~33、BH-31~33の各グリッドに位置している。主軸方向は北から123度東である。

〔重複〕 第7号住居跡と重複しているが、本建物跡の方が新しい。

〔概要〕 第8号住居跡（SD8）、第4号掘立柱建物跡（SB4）、第18号溝跡（SD18）、第22号溝跡（SD22）で構成されている。

〔出土遺物〕 土師器、須恵器の坏、甕等が出土している。

### 竪穴住居跡部分（SJ8）

〔平面形・規模〕 約5.2m×5.7mの長方形である。

〔壁・床〕 ほぼ平坦である。

〔壁溝〕 調査区外で確認できない部分以外は全周を巡っている。

〔柱穴・ピット〕 第7号建物跡のSB16部分の柱穴と重複するので両者の識別は困難であるが、Pit1~4までが主柱穴になるものと思われる。また、住居跡の各角にも柱穴が認められる。各々の柱穴の規模は、Pit1-径50cm・深さ33cm、Pit2-径60×45cm・深さ40cm、Pit3-径は区域外にかかるため不明瞭・深さ44cm、Pit4-径60×55cm・深さ45cm、Pit5-径40×35cm・深さ30cm、Pit8-径40×30cm・深さ28cm、Pit13-径50×40cm・深さ36cm、Pit14-径55×50cm・深さ34cm、Pit15-径20cm・深さ20cm、Pit16-径50cm・深さ30cm、Pit17-径58×50cm・深さ15cm、Pit18-径50×40cm・深さ52cm、Pit19-径40×35cm・深さ25cm、Pit20-径104×100cm・深さ25cmである。

〔カマド〕 住居跡東壁のやや南寄りで確認されているが、遺存状態は悪く、火床面が残存する程度である。

〔堆積土〕 自然堆積と思われる。

### 掘立柱建物跡部分（SB4）

〔規模〕 必ずしも明確ではないが図40のPit25、26等の柱穴が掘立柱建物跡の柱穴であった可能性が考えられる。当初SJ8部分東辺の東側に隣接する柱穴が本掘立柱建物跡の柱穴であろうと推測していたが、それらは位置的に第7号建物跡の掘立柱建物跡部分（SB16）の柱穴である可能性が高いものと判断し、そちらの柱穴として先述した。

### 外周溝（SD18、SD22）

〔形態・規模〕 SD22は住居跡西側を囲むように巡り、SD18はそのさらに外側を同様に巡るものと思われるが共に一部調査区外である。両者は一部重複するが、SD18の方が新しい。

〔関連土坑〕 SJ8部分の南西側でSD18が土坑状に膨らんでいる。

〔堆積土〕 両者とも人為堆積を主体としているが、自然堆積も挟在する。SD18には白頭山・苫小牧火山灰が堆積している。





X' Pit26 X'

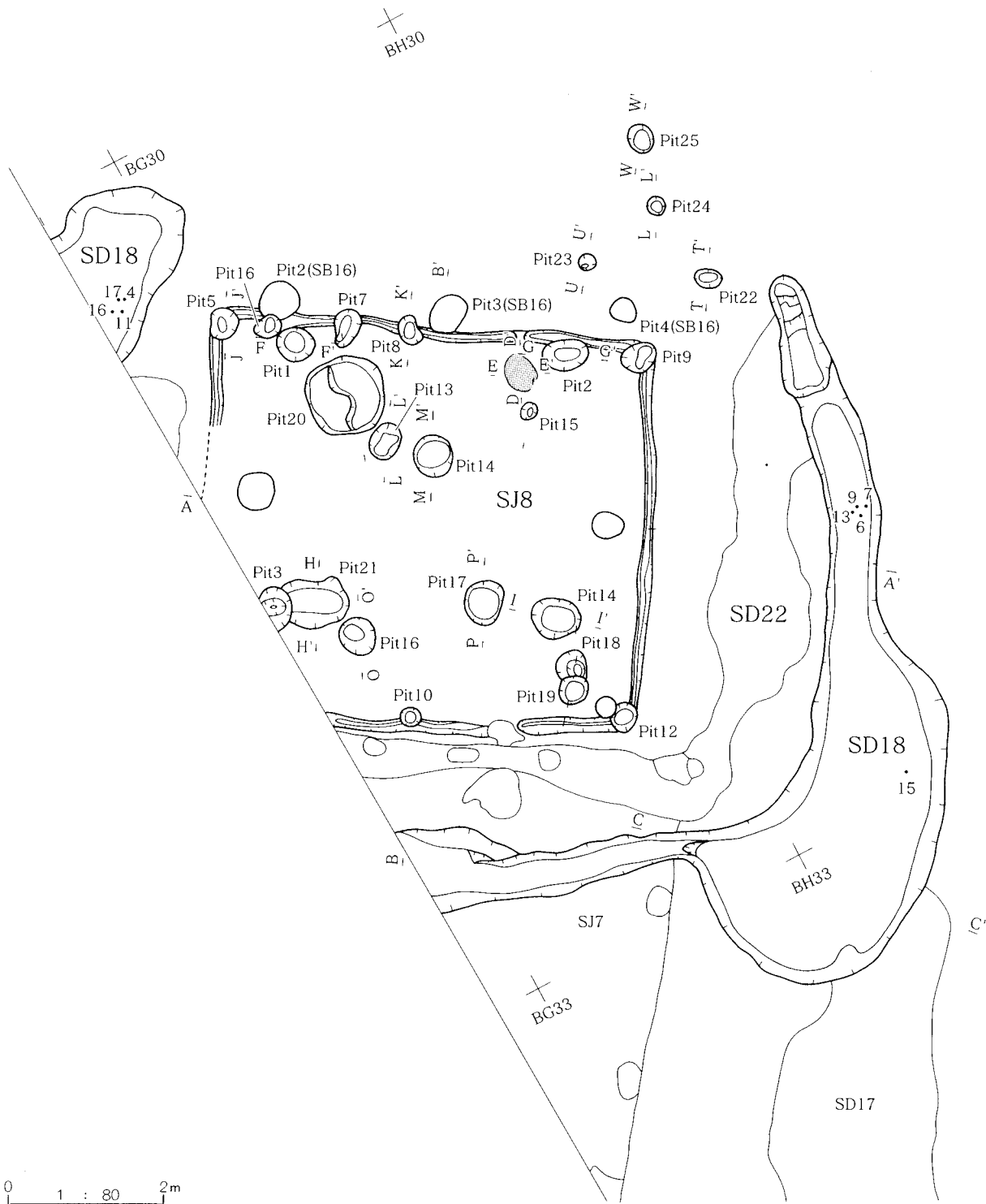
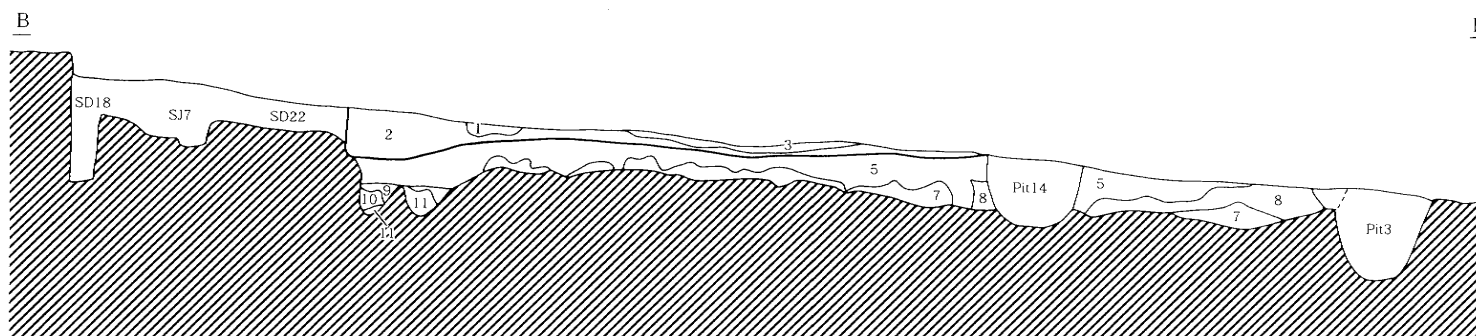
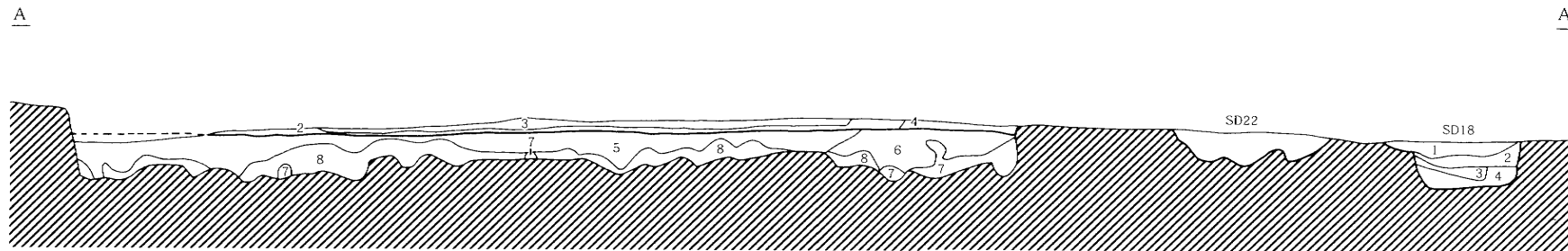
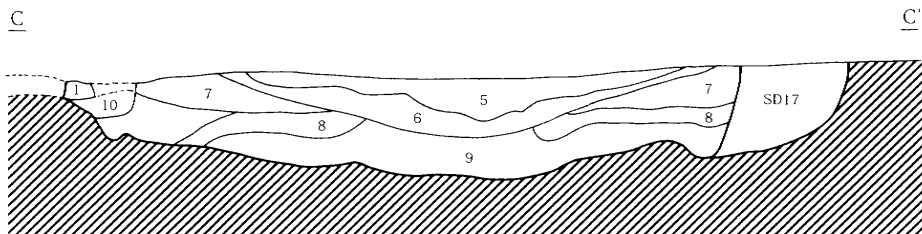
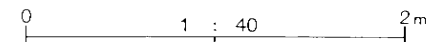


图40 第8号建物跡



SJ 8

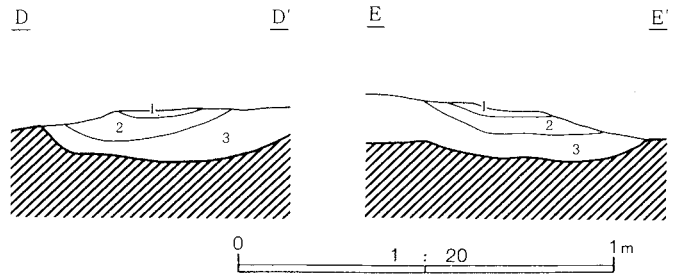
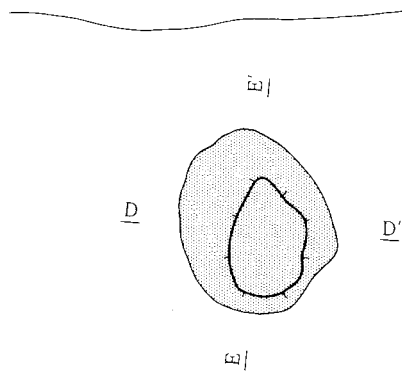
- |     |         |         |                                |
|-----|---------|---------|--------------------------------|
| 1層  | 黒色土主体   | 10YR2/1 | 灰黄色土(10YR5/2)30%・ローム中粒5%       |
| 2層  | 黒褐色土主体  | 10YR3/2 | 3層の火山灰5%混入                     |
| 3層  | 黄褐色土主体  | 10YR5/8 | 火山灰主体、暗褐色土(10YR3/3)10%混入       |
| 4層  | 黒褐色土主体  | 10YR2/2 | 炭化粒3%・焼土3%・ローム小塊5%混入           |
| 5層  | 黒褐色土主体  | 10YR3/2 | 黄褐色土(10YR5/6)15%・ローム粒2%・焼土2%混入 |
| 6層  | 黒褐色土主体  | 10YR2/2 | 明黄褐色(10YR6/6)ローム大塊20%・浮石1%混入   |
| 7層  | 明黄褐色土主体 | 10YR6/6 | ローム主体、黒褐色土(10YR2/2)20%混入       |
| 8層  | 灰黄褐色土主体 | 10YR4/2 | 褐色土(10YR4/6)30%混入              |
| 9層  | 黒褐色土主体  | 10YR3/1 | 焼土小塊1%・ローム中粒5%混入               |
| 10層 | 暗褐色土主体  | 10YR3/3 | ローム中塊3%混入                      |
| 11層 | 黒色土主体   | 10YR2/1 | ローム粒20%混入                      |



SD 18

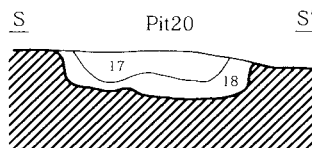
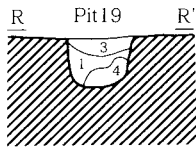
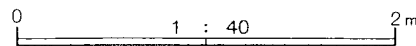
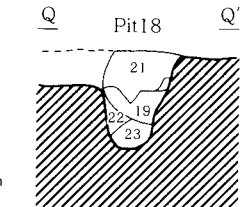
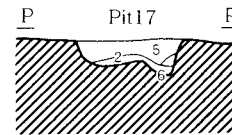
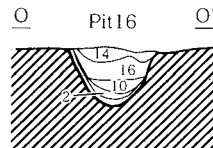
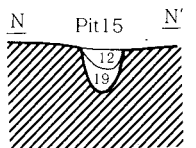
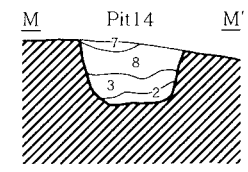
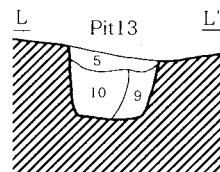
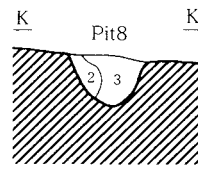
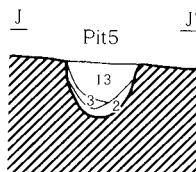
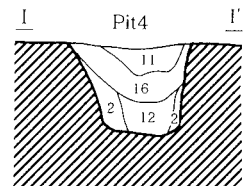
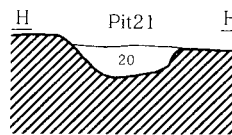
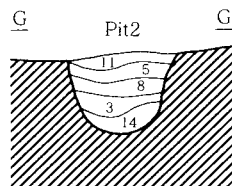
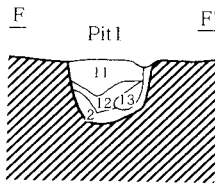
- |     |           |         |                          |
|-----|-----------|---------|--------------------------|
| 5層  | にぶい黄褐色土主体 | 10YR4/3 | ローム粒1%混入                 |
| 6層  | 黒褐色土主体    | 10YR3/1 | ローム中粒1%・火山灰20%混入         |
| 7層  | 黒色土主体     | 10YR2/1 | 炭化物粒1%・ローム粒5%・焼土1%混入     |
| 8層  | 黒褐色土主体    | 10YR3/2 | ローム大塊10%・炭化物粒1%・焼土大塊1%混入 |
| 9層  | にぶい黄褐色土主体 | 10YR4/3 | ローム大塊10%混入               |
| 10層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/3 | ローム小〜大粒10%・焼土中塊1%混入      |

図41 第8号建物跡 (SJ 8・SD18断面)



SJ 8 カマド

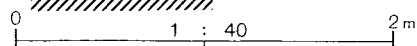
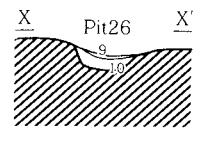
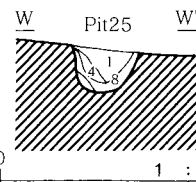
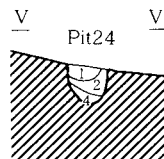
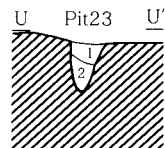
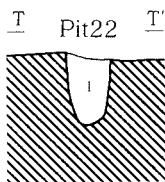
- 1層 明黄褐色土主体 10YR6/8 焼土層
- 2層 暗褐色土主体 10YR3/4 1層の焼土40%混入
- 3層 暗褐色土主体 10YR3/4 浮石3%混入



- 9層 におい黄褐色土主体 10YR6/4 黒褐色土(10YR2/3)20%混入
- 10層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム中粒30%混入
- 11層 灰褐色土主体 10YR4/1 ローム大塊3%混入
- 12層 暗褐色土主体 10YR3/4 ローム中粒30%混入
- 13層 黒色土主体 10YR2/1 ローム中塊5%混入
- 14層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム大粒1%混入
- 15層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム中粒30%混入
- 16層 灰黄褐色土主体 10YR4/2 ローム中塊4%斑状に含む、黒褐色土粒3%・浮石1%・黒色土粒5%・炭化物粒1%混入
- 17層 灰黄褐色土主体 10YR4/2 ローム中塊10%斑状に含む
- 18層 明黄褐色土主体 10YR6/6 ローム主体、灰黄褐色土10%混入
- 19層 におい黄褐色土主体 10YR5/3 黒色土30%混入
- 20層 褐色土主体 10YR4/4 ローム大塊40%斑状に含む
- 21層 黒褐色土主体 10YR3/1 におい黄褐色土大塊20%斑状に含む
- 22層 におい黄褐色土主体 10YR6/3 ローム主体、黒褐色土大塊20%斑状に含む
- 23層 におい黄褐色土主体 10YR5/3 砂層
- 24層 黒色土主体 10YR2/1 焼土中塊2%・ローム中粒10%混入
- 25層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム大塊30%斑状に含む

SJ 8 Pit 1~14

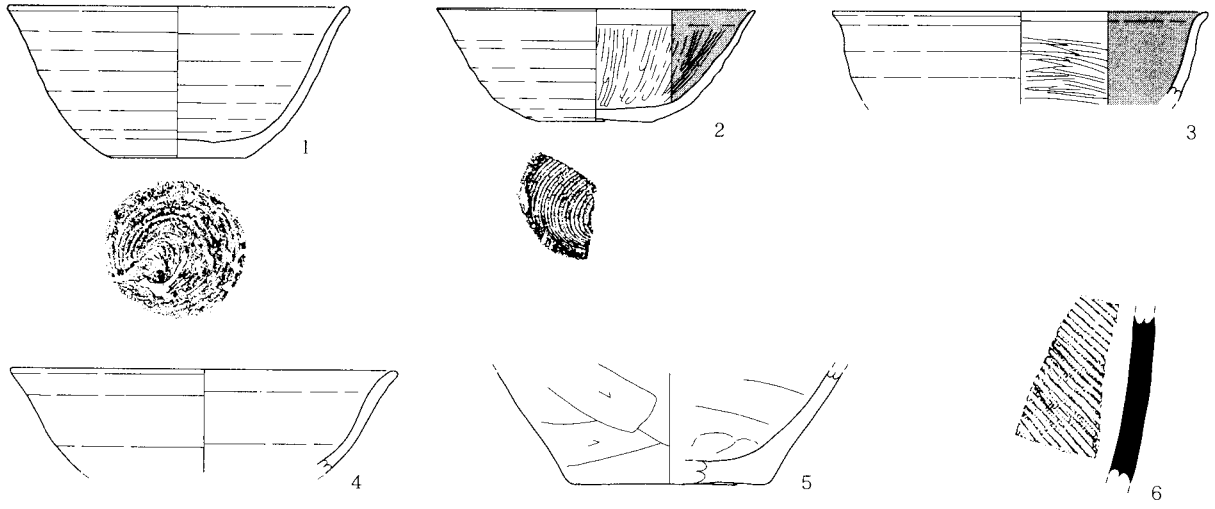
- 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒5%混入
- 2層 明黄褐色土主体 10YR6/6 ローム主体、黒褐色土20%混入
- 3層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム粒1%混入
- 4層 におい黄褐色土主体 10YR4/3 黒色土40%混入
- 5層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒20%混入
- 6層 褐色土主体 10YR4/6
- 7層 灰褐色土主体 10YR4/2 ローム中塊10%斑状に含む
- 8層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒1%混入



SB 4

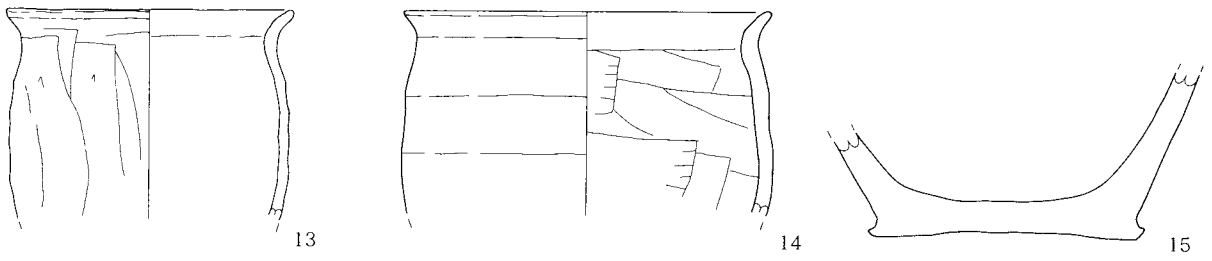
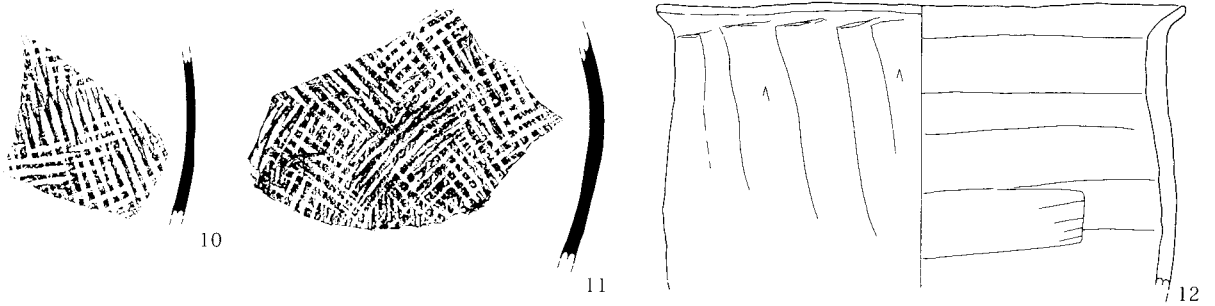
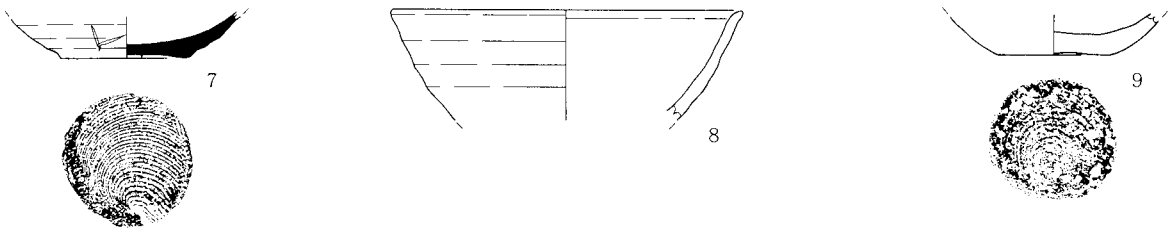
- 1層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム大粒10%混入
- 2層 暗褐色土主体 10YR4/6 ローム粒2%混入
- 3層 黒褐色土主体 10YR3/1 ローム粒10%・ローム大粒3%混入
- 4層 におい黄褐色土主体 10YR5/4 黒褐色土(10YR3/1)35%混入
- 5層 黒色土主体 10YR2/1 ローム中粒5%混入
- 6層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム中粒10%・ローム中塊20%混入
- 7層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム大塊3%混入
- 8層 黄褐色土主体 10YR5/8 ローム主体、火山灰大塊8%混入
- 9層 灰褐色土主体 10YR4/1
- 10層 黄褐色土主体 10YR5/6 黒色土(10YR2/1)5%混入

図42 第8号建物跡 (SJ 8 カマド・柱穴)



SJ8

SD18



SD18内SK1

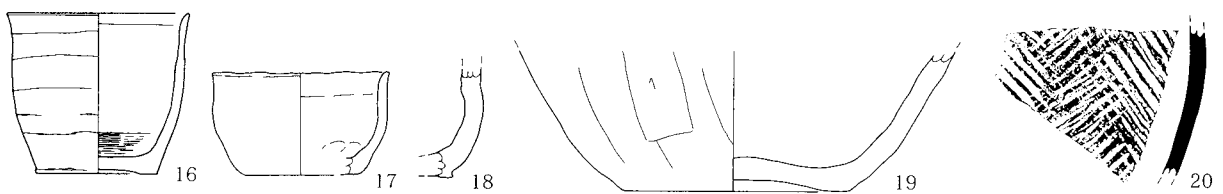


图43 第8号建物跡出土遺物 (SJ8・SD18部分)

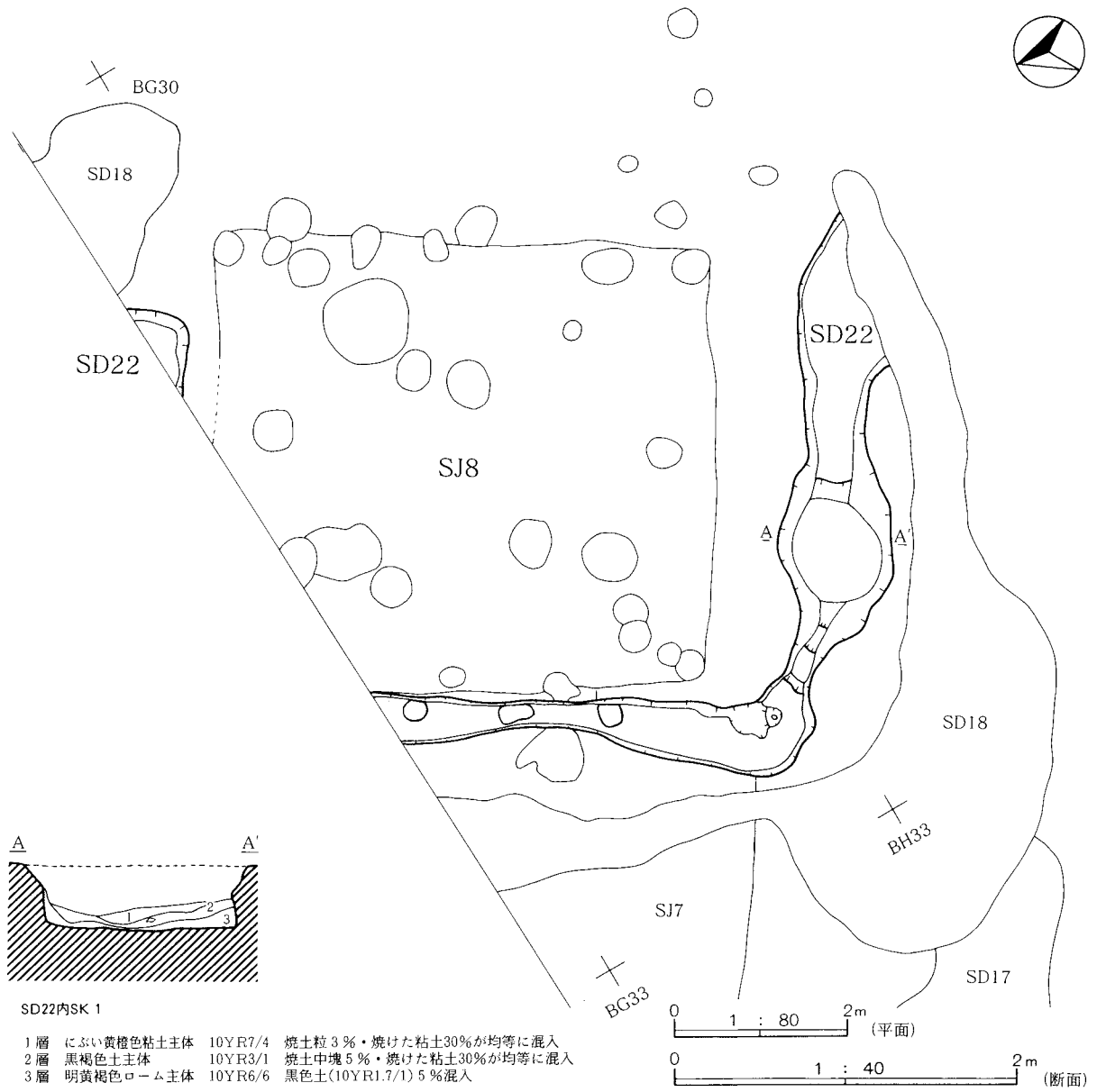


図44 第8号建物跡 (SD22)

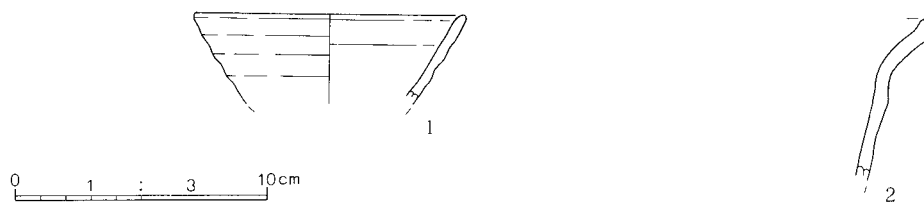


図45 第8号建物跡出土遺物 (SD22部分)

## 第9号建物跡

〔概要〕 第9号竪穴住居跡（S J 9）、第19号掘立柱建物跡（S B 19）、第19号溝跡（S D 19）で構成される。

〔位置・確認〕 B J - 23~24、B K - 23~25、B L - 22~25の各グリッドに位置している。主軸方向は北から124度東である。

〔重複〕 第10号建物跡と重複するが、本建物跡の方が古い。

〔出土遺物〕 遺物は少なく、土師器、須恵器の甕片が若干出土している程度である。

### 竪穴住居跡部分（S J 9）

〔平面形・規模〕 約4.1×5.2mの長方形である。

〔壁・床〕 床面は比較的平坦であるが、南東方向にやや傾斜している。壁の遺存状態は極めて悪い。

〔壁溝〕 確認されなかった。

〔柱穴・ピット〕 4本の支柱穴があったものと思われるが確認できたのはPit 1、3、4の3本である。他に壁際にも柱穴が確認されている。各々の柱穴の規模はPit 1 - 径25cm・深さ18cm、Pit 2 - 径30cm・深さ28cm、Pit 3 - 径30×25cm・深さ16cm、Pit 4 - 径40×30cm・深さ26cm、Pit 5 - 径15cm・深さ24cm、Pit 6 - 径30cm・深さ24cm、Pit 7 - 径15cm・深さ32cm、Pit 8 - 径30×20cm・深さ56cm、Pit 9 - 径22cm・深さ32cm、Pit 10 - 径20cm・深さ30cm、Pit 11 - 径22×18cm・深さ17cm、Pit 12 - 径20cm・深さ12cm、Pit 13 - 径25×18cm・深さ15cmである。

〔カマド〕 確認されなかったが竪穴住居跡部分の南東壁にあった可能性が高いものと思われる。

〔堆積土〕 床面上はほとんど残っていないが、掘り方部分は埋め戻しのようである。

### 掘立柱建物跡部分（S B 19）

〔規模〕 4.5×4.0の長方形である。

〔柱穴〕 それぞれの柱穴の規模はPit 1 - 径30cm・深さ45cm、Pit 2 - 径35cm・深さ35cm、Pit 3 - 径38cm・深さ45cm、Pit 4 - 径34cm・深さ50cm、Pit 5 - 径40cm・深さ36cm、Pit 6 - 径44×34cm・深さ45cm、Pit 7 - 径34cm・深さ20cmである。

〔柱間寸法〕 長軸方向の柱間は約1.9mと約2.7m、短軸方向の柱間は1.9~2.0mである。

### 外周溝（S D 19）

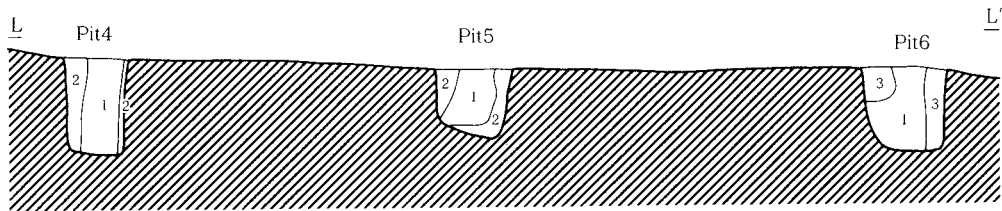
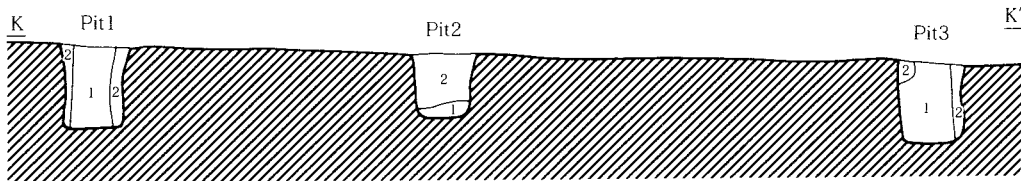
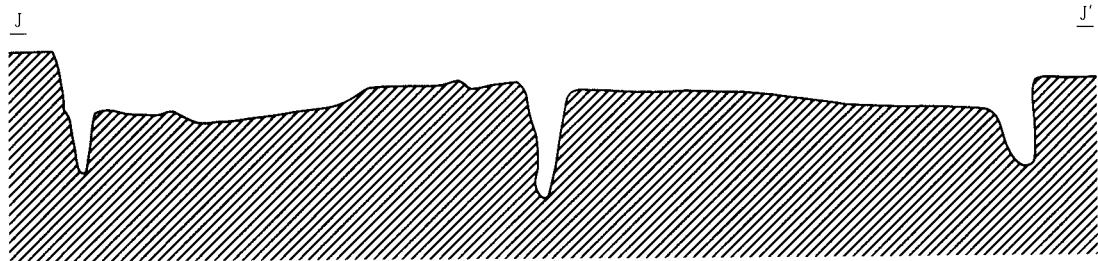
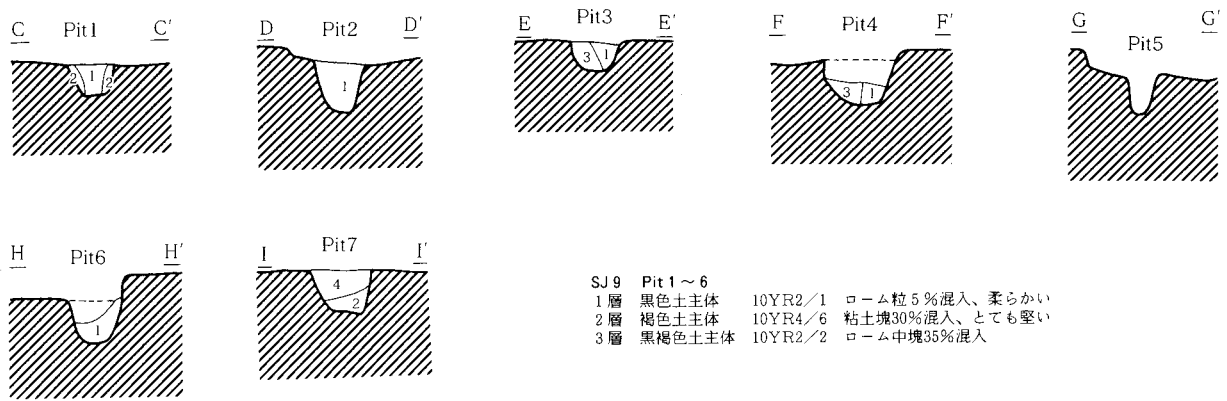
〔形態・規模〕 竪穴住居部分の西側を囲むように巡る。

〔壁・底面〕 外周溝の掘り込みとしては比較的浅い。

〔堆積土〕 判然としないが人為堆積を主体とするようである。







SB 5

1層	黒色土主体	10YR1.7/1	ローム粒5%・ローム小塊10%混入
2層	黄褐色ローム主体	10YR5/6	黒色土(10YR1.7/1) 5%混入
3層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム中塊20%混入

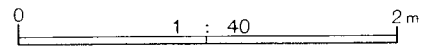


図47 第9号建物跡 (SJ 9・SB 5断面)

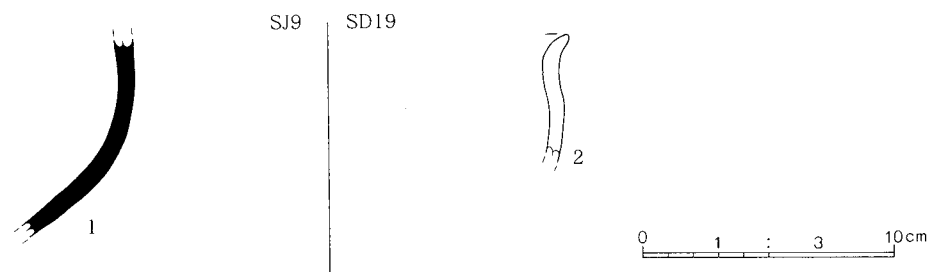


図48 第9号建物跡出土遺物 (SJ 9・SD19部分)

## 第10号建物跡

〔概要〕 第10号竪穴住居跡（S J10）、第20号溝跡（S D20）で構成される。外周溝以外は遺存状態が極めて悪い。

〔位置・確認〕 B I - 21~23、B J - 20~23、B K - 20~23、B L - 21~22の各グリッドに位置している。主軸方向は北から142度東である。

〔重複〕 第9号、12号、17号建物跡の外周溝と、本建物跡の外周溝が重複している。それらとの新旧関係は、第9号建物跡よりは本建物跡の方が新しく、第12号建物跡や、第17号建物跡よりは本建物跡の方が古いものと思われる。

〔出土遺物〕 S D20部分を中心に土師器坏、甕、須恵器甕などが出土している。また、他の遺構からは全く検出されなかった土製の勾玉が外周溝の覆土中から2点出土している。

### 竪穴住居跡部分（S D10）

〔平面形・規模〕 遺存状態が悪いため明確ではないが、柱穴から推定すると一辺4.5m前後の方形または長方形の竪穴があった可能性が考えられる。

〔壁・床〕 壁、床ともに残っていないので詳細は不明である。

〔壁溝〕 確認されなかった。

〔柱穴・ピット〕 柱穴の配列も明確ではないが、Pit 6、7、12が竪穴住居の角に位置する柱穴であった可能性が考えられる。各々の柱穴の規模はPit 1 - 径35×28cm・深さ5cm、Pit 2 - 径35cm・深さ7cm、Pit 3 - 径30×25cm・深さ7cm、Pit 4 - 径30cm・深さ10cm、Pit 5 - 径25×20cm・深さ5cm、Pit 6 - 径30cm・深さ10cm、Pit 7 - 径40×30cm・深さ5cm、Pit 8 - 径35cm・深さ20cm、Pit 9 - 径50×35cm・深さ24cm、Pit 10 - 70×40cm・深さ50cm、Pit 11 - 径30×20cm・深さ15cmである。

〔カマド〕 確認されなかった。

〔堆積土〕 確認されなかった。

### 掘立柱建物跡部分

掘立柱建物跡を明確に識別することはできなかったが、Pit 8～10の柱穴が第10号竪穴住居跡に付随する掘立柱建物跡の柱穴であった可能性も考えられる。

### 外周溝（S D20）

〔形態・規模〕 住居跡の西側を囲むように巡っている。

〔壁・底面〕 底面の起伏や壁の立ち上がりは一定せず、場所によって状況が異なる。

〔堆積土〕 人為堆積を主体とするものと思われるが、堆積土の状況や溝の断面形態等から、埋め戻しと掘り返しが複数回繰り返された可能性が考えられる。（第5章参照）

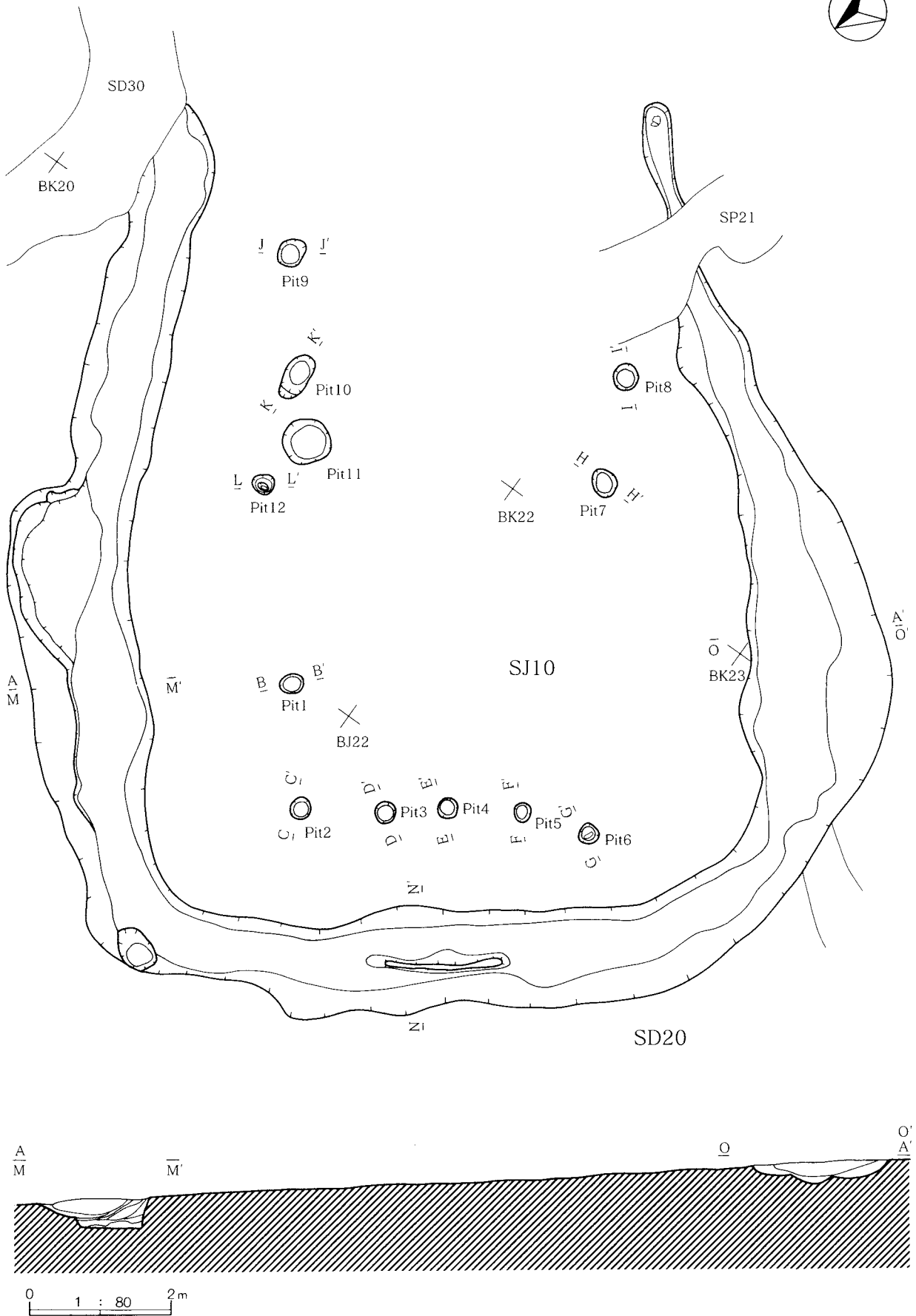
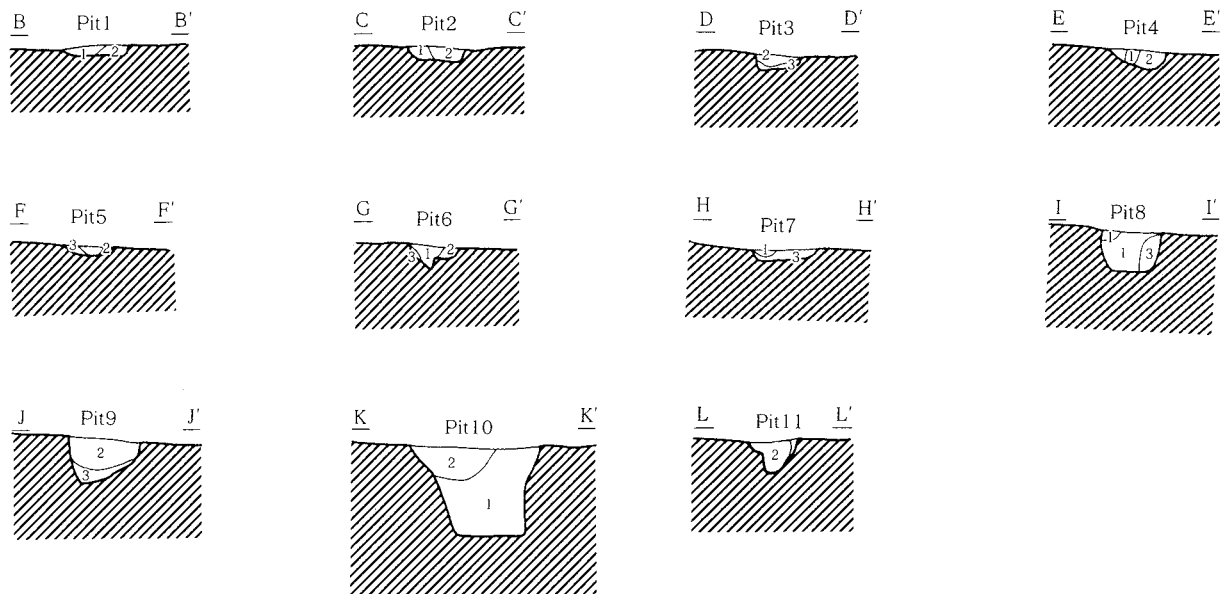
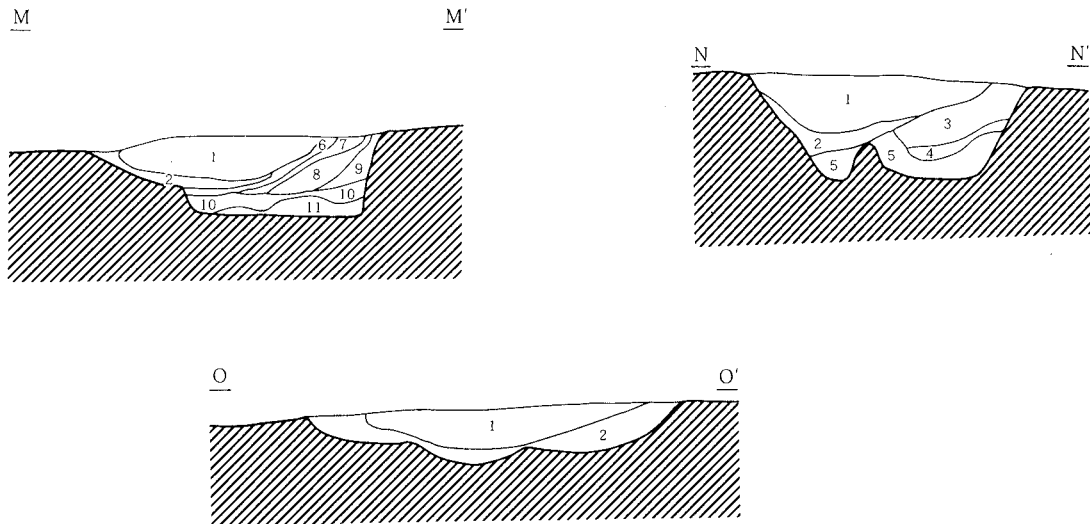


図49 第10号建物跡



SJ10

- |    |           |         |                |
|----|-----------|---------|----------------|
| 1層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/2 | ローム大塊50%混入     |
| 2層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/3 | ローム粒3%混入       |
| 3層 | 褐色ローム主体   | 10YR4/4 | 黒色土10%混入、とても堅い |
| 4層 | 黒色土主体     | 10YR2/1 | ローム中塊20%混入     |
| 5層 | 明黄褐色ローム主体 | 10YR6/6 | 黒色土5%混入        |



SD20

- |     |         |           |                               |
|-----|---------|-----------|-------------------------------|
| 1層  | 黒褐色土主体  | 10YR3/2   | ローム粒5%・ローム中塊30%混入             |
| 2層  | 黒褐色土主体  | 10YR2/2   | ローム3%・炭化粒1%混入                 |
| 3層  | 黄褐色土主体  | 10YR5/6   | ローム中~大塊10%・黒褐色土(10YR2/2)10%混入 |
| 4層  | 暗褐色土主体  | 10YR3/4   | ローム粒5%混入                      |
| 5層  | 黒色土主体   | 10YR2/1   | ローム大塊20%混入                    |
| 6層  | 黒褐色土主体  | 10YR2/3   | ローム粒5%・焼土粒2%・粘土小塊混入           |
| 7層  | 黒褐色土主体  | 10YR2/2   | ローム粒20%・焼土粒3%・浮石1%混入          |
| 8層  | 黒色土主体   | 10YR1.7/1 | ローム粒3%・焼土粒1%混入                |
| 9層  | 黒色土主体   | 10YR2/1   | ローム粒2%混入                      |
| 10層 | 暗褐色土主体  | 10YR3/3   | ローム小塊10%・粘土大塊5%・焼土粒1%混入       |
| 11層 | 明黄褐色土主体 | 10YR6/6   | ローム大塊30%・粘土中塊5%混入             |

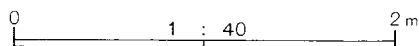


图50 第10号建物跡 (SJ10・SD20断面)

SJ10

SD20

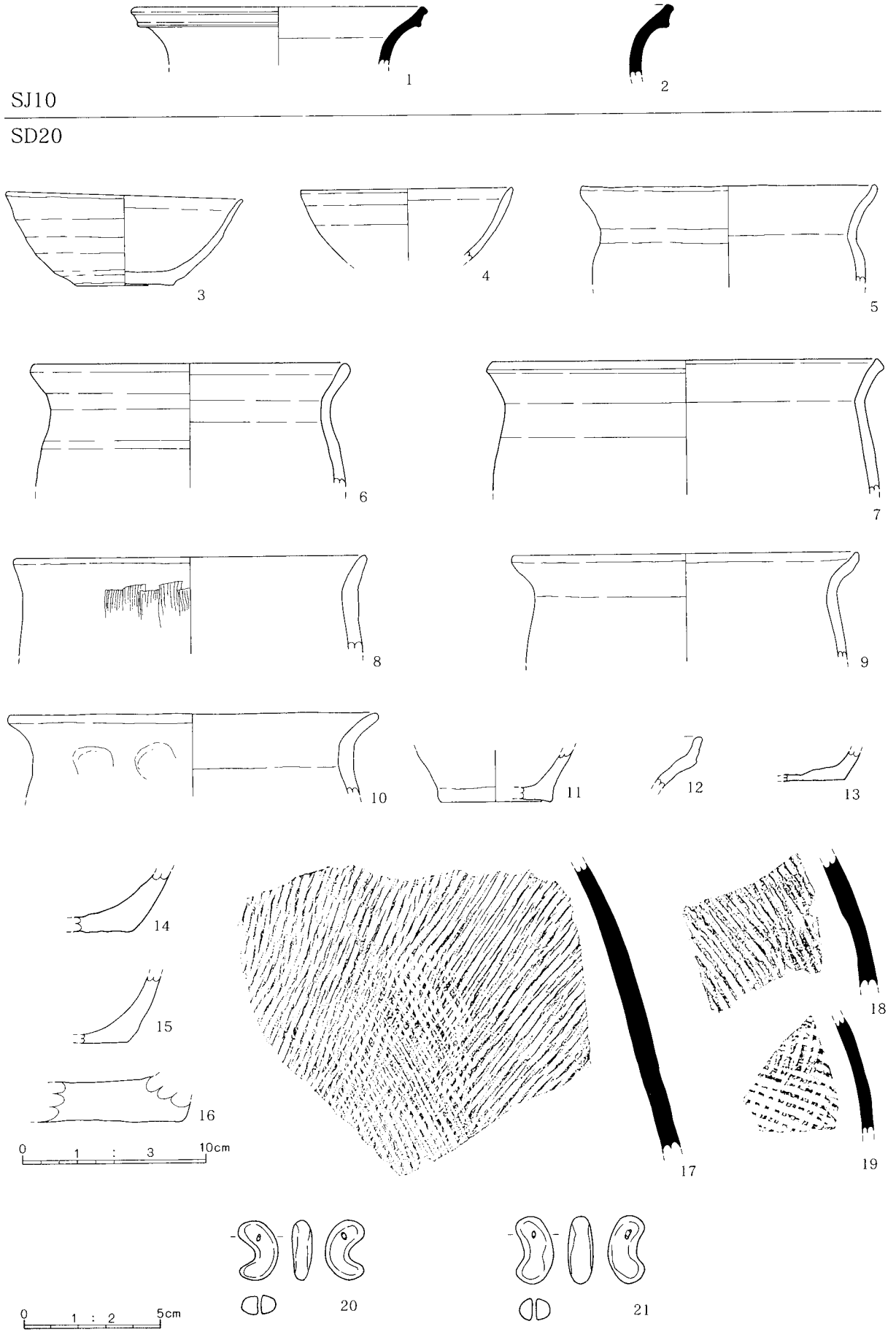


図51 第10号建物跡出土遺物 (SJ10・SD20部分)

### 第11号建物跡

[概要] 第11号竪穴住居跡（S J11）と第23号溝跡（S D23）で構成されるが、遺存状態は悪い。

[位置・確認] BM-30～32、BN-28～32、BO-27～31、BP-28～31、BQ-29～30の各グリッドに位置している。主軸方向は北から122度東である。

[重複] 第4号焼土遺構と重複するが本建物跡の方が古い。

[出土遺物] S D23の覆土中から土師器甕等が出土している。

#### 竪穴部分（第11号竪穴住居跡）

[平面形・規模] 遺存状態が悪いので全体像は不明であるが、残存している西辺から推定すると一辺約6.6m程度の方形になるものと推定される。

[壁・床] 床面も壁もほとんど残存していない。

[壁溝] 住居跡西辺と北辺の一部で確認されている。

[柱穴・ピット] Pit 3～5が支柱穴、Pit 8、10、13が住居角の柱穴になるものと推定される。各々の柱穴の規模は、Pit1-径70cm・深さ50cm、Pit 2-径80×70cm・深さ38cm、Pit 3-径60×50cm・深さ60cm、Pit 4-径60×70cm・深さ40cm、Pit 5-80×60cm・深さ55cm、Pit 6-径55×40cm・深さ40cm、Pit 7-径50×45cm・深さ30cm、Pit 8-径35cm・深さ34cm、Pit 9-径52cm・深さ38cm、Pit10-径35×30cm・深さ20cmである。

[カマド] 確認されなかった。

[堆積土] 削平のため大半が失われている。

#### 外周溝（S D23）

[形態・規模] 住居跡を取り囲むほどではないので外周溝としてとらえていいか疑問も残るが、S J11部分の北東辺を囲むように溝が確認されている。

[壁・底面] 東半部側では底面や立ち上がりの状態が一定しない。

[堆積土] 人為堆積を主体とするようである。

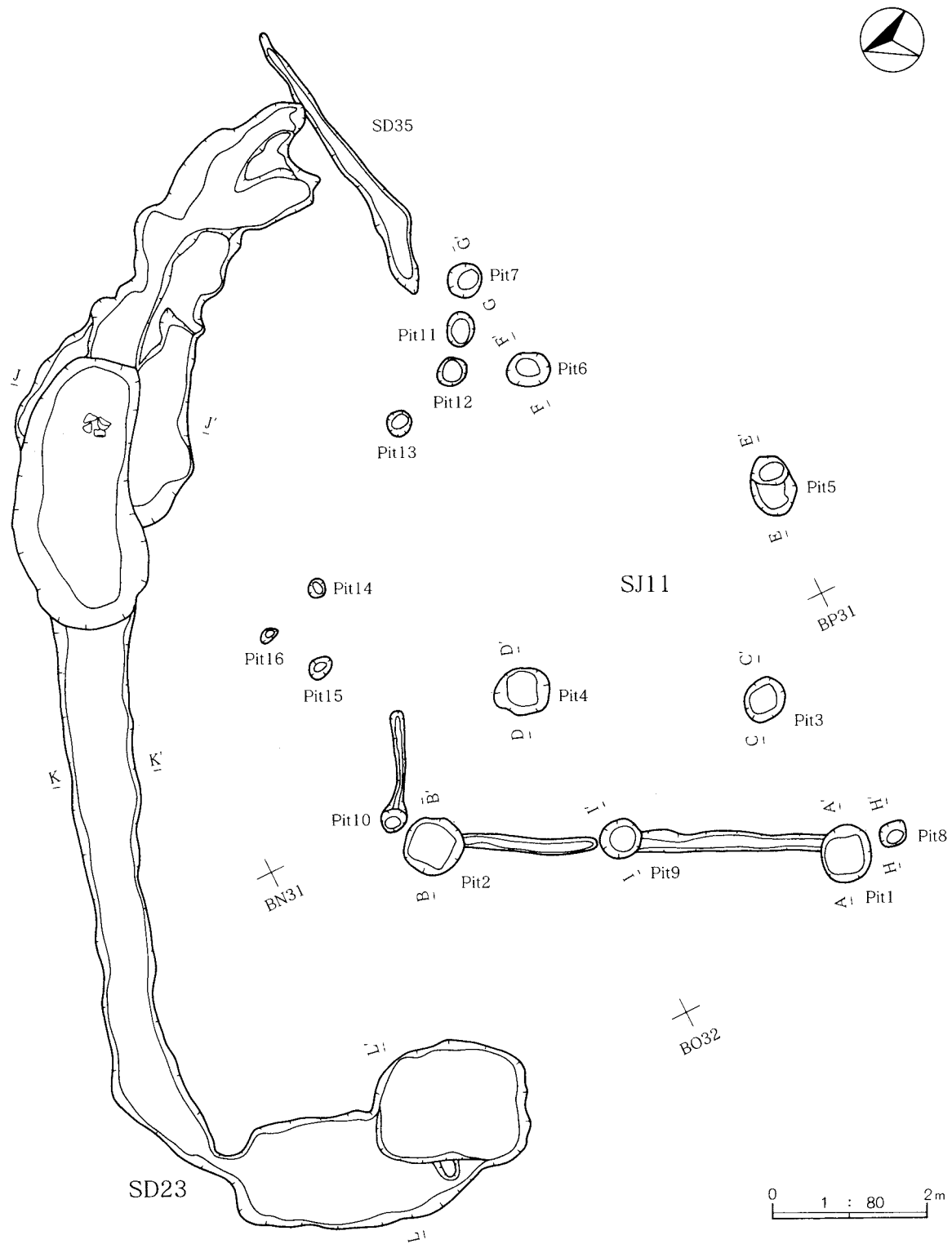
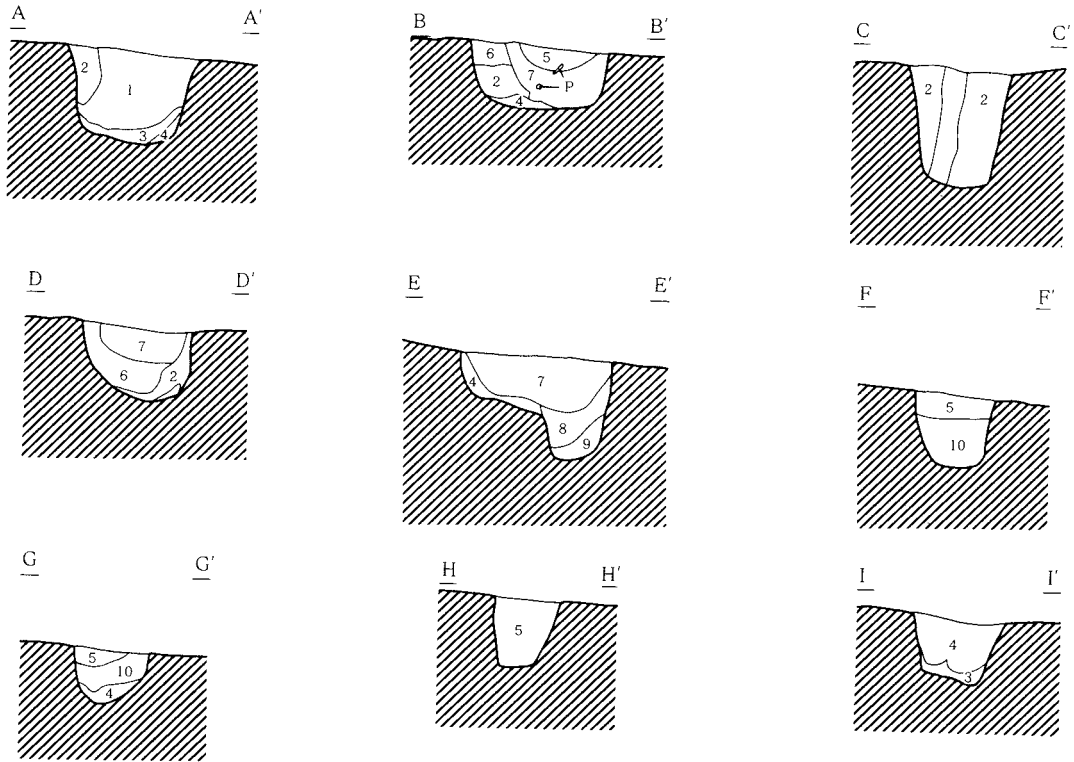


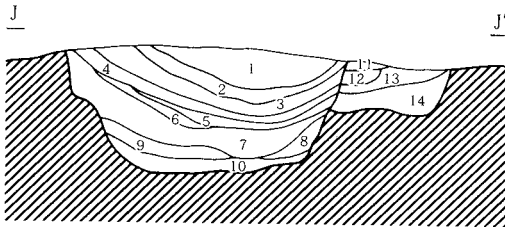
图52 第11号建物跡





SJ11

1層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム粒5%・炭化物粒1%混入
2層	にぶい黄褐色ローム主体	10YR6/4	黒色土10%・ロームがブロック状に混入、堅い
3層	黄褐色ローム主体	10YR5/6	黒色土20%・粘土10%混入
4層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム粒3%混入
5層	黒色土主体	10YR2/1	ローム粒5%混入、乾き易くもろい
6層	にぶい黄褐色土主体	10YR5/4	ローム粒30%混入
7層	にぶい黄褐色土主体	10YR5/4	ローム粒50%混入
8層	暗褐色土主体	10YR3/4	ローム粒5%混入
9層	褐色土主体	10YR4/4	ローム粒20%混入
10層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒10%混入



SD23

1層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム中粒5%・火山灰3%・焼土粒2%混入
2層	黒褐色土主体	10YR2/3	焼土大粒10%・粘土大塊混入
3層	褐色土主体	10YR4/6	黒色土20%・焼土大粒4%・火山灰20%・粘土大塊混入
4層	黒褐色土主体	10YR3/1	ローム粒5%・焼土大粒10%混入
5層	にぶい黄褐色火山灰主体	10YR7/4	黒褐色土(10YR3/1)30%混入
6層	褐色土主体	10YR4/4	火山灰15%・焼土ブロック混入
7層	黒色土主体	10YR2/1	焼土大塊1%混入
8層	黒色土主体	10YR2/1	焼土大塊5%・粘土層が綿状に混入
9層	黒褐色土主体	10YR2/2	にぶい黄褐色土(10YR6/4)15%・灰黄褐色土(10YR6/2)15%・焼土大粒5%混入
10層	黒色土主体	10YR2/1	ローム粒5%混入
11層	灰白色粘土主体	10YR2/1	黒色土20%・焼土大粒5%混入
12層	暗褐色土主体	10YR3/4	焼土中塊10%斑状に含む
13層	黒色土主体	10YR2/1	ローム中粒3%混入
14層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム大粒10%・ローム大塊2%・焼土粒3%混入
15層	黒色土主体	10YR2/1	灰黄褐色土(10YR6/2)10%混入
16層	にぶい黄褐色土主体	10YR6/3	黒色土5%混入
17層	黄褐色火山灰主体	10YR 8/6	
18層	暗褐色土主体	10YR3/4	火山灰10%・ローム粒10%混入
19層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム粒15%混入
20層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒1%混入
21層	褐色土主体	10YR4/4	ローム大塊30%混入
22層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒5%混入

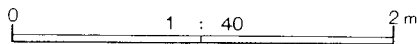
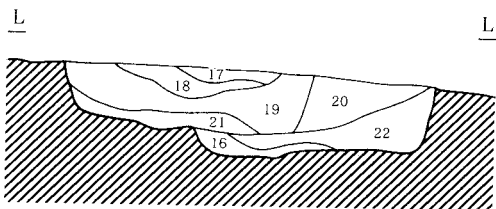
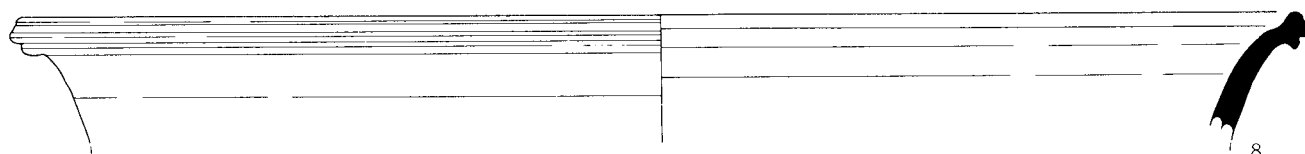
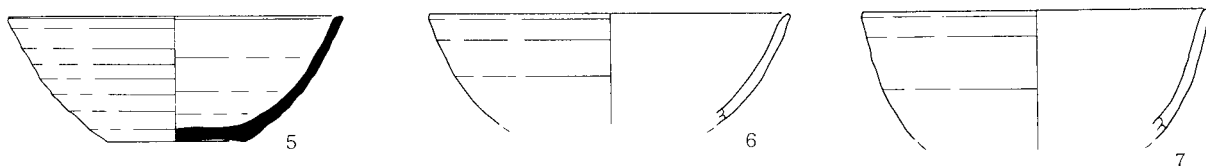
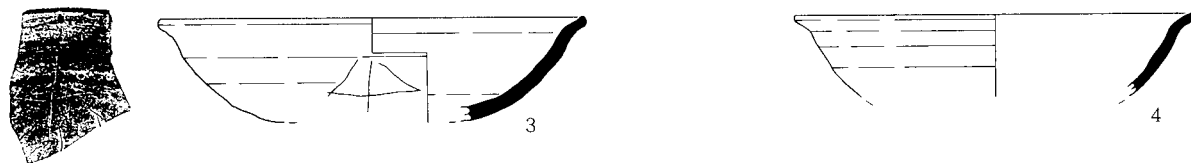


図53 第11号建物跡 (SJ11・SD23断面)



SJ11  
SD23



0 1 3 10cm

图54 第11号建物跡出土遺物 (SJ11・SD23部分)

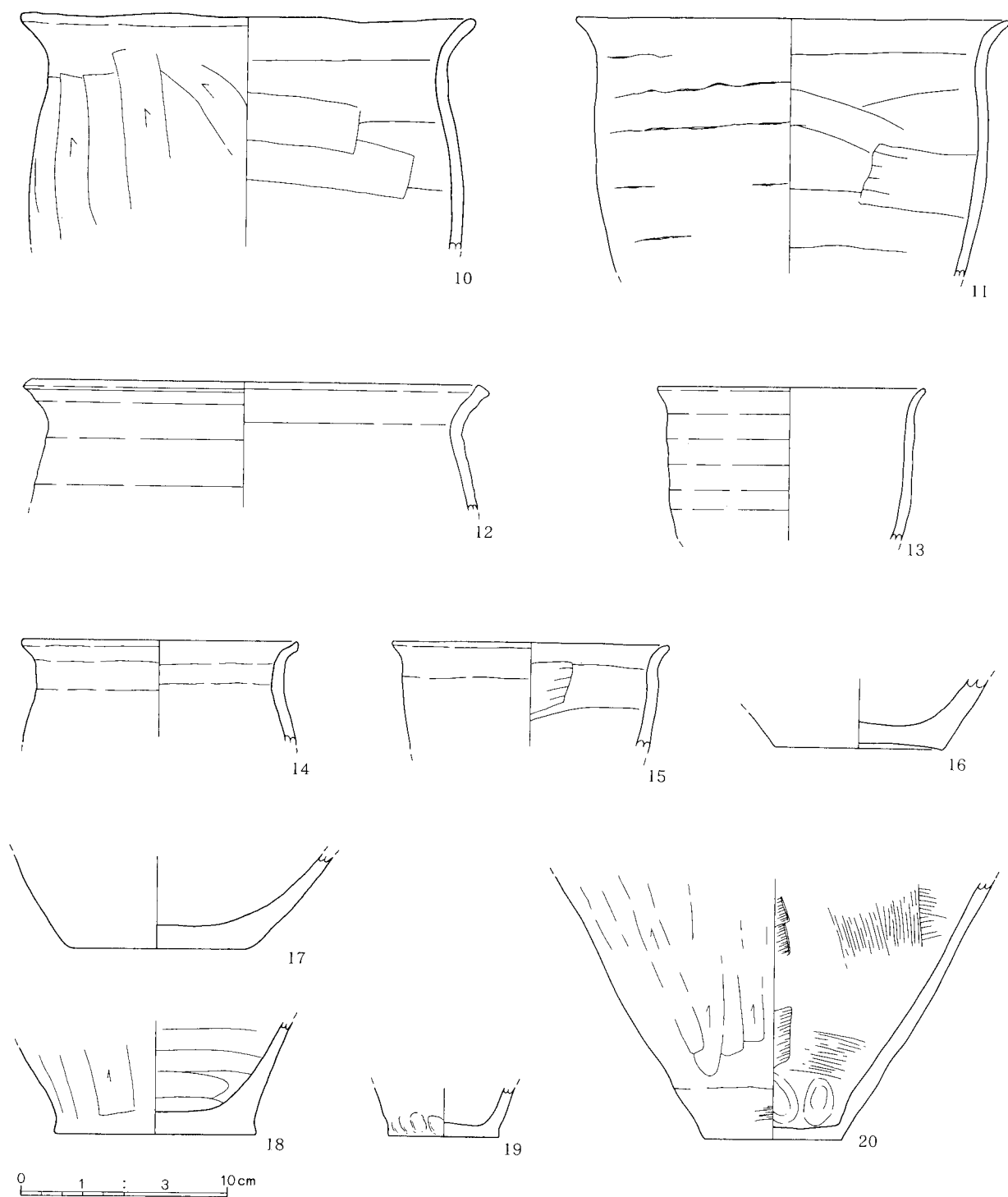


图55 第11号建物跡出土遺物 (SD23部分)

## 第12号建物跡

〔概要〕 第12号竪穴住居跡（S J12）、第7号掘立柱建物跡（S B7）第21号溝跡（S D21）で構成される。

〔位置・確認〕 B K-20~21、B L-19~22、B M-19~22、B N-19~22の各グリッドに位置している。主軸方向は北から112度東である。

〔重複〕 第10号建物跡の外周溝と重複するが、本建物跡の方が新しい。第30号、31号土坑とも重複するが、新旧関係は不明である。

〔出土遺物〕 S D21部分の覆土を中心に土師器坏、甕、須恵器甕片等が出土している。

### 竪穴住居跡部分（S J12）

〔平面形・規模〕 東側が削平されているため、全体像は不明確であるが、西辺から推定すると一辺約5.2m程度の方形になるものと思われる。

〔壁・床〕 床面、壁面ともに遺存状態は非常に悪い。

〔壁溝〕 西辺全てと北辺及び南辺の一部で確認されている。

〔柱穴・ピット〕 各々の柱穴の規模は、Pit1-径50cm・深さ20cm、Pit2-径26cm・深さ28cm、Pit3-径20cm・深さ23cm、Pit4-径25cm・深さ32cm、Pit5-径40cm・深さ48cm、Pit6-径25cm・深さ30cm、Pit7-径45×34cm・深さ20cm、Pit8-径40cm・深さ20cm、Pit9-径40×30cm・深さ24cmである。

〔カマド〕 確認されなかった。

〔堆積土〕 確認できた堆積土は掘り方のものと思われる。

### 掘立柱建物跡部分（S B7）

〔規模〕 5.0×3.8mのほぼ長方形である。底面が焼けている第31号土坑は本建物跡に伴う施設である可能性も考えられるが、新旧関係は不明確である。

〔柱穴〕 それぞれの柱穴の規模はPit1-径40cm・深さ15cm、Pit2-径45×34cm・深さ34cm、Pit3-径50×38cm・深さ18cm、Pit4-径40×34cm・深さ15cm、Pit5-径60×50cm・深さ10cmである。

〔柱間寸法〕 長軸方向は約2.2mと2.4m、短軸方向は約3.6mである。

### 外周溝（S D21）

〔形態・規模〕 建物全体を囲むように巡っているが、S B7部分の東端部で開口している。

〔壁・底面〕 底面及び壁の立ち上がりは一様でなく、深さも場所により異なる。

〔堆積土〕 人為堆積を主体とするようであるが、自然堆積も挟在する。

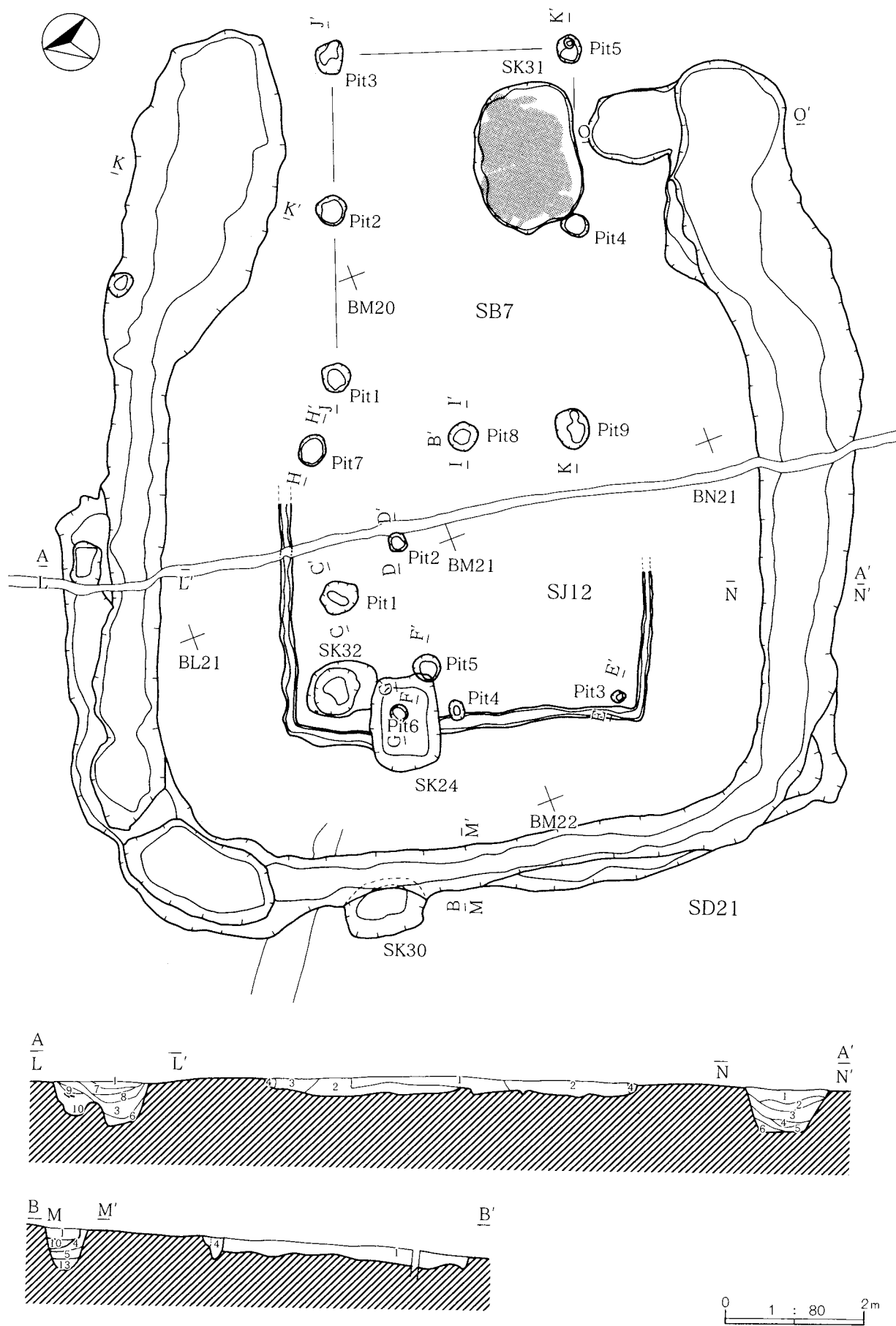
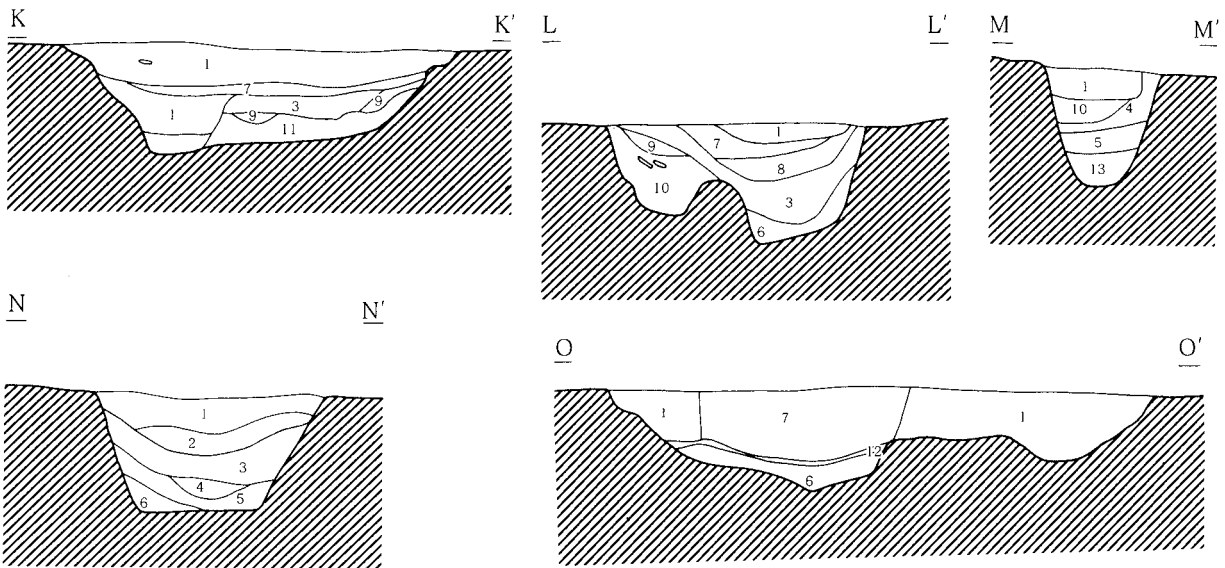
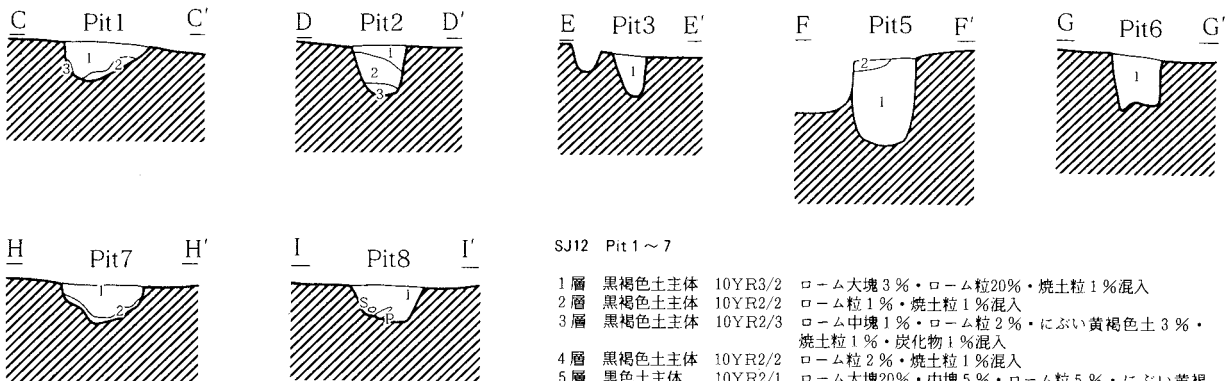


图56 第12号建物跡



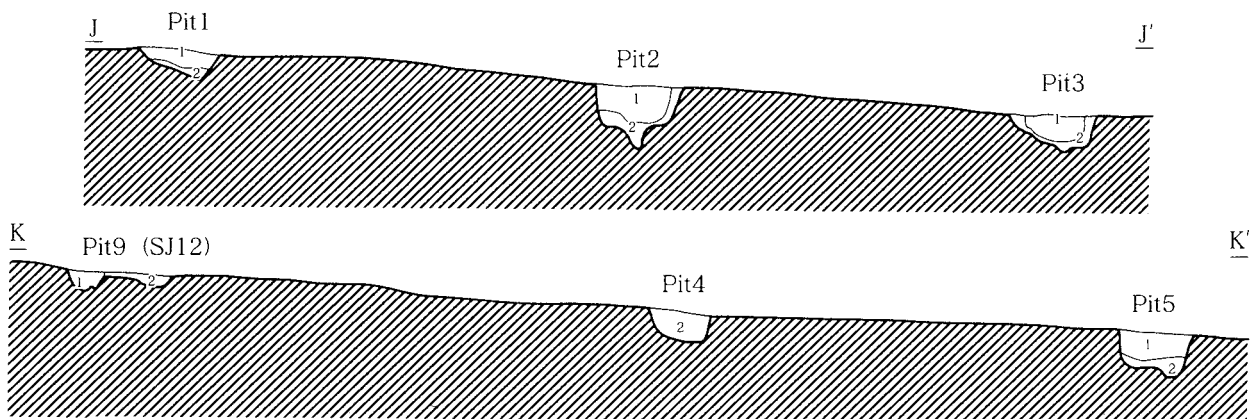
SJ12・SD21

- |                    |                        |                     |                                |
|--------------------|------------------------|---------------------|--------------------------------|
| 1層 黒褐色土主体 10YR2/2  | ローム中塊15%・大塊5%・焼土3%混入   | 8層 暗褐色土主体 10YR3/4   | ローム大塊30%・焼土1%・黒褐色土5%・炭化物2%混入   |
| 2層 焼土主体            | 黒色土5%混入                | 9層 黒褐色土主体 10YR3/2   | ローム粒5%・焼土1%・炭化物2%混入            |
| 3層 黒色土主体 10YR2/1   | ローム小塊10%・ローム粒5%・焼土2%混入 | 10層 黒色土主体 10YR1.7/1 | ローム粒2%・焼土3%混入                  |
| 4層 黒色土主体 10YR1.7/1 | 暗褐色砂20%・ローム粒3%混入       | 11層 褐色土主体 10YR4/6   | ローム大塊15%・ローム中塊10%・小塊5%・黒色土5%混入 |
| 5層 黒色土主体 10YR2/1   | 明黄褐色粘土20%・焼土1%混入       | 12層 腐葉土綿状に狭在        |                                |
| 6層 黒褐色土主体 10YR2/3  | 黄褐色粘土30%・焼土1%混入        | 13層 明黄褐色土主体 10YR7/6 | 黒色土20%混入                       |
| 7層 黒褐色土主体 10YR3/1  | ローム粒5%・焼土粒3%・炭化粒1%混入   |                     |                                |



SJ12 Pit 1～7

- |                   |  |
|-------------------|--|
| 1層 黒褐色土主体 10YR3/2 | ローム大塊3%・ローム粒20%・焼土粒1%混入                |
| 2層 黒褐色土主体 10YR2/2 | ローム粒1%・焼土粒1%混入                         |
| 3層 黒褐色土主体 10YR2/3 | ローム中塊1%・ローム粒2%・にぶい黄褐色土3%・焼土粒1%・炭化物1%混入 |
| 4層 黒褐色土主体 10YR2/2 | ローム粒2%・焼土粒1%混入                         |
| 5層 黒色土主体 10YR2/1  | ローム大塊20%・中塊5%・ローム粒5%・にぶい黄褐色土20%混入      |



SB 7

- |                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 | ローム小塊20%・中塊15%・大塊15%斑状に含む |
| 2層 黄褐色土主体 10YR5/6 | 暗褐色土10%・黒褐色土10%混入         |
| 3層 暗褐色土主体 10YR3/4 | 焼土ブロック3%・炭化物2%混入          |

図57 第12号建物跡 (SJ12・SB 7・SD21)

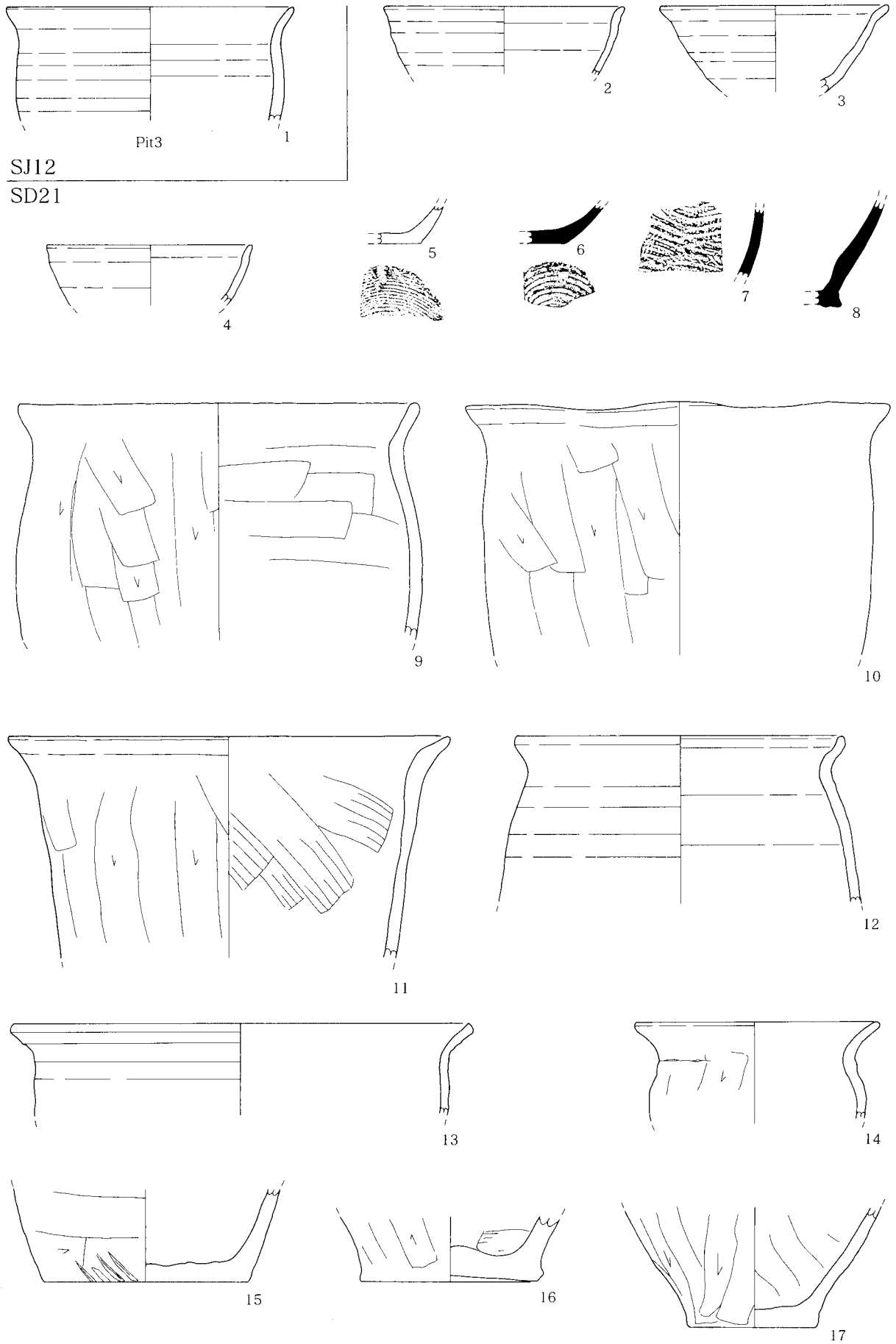


图58 第12号建物跡出土遺物 (SJ12・SD21部分)

### 第13号建物跡

〔概要〕 第13号竪穴住居跡（S J13）、第8号掘立柱建物跡（S B 8）、第26号溝跡（S D26）で構成される。

〔位置・確認〕 B Q-20、B R-20、B S-16~20、B T-16~20、B U-18~20の各グリッドに位置している。主軸方向は北から123度東である。

〔重複〕 第36号溝跡と重複するが、本溝跡の方が古い。

〔出土遺物〕 第26号溝跡の覆土を中心に土師器、須恵器の坏、甕や土製品が出土している。

#### 竪穴住居跡部分（S J13）

〔平面形・規模〕 一辺約4.8mのほぼ方形である。

〔壁・床〕 削平を受けているため遺存状態は良くない。特に壁の立ち上がりは不明確である。

〔壁溝〕 南辺では確認できなかったがそれ以外は全周に巡っている。

〔柱穴・ピット〕 柱穴は住居の各辺の両端と中央に確認されている。各々の柱穴の規模は、Pit1-径30cm・深さ36cm、Pit2-径25×15cm・深さ20cm、Pit3-径20×24cm・深さ16cm、Pit4-径30cm・深さ34cm、Pit5-径35cm・深さ34cm、Pit6-径30×25cm・深さ44cm、Pit7-径25cm・深さ44cm、Pit8-径20cm・深さ40cm、Pit9-径30×25cm・深さ42cm、Pit10-径60cm・深さ42cmである。

〔カマド〕 確認されなかった。削平されたものと思われる。

〔堆積土〕 確認できた堆積土は掘り方のものと思われる。

#### 掘立柱建物跡部分（S B 8）

〔規模〕 5.6×4.6mのほぼ長方形である。

〔柱穴〕 それぞれの柱穴の規模はPit1-径50cm・深さ55cm、Pit2-径50×40cm・深さ60cm、Pit3-径60×40cm・深さ50cm、Pit4-径40cm・深さ35cm、Pit5-径45cm・深さ55cm、Pit6-径45×35cm・深さ45cm、Pit7-径56×44cm・深さ15cm、Pit8-径50×36cm・深さ25cmである。

〔柱間寸法〕 長軸方向は約2.5mまたは2.8m、短軸方向は約4.2mである。

#### 外周溝（S D26）

〔形態・規模〕 竪穴住居跡部分西側を囲むように巡っている。

〔壁・底面〕 底面は比較的平坦で壁はそこから外傾しながら立ち上がるが、深さは一様ではない。

〔堆積土〕 人為堆積部分と自然堆積部分がある。



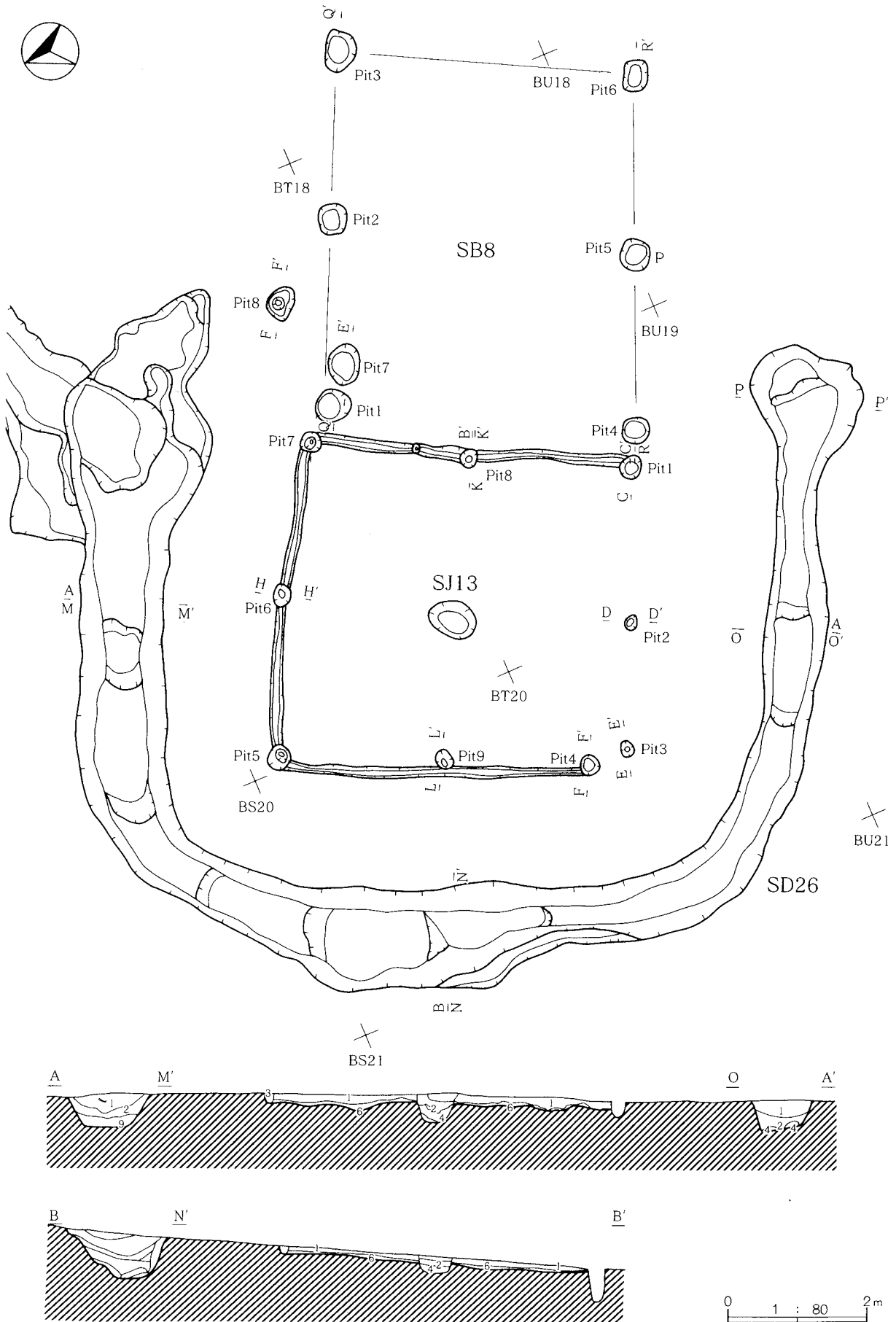


图59 第13号建物跡

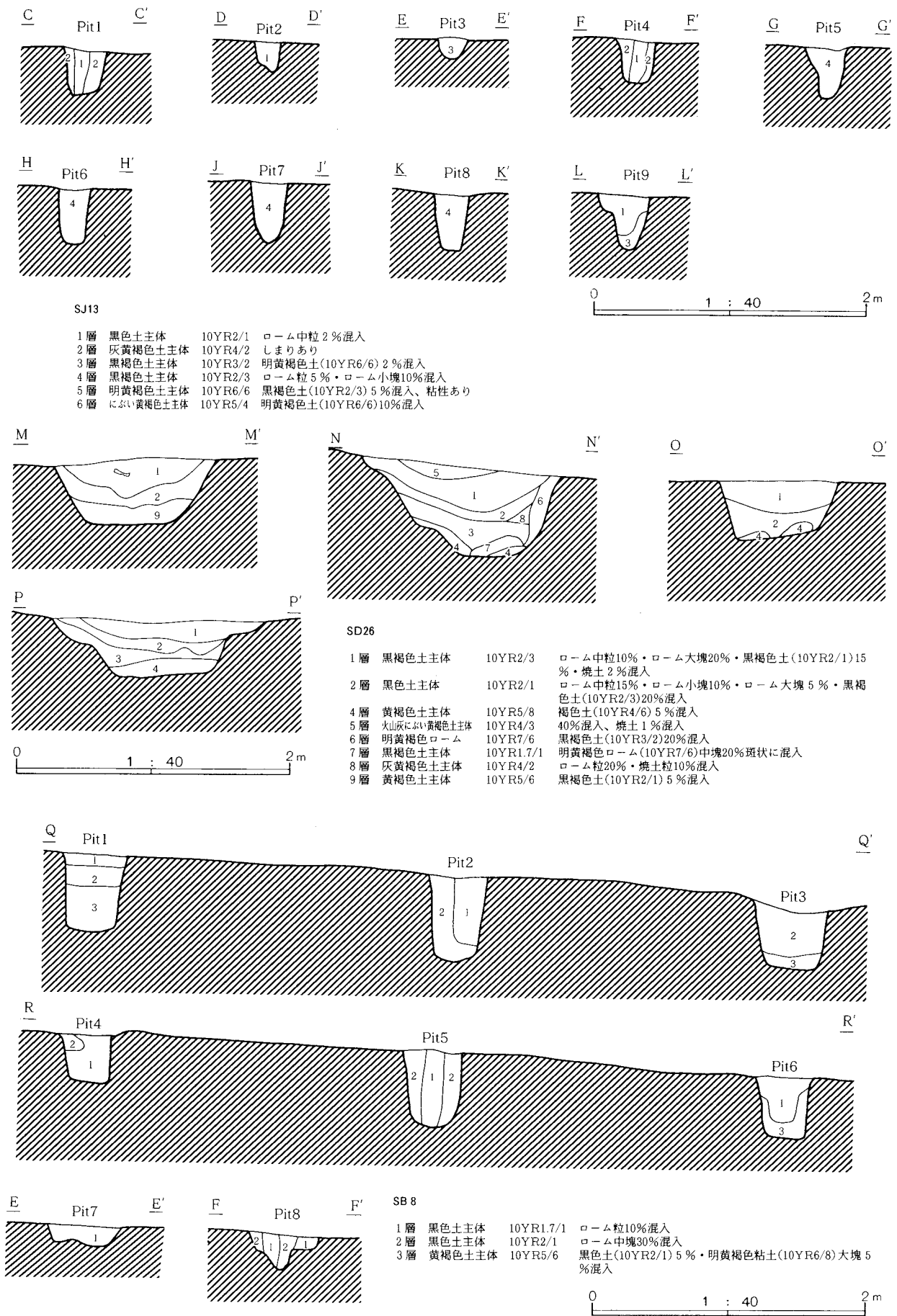


図60 第13号建物跡 (SJ13・SD26・SB8断面)

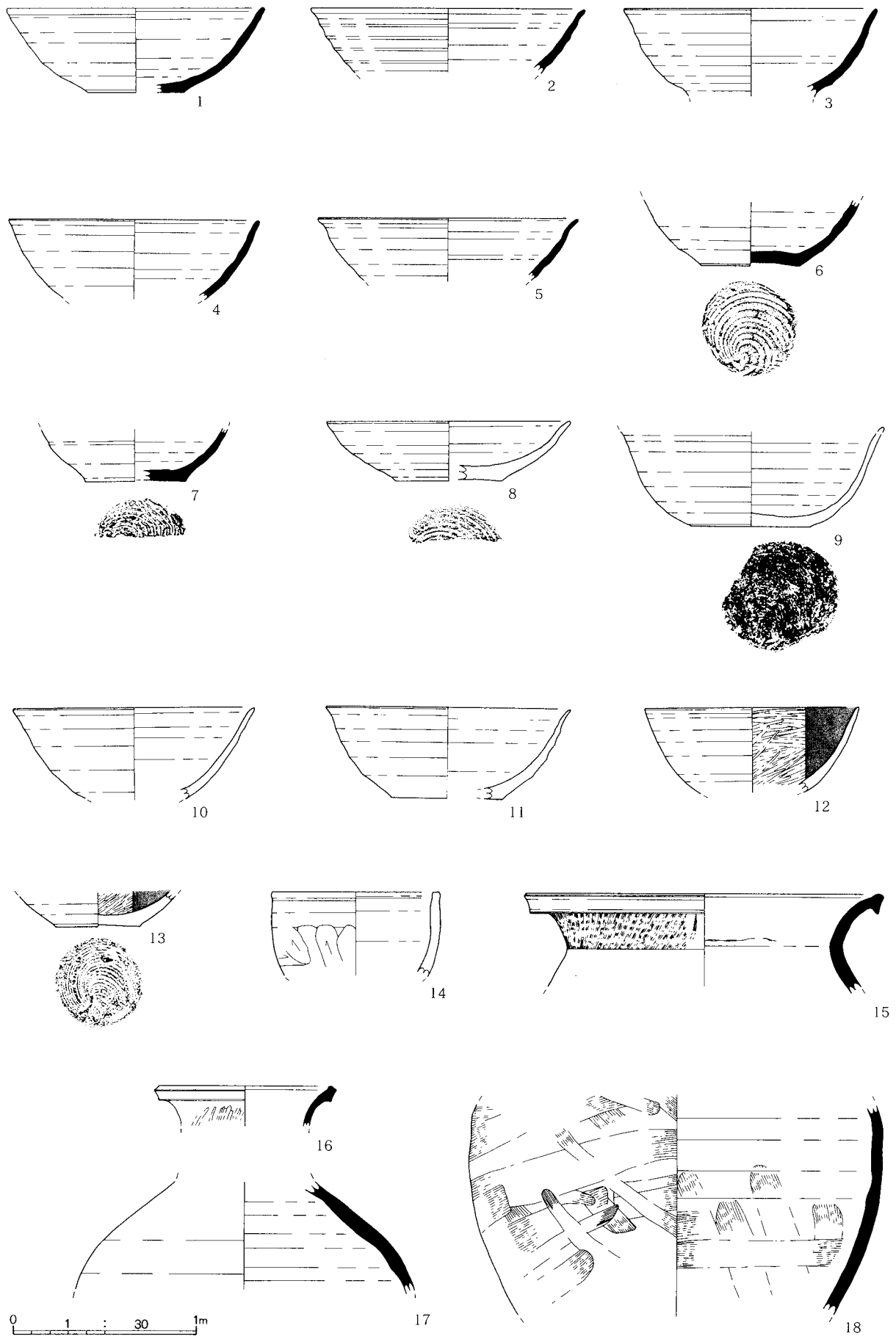


図61 第13号建物跡出土遺物 (SD26部分その1)

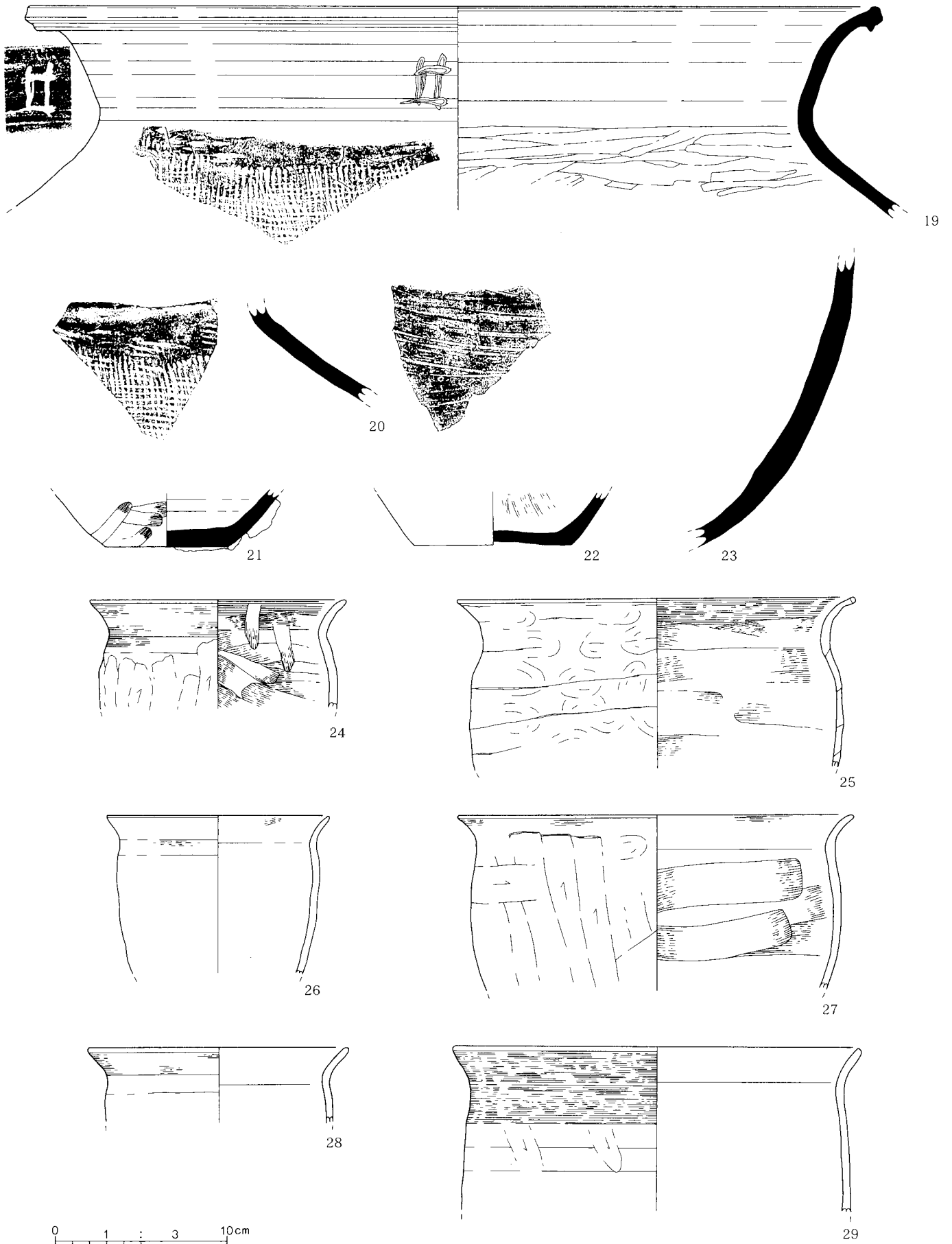


図62 第13号建物跡出土遺物 (SD26部分その2)

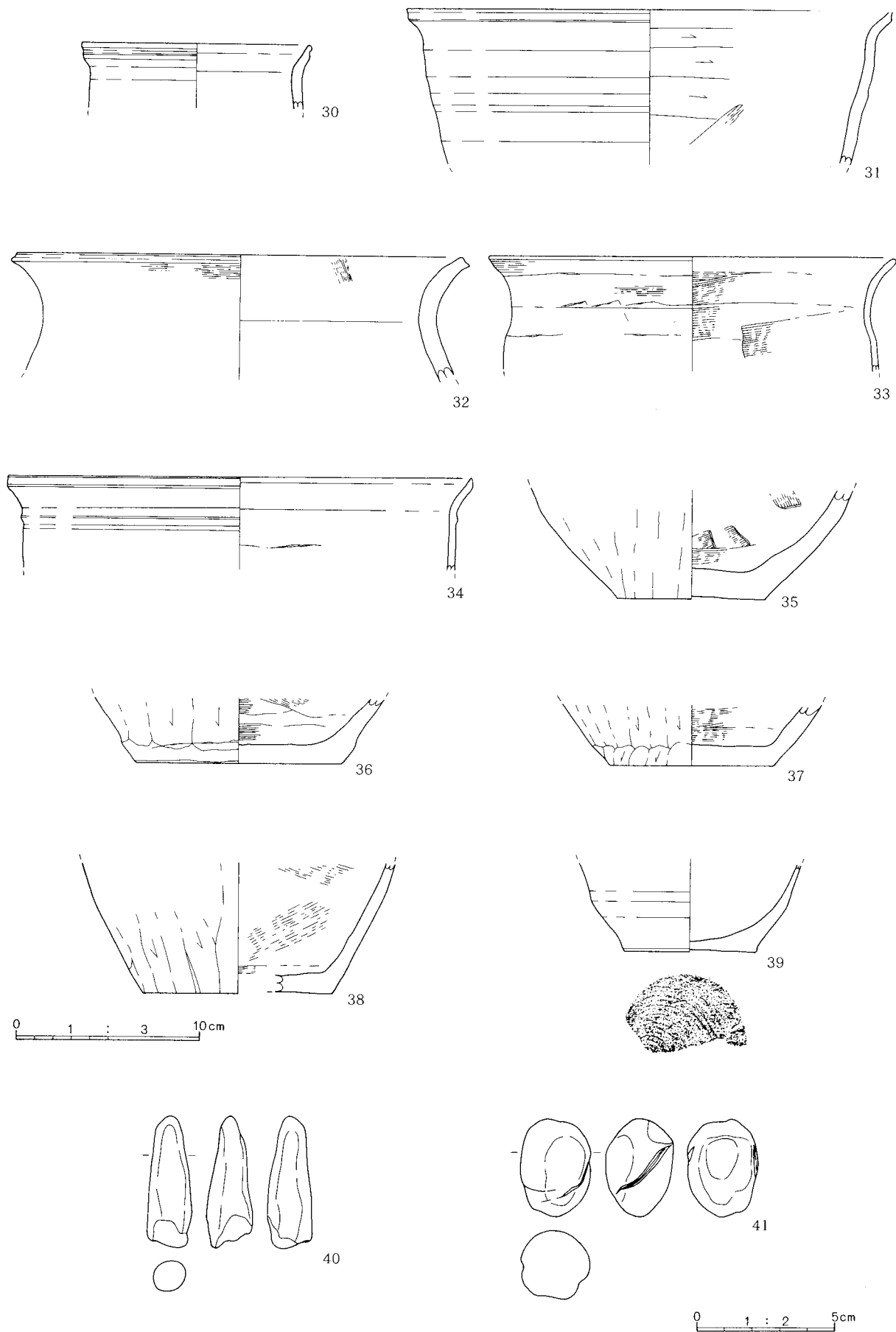


図63 第13号建物跡出土遺物 (SD26部分その3)

## 第14号建物跡

〔概要〕 第14号竪穴住居跡（S J14）、第13号掘立柱建物跡（S B13）、第27号溝跡（S D27）で構成される。

〔位置・確認〕 B O-18~19、B P-18~20、B Q-16~20、B R-17~19の各グリッドに位置している。主軸方向は北から128度東である。

〔重複〕 なし

〔出土遺物〕 S D27部分の覆土中から土師器、須恵器の坏、甕等が出土している。

### 竪穴住居跡部分（S J14）

〔平面形・規模〕 4.0~4.6×4.6~5.4m程度のいびつな長方形である。

〔壁・床〕 削平のため遺存状態は非常に悪い。壁の立ち上がりも不明確である。

〔壁溝〕 断続的ではあるがほぼ全周に巡っている。

〔柱穴・ピット〕 小穴はあるものの柱穴は不明確である。各々の小穴の規模は、Pit1-径20cm・深さ28cm、Pit2-径35×30cm・深さ48cmである。

〔カマド〕 確認されなかった。

〔堆積土〕 確認できた堆積土は掘り方のものと思われる。

### 掘立柱建物跡部分（S B13）

〔規模〕 約5.0×4.0mの長方形である。

〔柱穴〕 それぞれの柱穴の規模はPit1-径42×30cm・深さ42cm、Pit2-径30×18cm・深さ74cm、Pit3-径30cm・深さ40cm、Pit4-径45×40cm・深さ20cm、Pit5-径44×35cm・深さ20cm、Pit6-径20cm・深さ65cm、Pit7-径24cm・深さ26cm、Pit8-径20cm・深さ18cm、Pit9-径40×15cm・深さ40cm、Pit10-径35×30cm・深さ40cmである。

〔柱間寸法〕 長軸方向は2.2~2.6m、短軸方向は約3.8mである。

### 外周溝（S D14）

〔形態・規模〕 竪穴住居跡部分の西側を囲むようにコの字状に巡る。

〔壁・底面〕 M断面やN断面の状況から、一旦溝を埋め戻した後、少しずれてほぼ同じようなところを再び掘り返した可能性が考えられる。

〔関連土坑〕 なし。

〔堆積土〕 人為堆積を主体とするようであるが、自然堆積も挟在する。

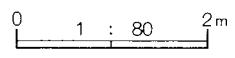
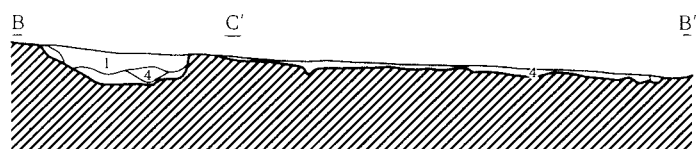
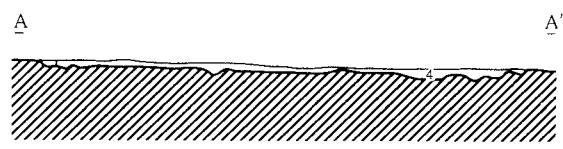
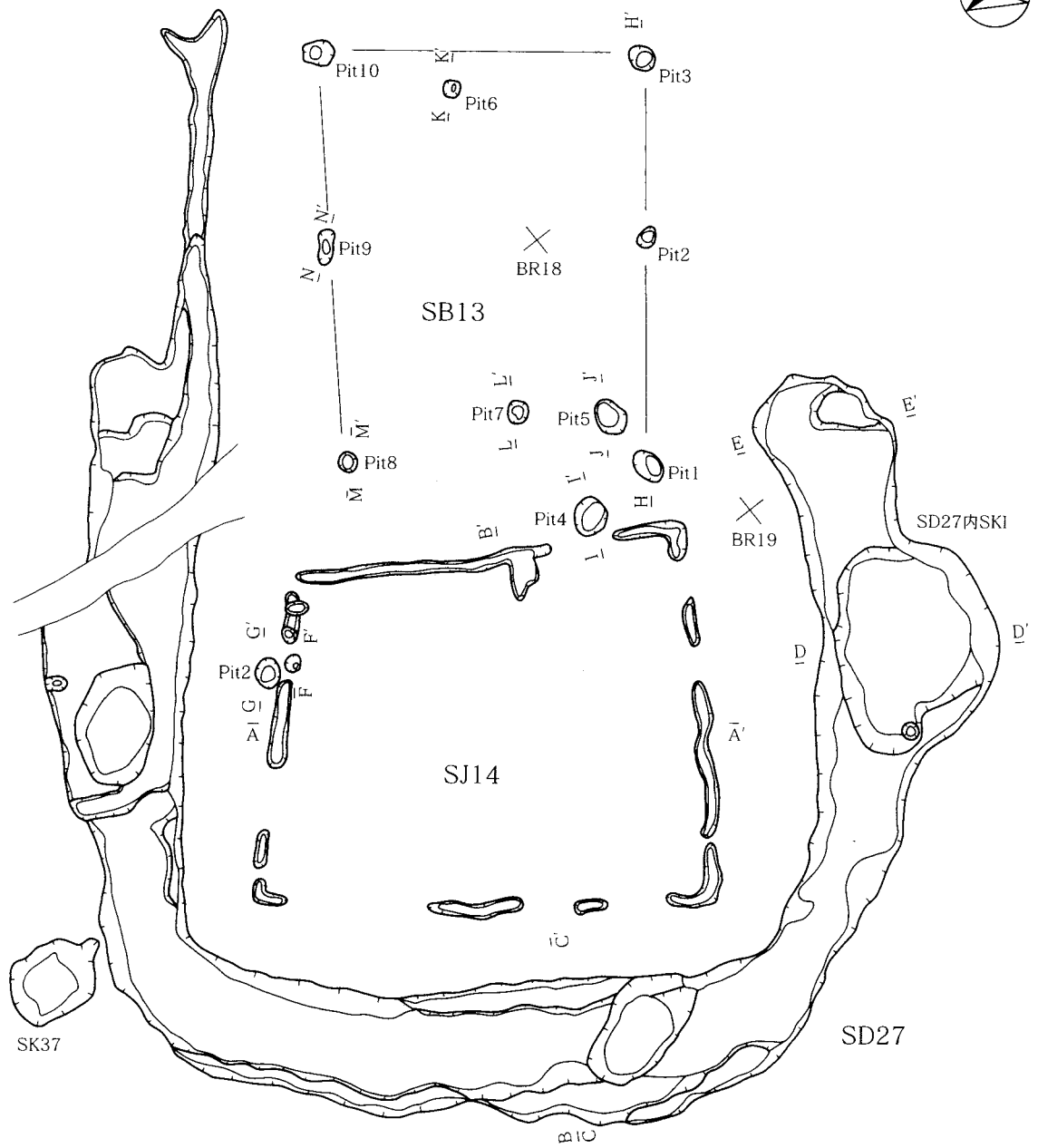


图64 第14号建物跡

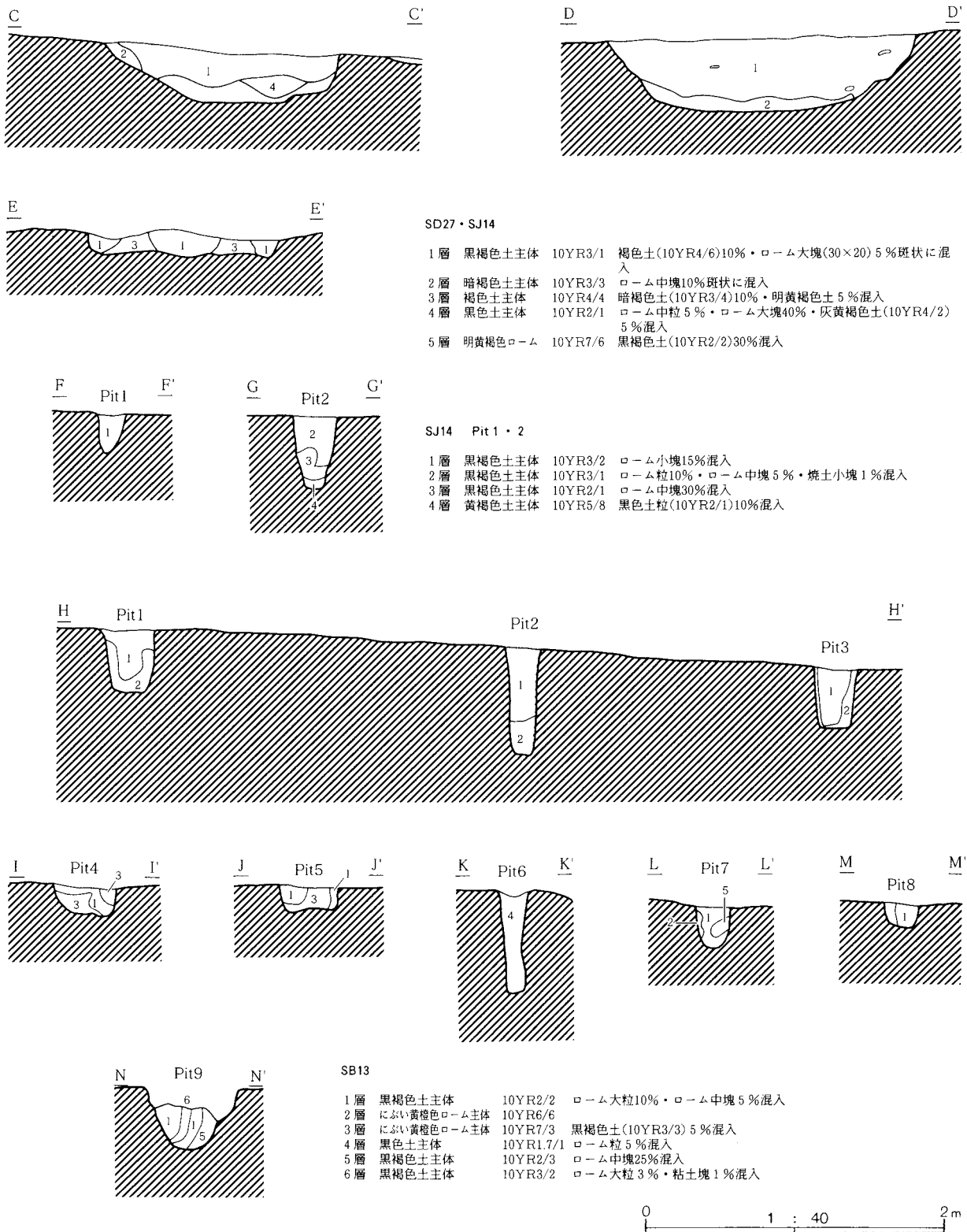


図65 第14号建物跡 (SB13・SD27断面)



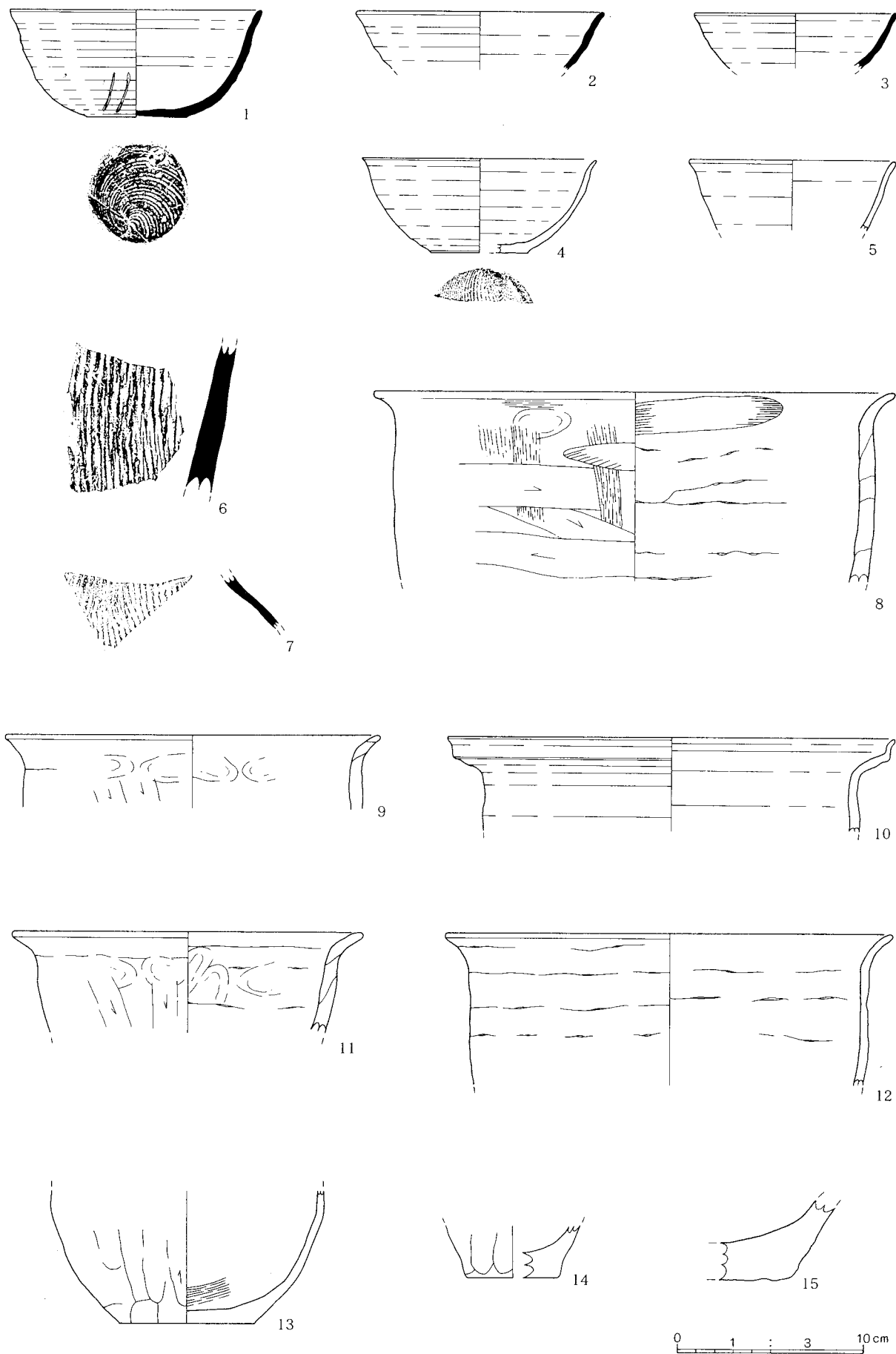


图66 第14号建物跡出土遺物 (SD27部分)

### 第15号建物跡

[概要] 第15号竪穴住居跡（S J15）、第9号掘立柱建物跡（S B 9）、第28号溝跡（S D28）で構成される。

[位置・確認] B O-14~17、B P-14~17、B Q-14~16の各グリッドに位置している。主軸方向は北から122度東である。

[重複] 第16号建物跡及び第32号溝跡と重複している。両者より本建物跡の方が古い。

[出土遺物] S D28部分から須恵器、土師器の皿、坏、甕の破片やミニチュア土器等が出土している。

#### 竪穴住居跡部分（S J15）

[平面形・規模] 約4.2×4.6mのややいびつな長方形である。

[壁・床] 遺存状態が悪く、壁の立ち上がりもほとんど確認できない。

[壁溝] 北壁以外で断続的に確認されているが、本来全周を巡っていた可能性が考えられる。

[柱穴・ピット] 各々の柱穴の規模は、Pit1-径25×20cm・深さ28cm、Pit2-径40×35cm・深さ16cm、Pit3-径18cm・深さ16cm、Pit4-径20cm・深さ16cm、Pit5-径26cm・深さ38cm、Pit6-径26×20cm・深さ10cm、Pit7-径20cm・深さ16cm、Pit8-径20cm・深さ22cm、Pit9-径28cm・深さ26cmである。

[カマド] 確認されていない。

[堆積土] 確認できたのは掘り方部分と思われる。

#### 掘立柱建物跡部分（S B 9）

[規模] 約6.2×3.6mの長方形である。

[柱穴] それぞれの柱穴の規模はPit1-径42×38cm・深さ30cm、Pit2-径25cm・深さ30cm、Pit3-径30cm・深さ34cm、Pit4-径34×26cm・深さ60cm、Pit5-径25×20cm・深さ32cm、Pit6-径40×30cm・深さ20cm、Pit7-径25×20cm・深さ34cmである。

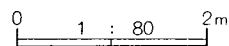
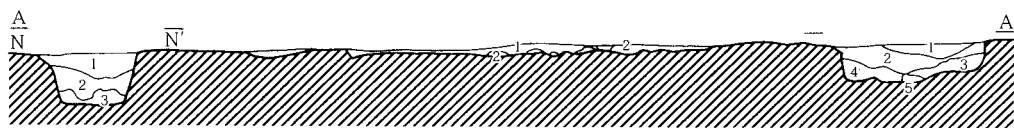
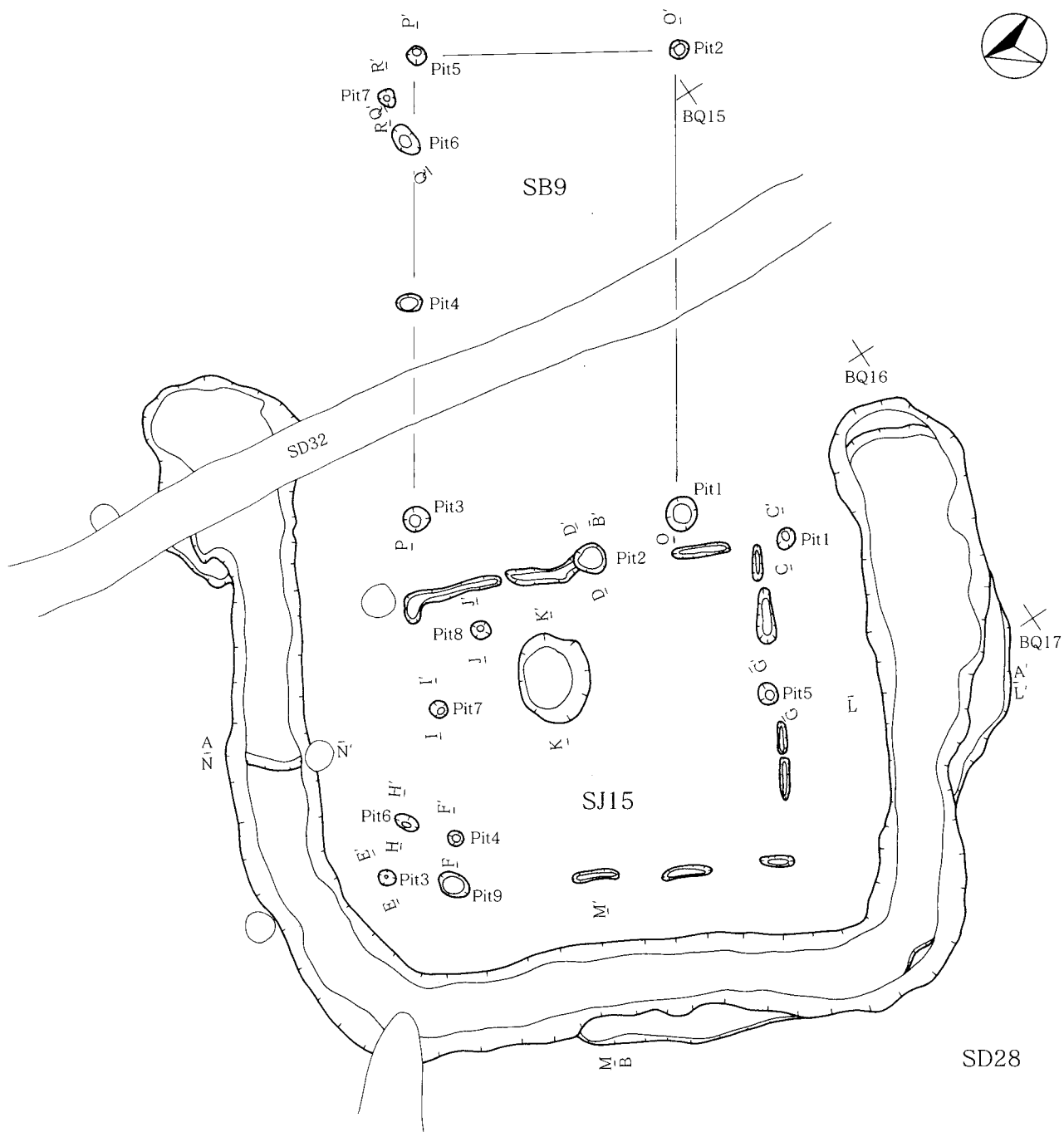
#### 外周溝（S D28）

[形態・規模] 竪穴住居跡部分の西側を囲むようにコの字状に巡る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。

[関連土坑] なし。

[堆積土] 人為堆積が主体であるが、自然堆積も挟在する。本溝跡より新しいと思われる第17号建物跡の外周溝で白頭山・苫小牧火山灰が確認されていることから、本建物跡も同火山灰降下以前の構築と類推される。



SJ15

- |    |           |         |                            |
|----|-----------|---------|----------------------------|
| 1層 | にぶい黄橙色土主体 | 10YR5/3 | 焼土粒・浮石微量混入                 |
| 2層 | 黄褐色土主体    | 10YR5/6 | 焼土粒2%・黒褐色土(10YR3/1)5%均等に混入 |
| 3層 | 黒褐色土主体    | 10YR2/1 | (まわりに比べて、やわらかい)ローム小粒2%混入   |

図67 第15号建物跡

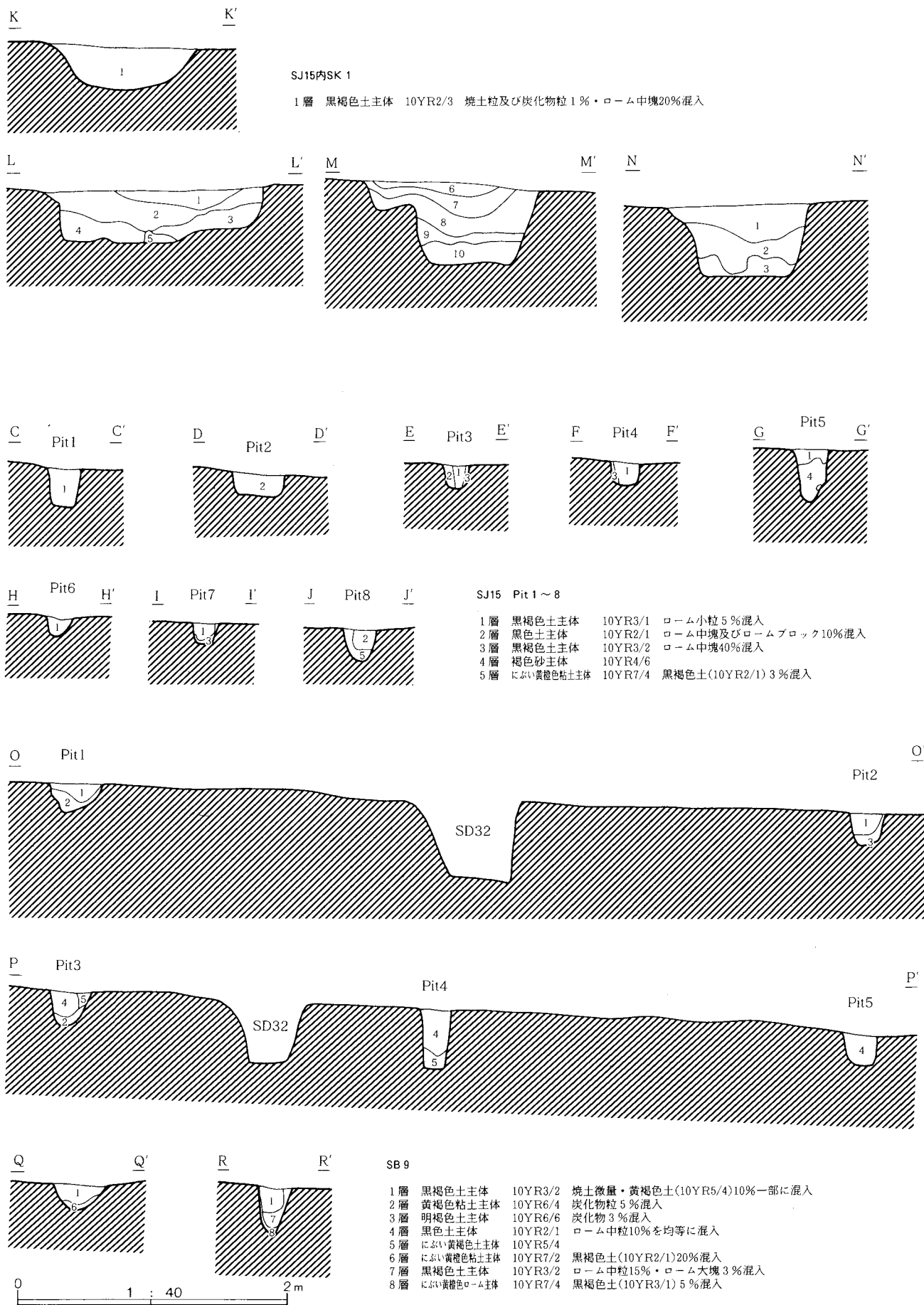


図68 第15号建物跡 (SJ15・SB9・SD28断面)

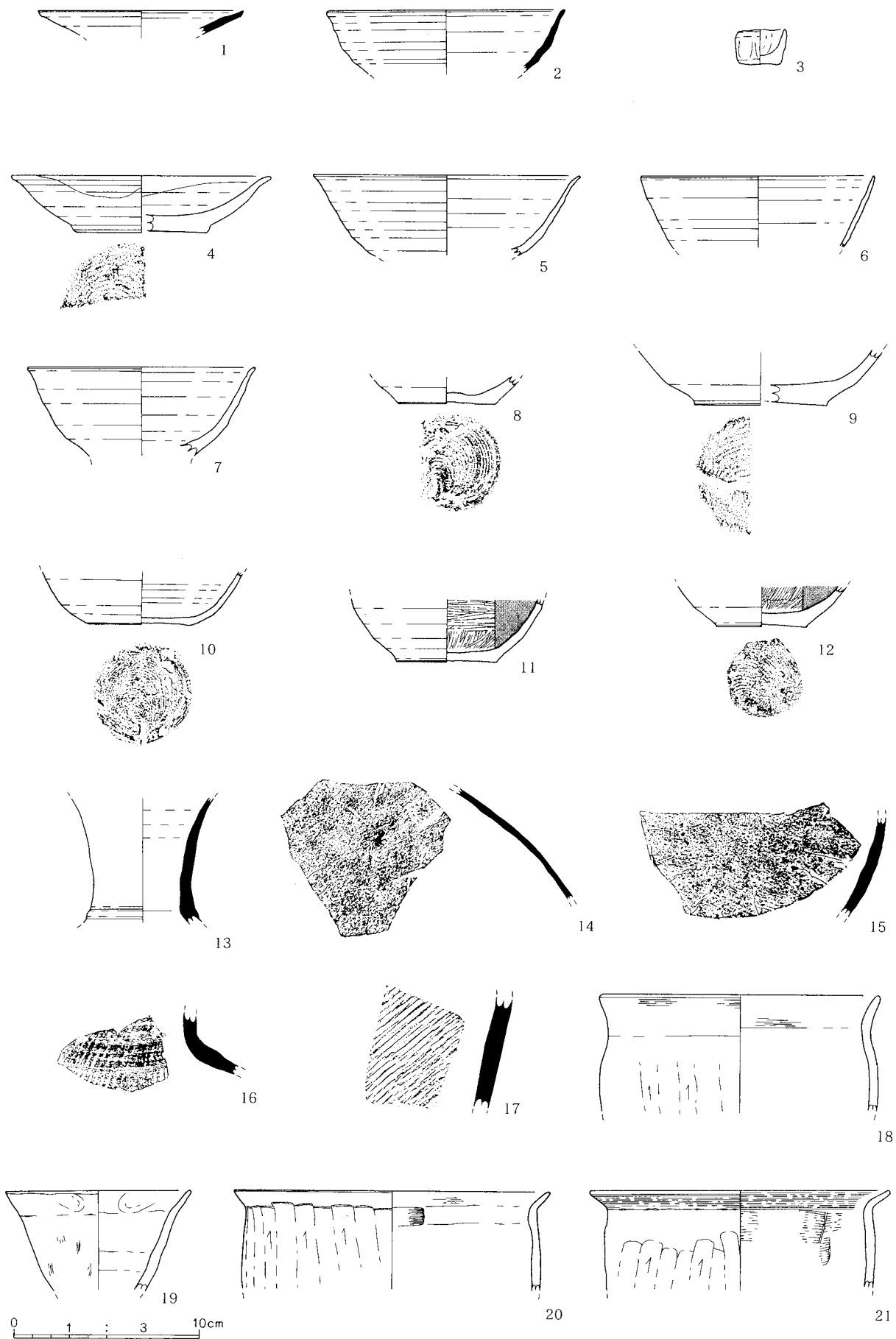


図69 第15号建物跡出土遺物 (SD28部分その1)

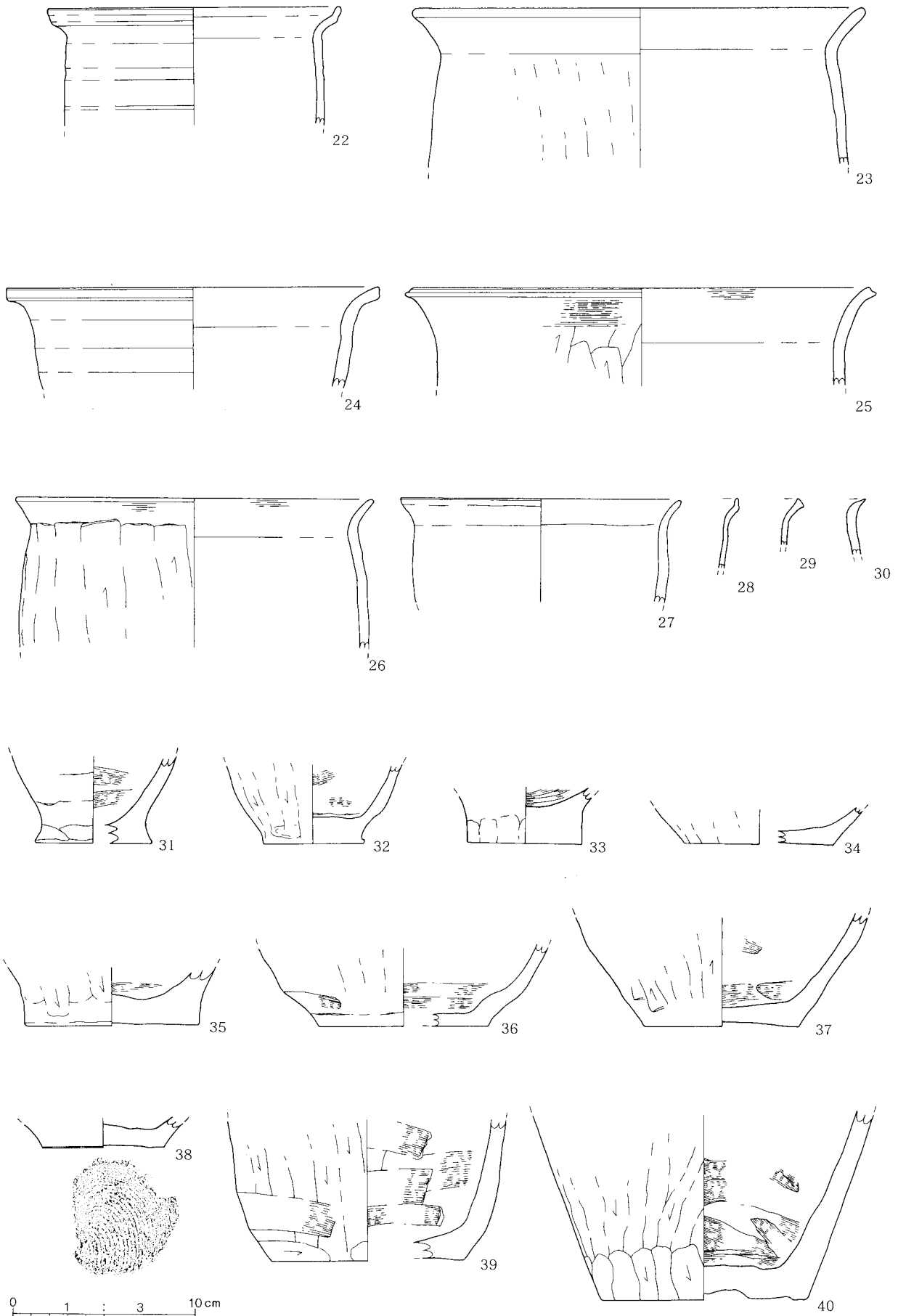


図70 第15号建物跡出土遺物 (SD28部分その2)

## 第16号建物跡

[概要] 第16号竪穴住居跡（S J 16）、第10号掘立柱建物跡（S B 10）、第29号溝跡（S D 29）で構成される。

[位置・確認] B L - 15 ~ 17、B M - 15 ~ 18、B N - 15 ~ 17の各グリッドに位置している。主軸方向は北から142度東である。

[重複] 第15号建物跡、第17号建物跡、第32号溝跡と重複している。本建物跡は第15号建物跡よりは新しく、第17号建物跡、第32号溝跡よりは古い。

[出土遺物] S D 29部分の覆土中から土師器坏、甕等の破片が出土している。

### 竪穴住居跡部分（S J 16）

[平面形・規模] 約4.4×4.6mのほぼ方形に近い平面形である。

[壁・床] 遺存状態は非常に悪く、壁はほとんど残っていない。

[壁溝] ほぼ全周を巡っている。

[柱穴・ピット] 各々の柱穴の規模は、Pit 1 - 径35×25cm・深さ20cm、Pit 2 - 径20×15cm・深さ6cm、Pit 3 - 径34×25cm・深さ30cmである。

[カマド] 確認されていない。削平されたものと思われる。

[堆積土] 確認できたのは掘り方部分と思われる。

### 掘立柱建物跡部分（S B 10）

[規模] 約4.8×4.0mの長方形である。

[柱穴] それぞれの柱穴の規模はPit 1 - 径44×35cm・深さ54cm、Pit 2 - 径40cm・深さ60cm、Pit 3 - 径44×38cm・深さ50cm、Pit 4 - 径38×34cm・深さ55cm、Pit 5 - 径40×35cm・深さ73cm、Pit 6 - 径30cm・深さ35cmである。

[柱間寸法] 長軸方向の柱間は約2.2m、短軸方向の柱間は東側で約3.8mである。

### 外周溝（S D 29）

[形態・規模] 竪穴住居跡部分の北側から西側にかけてを囲むようにコの字状に巡る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で壁は外傾しながら立ち上がる部分が多いが、場所によっては埋め戻した後掘り返したような痕跡も伺える。

[関連土坑] なし。

[堆積土] 人為堆積が主体であるが、自然堆積も挟在する。本溝跡より新しいと思われる第17号建物跡の外周溝で白頭山・苫小牧火山灰が確認されていることから、本建物跡も同火山灰降下以前の構築と類推される。

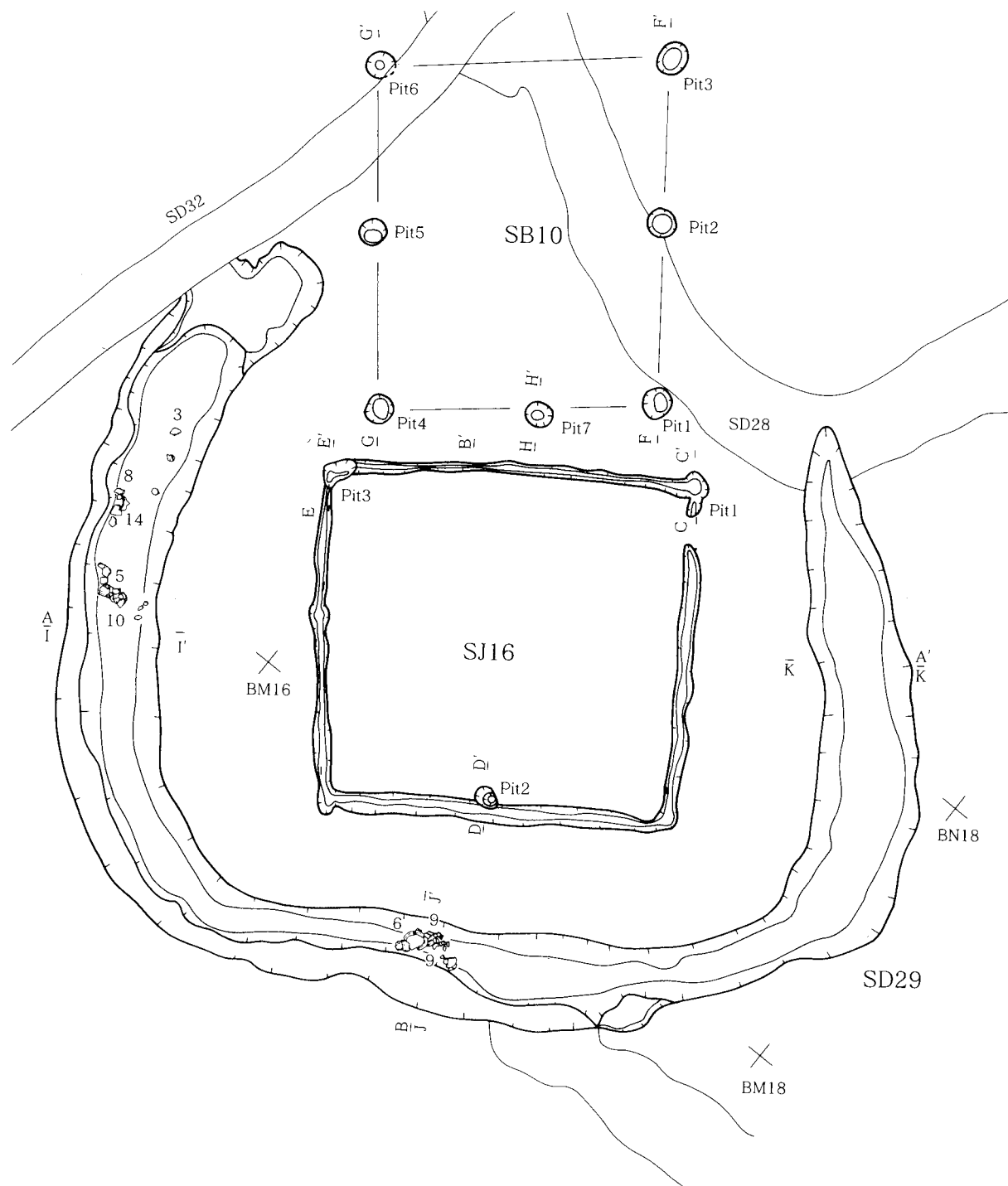


图71 第16号建物跡



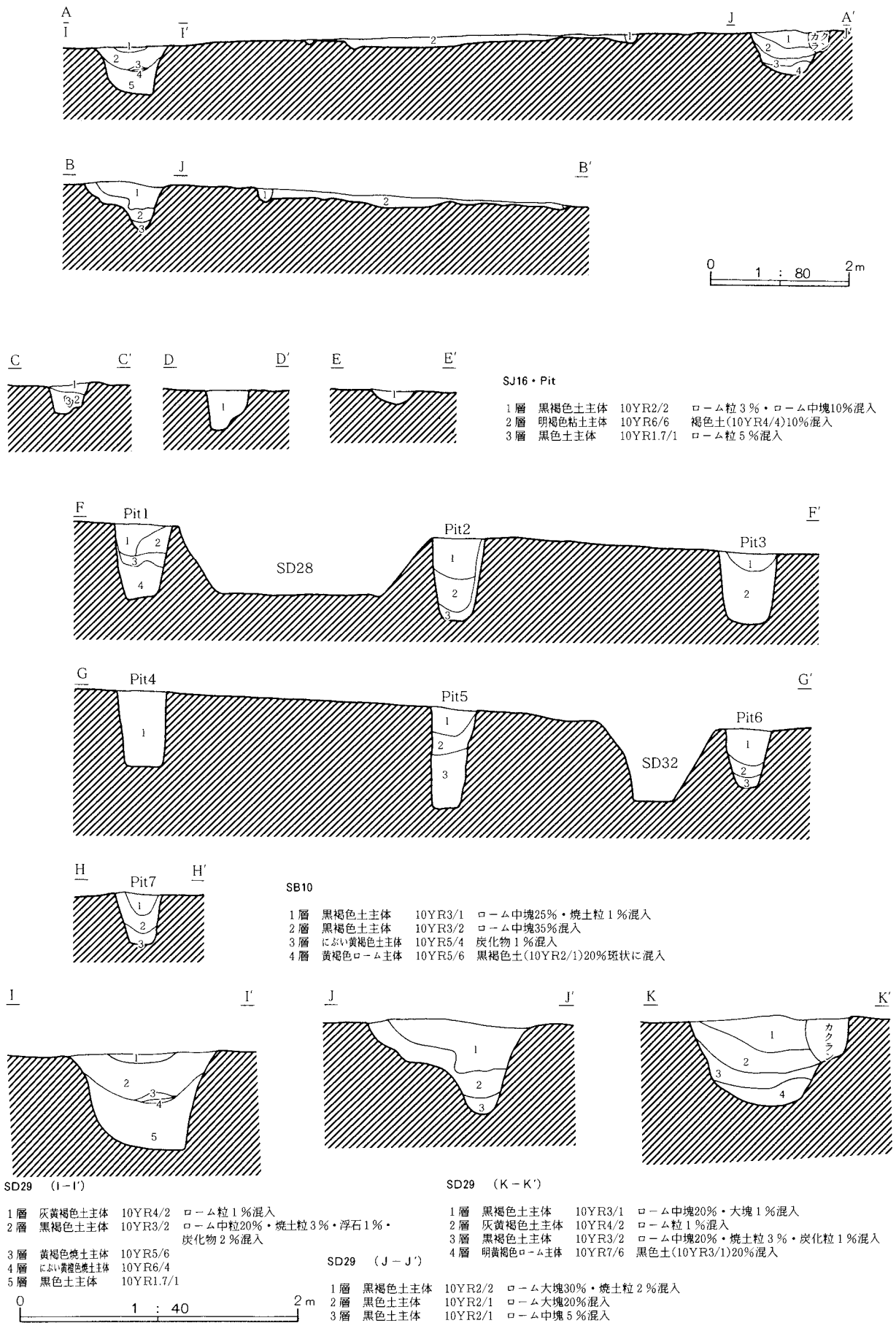


図72 第16号建物跡 (SJ16・SB10・SD29断面)

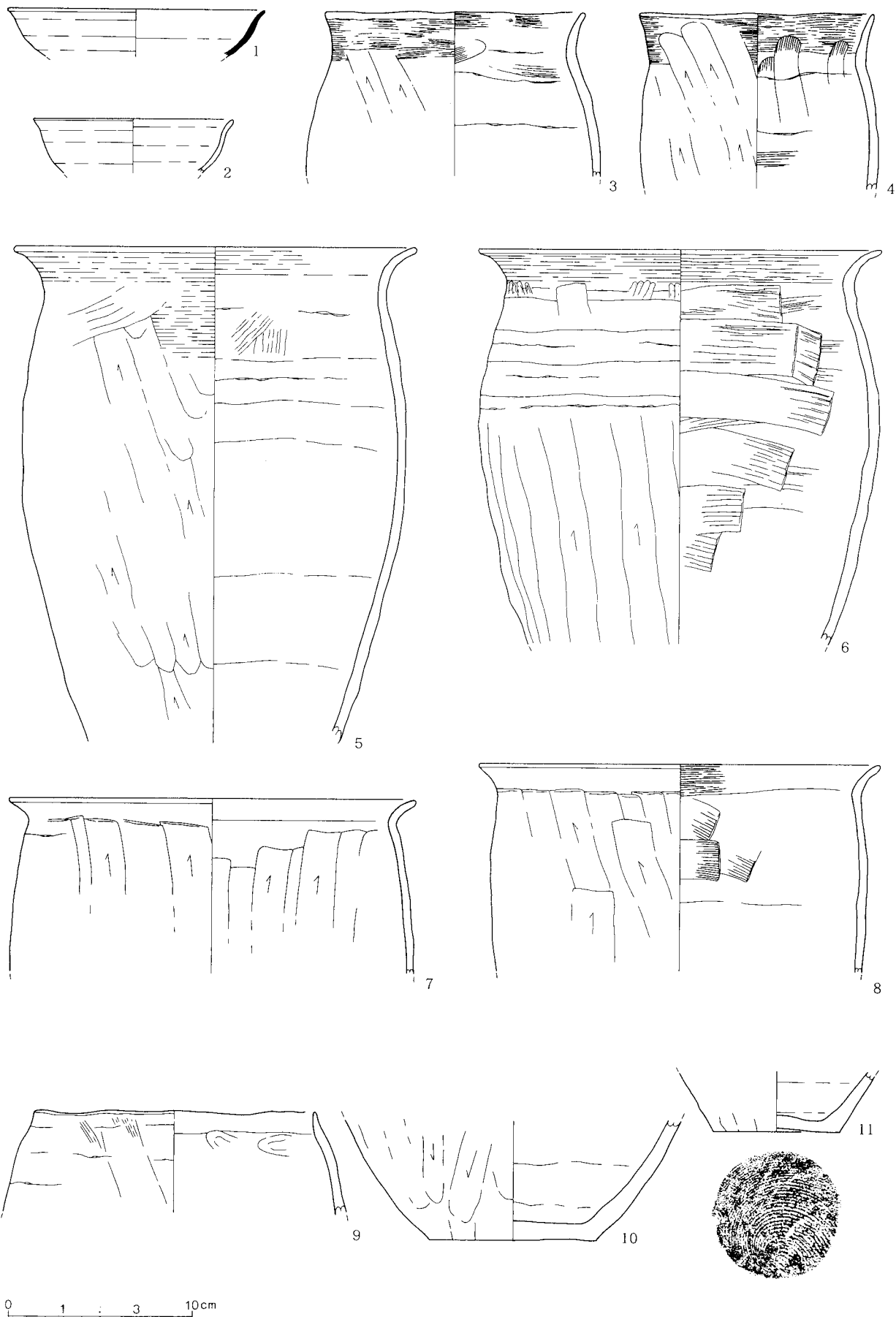


图73 第16号建物跡出土遺物 (SD29部分)

## 第17号建物跡

[概要] 第17号竪穴住居跡 (S J17)、第12号掘立柱建物跡 (S B12)、第30号溝跡 (S D30) で構成される。

[位置・確認] BH-16~19、BI-16~19、BJ-16~20、BK-16~19、BL-17~19の各グリッドに位置している。主軸方向は北から118度東である。

[重複] 第10号建物跡、第16号建物跡と重複するがそれらより本建物跡の方が新しい。

[出土遺物] 竪穴住居跡部分から土師器、須恵器の坏、甕等の破片が、外周溝部分からは土師器、須恵器の坏、甕の破片や耳皿、土製品が出土している。また、掘立柱建物跡部分のピット6からはほぼ完形の土師器の甕がピットの床面に横倒しになった状態で出土している。

### 竪穴住居跡部分 (S J17)

[平面形・規模] 一辺約7m前後のややいびつな方形である。

[壁・床] 床面は比較的平坦であるが、その直上から多量の焼土、炭化物、炭化材が検出されている。炭化材等の遺存状態は南東側で比較的良好に残存している。これらの状況から、本住居跡は焼失家屋と思われる。削平のため壁は不明瞭だが、西壁にはテラス状の段が認められる。その段部分の中に比べると焼土、炭化物等は非常に少ない。

[壁溝] 南壁から西壁にかけてと北壁の西半で確認されている。

[柱穴・ピット] 柱穴は壁際に多く見られる。各々の規模は、Pit1-径45×28cm・深さ35cm、Pit2-径34cm・深さ20cm、Pit3-径40cm・深さ40cm、Pit4-径35×30cm・深さ30cm、Pit5-径50×35cm・深さ35cm、Pit6-径75×35cm・深さ30cm、Pit7-径38×34cm・深さ24cm、Pit8-径38×30cm・深さ40cm、Pit9-径30cm・深さ30cm、Pit10-径28×25cm・深さ35cm、Pit11-径70×45cm・深さ30cm、Pit15-径40cm・深さ32cm、Pit16-径54×20cm・深さ32cm、Pit17-径30×28cm・深さ30cm、Pit19-径40×30cm・深さ36cm、Pit20-径40cm・深さ48cm、Pit21-径48×40cm・深さ40cm、Pit22-径48×40cm・深さ50cm、Pit23-径90×75cm・深さ35cm、Pit24-径60×50cm・深さ36cm、Pit25-径50×45cm・深さ45cm、Pit26-径50cm・深さ45cm、Pit27-径60cm・深さ32cm、Pit28-径30×15cm・深さ40cmである。

[カマド] 辛うじて火床面が確認される程度で遺存状態は良くないが、東壁の南寄りでカマドの痕跡が確認されている。

[堆積土] 焼土等の上位の堆積土はほとんど削平されている。

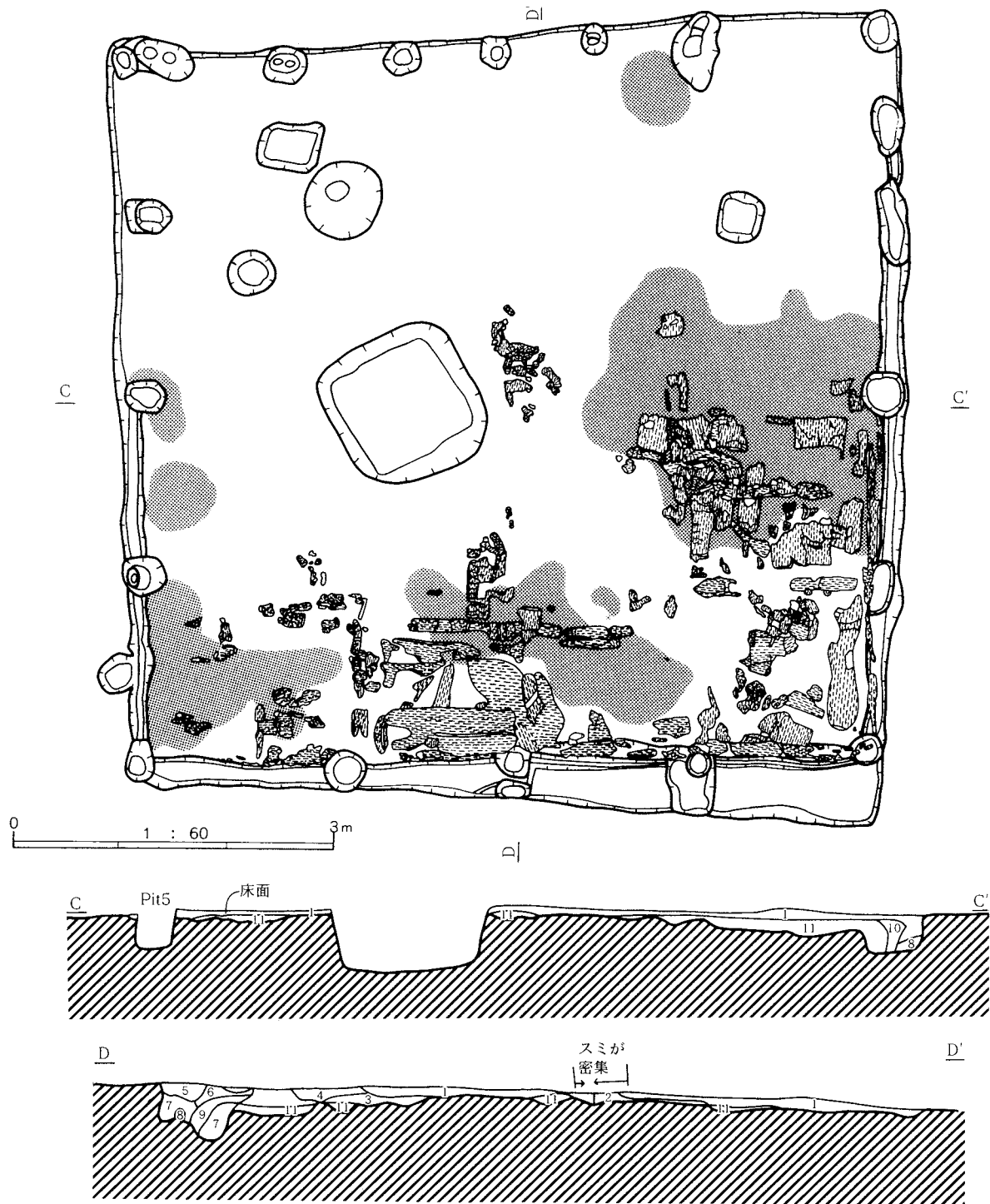
### 掘立柱建物跡部分 (S B12)

[規模] 約4.6×4.6mのほぼ方形である。

[柱穴] それぞれの柱穴の規模はPit1-径50×35cm・深さ30cm、Pit2-径42cm・深さ28cm、Pit3-径54×42cm・深さ14cm、Pit4-径45×32cm・深さ20cm、Pit5-径45cm・深さ34cm、Pit6-径70×40cm・深さ22cm、Pit7-径30cm・深さ10cm、Pit8-径44×32cm・深さ26cm、Pit9-径34×25cm・深さ15cm、Pit11-径24cm・深さ15cmである。

91項に続く





SJ17

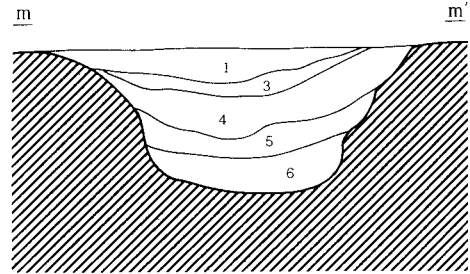
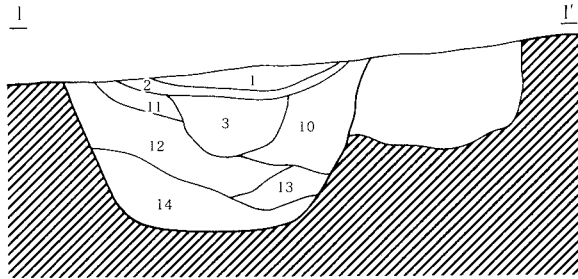
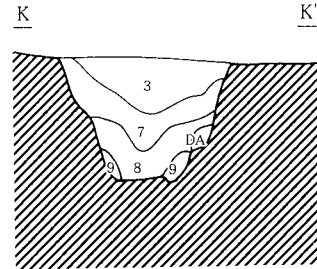
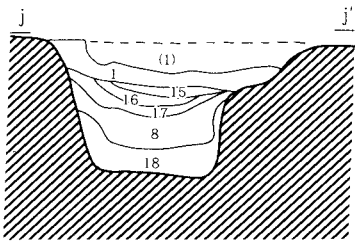
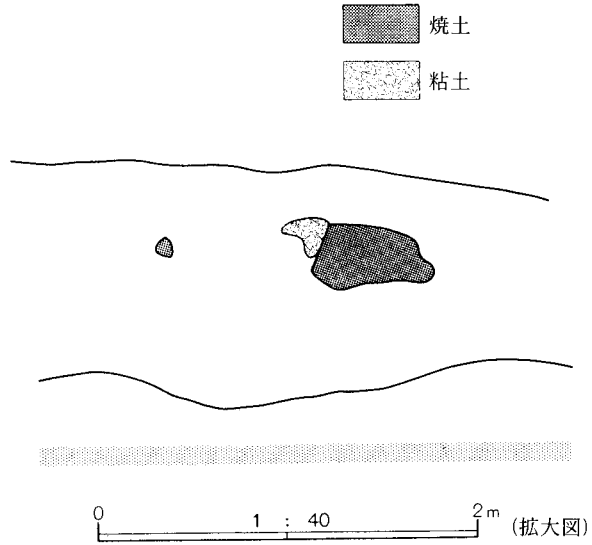
- |     |           |         |                         |
|-----|-----------|---------|-------------------------|
| 1層  | 黒褐色土主体    | 10YR3/1 | ローム粒5%・焼土粒10%・炭化物粒20%混入 |
| 2層  | 褐色土主体     | 10YR4/4 | 炭化物粒5%・砂粒10%混入          |
| 3層  | 黒褐色土主体    | 10YR2/2 | 粘土塊10%・焼土粒5%混入          |
| 4層  | 明黄褐色粘土主体  | 10YR6/6 | 砂粒・ローム5%混入              |
| 5層  | 明黄褐色粘土主体  | 10YR6/6 | 黒色土10%全体に混入             |
| 6層  | 暗褐色土主体    | 10YR3/3 | 黒色土20%・粘土大塊10%・ローム10%混入 |
| 7層  | 黒色土主体     | 10YR2/1 | ローム大塊20%斑状に混入、粘土大塊5%混入  |
| 8層  | 黒色土主体     | 10YR2/1 | ローム粒5%混入                |
| 9層  | にぶい黄褐色土主体 | 10YR4/3 | 黒褐色土(10YR2/2)30%混入      |
| 10層 | 褐色砂主体     | 10YR4/6 | 黒褐色土(10YR2/2)1%混入       |
| 11層 | 黒褐色土主体    | 10YR3/1 | ローム粒5%・ローム大塊5%混入        |

図75 第17号建物跡 (SJ17)

拡大図A (第74図参照)



拡大図B (第74図参照)



SD30

- |     |             |         |                       |
|-----|-------------|---------|-----------------------|
| 1層  | 灰黄褐色土主体     | 10YR4/2 | ローム小~中塊10%混入          |
| 2層  | 明黄褐色火山灰主体   | 10YR7/6 | B-Tm層                 |
| 3層  | にぶい黄褐色土主体   | 10YR5/3 | ローム中~大塊40%混入          |
| 4層  | 黒色土主体       | 10YR2/1 | ローム中~大塊10%・焼土・炭化粒5%混入 |
| 5層  | 灰黄褐色土主体     | 10YR4/2 | 焼土粒5%・炭化物混入           |
| 6層  | 黒褐色土主体      | 10YR3/2 | ローム粒5%・焼土粒5%・粘土塊10%混入 |
| 7層  | 黒色土主体       | 10YR2/1 | ローム粒5%混入              |
| 8層  | 明黄褐色ローム主体   | 10YR6/6 | 褐色土(10YR5/4)30%混入     |
| 9層  | 黒褐色土主体      | 10YR3/1 | ローム中塊10%混入            |
| 10層 | 暗褐色土主体      | 10YR3/4 | ローム中塊10%混入            |
| 11層 | にぶい黄褐色土主体   | 10YR5/4 | ローム大塊30%混入            |
| 12層 | 黒褐色土主体      | 10YR2/2 | ローム中塊20%・焼土中塊5%混入     |
| 13層 | 黒褐色土主体      | 10YR2/2 | ローム中塊40%混入            |
| 14層 | 黄褐色ローム主体    | 10YR5/8 | 粘土塊30%混入              |
| 15層 | にぶい黄褐色ローム主体 | 10YR7/4 | 黒褐色土(10YR2/2)5%混入     |
| 16層 | 暗褐色土主体      | 10YR3/4 | ローム粒30%・焼土粒1%混入       |
| 17層 | 黒褐色土主体      | 10YR2/2 | ローム粒10%混入             |
| 18層 | 灰白色砂主体      | 10YR8/2 |                       |

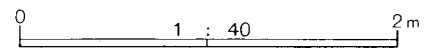
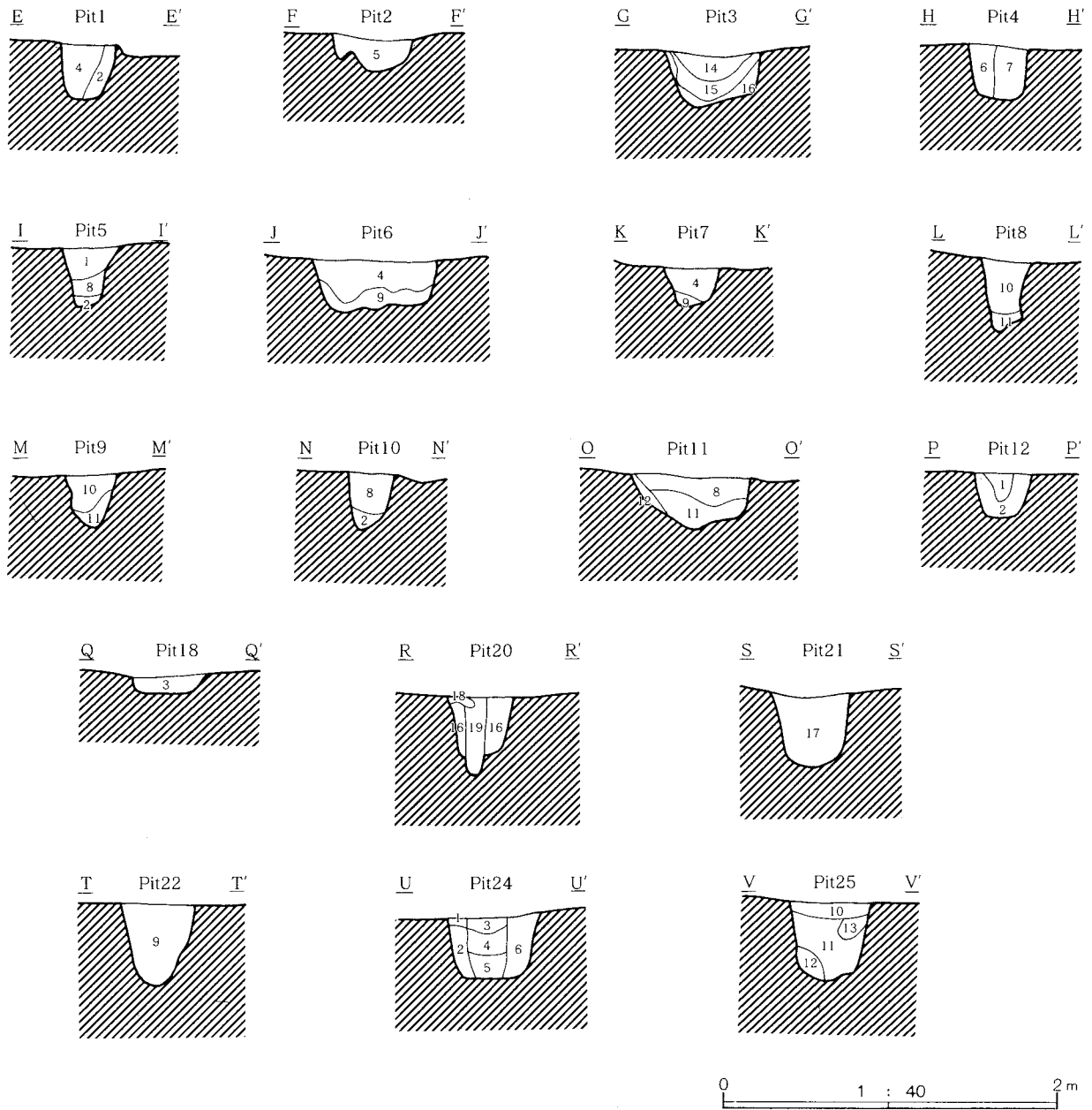


図76 第17号建物跡 (SD30)



野尻(1)遺跡 1



SJ17 Pit 1-25

1層	黒色土主体	10YR2/1	ローム粒3%・焼土粒2%混入	15層	褐色土主体	7.5YR4/5	焼土中塊7%混入
2層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒5%・ローム小塊10%・大塊15%混入	16層	にぶい黄褐色土主体	10YR7/3	黒褐色土(10YR2/3)30%混入
3層	黒褐色土主体	10YR3/1	ローム中塊30%・にぶい黄褐色粘土10%・黒色土5%混入	17層	黒褐色土主体	10YR2/3	炭化物粒8%・ローム中塊10%・大塊10%混入
4層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム粒5%・ローム小塊8%・焼土粒3%混入	18層	赤褐色焼土主体	5YR4/8	
5層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒2%・焼土粒1%・褐色土10%混入	19層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒5%・焼土粒3%混入
6層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒5%・ローム小塊10%・焼土8%・炭化粒2%混入				
7層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム大塊30%・明黄褐色粘土10%・ローム中粒5%混入				
8層	黒褐色土主体	10YR3/1	ローム粒2%・ローム小塊5%混入				
9層	黒褐色土主体	10YR3/2	明黄褐色粘土(10YR7/6)40%混入				
10層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム大粒5%・焼土10%混入				
11層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム中塊20%・明黄褐色粘土10%混入				
12層	黄褐色土主体	10YR5/6	暗褐色土(10YR3/3)5%混入				
13層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒5%混入				
14層	灰白色粘土主体	10YR8/2	黒褐色土(10YR2/2)3%混入				

図77 第17号建物跡 (SJ17柱穴)

外周溝 (SD30)

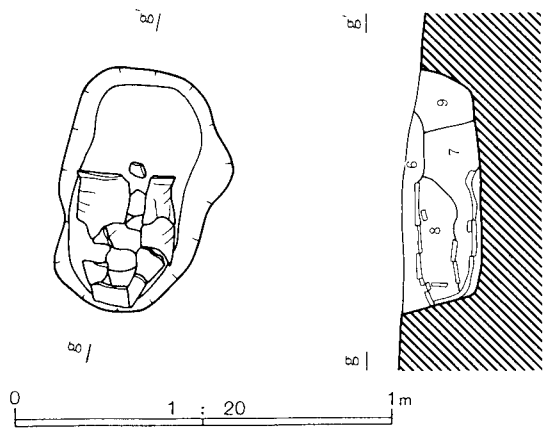
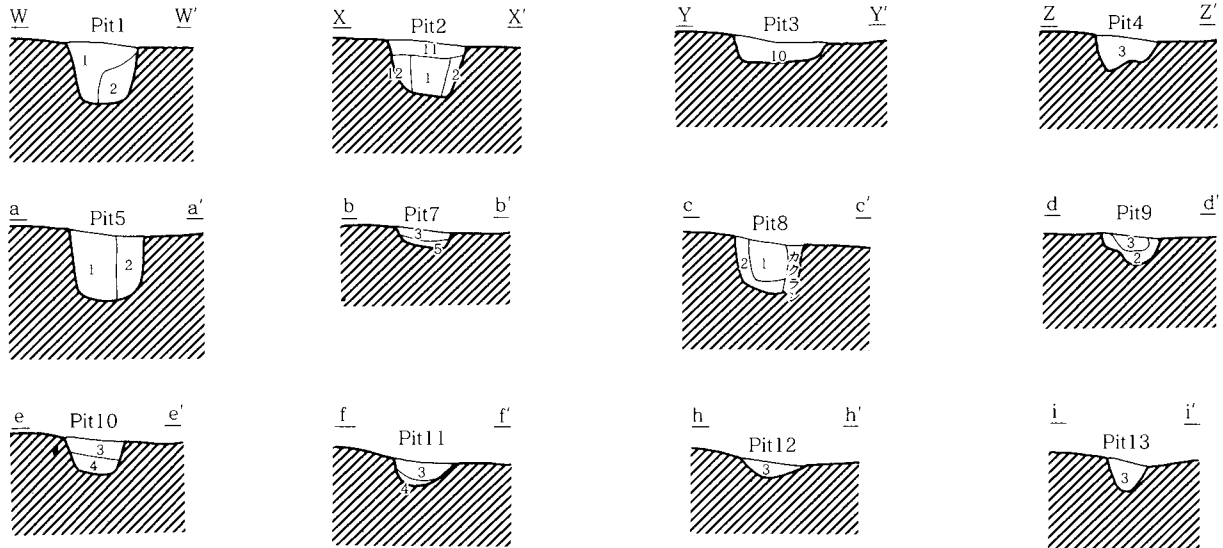
[形態・規模] 竪穴住居跡部分の北西側を囲むようにコの字状に巡る。

[壁・底面] 底面は一定しないが、壁は外傾しながら立ち上がる。

[関連土坑] 明瞭な土坑はないが、北西角部分南東端部分に土坑状の窪みが認められる。

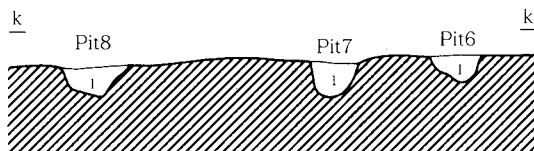
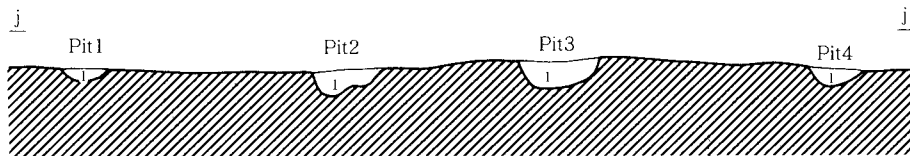
[堆積土] 人為堆積を主体とするが、自然堆積も挟在する。白頭山・苫小牧火山灰も認められる。

(太田原 潤)



SB12

- |     |        |           |                                    |
|-----|--------|-----------|------------------------------------|
| 1層  | 黒色土主体  | 10YR2/1   | ローム粒5%・ローム中粒3%・焼土粒2%・炭化粒2%混入       |
| 2層  | 黒褐色土主体 | 10YR3/1   | ローム中粒5%・ローム中塊10%混入                 |
| 3層  | 黒色土主体  | 10YR1.7/1 | ローム3%・焼土粒2%・炭化粒1%混入                |
| 4層  | 黄褐色土主体 | 10YR5/6   | 暗褐色土(10YR3/3) 20%混入                |
| 5層  | 黒褐色土主体 | 10YR3/2   | ローム中塊25%混入、堅くしまっている                |
| 6層  | 暗褐色土主体 | 10YR3/3   | ローム小塊10%・中塊40%混入                   |
| 7層  | 黒褐色土主体 | 10YR2/3   | ローム中粒5%混入                          |
| 8層  | 暗褐色土主体 | 10YR3/3   | ローム粒3%・焼土粒3%混入                     |
| 9層  | 褐色土主体  | 10YR4/4   | ローム粒5%・焼土粒10%混入                    |
| 10層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/3   | ローム粒5%・ローム小塊10%・黄褐色土(10YR5/8) 8%混入 |
| 11層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2   | ローム粒3%混入                           |
| 12層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/2   | ローム大粒10%・大塊40%混入                   |
| 13層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/1   | ローム粒2%・焼土粒5%混入                     |



SB15

- |    |       |         |                 |
|----|-------|---------|-----------------|
| 1層 | 黒色土主体 | 10YR2/1 | ローム中塊8%・焼土粒2%混入 |
|----|-------|---------|-----------------|

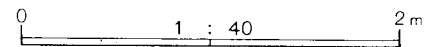
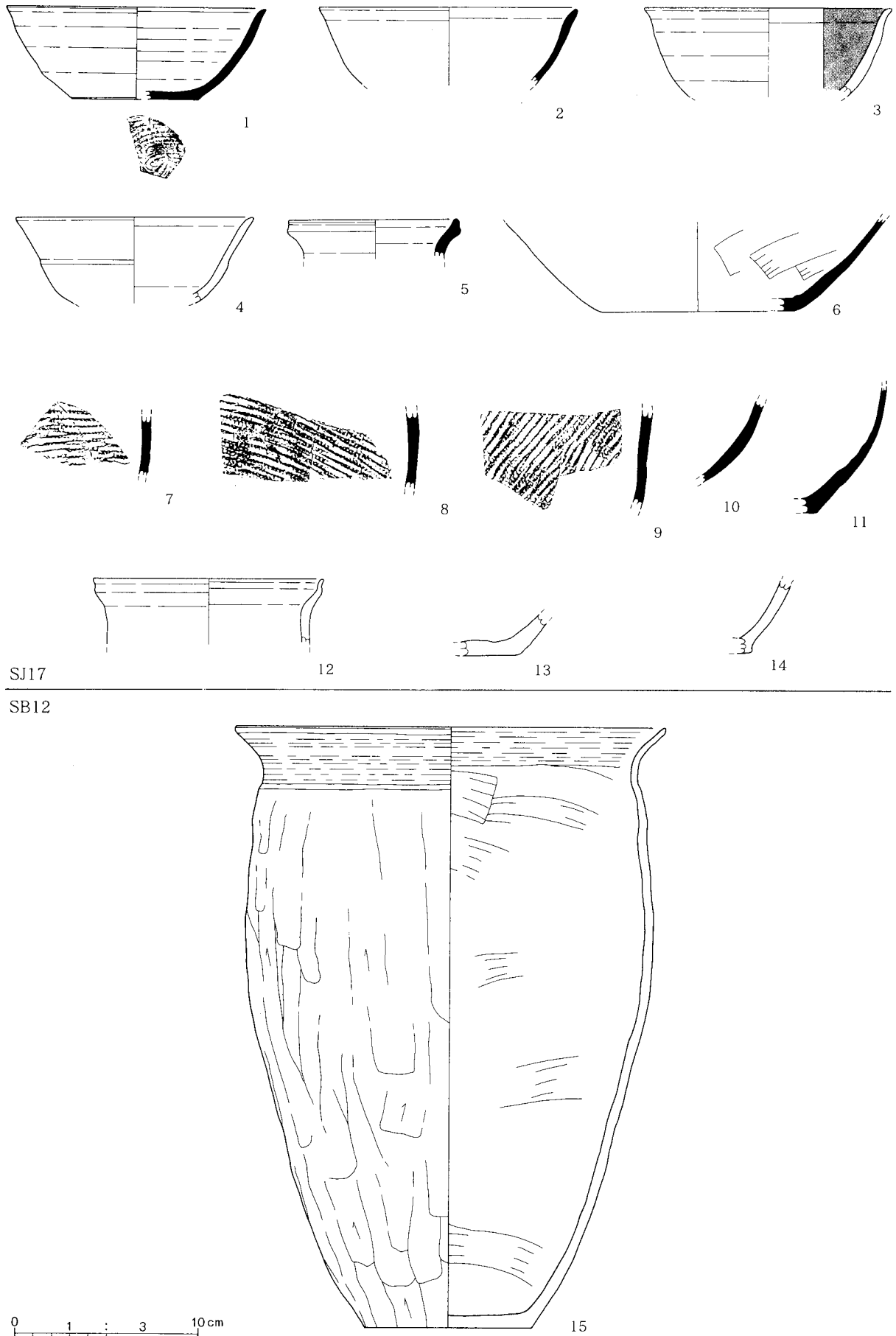


図78 第17号建物跡 (SB12・15断面)





SJ17

SB12

图99 第17号建物跡出土遺物 (SJ17・SB12部分)

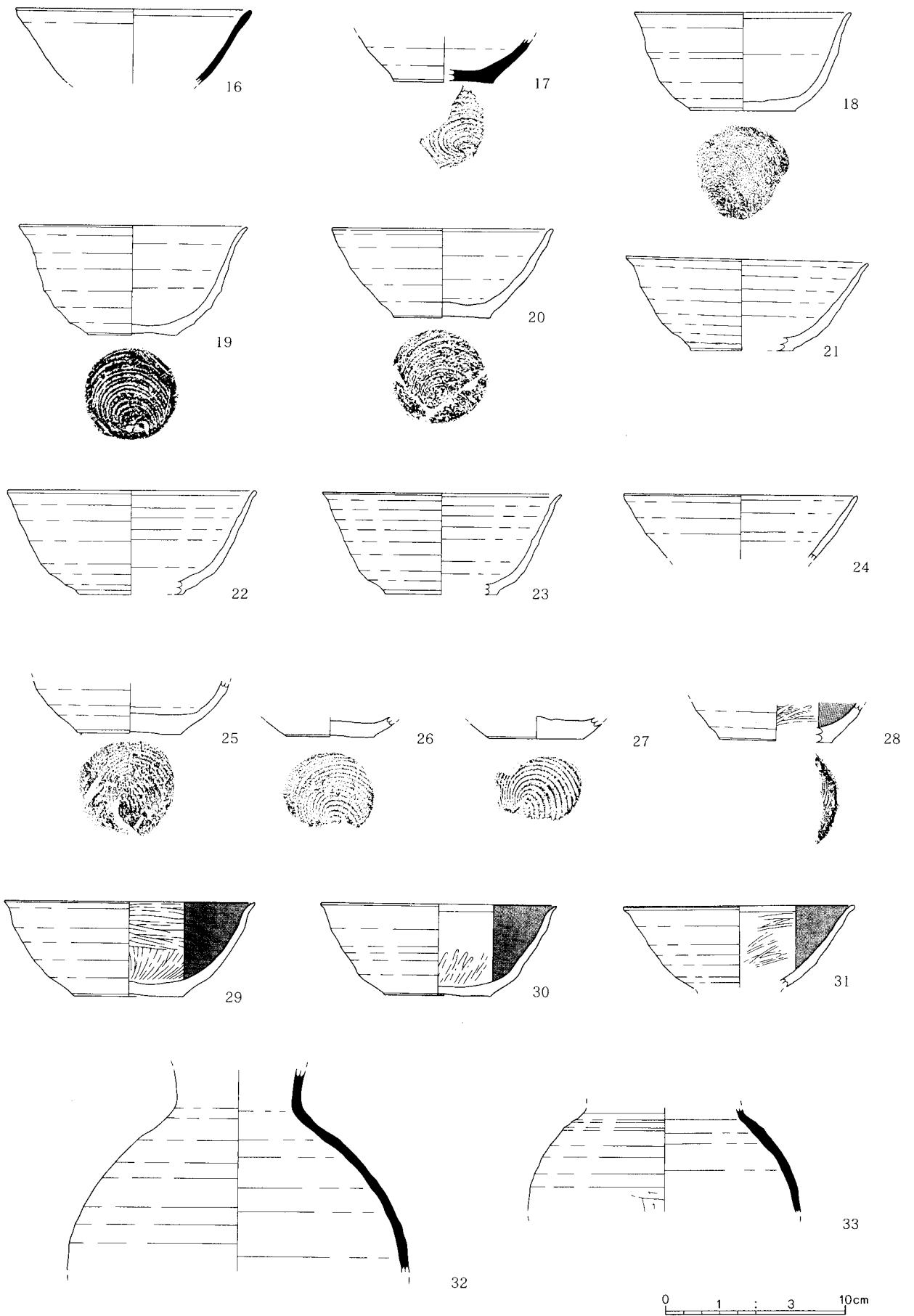


図80 第17号建物跡出土遺物 (SD30部分その1)

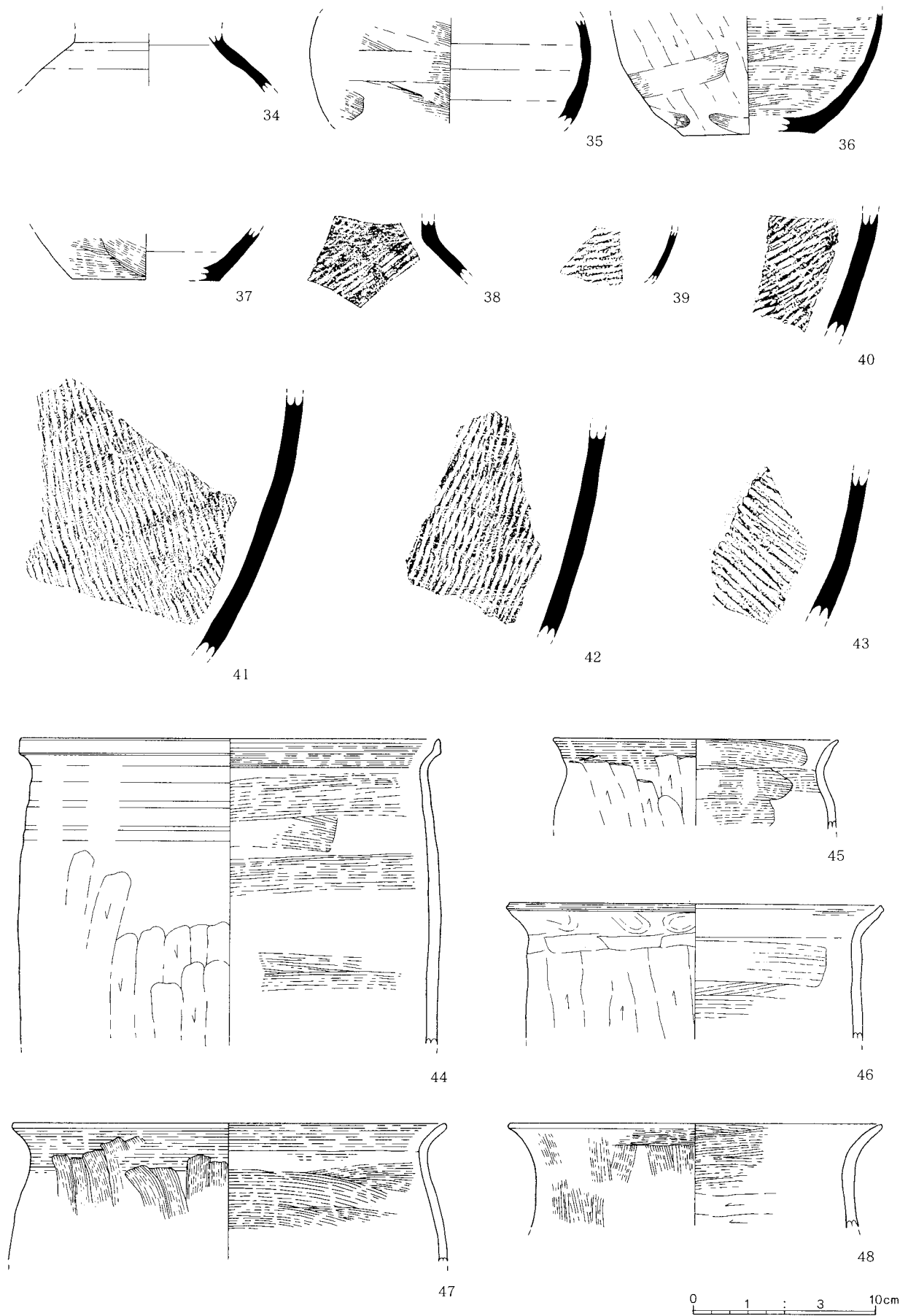


図81 第17号建物跡出土遺物 (SD30部分その2)

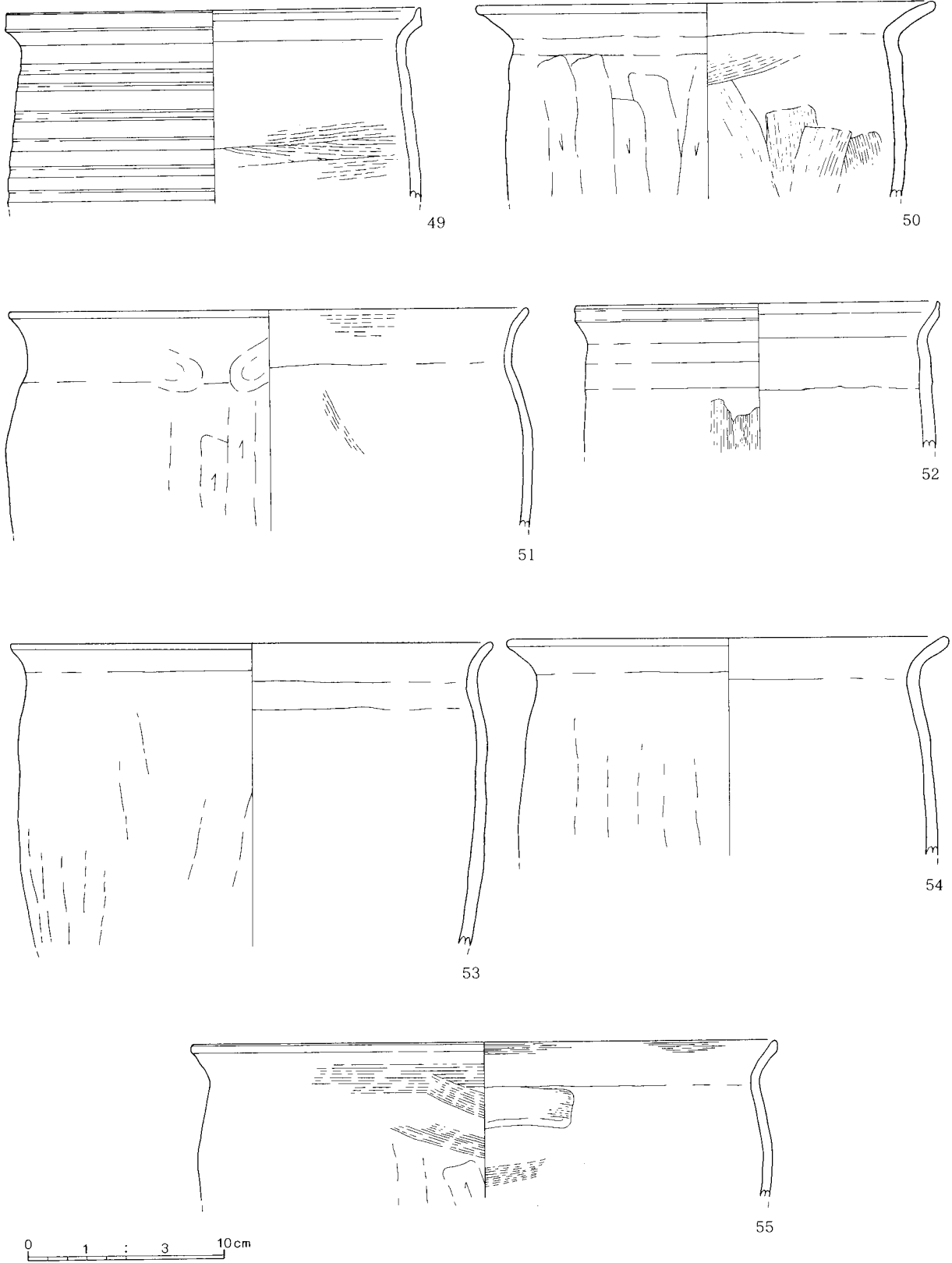


図82 第17号建物跡出土遺物（SD30部分その3）

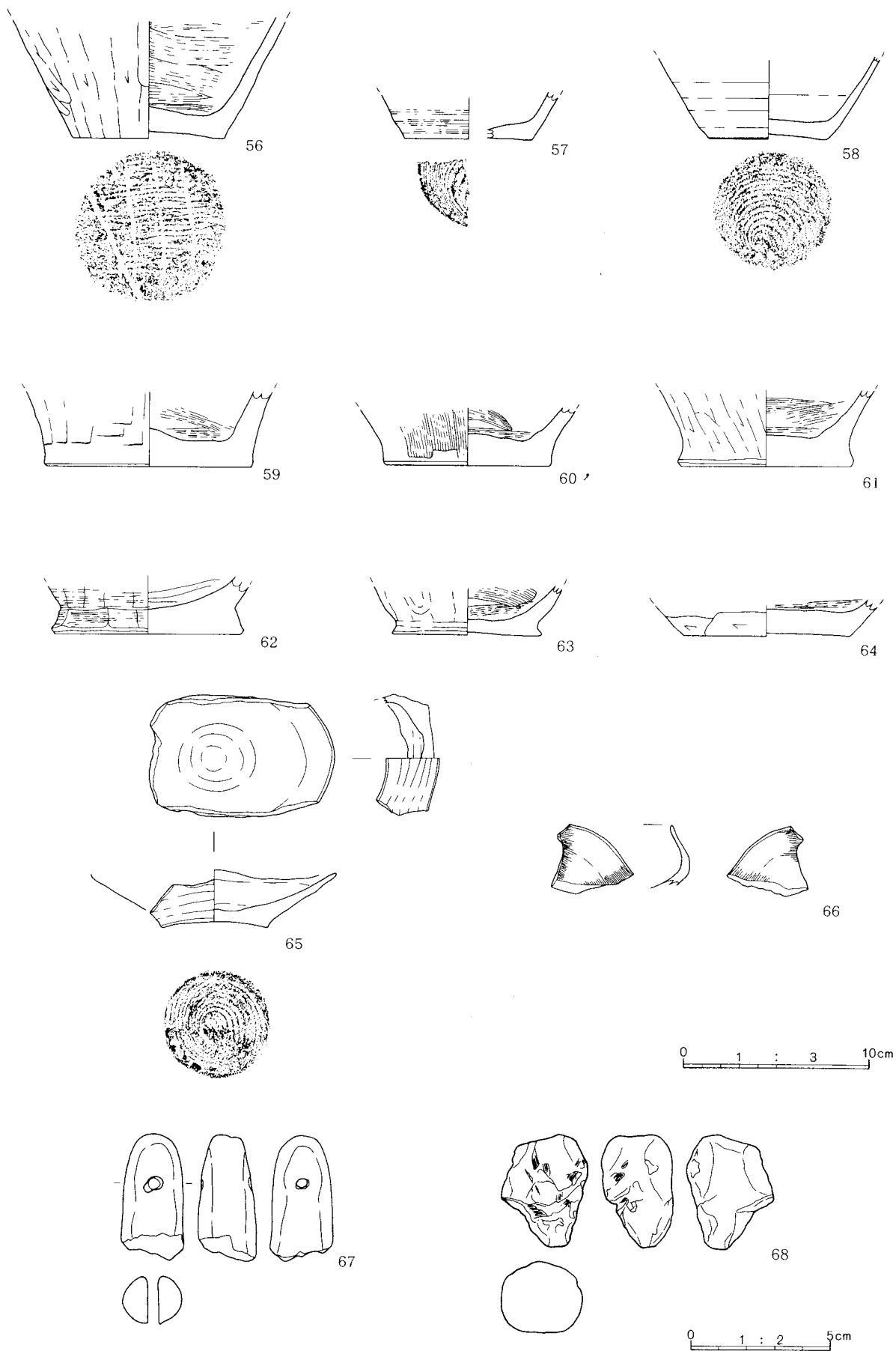


図83 第17号建物跡出土遺物 (SD30部分その4)

**(2) 土 坑****第1号土坑**

[位置] DA-36～37グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな楕円形で、長軸約130cm、短軸約80cm、深さは最深部で約35cmを測る。

[壁・底面] 北壁は底面から緩く外傾しながら立ち上がるが、全体的に一定していない。底面は不整形で若干起伏がある。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

**第2号土坑**

[位置] DA-36～37グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな隅丸長方形で、長軸約160cm、短軸約90cm、深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・底面] 壁面は底面から緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

**第3号土坑**

[位置] CW-38グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな楕円形で、長軸約110cm、短軸約40cm、深さは最深部で約20cmを測る。

[壁・底面] 底面はやや起伏がある。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

**第4号土坑**

[位置] CM～CN-36グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長軸約210cm、短軸約110cm、深さは最深部で約45cmを測る。

[壁・底面] 底面は若干起伏があり、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第5号土坑

[位置] CL-36グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、長軸約190cm、短軸約120cm、深さは最深部で約35cmを測る。

[壁・底面] 底面は若干起伏があり、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

[堆積土] 人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第6号土坑

[位置] CK-36～37グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形に近い形状で、長軸約120cm、短軸約80cm、深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・底面] 底面は平坦部が狭く、壁面はそこから外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第7号土坑

[位置] CP～CQ-34グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はややいびつな隅丸長方形で、長軸約90cm、深さは最深部で約40cmを測る。

[壁・底面] 底面は起伏が多く、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第10号土坑

[位置] CR-31グリッドで確認されている。

[重複] 第1号建物跡のSJ1部分と僅かに重複するが、新旧関係は不明瞭である。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形で、径約140cmを測る。深さは最深部で約45cmを測る。

[壁・底面] 底面は若干起伏があり、壁面は外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第11号土坑

[位置] CS-31～32グリッドで確認されている。

[重複] 第1号建物跡のSJ1部分と僅かに重複するが、新旧関係は不明瞭である。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長軸約100cm、深さは最深部で約150cmを測る。

[壁・底面] 底面は平坦部が狭く、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

#### 第12号土坑

[位置] CC-36グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、長径約190cm、深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的起伏が多く、壁面の大半は外傾しながら立ち上がるが、場所によってはほぼ直立する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

#### 第13号土坑

[位置] CB-35グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな円形を呈し、径約120cm、深さは最深部で約20cmを測る。

[壁・底面] 底面はやや起伏があり、壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

#### 第14号土坑

[位置] CA-35グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、径約160cm、深さは最深部で約35cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的起伏が激しく、壁面は外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

#### 第15号土坑

[位置] CA-36～37グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈し、長径約164cm、深さは最深部で約30cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁面は南東から北西に向けて緩やかに傾斜して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。



### 第16号土坑

- [位置] B Y-37グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形はいびつな楕円形で、長軸約100cm、深さは最深部で約26cmを測る。
- [壁・底面] 中央やや南寄り是一段浅くなる。壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。

### 第17号土坑

- [位置] C I-14~15グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整形で、長径約130cm、深さは最深部で約16cmを測る。
- [壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁面は外傾して立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積。
- [出土遺物] なし。

### 第18号土坑

- [位置] B J-32グリッドで確認されている。
- [重複] 第5号溝跡及び第19号土坑と重複している。第5号溝跡との関係は判然としないが、第19号土坑よりは本土坑の方が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形に近い形状を呈し、径約168cm、深さは最深部で25cmを測る。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、壁面はそこから外傾して立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土師器坏の破片が出土している。

### 第19号土坑

- [位置] B J-32グリッドで確認されている。
- [重複] 第18号土坑と重複しているが本土坑のほうが古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、径約120cm、深さは最深部で約48cmを測る。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、壁面は外傾しながら立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土師器坏片、須恵器甕片が出土している。

### 第20号土坑

- [位置] B J~B K-27グリッドで確認されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形はほぼ円形で、径約165cm、深さは最深部で約26cmを測る。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

#### 第21号土坑

[位置] BG-30グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形に近い形状で、長軸約190cm、深さは最深部で約24cmを測る。

[壁・底面] 底面は起伏があり、壁面はやや外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土師器甕の底部片が出土している。

#### 第22号土坑

[位置] BM-28グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな隅丸長方形を呈し、長軸約158cm、短軸約130cm、深さは最深部で36cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦であるが、南側に一段深い掘り込みを有する。壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土師器甕の口縁部片、底部片が出土している。

#### 第23号土坑

[位置] BR～BS-29グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はいびつな楕円形で、長軸約168cm、短軸約70cm、深さは最深部で15cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁面はやや外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 須恵器坏口縁部片が出土している。

#### 第24号土坑

[位置] BL-21グリッドで確認されている。

[重複] 第12号建物跡のSJ12部分及び第32号土坑と重複している。後者との関係は判然としないが、前者より本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、長軸140cm、短軸100cm、深さは最深部で46cmを測る。

[壁・底面] 壁面はやや外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第25号土坑

[位置] BF-16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、長径145cm、深さは最深部で30cmを測る。

[壁・底面] 壁面はやや外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第26号土坑

[位置] BO-26グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形で、径約170cm、深さは最深部で約50cmを測る。

[壁・底面] 壁面から底面にかけての断面形態はフラスコ状を呈し、底面は平坦である。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第27号土坑

[位置] BF-15グリッドで確認されている。

[重複] 明確な重複ではないが、本土坑は第14号掘立柱建物跡の内部に位置する。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、径約175cm、深さは最深部で約180cmを測る。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦なようであるが、湧水のため明確ではない。壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がり、約110cmほど上位で屈曲し緩く外傾する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。堆積土中に白頭山・苦小牧火山灰(B-Tm)と推定される層がレンズ状に堆積している。

[出土遺物] 土師器坏、須恵器甕片等が出土している。

[時期] 構築された時期は白頭山・苦小牧火山灰が堆積する以前である。

[備考] 土坑の平面形、断面形、それに他の土坑に比べて非常に深く、湧水も見られる点等から、本土坑は井戸であろうと推定される。また、第14号掘立柱建物跡は本土坑を囲むように位置していることから井戸にかけられた屋根等の施設であった可能性も考えられる。

### 第28号土坑

[位置] BH-19～20グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は卵型に近い楕円形を呈し、長径105cm、深さは最深部で18cmを測る。

[壁・底面] 壁面から底面にかけては鍋底状を呈する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第29号土坑

[位置] BG-17グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形で、径100cm、深さは最深部で25cmを測る。

[壁・底面] 底面は平坦で、壁面はほぼ直立する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第30号土坑

[位置] BL-22グリッドで確認されている。

[重複] 第12号建物跡の外周溝(SD21)と重複しているが、新旧関係は不明瞭である。

[平面形・規模] 全体の形状はSD21との重複により不詳であるが、長軸約120cm程度の長方形あるいは楕円形であったと思われる。深さは最深部で50cmを測る。

[壁・底面] 底面は若干起伏があり、壁面は北側がほぼ垂直に、南側は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第31号土坑

[位置] BM-19～20グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はややいびつな隅丸長方形で、長軸210cm、短軸150cm、深さは最深部で20cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁面は垂直もしくは僅かに外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土師器甕片が出土している。

### 第32号土坑

[位置] BL-21グリッドで確認されている。

[重複] 第24号土坑と一部重複する。明瞭ではないが本土坑のほうが古いものと思われる。

[平面形・規模] 平面形は不整形を呈し、長軸100cm、深さは最深部で60cmを測る。

[壁・底面] 底面はボウル状で、北側の壁面は僅かに外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 須恵器坏が出土している。

### 第33号土坑

[位置] B J～B G-18～19グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、長軸約200cm、短軸約104cm、深さは最深部で30cmを測る。

[壁・底面] 底面は平坦で、壁面は僅かに外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土師器の坏、甕片が出土している。

### 第36号土坑

[位置] B F-16グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区境界と接するため全体の規模、形状は明らかではないが、深さは最深部で50cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

[堆積土] 人為堆積部分と自然堆積部分がある。白頭山・苦小牧火山灰と思われる火山灰がレンズ状に挟在する。

[出土遺物] 土師器甕片が出土している。

[時期] 構築は白頭山・苦小牧火山灰降下以前である

### 第37号土坑

[位置] B O-18グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸約120cm、短軸約80cm、深さは最深部で25cmを測る。

[壁・底面] 壁面から底面にかけての断面形態はボウル状を呈する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

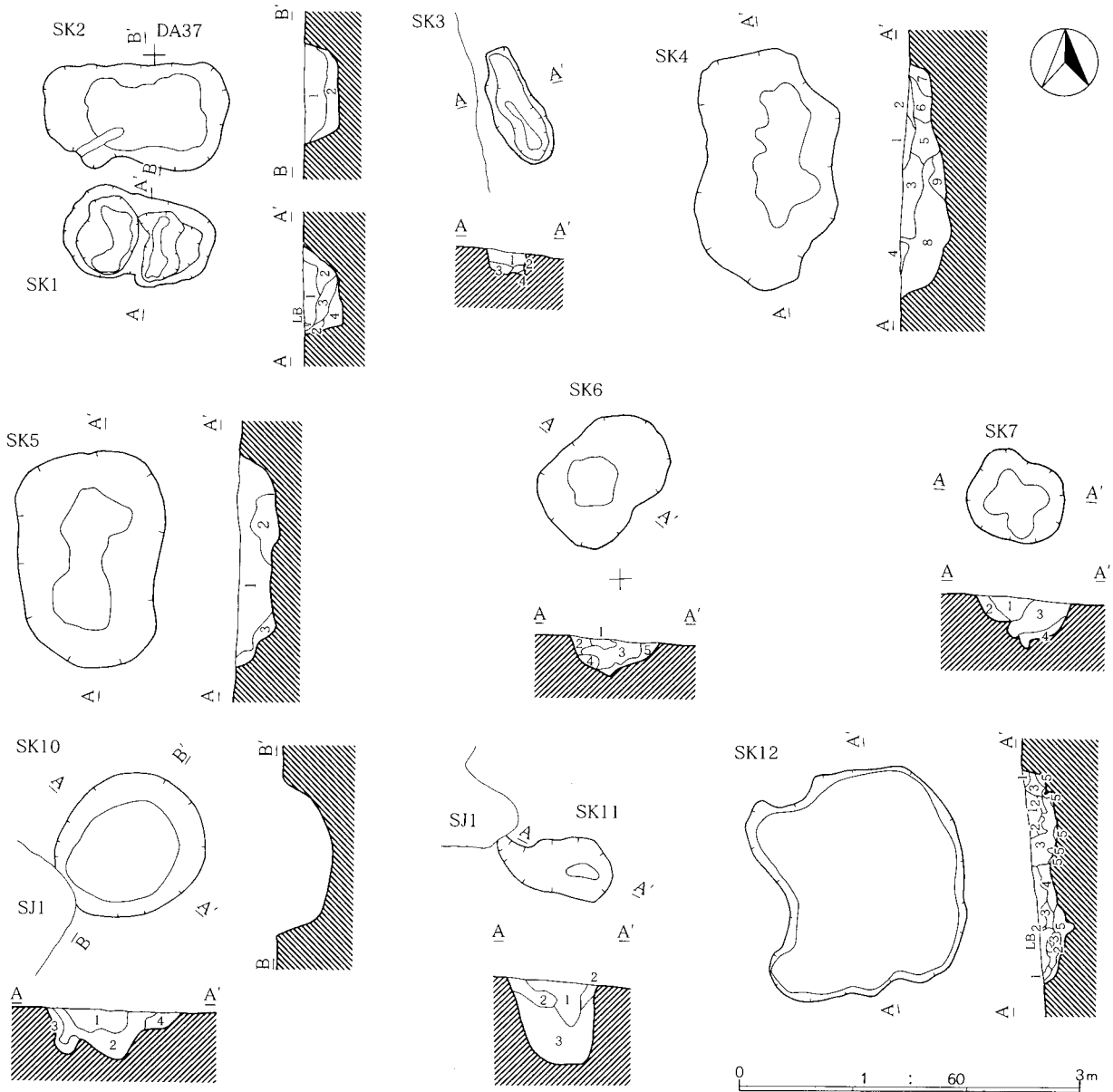
### 第38号土坑

[位置] B M-33～34グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はやや楕円形に近い不整形を呈し、長軸260cm、短軸75cmを測る。深さは最深部で42cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁面は僅かに外傾して立ち上がる。

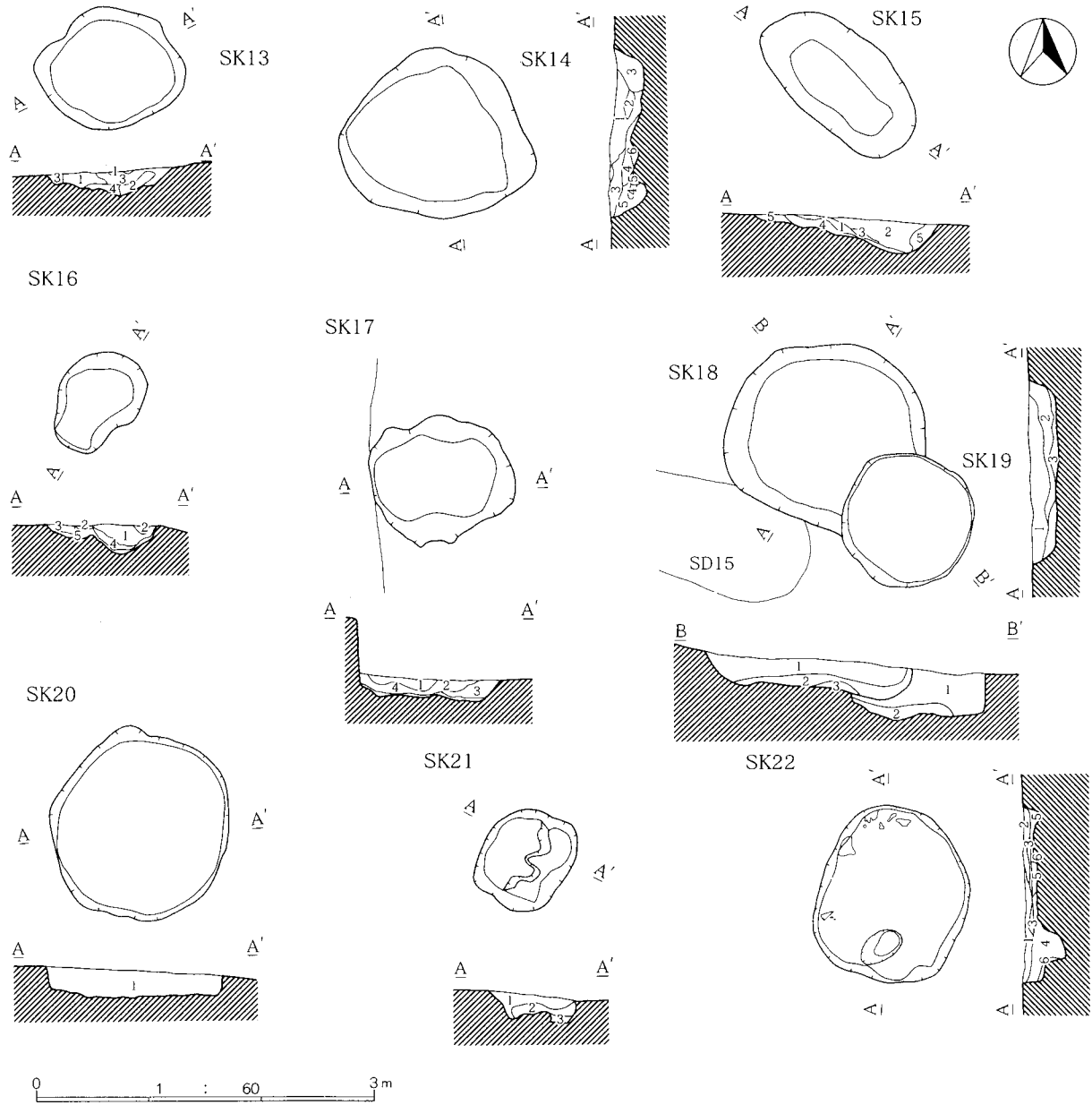


SK 1			
1層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム粒少量・ロームブロック混入
2層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム粒中量・ロームブロック混入
3層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒大量・ロームブロック多量
4層	褐色土主体	10YR4/6	黒色土中量混入
SK 2			
1層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム粒少量・ロームブロック混入
2層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒大量・ロームブロック大量混入
SK 3			
1層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒中量混入
2層	明黄褐色土主体	10YR6/6	
3層	褐色土主体	10YR4/4	黒褐色土中量に混入
4層	暗褐色土主体	10YR3/4	ロームブロック混入
SK 4			
1層	黒色土主体	7.5YR2/1	ローム粒1%混入
2層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒1%混入
3層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム粒2%・暗褐色土30%混入
4層	黒褐色土主体	10YR2/3	暗褐色土15%混入
5層	黒褐色土主体	10YR3/3	ローム粒2%・ロームブロック混入
6層	黒褐色土主体	10YR2/2	ロームブロック(直径10cm)混入
7層	褐色土主体	10YR4/4	ローム粒1%混入
8層	にぶい黄褐色土主体	10YR4/3	ロームブロック2%・ローム粒2%・黒色土(直径5cm)混入
9層	にぶい黄褐色土主体	10YR4/3	
SK 5			
1層	黒色土主体	7.5YR1.7/1	粘性ややあり、湿性ややあり、しまりあり、ロームブロック20%・黒褐色土(10YR2/2)3%混入
2層	明黄褐色土主体	10YR7/6	粘性あり、湿性ややあり、しまりあり、黒褐色土(10YR5/8)7%・黒褐色土(10YR2/2)5%混入
3層	暗褐色土主体	10YR3/4	粘性あり、湿性ややあり、しまりあり、黄褐色土(10YR5/8)40%混入

SK 6			
1層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒少量・ロームブロック混入
2層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム粒少量・ロームブロック混入
3層	黒色土主体	10YR2/1	ローム粒少量・ロームブロック混入
4層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒少量・黒褐色土少量混入
5層	黄褐色土主体	10YR5/8	黒色土少量・黒褐色土中量混入
SK 7			
1層	黒色土主体	10YR2/1	粘性・湿性・しまりあり、ロームブロック3%・黒褐色土3%混入
2層	黄褐色ローム	10YR8/8	粘性・湿性あり、しまりなし、黒色土15%混入
3層	黒色土主体	10YR2/1	粘性・湿性・しまりあり、ロームブロック10%混入
4層	黄褐色ローム	10YR5/6	粘性・湿性・しまりあり、黒色土(10YR2/1)30%混入
SK 10			
1層	黒褐色土主体	10YR2/2	黒色土・ローム粒10%混入
2層	黒褐色土主体	10YR3/2	黒色土・ローム粒30%混入
3層	褐色土主体	10YR4/6	ローム
4層	黄褐色土主体	10YR7/8	ローム
SK 11			
1層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム粒20%混入
2層	灰黄褐色土主体	10YR4/2	ローム粒40%混入
3層	黄褐色土主体	10YR5/6	ローム層
SK 12			
1層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム粒2%・ローム中塊2個混入
2層	黒色土主体	10YR2/1	
3層	暗褐色土主体	10YR3/3	ローム粒20%・ローム大塊2個混入
4層	褐色土主体	10YR4/4	ローム粒40%・ローム大塊数個混入
5層	黄褐色土主体	10YR5/8	

図84 土坑 (SK 1 ~ 7・10~12)

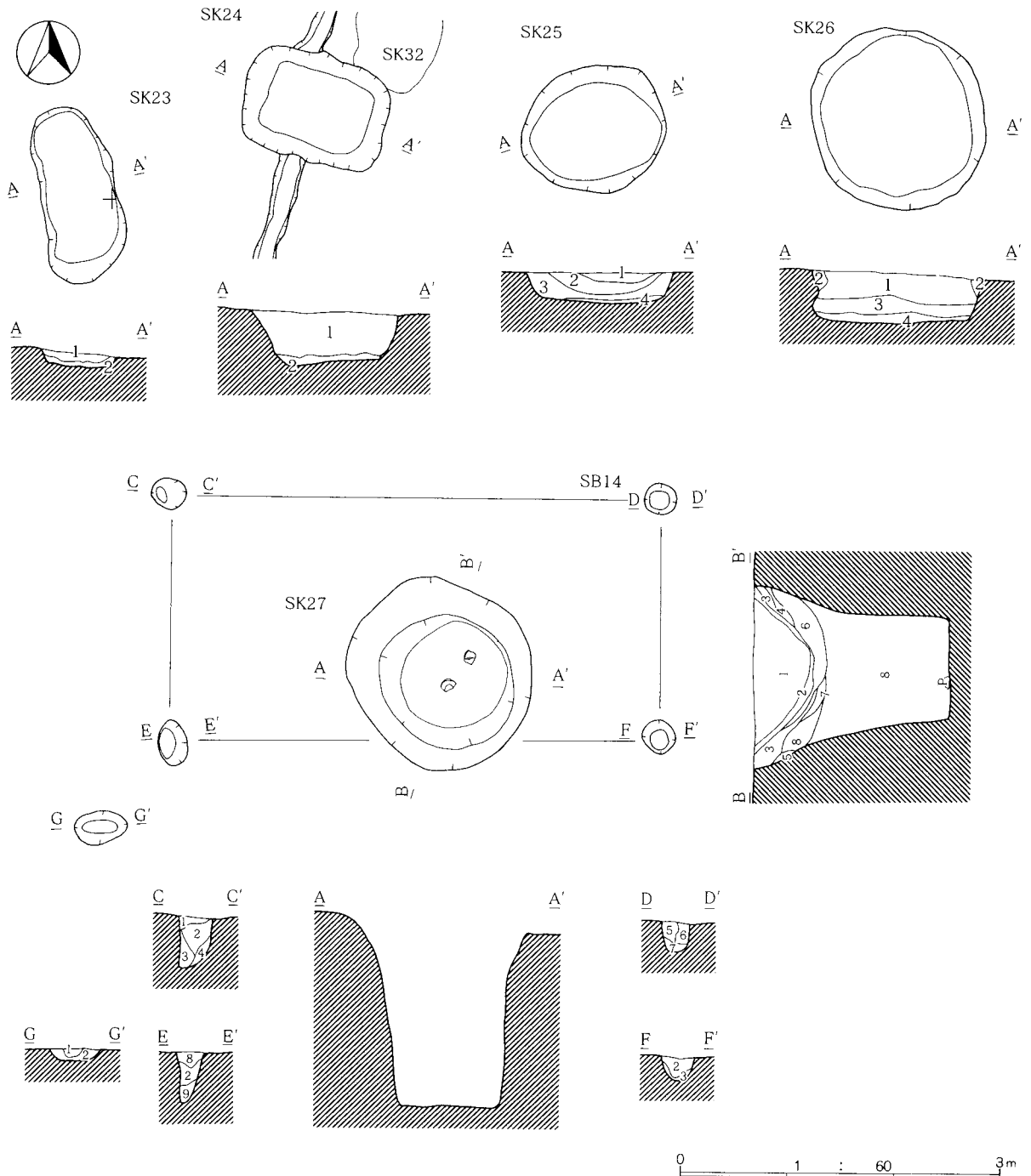
野尻(1)遺跡 I



- SK13**  
 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム大塊 1個混入  
 2層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒 2%・ローム小塊 1個混入  
 3層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒 10%・ローム大塊 1個混入  
 4層 黄褐色土主体 10YR5/8
- SK14**  
 1層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒 5%・ローム中塊・大塊混入  
 2層 黒色土主体 10YR1.7/1  
 3層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒 35%・ローム中塊 5%混入  
 4層 黒褐色土主体 10YR3/1 ローム粒 1%混入  
 5層 褐色土主体 10YR4/4 ローム粒 20%・ローム大塊 30%混入  
 6層 黄褐色土主体 10YR5/8
- SK15**  
 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒 1%・ローム小塊混入  
 2層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム中塊混入  
 3層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム小塊混入  
 4層 暗褐色土主体 10YR3/4 黒褐色土 35%・ローム粒 5%・ローム大塊混入  
 5層 褐色土主体 10YR4/4 黄褐色土 50%・ローム粒 2%混入
- SK16**  
 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒 2%・ローム中塊数個混入  
 2層 暗褐色土主体 10YR3/4 黒褐色土 5%・ローム粒 1%・ローム大塊混入  
 3層 黄褐色土主体 10YR5/4 暗褐色土 30%混入  
 4層 褐色土主体 10YR4/4 黄褐色土 30%・ローム粒 1%混入  
 5層 黄褐色土主体 10YR5/8
- SK17**  
 1層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒 5%混入  
 2層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒 10%・ローム大塊 20%混入  
 3層 黄褐色土主体 10YR5/8 粘土塊 20%・黒色土 20%混入  
 4層 明黄褐色土主体 10YR6/6 ローム層

- SK18**  
 1層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒 3%混入  
 2層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム大塊 15%斑状に混入  
 3層 黄褐色土主体 10YR5/6 黒褐色土 (10YR2/3) 10%混入
- SK19**  
 1層 黒色土主体 10YR2/1 ローム中塊 1%混入  
 2層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム大塊 10%混入
- SK20**  
 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 黒色土 (10YR2/1) 大塊・中塊・小塊斑状に 3%混入、ローム中塊・小塊 1%混入
- SK21**  
 1層 黒褐色土主体 10YR2/3 炭化物 1%混入  
 2層 褐色土主体 10YR4/4 ローム粒 5%混入  
 3層 褐色土主体 10YR4/6 ローム粒 20%混入
- SK22**  
 1層 黒褐色土主体 10YR3/1 炭化物粒 5%・焼土中粒 2%混入  
 2層 暗褐色土主体 10YR3/4 炭化物粒 5%・焼土大粒 20%混入  
 3層 黒褐色土主体 10YR3/2 炭化物粒 1%・焼土粒 1%混入  
 4層 黒色土主体 10YR2/2 黄褐色土 (10YR4/3) 20%混入、部分的にロームが濃集する。  
 5層 黄褐色土主体 10YR7/3 ローム主体、黒褐色土 (10YR3/1) 30%混入  
 6層 黄褐色土主体 10YR5/6 焼土粒 15%混入

図85 土坑 (SK13~22)



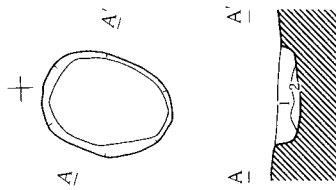
<b>SK23</b>			
1層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム中粒2%・焼土粒2%・炭化物粒1%混入
2層	明黄褐色土主体	10YR6/6	ローム
<b>SK24</b>			
1層	黒色土主体	10YR2/1	ロームブロック10%・ローム大塊5%・中塊5%・小塊5%混入
2層	褐色土主体	10YR4/6	
<b>SK25</b>			
1層	にぶい黄褐色土主体	10YR5/4	焼土(褐色土10YR4/3)25%・黒褐色土(10YR2/2)10%・焼土粒2%混入
2層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム中塊2%・ローム粒1%・焼土粒1%・炭化物1%混入
3層	黒色土主体	10YR1.7/1	焼土粒1%・炭化物1%混入
4層	黄褐色ローム	10YR5/6	黒色土(10YR2/3)30%・粘土10%混入
<b>SK26</b>			
1層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム大塊一部に混入、焼土粒1%均等に混入
2層	褐色土主体	10YR4/4	褐色土微量混入
3層	褐色土主体	10YR4/4	明黄褐色粘土30%斑状に混入、1層の黒褐色土(10YR2/3)10%一部に混入、鉄分沈着
4層	明黄褐色粘土主体	10YR7/6	褐色砂(4YR4/4)40%混入(部分的に濃集)鉄分沈着

<b>SK27</b>			
1層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム中粒10%・鉄分3%混入
2層	灰黄褐色土主体	10YR5/2	黒褐色土(10YR3/2)10%混入
3層	灰黄褐色土主体	10YR4/2	灰黄褐色火山灰(10YR6/2)30%混入
4層	にぶい黄褐色土主体	10YR4/3	
5層	明黄褐色土主体	10YR6/6	ローム
6層	黒褐色土主体	10YR2/2	黒褐色土(10YR3/2)10%混入
7層	灰白色粘土主体	10YR8/2	黒色土(10YR2/1)20%・鉄分15%混入
8層	黒色土主体	10YR2/1	灰白色粘土(10YR8/2)10%・鉄分5%混入
<b>SB14</b>	(SK27に付随?)		
1層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム中塊10%混入
2層	黒褐色土主体	10YR3/1	ローム粒5%混入
3層	黒褐色土主体	10YR2/3	ローム粒10%、もろく、ソフトな感じ
4層	褐色ローム主体	10YR4/6	粘土20%混入
5層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム中粒5%、ローム中塊10%混入
6層	黒色土主体	10YR1.7/1	ローム粒1%混入
7層	黒色土主体	10YR2/1	ローム大粒10%・ローム中塊10%混入
8層	黒褐色土主体	10YR3/2	ローム中塊10%・にぶい黄褐色粘土(10YR6/4)30%混入
9層	黒褐色土主体	10YR2/2	ローム大塊5%・にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)15%混入

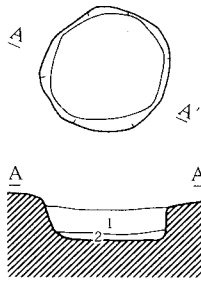
図86 土坑 (SK23~27・SB14)



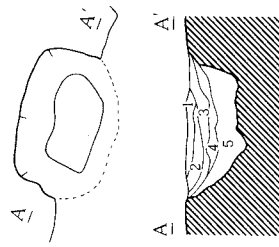
SK28



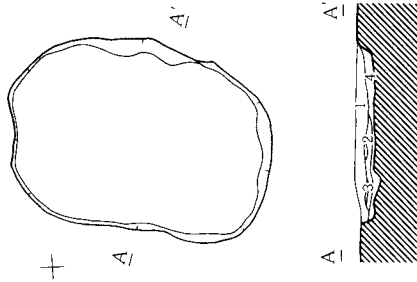
SK29



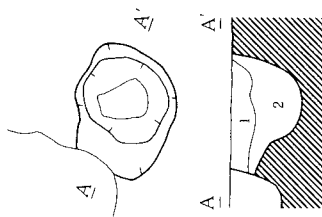
SK30



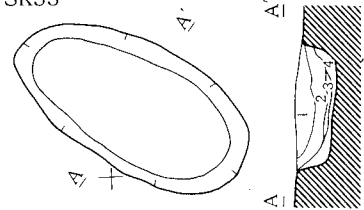
SK31



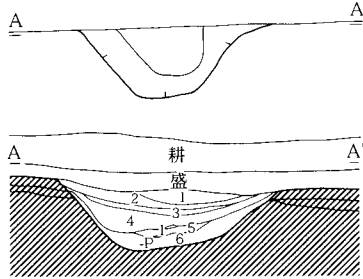
SK32



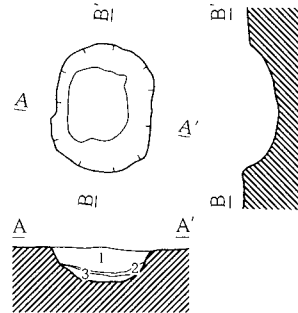
SK33



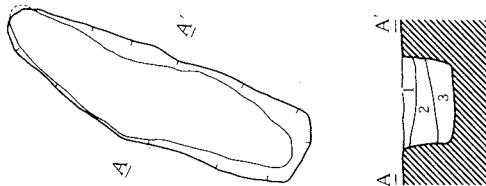
SK36



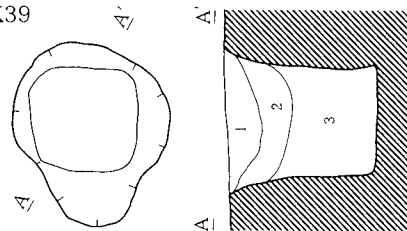
SK37



SK38



SK39



0 1 60 3m

- SK28
- |    |        |         |  |
|----|--------|---------|--|
| 1層 | 黒色土主体  | 10YR2/1 | 黒褐色土 (10YR3/2) 2%・ローム粒 1%・<br>焼土 1%・炭化物 1%混入       |
| 2層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2 | 黒褐色土 (10YR2/1) 1%・焼土ブロック中<br>塊 2%・焼土粒 1%・ローム粒 2%混入 |
- SK29
- |    |        |           |                               |
|----|--------|-----------|-------------------------------|
| 1層 | 黒色土主体  | 10YR1.7/1 | ローム粒 1%・焼土粒 1%混入              |
| 2層 | 黄褐色土主体 | 10YR4/3   | 黒褐色土 (10YR3/2) 3%・明黄褐色土 25%混入 |
- SK30
- |    |        |         |  |
|----|--------|---------|--|
| 1層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/2 | ローム大塊 3%・ローム粒 20%・焼土粒 1%混入                             |
| 2層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2 | ローム粒 1%・焼土粒 1%混入                                       |
| 3層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/3 | ローム中塊 1%・ローム粒 2%・<br><b>にぶい黄褐色土 3%・焼土粒 1%・炭化物 1%混入</b> |
| 4層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2 | ローム粒 2%・焼土 1%混入  |
| 5層 | 黒色土主体  | 10YR2/1 | ローム大塊 20%・中塊 5%・ローム粒 5%・<br><b>にぶい黄褐色土 20%混入</b>       |
- SK31
- |    |        |          |                                      |
|----|--------|----------|--------------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2  | ローム中塊 1%・ローム粒 2%・焼土粒 1%・<br>炭化物 1%混入 |
| 2層 | 褐色土主体  | 7.5YR4/6 | 黒褐色土 30%・焼土粒 1%・炭化物 1%混入             |
| 3層 | 明褐色土主体 | 7.5YR5/8 | 明褐色土主体 7.5YR5/8 焼土ブ<br>ロック 1%混入      |
| 4層 | 黄褐色土主体 | 10YR5/6  | 焼土ブロック 1%混入<br>黒褐色土 30%混入            |
- SK32
- |    |        |         |   |
|----|--------|---------|---|
| 1層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2 | ロームブロック (10~20×10cm)・ローム大塊<br>10%・中塊 15%・ローム粒 10%混入 |
| 2層 | 黒色土主体  | 10YR2/1 | ローム大塊 10%・中塊 5%・ローム粒 5%混入                           |

- SK33
- |    |         |         |                      |
|----|---------|---------|----------------------|
| 1層 | 黒褐色土主体  | 10YR3/2 | ローム大粒 10%・ローム大塊 8%混入 |
| 2層 | 黒色土主体   | 10YR2/1 | 焼土大粒 5%混入            |
| 3層 | 黒褐色土主体  | 10YR2/2 | 一部に焼土 10%が濃集する       |
| 4層 | 明黄褐色土主体 | 10YR7/6 |                      |
- SK36
- |    |        |           |  |
|----|--------|-----------|--|
| 1層 | 暗褐色土主体 | 10YR3/3   | ローム中粒 20%・ローム大粒 10%・浮石 (直<br>径 2~4) 3%・鉄分 5%混入   |
| 2層 | 黒色土主体  | 10YR1.7/1 | ローム粒 5%・焼土粒 3%・炭化物粒 2%混入                         |
| 3層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2   | 焼土 50%混入   |
| 4層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/2   | ローム粒 5%・焼土 15%・炭化物 20%混入                         |
| 5層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/1   | 焼土 10%・炭化物 3%・火山灰 15%混入                          |
| 6層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/3   | ローム粒 5%・焼土 10%・炭化物 8%・明黄<br>褐色粘土 (10YR7/6) 15%混入 |
- SK37
- |    |        |         |                           |
|----|--------|---------|---------------------------|
| 1層 | 黒色土主体  | 10YR2/1 | ローム大粒 5%・焼土粒 3%混入         |
| 2層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/2 | ローム大粒 3%・焼土粒 1%混入         |
| 3層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/3 | 炭化物粒 5%・ローム粒 3%・粘土粒 10%混入 |
- SK38
- |    |         |         |                      |
|----|---------|---------|----------------------|
| 1層 | 黒褐色土主体  | 10YR3/2 | ローム粒 5%混入            |
| 2層 | 黄褐色土主体  | 10YR6/4 | 黒褐色土 3%・鉄分 10%を均等に混入 |
| 3層 | 明黄褐色土主体 | 10YR6/6 | 鉄分 15%を均等に混入         |
- SK39
- |    |        |           |                     |
|----|--------|-----------|---------------------|
| 1層 | 黒色土主体  | 10YR2/1   | 焼土粒 1%混入            |
| 2層 | 黒色土主体  | 10YR1.7/1 | 明黄褐色ロームブロック中塊 7%混入  |
| 3層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/1   | 明黄褐色ロームブロック大塊 15%混入 |

図87 土坑 (SK28~33・36~39)

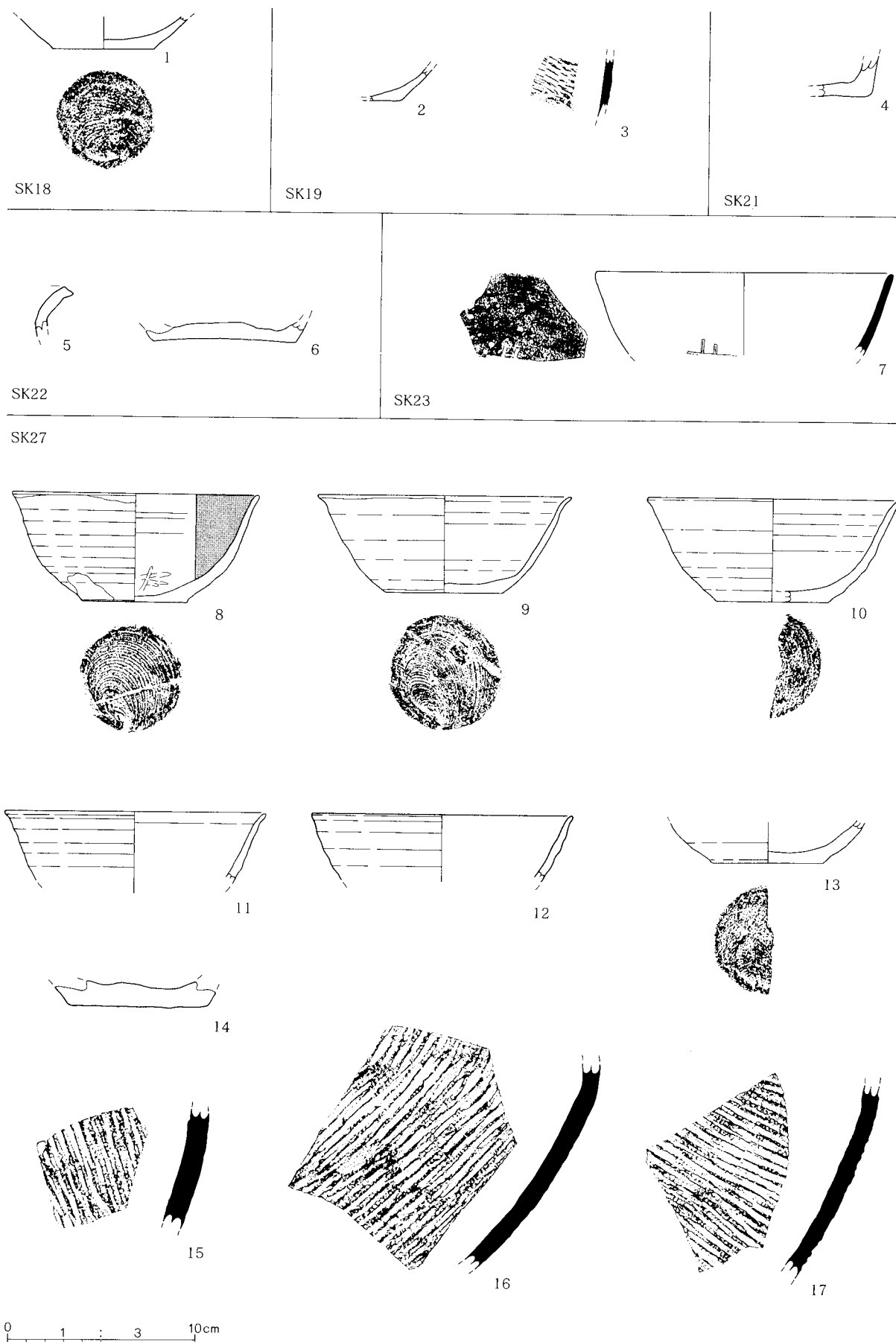


图88 土坑出土遺物 (SK18・19・21・22・23・27)

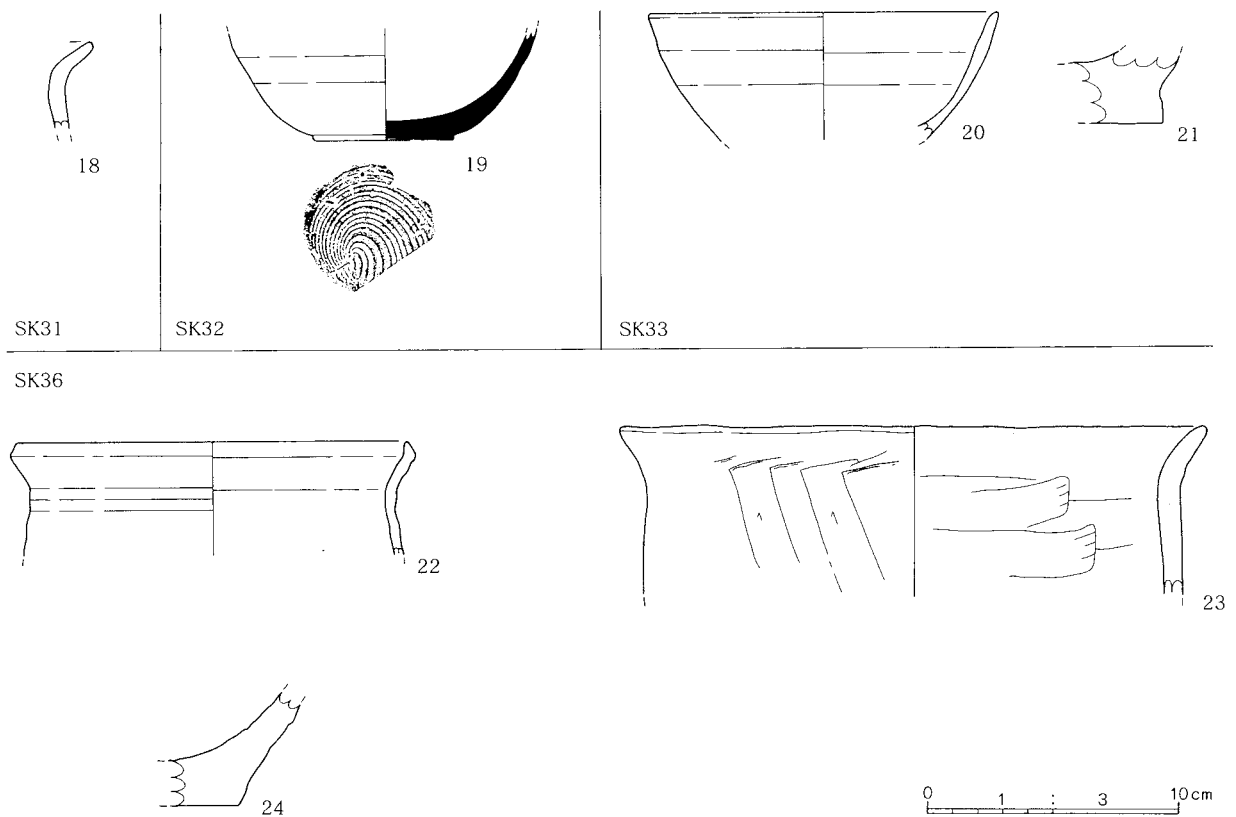


図89 土坑出土遺物 (SK31・32・33・36)

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

### 第39号土坑

[位置] BH-16~17グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形を呈し、長軸130cmを測る。深さは最深部で120cmを測る。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がり、100cmほど上位で僅かに外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

**(3) 溝跡****第2号溝跡**

[位置] BD-35～CV-33グリッドで確認されている。

[重複] 第1号住居・第1号溝跡、第5号住居・第11号溝跡、第15号溝跡、第16号溝跡と重複している。これらより本溝跡の方が新しい。

[平面形・規模] 幅は60～170cmであるが、調査区外まで延伸するので本来的な長さは不明である。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。全体的には北から南に向けて緩く傾斜する。

[堆積土] 自然堆積を主体とする。白頭山・苦小牧火山灰を覆土中に含む遺構を明瞭に切っていることから、構築時期は同火山灰降下後と思われる。

[遺物] 土師器、須恵器の坏、甕等の破片が出土している。

**第4号溝跡**

[位置] CT-37～39グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 幅は約40cm、確認された範囲内の長さは約5mである。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁は緩く外傾しながら立ち上がる。西から東に向けて緩く傾斜する。

[堆積土] 自然堆積を主体とするようである。

[遺物] 土師器甕の破片が若干出土している。

**第5号溝跡**

[位置] BS-34～CF-38グリッドで確認されている。

[重複] 第6号溝跡と合流している。新旧関係は把握できず、両者は同時期のものと推定される。

[平面形・規模] 幅は60～80cm程度で、長さは約54mである。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、西側の壁は外傾しながら立ち上がり、東側の壁はほぼ垂直に立ちあがる。南から北に向けて緩く傾斜している。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器甕の破片が若干出土している。

**第6号溝跡**

[位置] BR-34～BX-37グリッドで確認されている。

[重複] 第5号溝跡と合流した後、第2号溝跡と合流している。先述したように第5号溝跡とは同時期のものと推定されたが、第2号溝跡との間でも合流部での新旧関係は把握できなかったため、3者とも同時期のものと思われる。

[平面形・規模] 幅は50～70cm程度で、確認できる範囲での長さは約30mである。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。南から北に向けて緩く傾斜して

いる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器、須恵器の坏の破片等が出土している。

### 第12号溝跡

[位置] C V-12～C X-14グリッドで確認されている。

[重複] 第13号溝跡と重複している。本溝跡の方が新しいと思われるが不明確である。

[平面形・規模] 幅は約60～80cmであるが、長さは両端が調査区外にかかるため不明である。

[壁・底面] 底面は丸底状で、壁は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

### 第13号溝跡

[位置] C M-15～C X-12グリッドで確認されている。

[重複] 第12号溝跡、第2号焼土と重複している。第12号溝跡よりは本溝跡の方が古いと思われるが不明確である。第2号焼土よりは本溝跡の方が新しい。

[平面形・規模] 幅は40～70cm程度であるが、両端が調査区外まで延伸するため長さは不明である。本溝跡の走行性に沿って北に辿ると第32号溝跡と連続するようにも見える。堆積土の状況等を鑑みても両者は一連の溝跡であった可能性が高い。また走行性に沿って南に辿ると野尻(4)遺跡の溝跡にも本溝跡に連続するものがあった可能性が考えられる(図5参照)

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁はやや外傾しながら立ち上がる。底面の傾斜はあまり明確でない。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器坏の破片が出土している。

### 第14号溝跡

[位置] C G-13～C Q-12グリッドで確認されている。

[重複] 第2号焼土と重複している。本溝跡の方が新しい。

[平面形・規模] 幅は約50～70cmであるが、調査区外まで延伸しているため本来の長さは不明である。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。部分的ではあるが堆積土中に白頭山・苫小牧火山灰が確認されることから、本溝跡の構築時期は同火山灰の降下以前と思われる。

[遺物] 出土していない。

**第15号溝跡**

[位置] B I - 36 ~ B L - 30グリッドで確認されている。

[重複] 第2号溝跡と重複している。本溝跡の方が古い。

[平面形・規模] 幅は約40~160cmで一定せず、流路も蛇行している。

[壁・底面] 底面の状態も一定しないが、壁は外傾して立ち上がる。西から東に向けて傾斜している。

[堆積土] 自然堆積と思われる。他の溝跡の覆土中にはあまり含まれない砂が本溝跡には顕著に含まれる。

[遺物] 土師器、須恵器の甕の破片等が出土している。

**第24号溝跡**

[位置] B R - 31 ~ B S - 26グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 幅は30~40cmで長さは約15.2mでほぼ直線的に伸びる。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁はほぼ直立する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 須恵器、土師器の甕の破片が出土している。

**第25号溝跡**

[位置] B T - 27 ~ 29グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 幅は約70~120cmであるが、両端が調査区外に係るため全体像は不明である。形態的にはコの字状を呈するものと思われ、その向きも他の建物跡の外周溝と共通していることから、本溝跡は調査区外に存在する竪穴住居跡を囲む外周溝であった可能性が高いものと思われる。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で壁は緩く外傾しながら立ち上がる。

[堆積土] 人為的な堆積と自然堆積が混在するようである。最上位には白頭山・苦小牧火山灰が確認されている。

[遺物] 土師器杯、甕の破片や須恵器甕の破片が出土している。

**第32号溝跡**

[位置] B F - 13 ~ B W - 15グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 幅は50~60cmであるが両端は調査区外まで延伸するため長さは不明である。第13号溝跡の項で述べたように両者は本来一連のものであった可能性が考えられる。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、壁は床面からしばらくはほぼ直立し、途中から外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 土師器杯、甕の破片、須恵器甕の破片等が出土している。

### 第33号溝跡

[位置] B T～B U-26～27グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 幅は約20～100cmであるが調査区外に延伸するため全体像は不明である。確認できた部分の特徴から類推すると、本溝跡は本来竪穴住居跡を取り囲む外周溝であった可能性が考えられる。

[壁・底面] 壁は底面から外傾して立ち上がるが、床面の深さは一定しない。

[堆積土] 人為堆積と思われる。

[遺物] 土師器甕や須恵器坏の破片が出土している。

### 第34号溝跡

[位置] B U-25グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 幅は60～80cmであるが、大半は調査区外であるため全体像は不明である。確認できた部分はちょうど屈曲部に当たるが、屈曲の状態や溝の向き等から、本溝跡も本来は竪穴住居跡を取り囲む外周溝であった可能性が考えられる。

[壁・底面] 底面は比較的平坦であるが深さは一定しない。壁は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 人為的な堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

### 第35号溝跡

[位置] B O-28～29グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 幅は30～80cm、長さは約3.8mである。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で壁は緩く外傾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[遺物] 出土していない。

### 第36号溝跡

[位置] B R-18～B T-17グリッドで確認されている。

[重複] 第13号建物跡のS D26部分と重複しているが、本溝跡の方が古い。

[平面形・規模] 幅は約60～100cm程度であるが、S D26との重複部は不明確である。コの字状を呈する点では外周溝と共通するが、他の外周溝とは開口する向きが異なる。

[壁・底面] 底面も壁の立ち上がりも一定しない。

[堆積土] 人為的堆積と思われる。

[遺物] 土師器、須恵器の坏、甕の破片等が出土している。他に甕のミニチュア土器や土鈴の破片も出土している。

(太田原 潤)

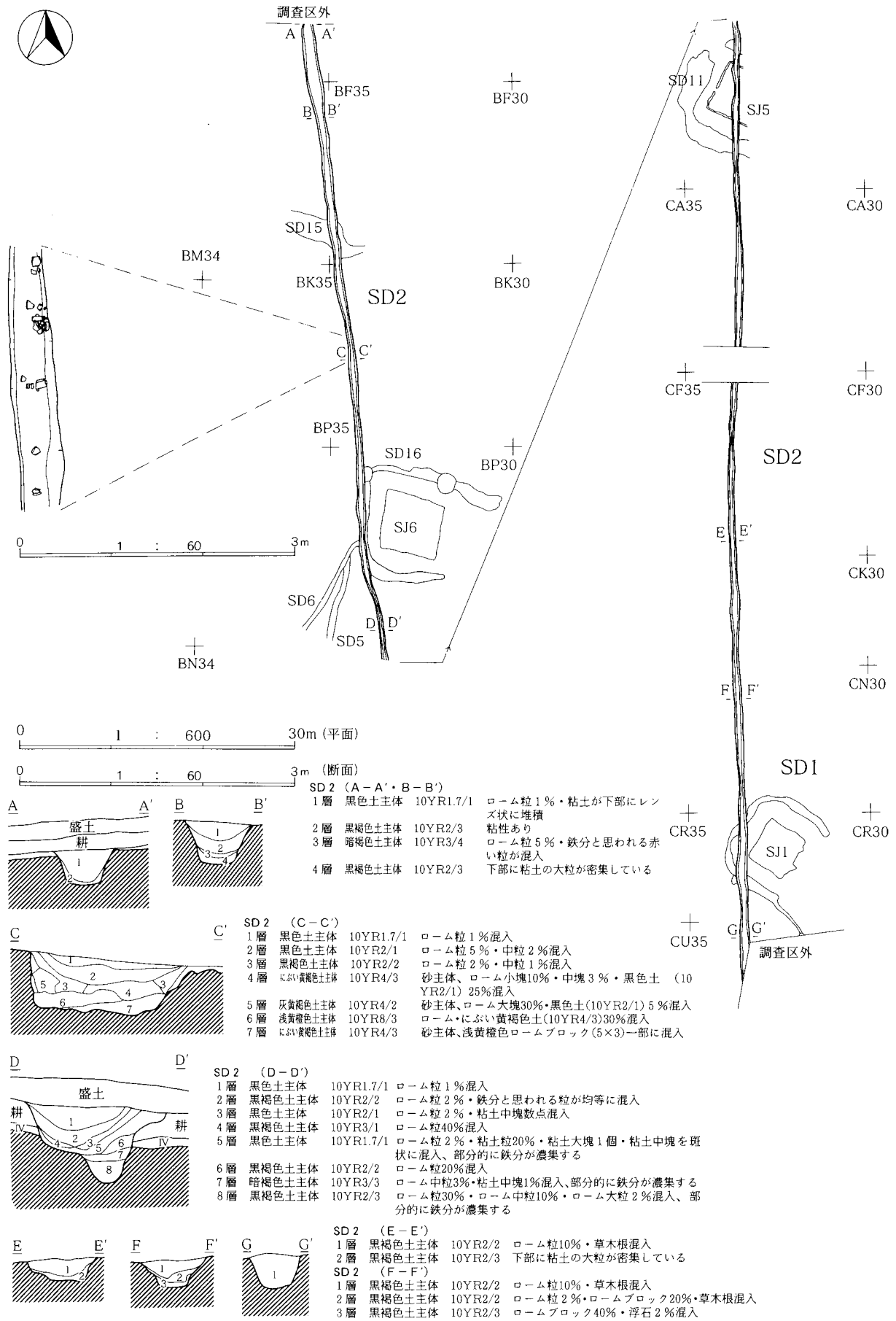
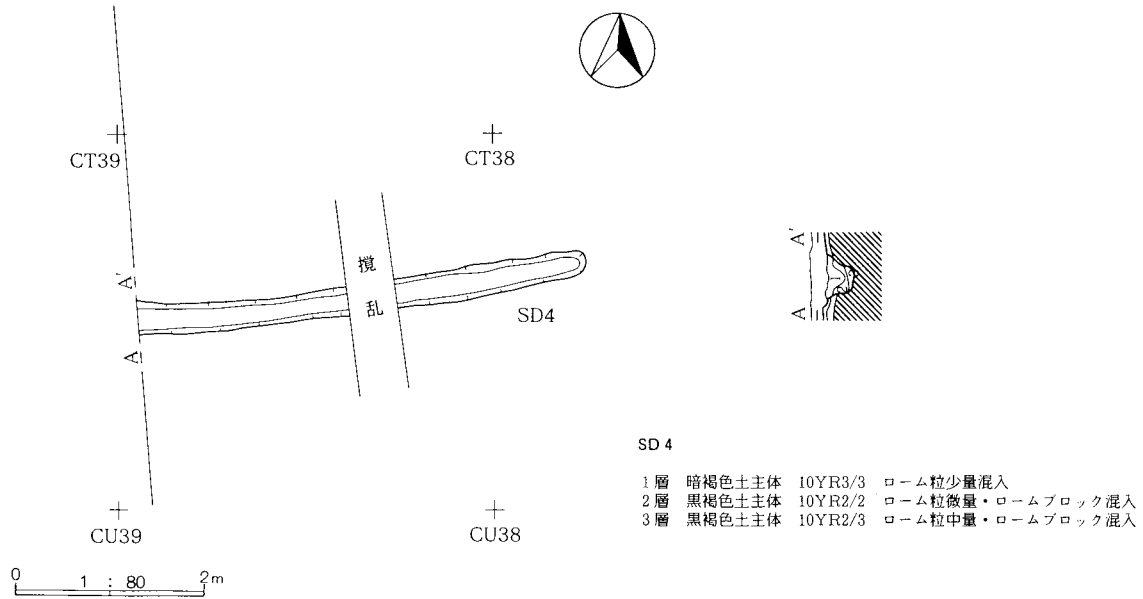


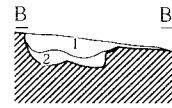
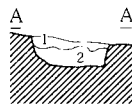
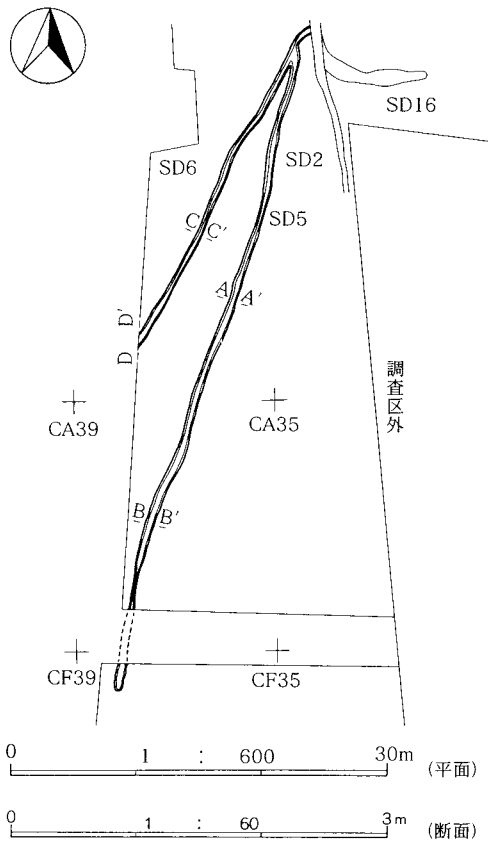
図90 溝跡 (SD2)





SD 4

- 1層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒少量混入
- 2層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒微量・ロームブロック混入
- 3層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒中量・ロームブロック混入

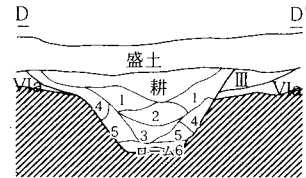
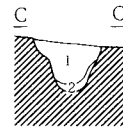


SD 5 (A-A')

- 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒少量混入
- 2層 暗褐色土主体 10YR3/2 ローム粒少量・ロームブロック (5~12cm) 7~8個・(2~3) 数個混入

SD 5 (B-B')

- 1層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒少量・ロームブロック混入
- 2層 暗褐色土主体 10YR3/4 ローム粒少量・ロームブロック多数混入



SD 6 (C-C')

- 1層 黒色土主体 10YR1.7/1
- 2層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒少量混入

SD 6 (D-D')

- 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒15%混入
- 2層 黒色土主体 10YR2/1 ローム粒5%・炭化物粒10%混入
- 3層 黒褐色土主体 10YR3/2 ローム粒1%・炭化物粒7%混入
- 4層 黒褐色土主体 10YR2/3 ローム粒30%・ロームブロック(7×6cm)混入
- 5層 暗褐色土主体 10YR3/3 ローム粒20%・炭化物粒5%混入
- 6層 灰黄色土主体 10YR4/2 ローム粒40%・炭化物粒15%混入

図91 溝跡 (SD 4・5・6)

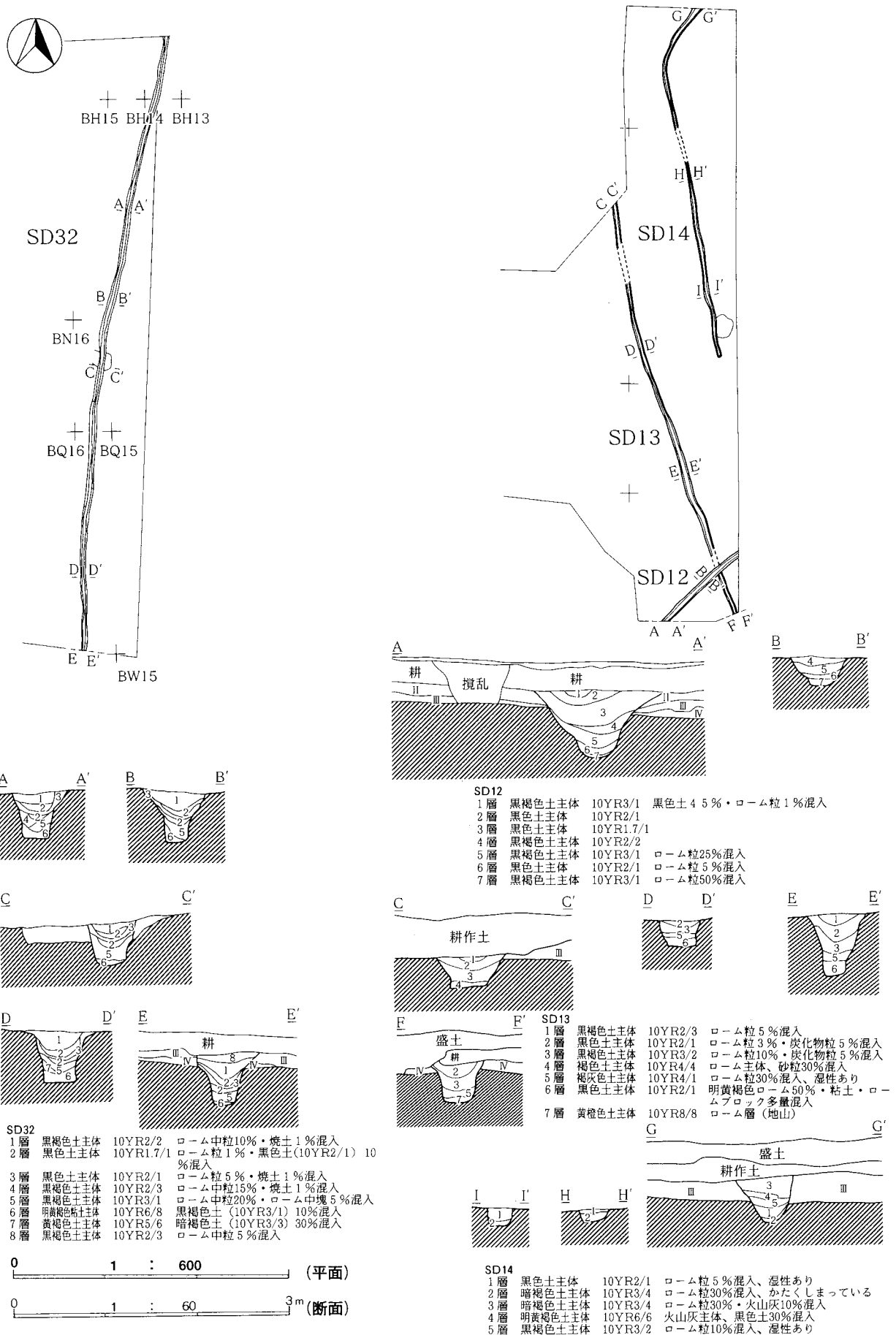


図92 溝跡 (SD12・13・14・32)

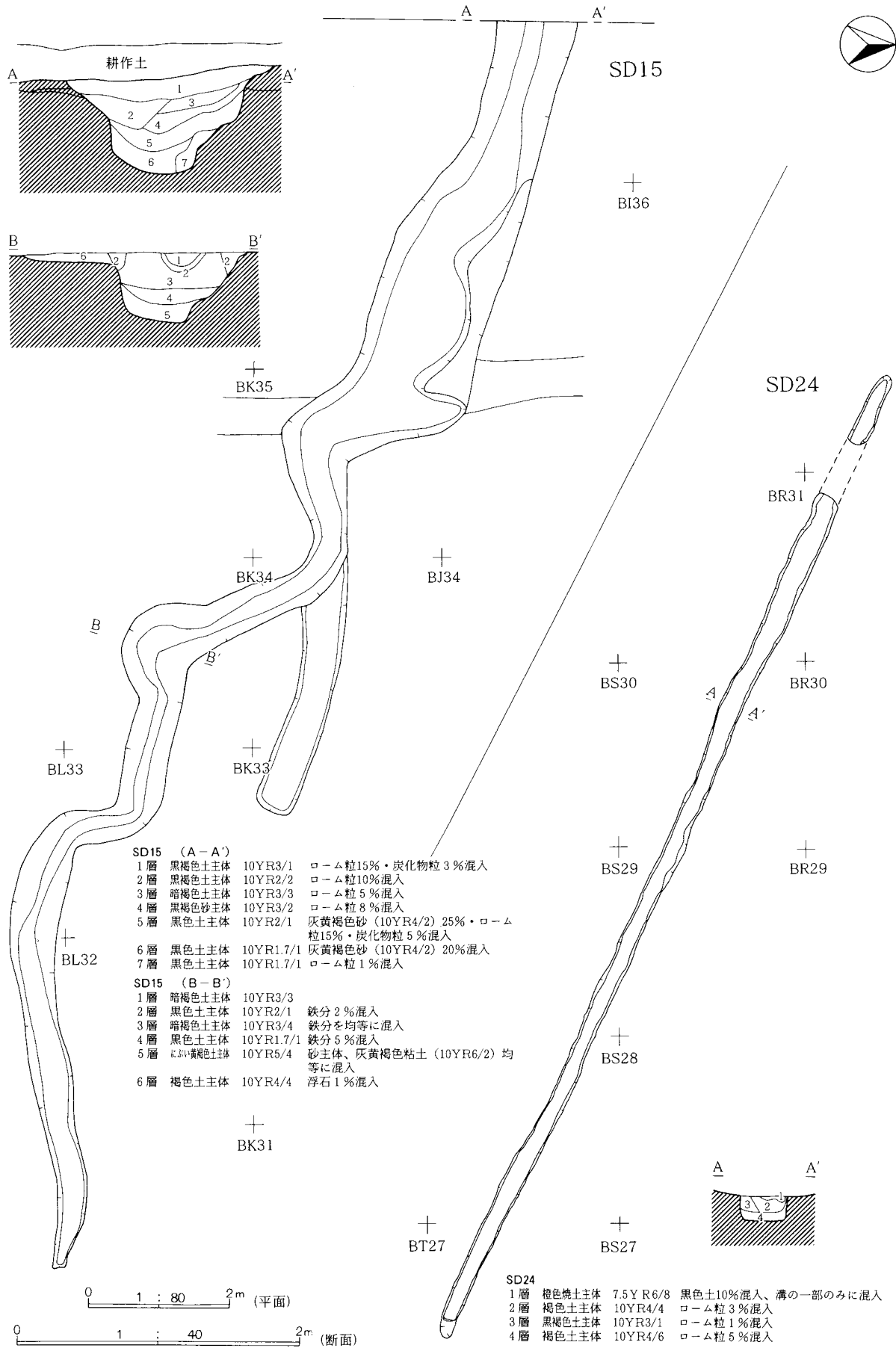
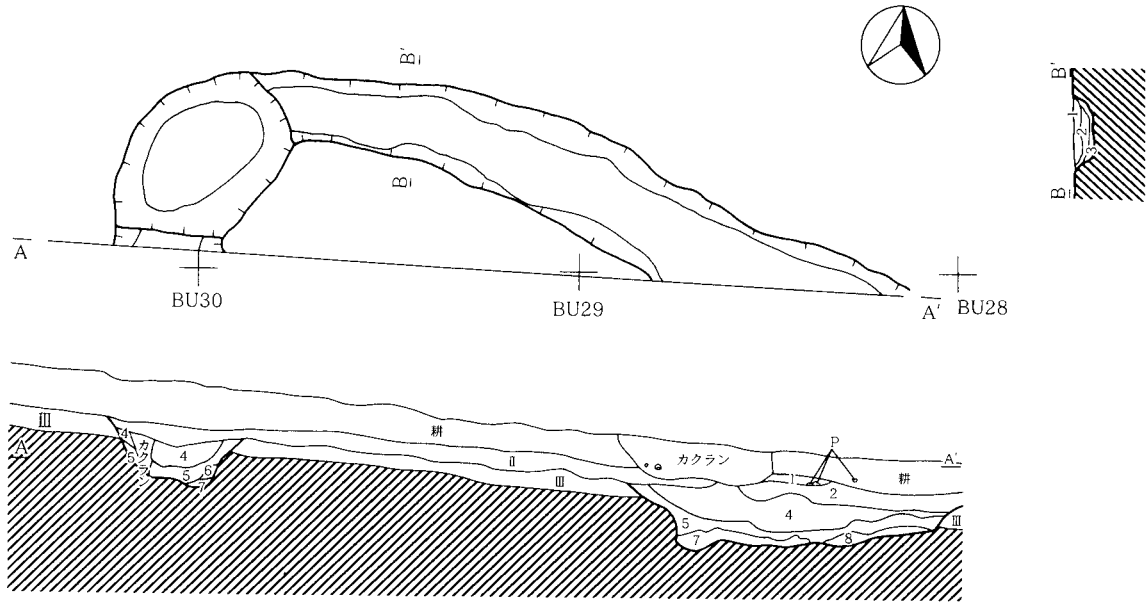


図93 溝跡 (SD15・24)

SD25



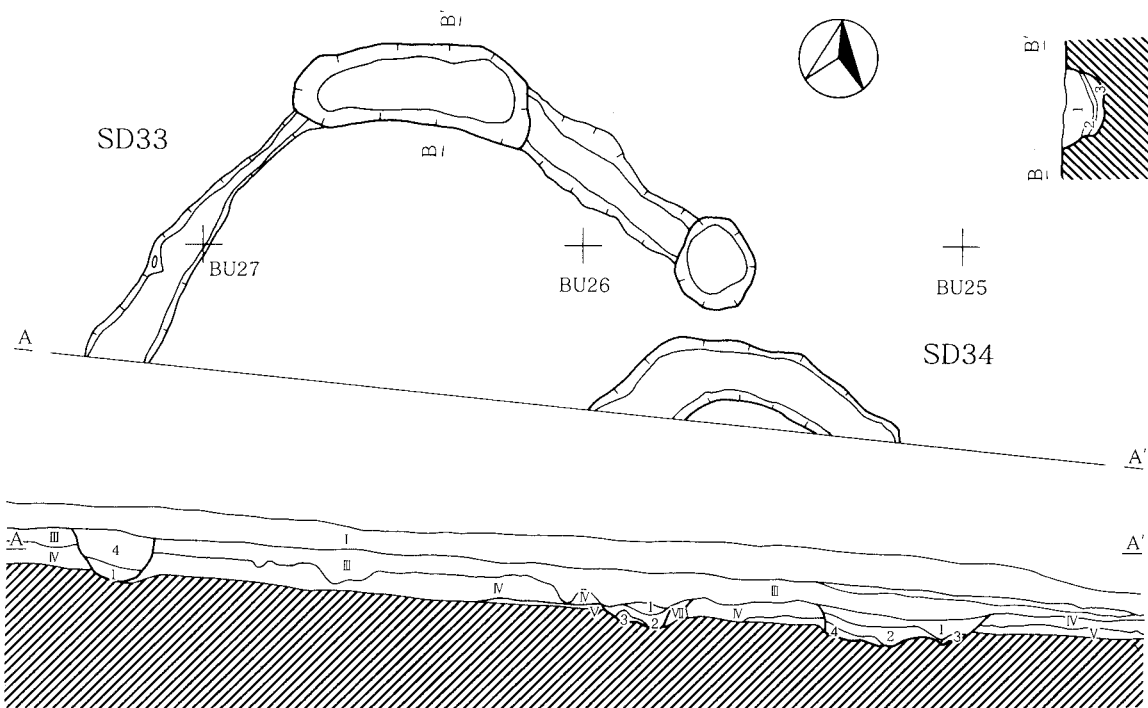
SD25 (A-A')

- |    |         |         |                            |
|----|---------|---------|----------------------------|
| 1層 | 明黄褐色土主体 | 10YR6/6 | 火山灰                        |
| 2層 | 黒褐色土主体  | 10YR3/2 | 焼土粒2%・炭化物2%・浮石1%混入         |
| 3層 | 黒褐色土主体  | 10YR2/2 |                            |
| 4層 | 黒褐色土主体  | 10YR3/1 | 明黄褐色ローム(10YR7/6)中塊40%斑状に混入 |
| 5層 | 黒褐色土主体  | 10YR2/2 | ローム中粒3%・焼土粒1%混入            |
| 6層 | 黒色土主体   | 10YR2/1 | 明黄褐色ローム(10YR7/6)中粒1%混入     |
| 7層 | 明黄褐色土主体 | 10YR7/6 | ローム主体、黒色土(10YR2/1)20%混入    |

SD25 (B-B')

- |    |         |         |                     |
|----|---------|---------|---------------------|
| 1層 | 黒色土主体   | 10YR2/1 | ローム粒下層に5%混入         |
| 2層 | 暗褐色土主体  | 10YR3/4 | ローム中~大塊30%混入        |
| 3層 | 明黄褐色土主体 | 10YR7/6 | ローム・粘土塊30%・黒色土10%混入 |

SD33



SD33・34 (A-A')

- |    |        |           |                     |
|----|--------|-----------|---------------------|
| 1層 | 黒色土主体  | 10YR2/1   | ローム粒1%・炭化物1%・焼土1%混入 |
| 2層 | 黒色土主体  | 10YR1.7/1 | ローム粒10%混入           |
| 3層 | 黄褐色土主体 | 10YR5/6   | 黒色土10%混入            |
| 4層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2   | ローム粒1%混入            |

SD33 (B-B')

- |    |        |         |            |
|----|--------|---------|------------|
| 1層 | 黒褐色土主体 | 10YR2/2 | ローム中粒10%混入 |
| 2層 | 黒色土主体  | 10YR2/1 | ローム粒1%混入   |
| 3層 | 黒褐色土主体 | 10YR3/3 | ローム大粒13%混入 |

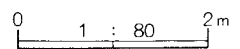
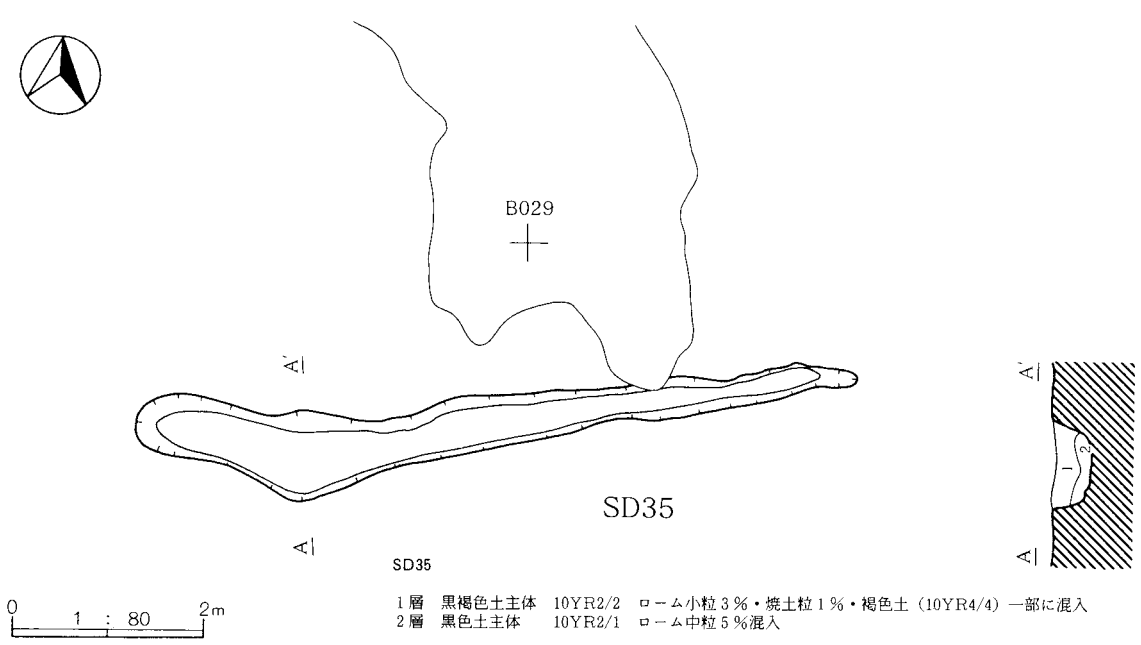


図94 溝跡 (SD25・33・34)



SD35

- 1層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム小粒3%・焼土粒1%・褐色土(10YR4/4)一部に混入
- 2層 黒色土主体 10YR2/1 ローム中粒5%混入

図95 溝跡 (SD35)

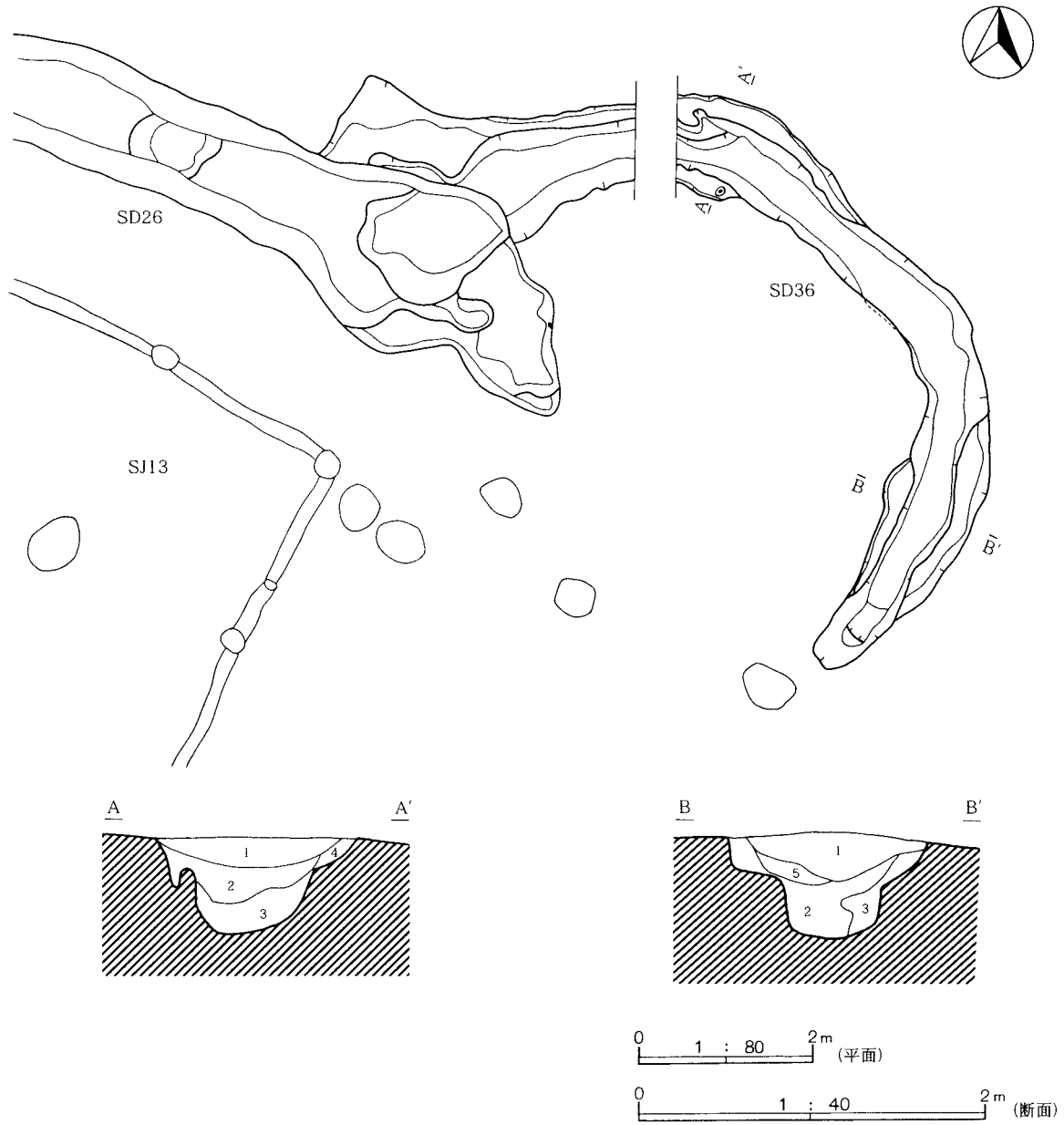


図96 溝跡 (SD36)

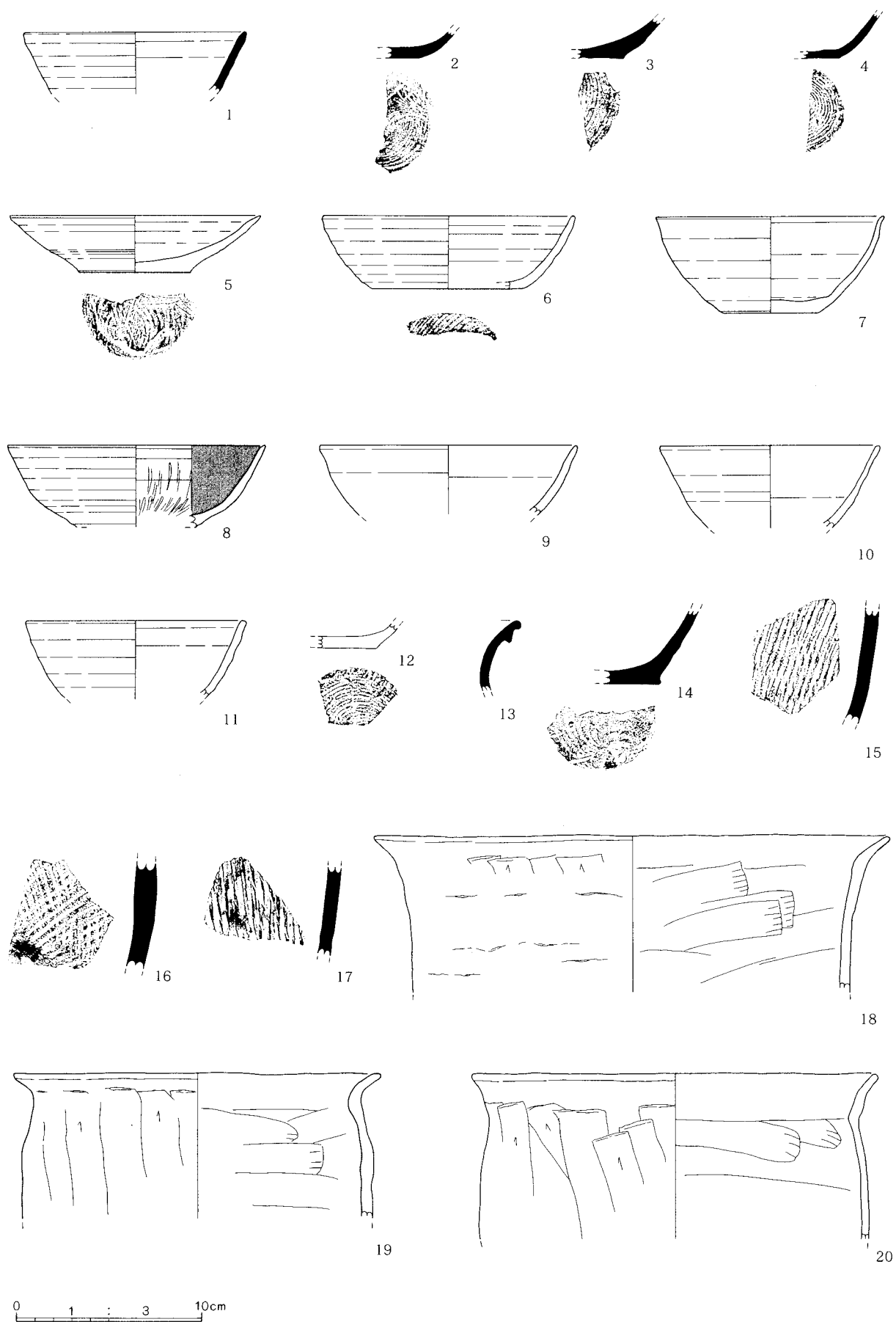


図97 溝跡出土遺物 (SD 2)

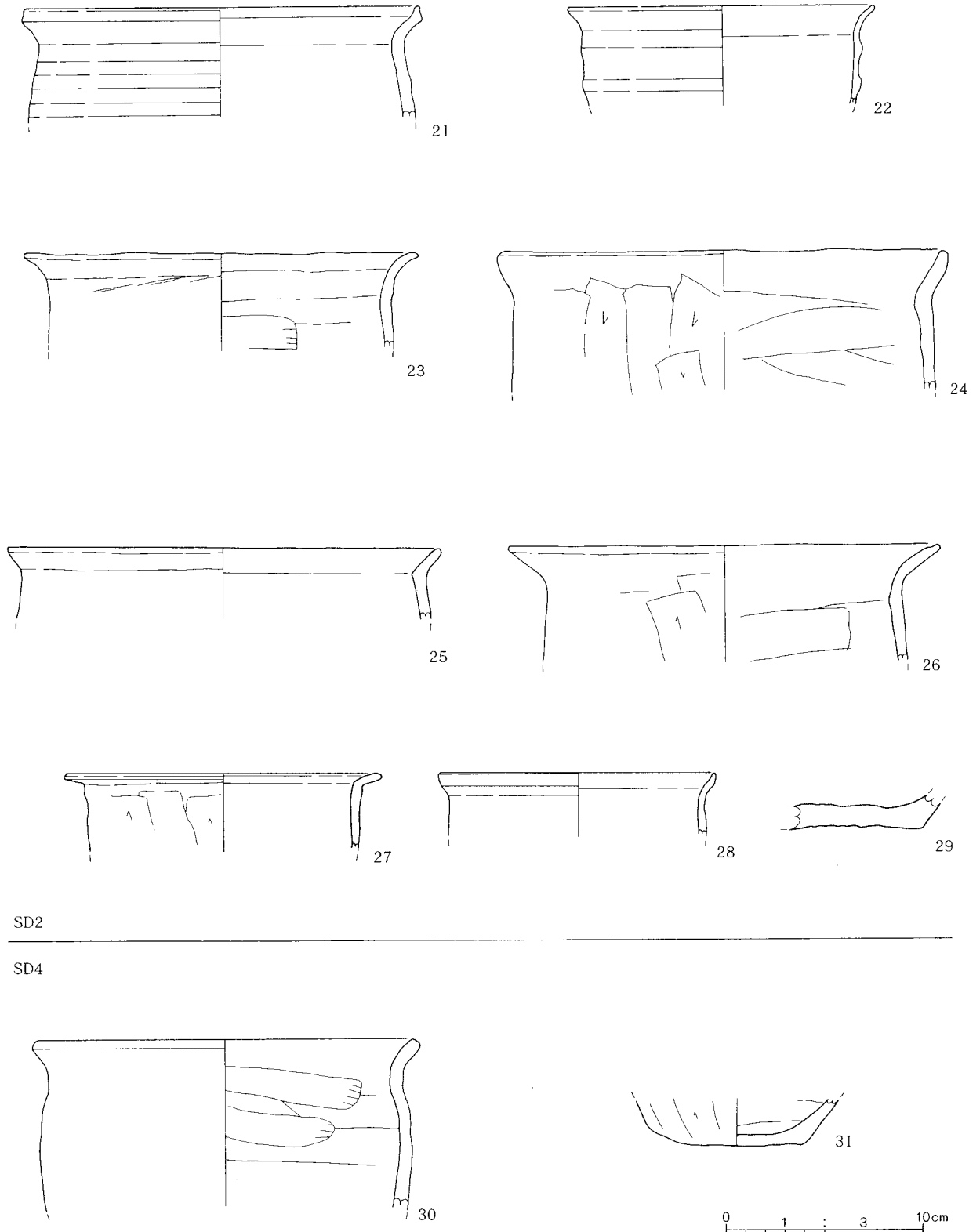


図98 溝跡出土遺物 (SD 2・4)



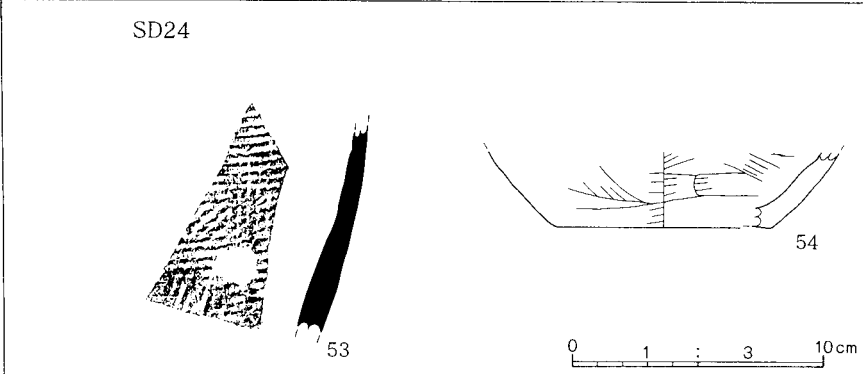
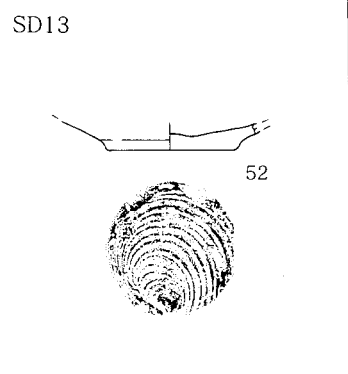
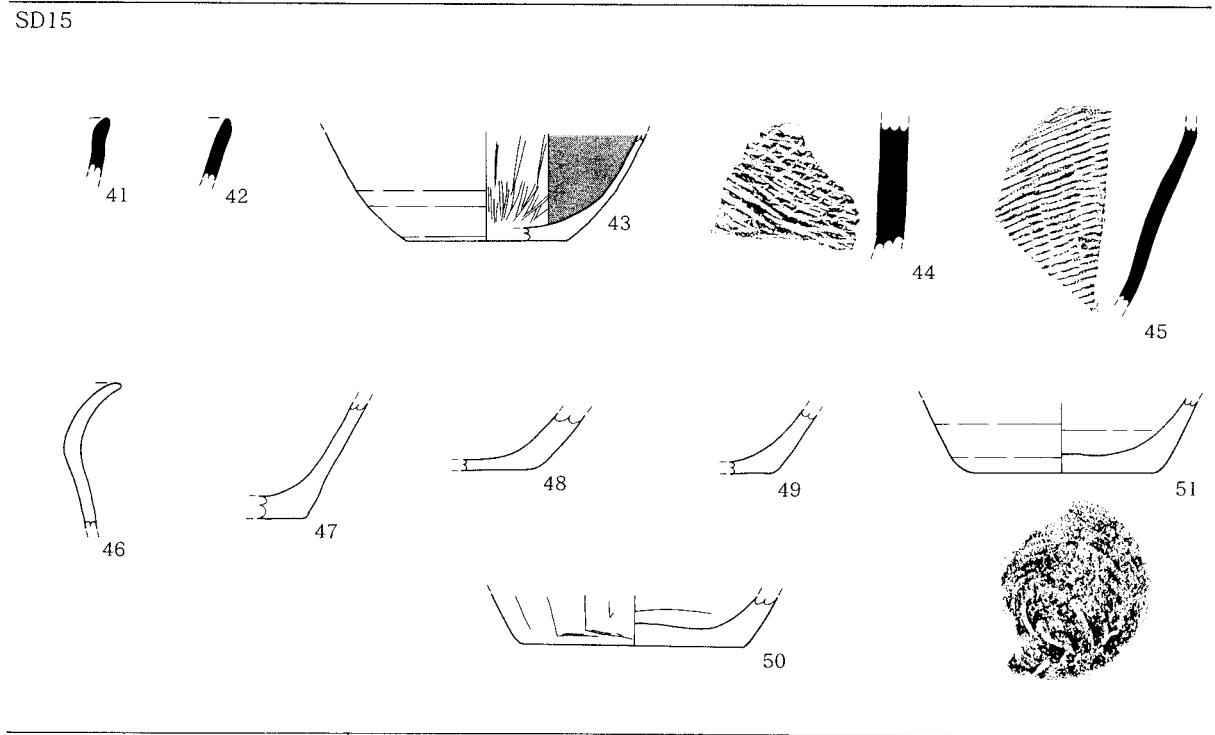
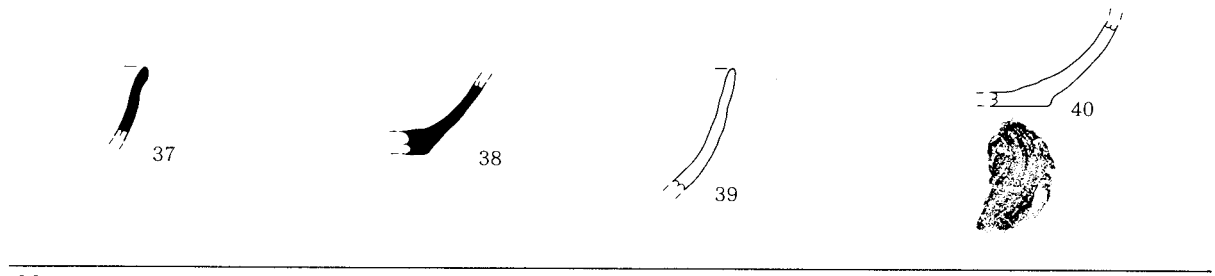
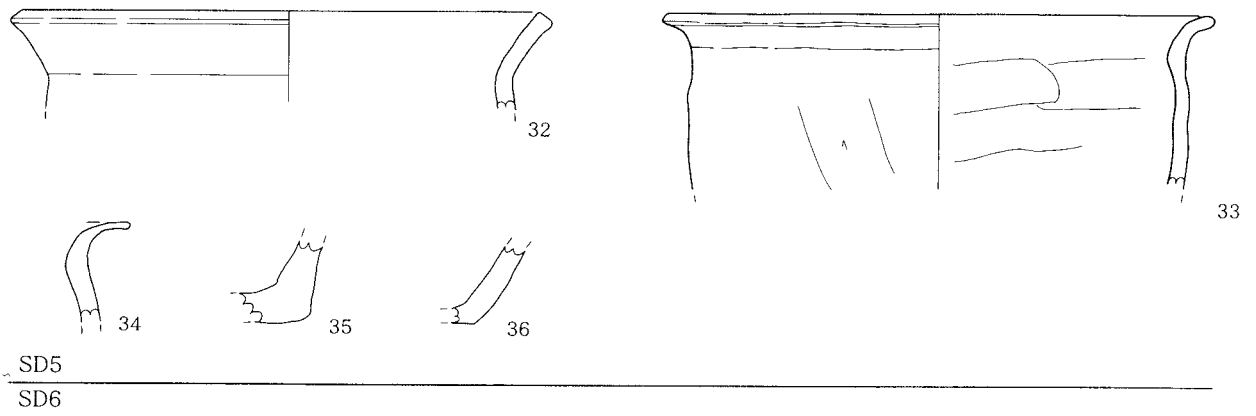


图99 溝跡出土遺物 (SD 5 · 6 · 13 · 15 · 24)

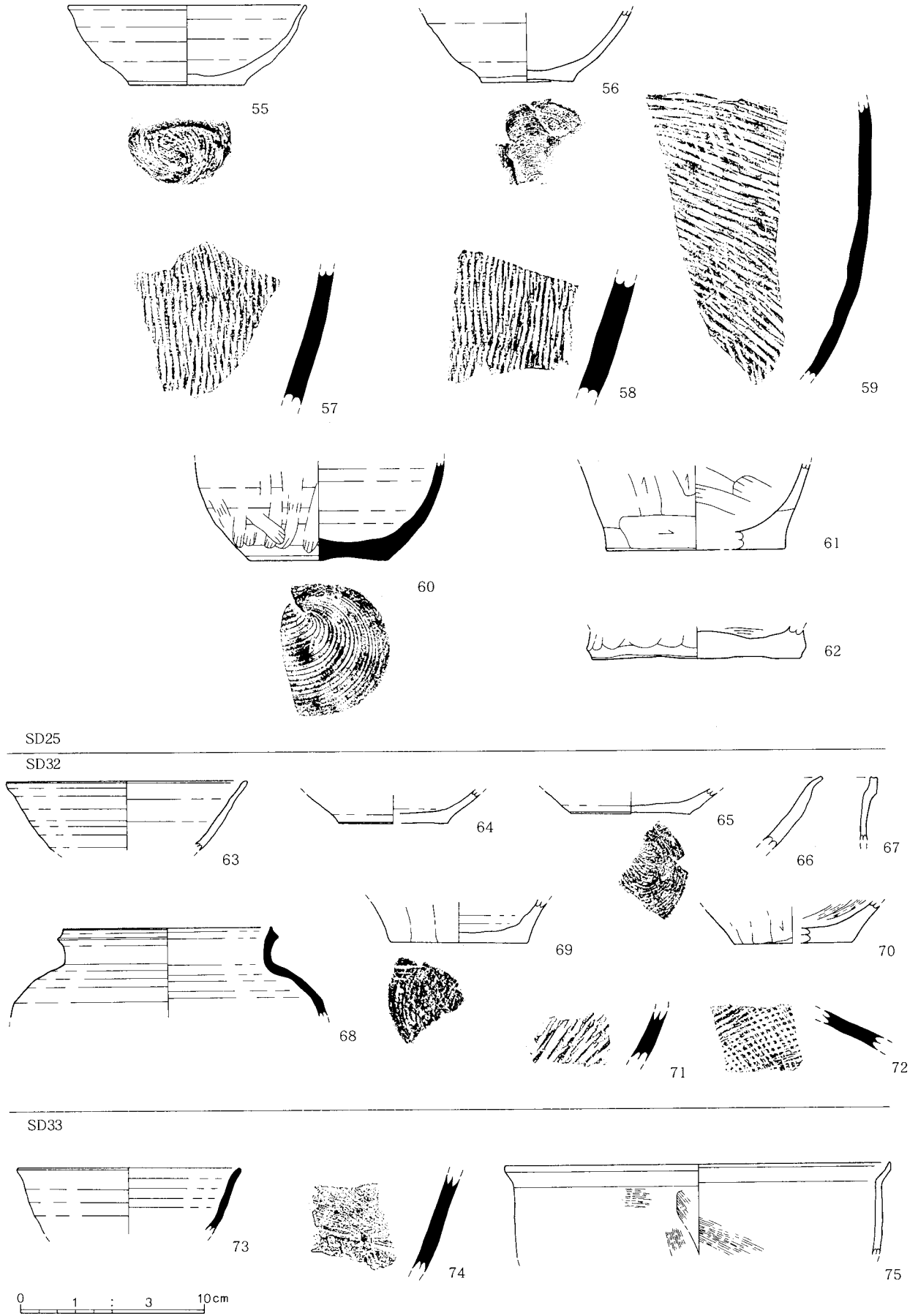


图100 溝跡出土遺物 (SD25・32・33)

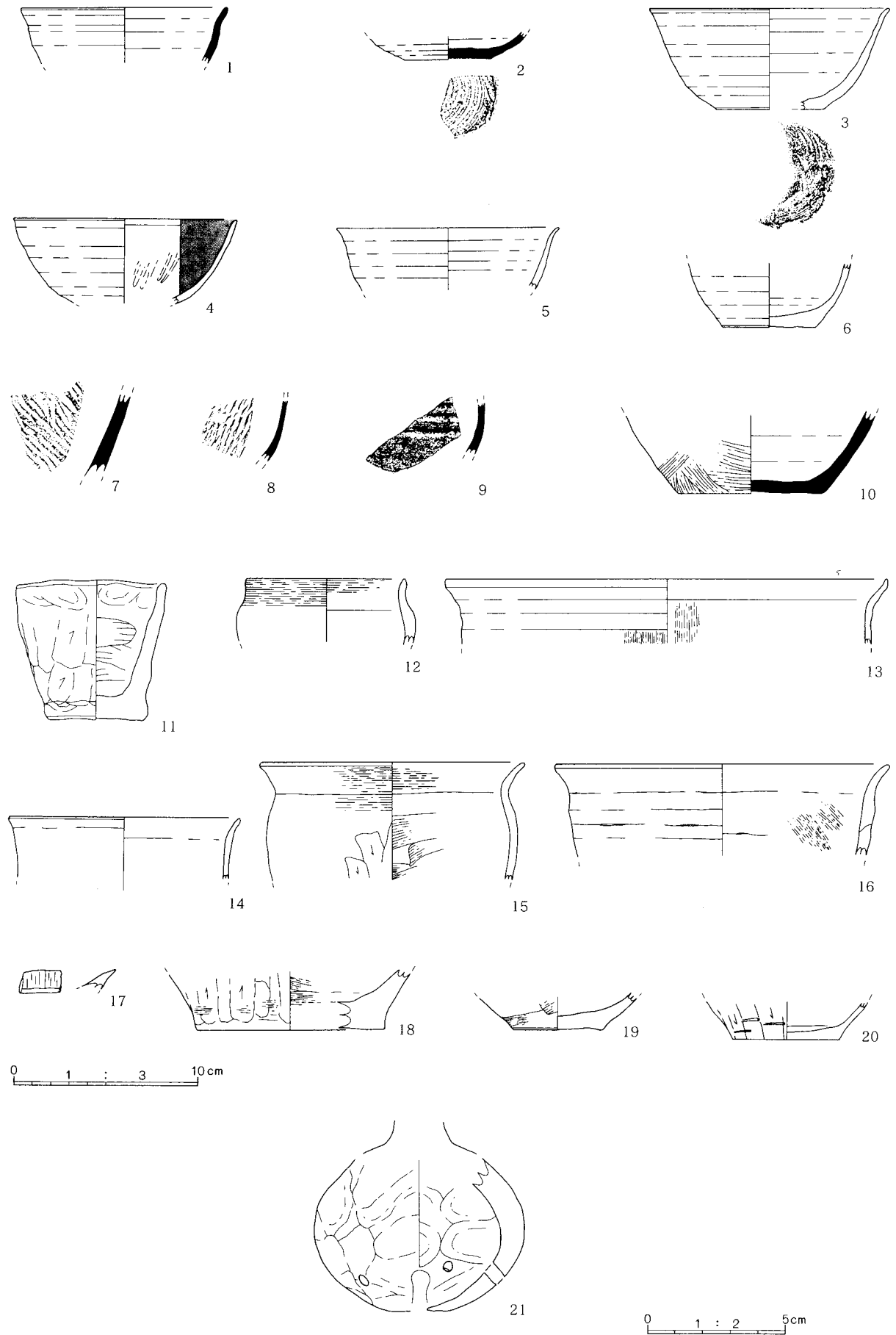


图101 溝跡出土遺物 (SD36)

**(4) 掘立柱建物跡****第11号掘立柱建物跡**

[位置] BG-23～BH-24グリッドで確認されている。

[重複] なし。竪穴住居跡等に付随しない単独の掘立柱建物跡である。

[平面形・規模] 約4.0×4.6mの長方形である。

[遺物] 出土していない。

**(5) 埋設土器****第1号埋設土器**

[位置] BT-35グリッドで確認されている。ちょうど第5号溝跡と第6号溝跡の間に位置する。

[重複] なし。

[壁・底面] 断ち割ってみても掘り方は明確でなく、最低限の掘り込みに土師器の甕を埋設したものである。

**(6) 焼土遺構****第1号焼土遺構**

[位置] DC-35～DD-37グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形である。

[壁・底面] 特に掘り込み等はなく、浅い窪地に焼土が堆積したようにも見える。

[堆積土] 場所により赤化の程度に若干の差はあるが、焼土を主体としている。

[遺物] 出土していない。

**第2号焼土遺構**

[位置] CP-12～15グリッドで確認されている。

[重複] 第14号溝跡と重複するが本焼土遺構の方が古い。第14号溝跡からは白頭山・苫小牧火山灰が検出されていることから、本焼土遺構が形成されたのは同火山灰降下以前と思われる。

[平面形・規模] 不整形の焼土域が断続的に連なる。

[壁・底面] 特に掘り込み等はなく、浅い窪地に焼土が堆積したようにも見える。

[堆積土] 場所により赤化の程度に若干の差はあるが、焼土を主体としている。

[遺物] 出土していない。

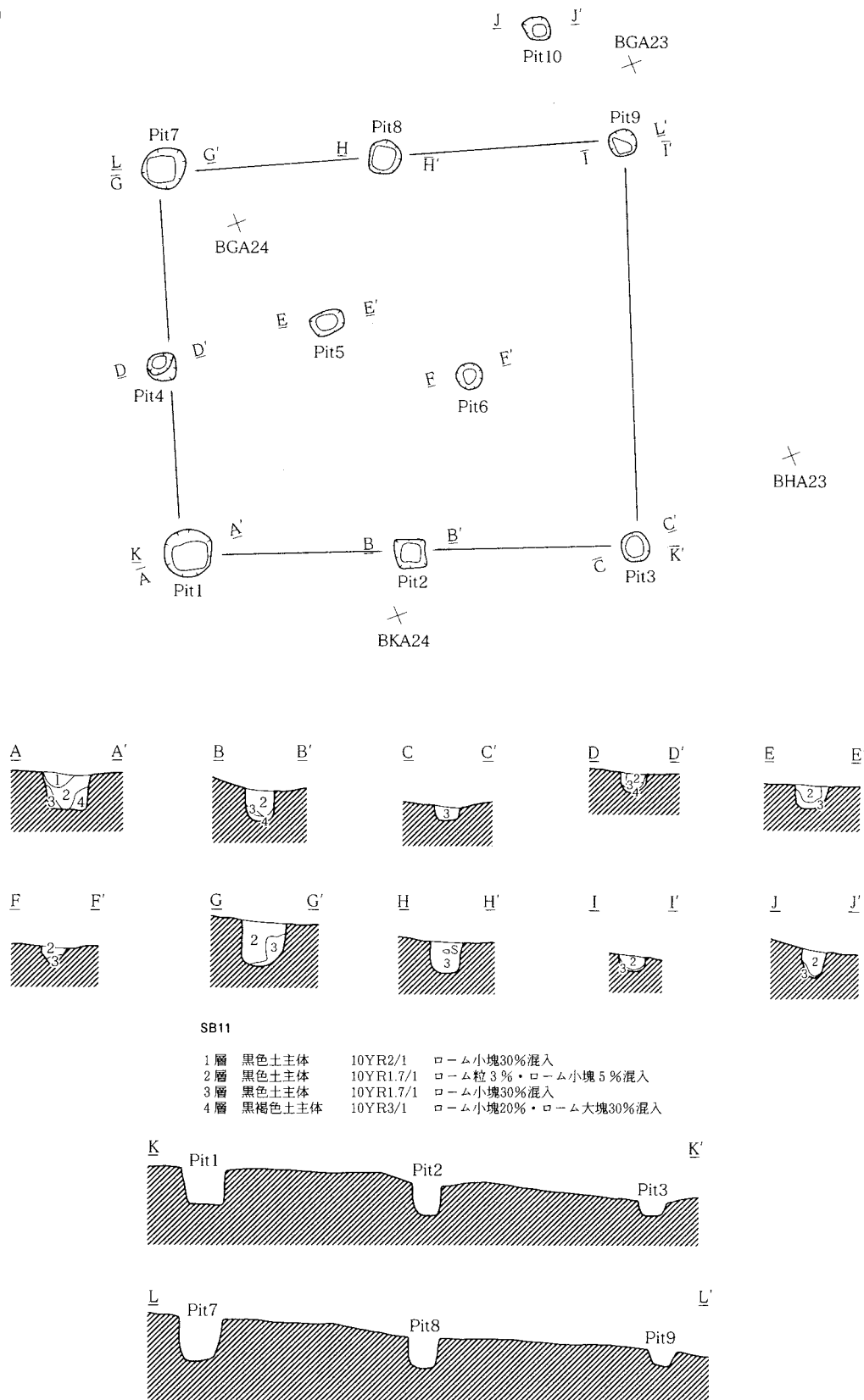
**第3号焼土遺構**

[位置] BL-30～BM-32グリッドで確認されている。

[重複] 第23号溝跡と重複するが、本焼土遺構の方が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整形である。

[壁・底面] 特に掘り込み等はない。



0 1 : 60 3m

图102 掘立柱建物跡 (SB11)

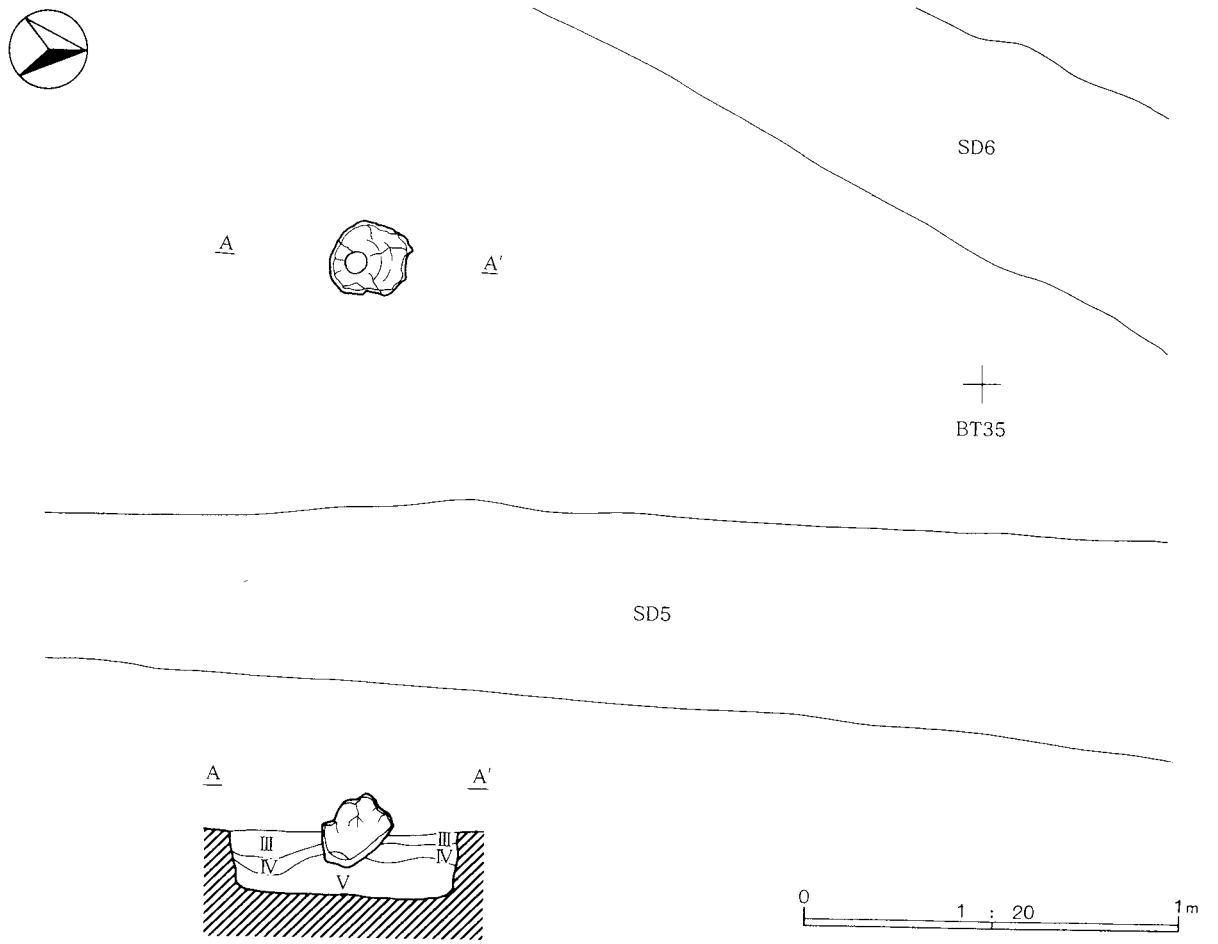


图103 1号埋設土器出土状態

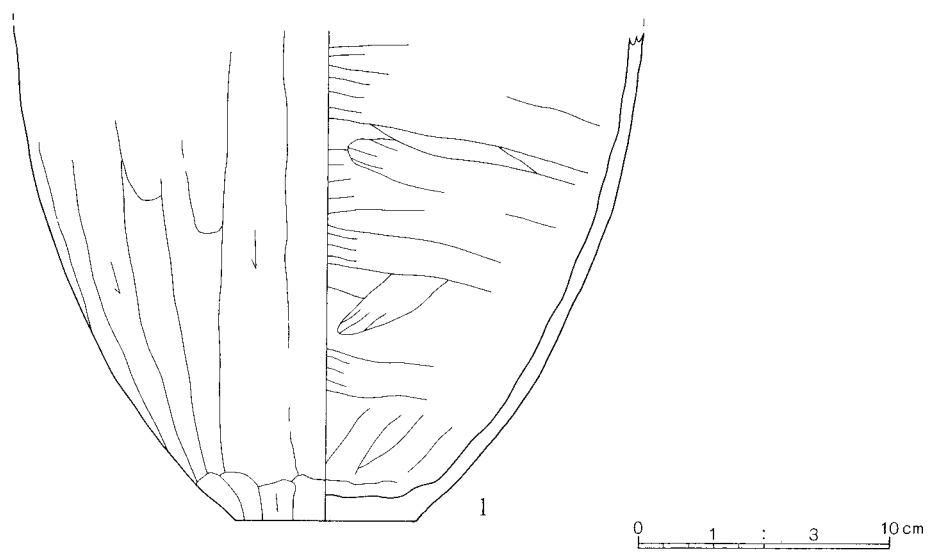


图104 1号埋設土器

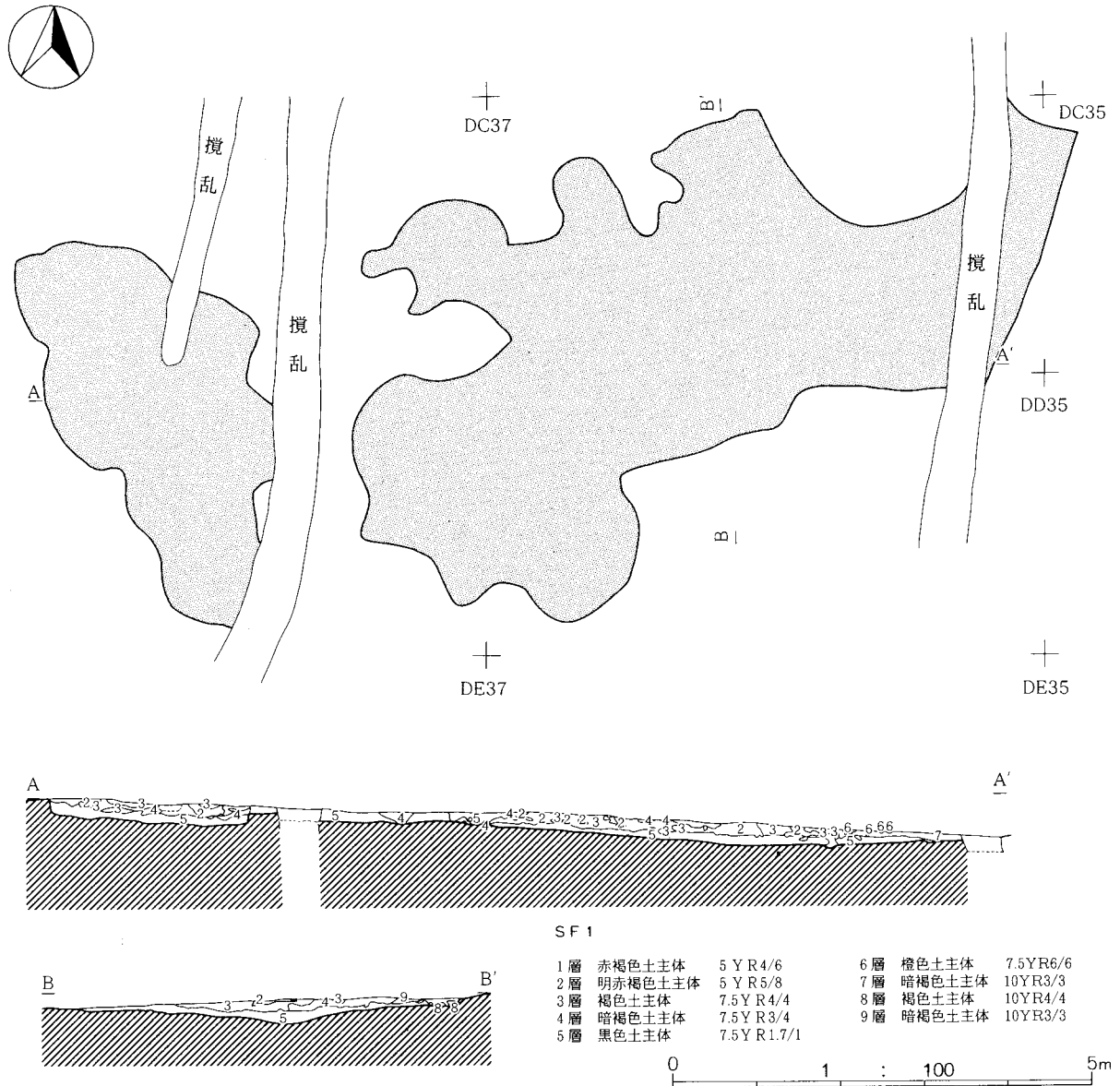


図105 焼土遺構 (SF 1)

[堆積土] 場所により赤化の程度に若干の差はあるが、焼土を主体としている。

[遺物] 出土していない。

#### 第4号焼土遺構

[位置] BM～BN-29グリッドで確認されている。

[重複] 第23号溝跡と重複するが、本焼土遺構の方が古い。

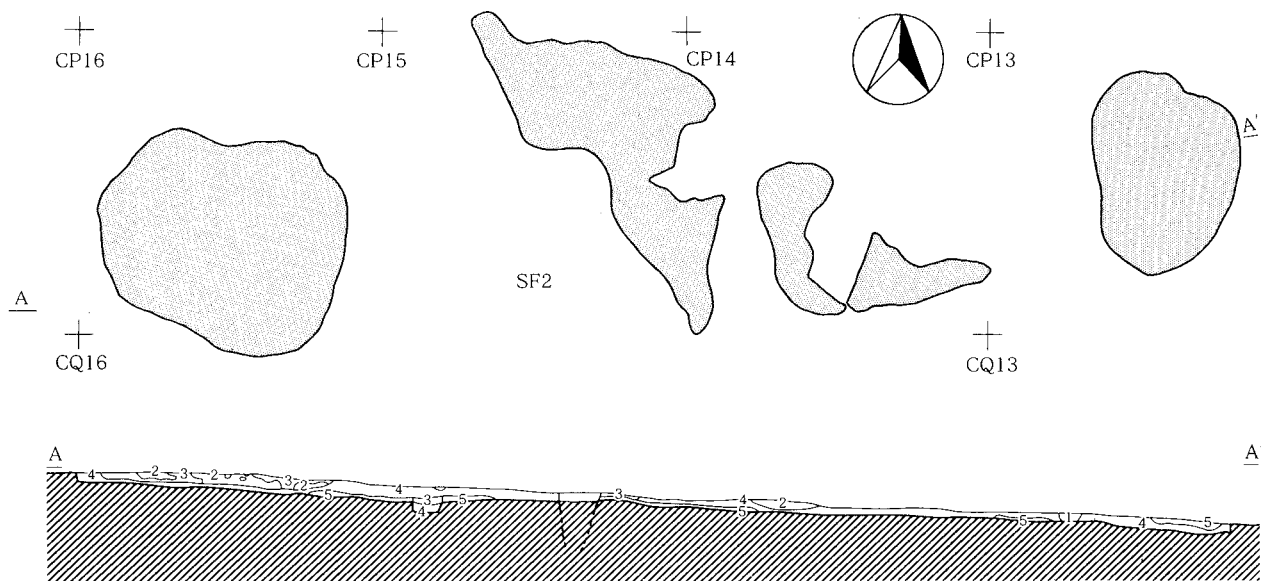
[平面形・規模] 平面形は不整形である。

[壁・底面] 特に掘り込み等はない。

[堆積土] 場所により赤化の程度に若干の差はあるが、焼土を主体としている。

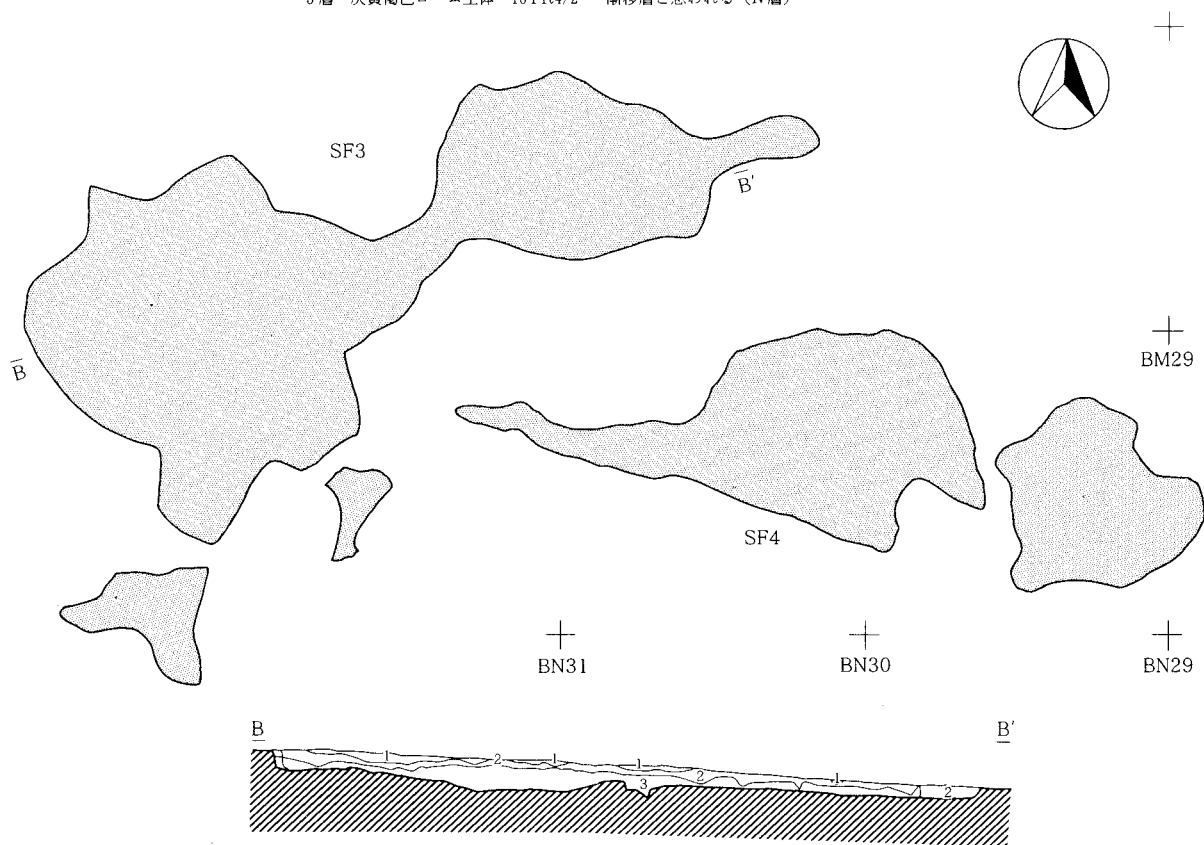
[遺物] 出土していない。

(太田原 潤)



S F 2

- |    |           |              |                  |
|----|-----------|--------------|------------------|
| 1層 | 明赤褐色焼土主体  | 5 Y R 5/8    | 焼土ブロック           |
| 2層 | 明褐色焼土主体   | 7.5 Y R 5/8  | 黒色土20%混入         |
| 3層 | 暗褐色焼土主体   | 7.5 Y R 3/4  | 黒色土50%混入         |
| 4層 | 黒色土主体     | 10 Y R 1.7/1 | ローム粒5%混入・粘性、湿性多い |
| 5層 | 灰黄褐色ローム主体 | 10 Y R 4/2   | 漸移層と思われる (IV層)   |



S F 3

- |    |        |             |   |
|----|--------|-------------|---|
| 1層 | 橙色焼土主体 | 7.5 Y R 6/8 | 黒褐色土 (10 Y R 3/2) 20%混入                         |
| 2層 | 黒褐色土主体 | 10 Y R 2/2  | 焼土粒10%・ローム粒5%混入                                 |
| 3層 | 黄褐色土主体 | 10 Y R 5/8  | 焼土中粒3%・黒色砂 (10 Y R 2/1) 均等に混入<br>鉄分と思われる物が10%混入 |

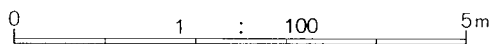


図106 焼土遺構 (SF 2・3・4)



### 第3節 その他の時代の遺構と遺物

#### (1) 縄文時代の遺構

##### 第8号土坑

[位置] CO-34グリッドで確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は狭長な楕円形で、長軸約220cm、短軸約35cmを測る。確認面からの深さは最深部で約70である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、長軸方向の壁面は底面から内湾して立ち上がり、途中で屈曲して外反する。単軸方向の壁面はほぼ垂直に立ち上がり前述の屈曲部の上位でやや外反する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形態から縄文時代の溝状土坑と判断したが、共伴遺物がないため詳細は不明である。

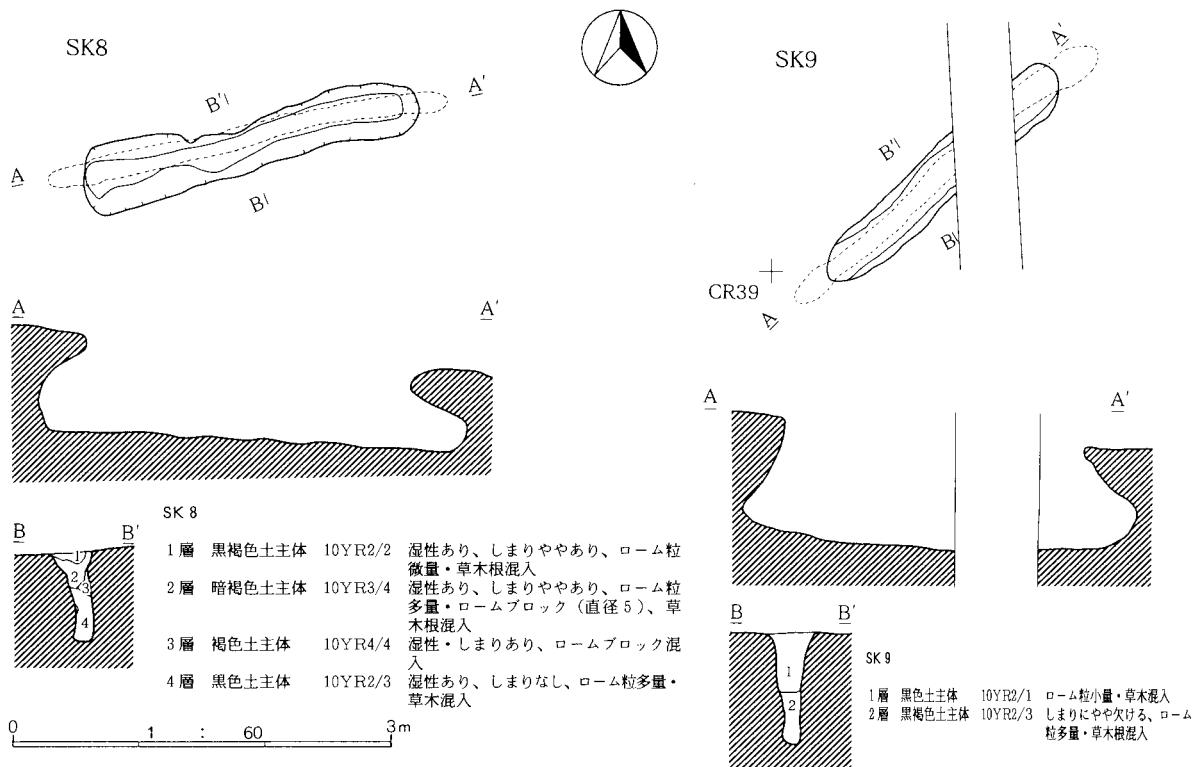


図107 溝状土坑 (SK 8・9)

**第9号土坑**

[位置] CQ-38グリッドで確認されている。

[重複] なし。現代の溝で一部欠失している。

[平面形・規模] 平面形は狭長な楕円形で、長軸約285cm、短軸約40cmを測る。確認面からの深さは最深部で約90である。

[壁・底面] 底面は比較的平坦で、長軸方向の壁は底面から内湾して立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 第8号土坑同様、形態から縄文時代の溝状土坑と判断したが、相伴する遺物がないため詳細は不明である。

**(2) 遺構外出土土器**

遺構外出土土器は3群に大別した。

**第1群土器 (図108-1~8)**

縄文時代前期の土器を一括した。全ての土器に繊維を含む。4の土器は比較的脆弱で文様も不明瞭であるが、単節RLを縦位及び横位に回転させた羽状縄文が施文されているようである。それ以外の土器は同一固体と思われ、結束第1種の羽状縄文と多軸絡条体の回転施文が見られる。焼成も良好で内面の調整も丁寧である。これらは円筒下層d式に比定されるものと思われる。

いずれもCT-36グリッド付近で確認されている。

**第2群土器 (図108-9~23)**

縄文時代後期の土器を一括した。文様等により更に2類に細別した。

**第1類土器 (9~23)**

いずれも沈線のみで文様が描出された土器である。10~20は同一固体の可能性が高い。9、22は別固体の口縁部である。23は沈線により何らかの文様が施された底部である。これらは十腰内式に比定されるものと思われる。23がBI-22から出土した以外は全てBF15グリッドからの出土である。

**第2類土器 (24~26)**

縄文のみが施された波状口縁の土器である。いずれも単節LRを横位に回転施文している。24、25はBY-34グリッドから、26はCO-15グリッドからの出土である。後期中葉に位置づけられるものと思われる。

**第3群土器 (図108-27)**

縄文時代晩期の土器を第3群とした。1点のみであるが口唇に小波状の刻みを有し、口縁部に2条の沈線を配しその下に単節RLを斜位に回転させた土器の破片がBG-33グリッドから出土している。

**(3) 遺構外出土石器 (図109)**

3点の石鏃が出土している。いずれも珪質頁岩製である。重さは1が1.0g、2が2.4g、3が1.6gである。

(太田原 潤)

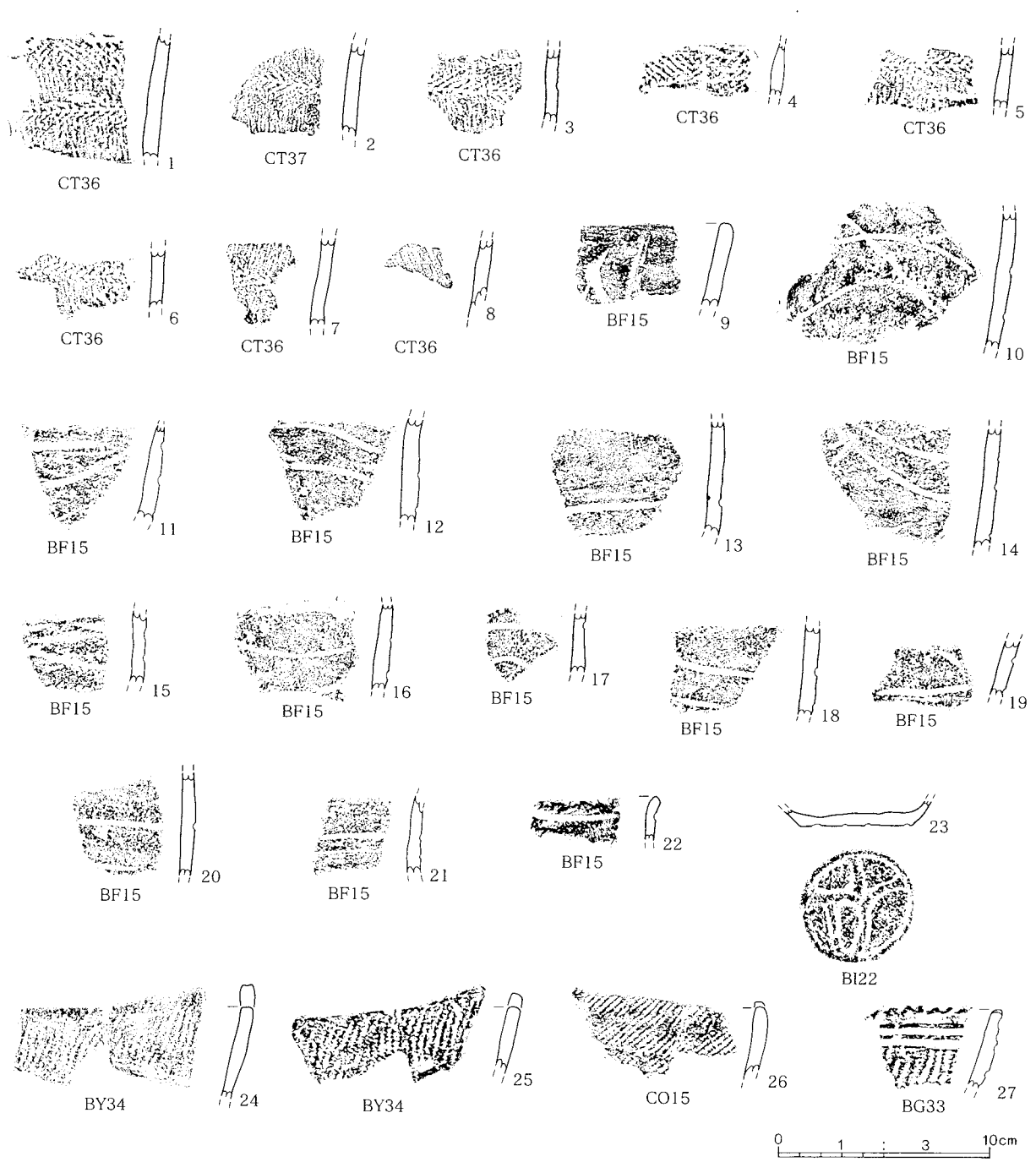


图108 遺構外出土土器

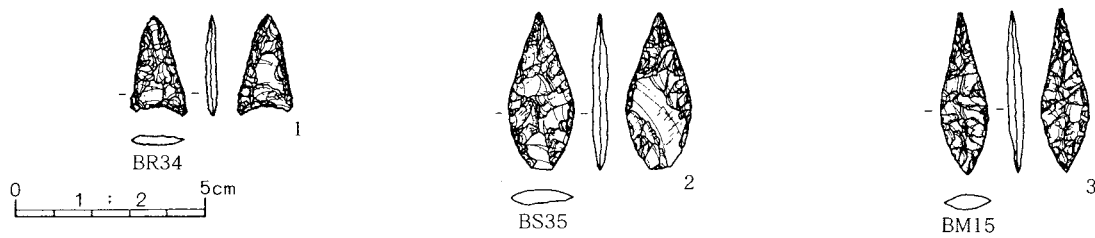


图109 遺構外出土石器

## 遺物観察表凡例

- 1 遺物観察表は実測図に表現できない項目を中心とした。
- 2 法量の単位はcmである。〈 〉は現存値を、( )は推定値を示す。
- 3 胎土への混入物の略号は以下のとおりである  
W=白色粒子 (White)、B=黒色粒子 (Black)、R=赤色粒子 (Red)、  
C=透明粒子 (Clear)、S=砂、針=海綿骨針を示す。
- 4 色調は標準土色帳に基づいた表記であり、その近似色を含む。表中の略号は以下のとおりである。  
A=暗赤色10R3/6、B=灰赤色2.5Y R4/2、C=明赤褐色 5 Y R5/6、  
D=にぶい褐色7.5Y R5/4、E=橙色7.5Y R6/6、F=灰白色10Y R7/1、  
G=浅黄橙色10Y R8/4、H=にぶい黄橙色10Y R6/3、  
I=オリーブ黒色10Y3/1、J=灰色N 4、K=オリーブ灰色2.5G Y5/1。
- 5 焼成は良好なものをA、不良なものをC、両者の中間をBとした。
- 6 残存率は実測図に示した部位における現存部の比率であり、器形全体に占める残存の度合いを示すものではない。
- 7 備考欄の表記は、遺物の特徴を以下の略称を用いて表記した。  
全体に関するもの  
内=内面、外=外面、口=口縁部、胴=胴部、底=底部、右回=ロクロ右回転、  
左回=ロクロ左回転、回糸切=底部回転糸切り、ナデ底=底面ナデ調整  
ケズリ底=底面ケズリ調整。  
土師器に関するもの  
内黒=内面黒化处理、粘土=粘土状物質の付着、  
スス=スス付着、木口ナデ=木口状工具によるナデ。  
須恵器に関するもの  
胎赤=胎土内部赤化、十字襷=十字状の火ダスキ痕、一条襷=一条の火ダスキ痕、  
縄平叩=縄目の平行タタキ痕、縄格叩=縄目の斜格子タタキ痕、  
平行叩=平行タタキ痕、格子叩=斜格子タタキ痕、無文当=無文当て具痕、  
樹枝当=樹枝状当て具痕、平行当=平行当て具痕、菊花底=菊花状調整痕。
- 8 観察表の備考欄に納まらない所見については観察表の最終項の後に追記として記載した。

(佐藤 智生)

## 遺物観察表 (1)

遺構名	出土位置	層	番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考
第1号建物跡	S J 1	13	1	須恵器	坏	(12.0)	<3.0>	-	W	J	B	30	覆土	胎赤
			2	土師器	坏	(13.2)	<4.5>	-	W、C、針	G	A	30	床面	内黒
			3	土師器	甕	(23.0)	<15.1>	-	S、W	G	B	30	カマド	
			4	土師器	甕	(23.0)	<12.5>	-	S、W	G	A	30	カマド	粘土、二次火熱
			5	土師器	甕	-	<6.3>	8.4	S、W	E	A	60	カマド	砂底
			6	土師器	甕	-	<5.0>	(9.2)	S、W	E	A	50	カマド	砂底
			7	土師器	甕	-	<4.8>	8.4	S、W	E	B	70	カマド	砂底
	SD 1	13	8	須恵器	坏	-	<4.0>	-	W、針	K	B	20	覆土	口縁外面に自然釉
			9	須恵器	甕	-	<4.5>	-	B、R、W、C、針	H	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当
			10	土師器	甕	-	<1.3>	-	W	G	C	15	覆土	
			11	土師器	甕	-	<5.2>	-	W、B、C	H	B	30	覆土	内 ヨコナデ
			12	土師器	甕	-	<5.8>	-	W、B、C、針	H	B	20	覆土	
			13	土師器	甕	-	<3.9>	-	S、B、C	H	B	30	覆土	外 粘土
第2号住居跡	S J 2	16	1	須恵器	坏	-	<3.3>	5.6	W、針	K	B	60	覆土	右回、回系切、内外十字襷
			2	土師器	甕	(12.4)	<4.5>	-	S、W	H	B	30	床面	内 口縁スス
第3号建物跡	S J 3	21	1	土師器	坏	(12.0)	<5.2>	-	W、B、R、C	H	B	30	覆土	内 口縁スス
			2	土師器	坏	-	<1.5>	(5.8)	W、B、C	G	B	50	覆土	右回、回系切
	SD 3	21	3	須恵器	坏	(12.0)	<4.2>	-	S、W、針	C	C	40	覆土	
			4	土師器	甕	-	<1.7>	-	S、W、針	C	B	30	覆土	ケズリ底
			5	土師器	甕	-	<2.9>	-	S、W、C	C	B	30	覆土	
			6	土師器	甕	-	<5.5>	-	S、R、W	G	B	30	覆土	内 木口ヨコ
			7	土師器	甕	-	<2.0>	-	S、C、B、R	H	B	30	覆土	外 底面を除きスス
	SD3内 SK1	21	8	須恵器	坏	-	<4.2>	-	W、針	F	B	15	覆土	胎赤
			9	土師器	甕	-	<5.0>	-	S、W、C、B	H	B	30	覆土	内 木口ヨコ
			10	土師器	甕	-	<3.0>	-	S、B、W、針	D	B	20	覆土	
			11	土師器	甕	-	<2.3>	-	S、B、C	F	B	50	覆土	
			12	土師器	甕	-	<4.7>	8.4	S、B、W、針	H	B	60	覆土	外 粘土、内 木口ナデ、木葉痕
第4号建物跡	SD10	24	1	土師器	甕	-	<1.8>	-	B、C	E	B	10	覆土	
			2	土師器	甕	(6.0)	<3.0>	-	W、B、針	H	B	20	覆土	
第5号建物跡	S J 5	27	1	土師器	甕	(13.8)	<4.7>	-	C、R	H	B	30	覆土	内 口縁スス・胴 木口ヨコ
			2	土師器	甕	-	<3.9>	-	C	G	B	30	覆土	
	SD11	27	3	須恵器	坏	(11.5)	<3.5>	-	W、針	F	B	20	覆土	
			4	土師器	坏	(12.8)	<4.3>	-	W、C	H	B	30	覆土	
			5	土師器	坏	-	<3.1>	(5.4)	W、C	E	B	50	覆土	右回、回系切
			6	土師器	坏	-	<3.5>	(5.2)	B、C	E	B	50	覆土	右回、回系切
			7	土師器	坏	-	<4.0>	5.8	W、B、C	E	B	60	覆土	右回、回系切
			8	土師器	坏	-	<3.0>	6.4	S、C	E	B	60	覆土	右回、回系切
			9	土師器	坏	-	<4.1>	6.2	B、C	E	B	60	覆土	右回、回系切
			10	土師器	坏	-	<1.2>	(5.8)	S、C	H	B	50	覆土	右回、回系切
			11	須恵器	壺	-	<8.0>	-	S、C、W、針	J	B	-	覆土	
			12	須恵器	壺	(5.0)	<11.2>	-	W、針	J	B	50	覆土	胎赤
			13	須恵器	甕	-	<9.5>	-	B、W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 樹枝当
			14	須恵器	甕	-	<5.3>	-	W、C	F	B	-	覆土	外 縄格叩?、内 平行当、胎赤
			15	須恵器	甕	-	<3.7>	-	W	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当

## 遺物観察表(2)

遺構名	出土位置	層	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考				
第5号建物跡	SD11	27	16	須恵器	甕	-	<7.6>	-	B、W、針	J	B	-	覆土	外 格子印、内 無文当、胎赤			
			17	須恵器	甕	-	<5.0>	-	W、針	F	B	-	覆土	外 縄格印、内 無文当?			
			18	須恵器	甕	-	<4.8>	-	W	F	B	-	覆土	外 縄平印			
			19	須恵器	甕	-	<9.0>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平印、内 無文当、胎赤			
			20	須恵器	甕	-	<16.0>	-	C、W、針	J	B	-	覆土	外 縄平印、内 樹枝当?、胎赤			
			21	土師器	甕	(21.0)	<5.5>	-	S、R、W	G	B	30	覆土				
			22	土師器	甕	(22.4)	<10.1>	-	B、S	H	B	20	覆土	内 木口ヨコ			
			23	土師器	甕	(22.6)	<11.6>	-	S、C	H	B	40	覆土				
			24	土師器	甕	-	<3.8>	(6.0)	W、針	H	B	50	覆土				
			25	土師器	甕	-	<5.7>	-	S、R、W、B	C	B	50	覆土	内 木口ナデ			
			26	土師器	甕	-	<3.8>	9.8	S、W、針	C	B	60	覆土	ケズリ底			
			27	土師器	甕	-	<2.9>	-	R、S、B	C	B	60	覆土	内 見込部を除きスス、ケズリ底			
			第5号建物跡	SD11内 SK1	28	28	土師器	甕	(19.6)	<7.9>	-	C、W、針	C	A	30	覆土	ロクロ成形
29	土師器	坏				-	<2.7>	6.0	R、S、B	G	B	70	覆土	右回、回系切			
30	須恵器	坏?				-	<5.0>	-	W、針	I	B	-	覆土				
第6号建物跡	SD16内 SK2	32	1	土師器	皿	(13.0)	<3.1>	-	B、C	E	B	30	覆土	ロクロ成形			
			2	須恵器	坏	11.6	4.3	4.8	W	F	B	60	覆土	右回、回系切、内外 十字襷			
			3	土師器	坏	(12.4)	<4.0>	-	R、B	E	B	30	覆土	内黒			
			4	土師器	坏	(13.6)	<4.3>	-	C、B	H	B	30	覆土				
			5	土師器	坏	(12.4)	<5.4>	-	W、B、R	E	B	30	覆土				
			6	須恵器	甕	(11.6)	<2.3>	-	W、B、針	K	B	30	覆土	胎赤			
			7	須恵器	鉢	(12.2)	<4.1>	-	W、針	K	B	40	覆土	胎赤			
			8	須恵器	壺	-	<3.9>	-	W、針	K	B	30	覆土	内外面共に円形の剥落多し			
			9	須恵器	壺	-	<5.3>	(6.6)	W	K	B	40	覆土	外 自然釉付着、菊花底			
			10	土師器	甕	(17.0)	<5.8>	-	W、S	E	B	30	覆土	ロクロ成形			
			11	土師器	甕	(24.8)	<3.5>	-	W、B、R	E	B	30	覆土	ロクロ成形、口唇部凹線状を呈す			
			12	土師器	甕	-	<3.2>	-	S	G	B	30	覆土				
			13	土師器	坏	-	<1.2>	-	R、B、C	H	B	50	覆土	右回、回系切			
			14	土師器	甕	-	<4.1>	(7.6)	S	I	B	30	覆土	右回、回系切			
			15	土師器	甕	-	<17.5>	(13.4)	S、R、C	H	B	40	覆土	外 粘土			
			第6号建物跡	SD16内 SK2	33	16	土師器	坏	(12.0)	<5.3>	-	R、B、C	C	B	30	覆土	
						17	土師器	坏	-	<1.7>	5.4	S、W	C	B	60	覆土	右回、回系切
						18	土師器	坏	(11.6)	<3.4>	-	R、W、S	G	B	50	覆土	右回、回系切
						19	土師器	坏	-	<4.8>	(5.8)	S、R、C	G	B	50	覆土	右回、回系切
						20	土師器	甕	(23.0)	<12.8>	-	S、R、C	G	A	40	覆土	口縁ロクロ成形?
						21	土師器	甕	(21.0)	<10.0>	-	S、B、C	G	B	40	覆土	口縁ロクロ成形、外 粘土、刻書?
						22	土師器	甕	(19.2)	<6.8>	-	S、B、C	H	B	30	覆土	
						23	土師器	甕	(15.0)	<6.7>	-	S、R、B、C	H	B	40	覆土	ロクロ成形
						24	土師器	甕	(16.4)	<7.2>	-	R、B、C	H	B	30	覆土	ロクロ成形
						25	土師器	甕	-	<3.0>	-	S、W、針	H	B	30	覆土	ケズリ底
						26	土師器	甕	-	<2.7>	-	S、B、C	C	B	40	覆土	
						27	土師器	甕	-	<3.5>	-	S、W	H	B	30	覆土	砂底
			第6号建物跡	SD16内 SK1	33	28	須恵器	碗?	(9.2)	<5.0>	-	C	F	B	20	覆土	SD26に類似資料あり
						29	土師器	坏	(13.0)	<6.0>	-	R、B、C	C	B	30	覆土	

遺物観察表 (3)

遺構名	出土位置	層	番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考	
第6号建物跡	SD16内	33	30	土師器	甕	-	<4.5>	-	S、W	H	C	30	覆土	砂底	
	SK1	34	31	須恵器	甕	(18.8)	-	-	W、C、針	F	B	30	覆土	外 縄目叩、内 樹枝当、焼台痕跡、追記1参照	
第7号建物跡	S J 7	39	1	須恵器	坏	(12.0)	<2.7>	-	W、B	G	C	20	床下	胎赤	
			2	土師器	坏	(11.8)	<5.2>	-	R、B、C、針	C	B	30	床面		
			3	土師器	坏	(15.3)	<3.5>	-	W、C	E	B	30	ピット		
			4	土師器	坏	-	<2.3>	-	W、B	H	B	50	覆土	右回、回糸切	
			5	土師器	坏	-	<1.8>	(5.5)	W、B、C、針	E	B	50	覆土	右回、回糸切	
			6	土師器	甕	(14.0)	<4.6>	-	C	E	A	30	ピット	内 口縁ス	
			7	土師器	甕	-	<2.8>	(7.6)	S、C、B	E	B	40	覆土		
	SD17	39	8	土師器	坏	-	<3.6>	-	W、C	G	C	20	覆土	内外 一条襷	
			9	土師器	坏	-	<2.3>	-	W、C	G	B	30	覆土		
			10	土師器	耳皿	-	<2.0>	-	W、針、C、B	G	B	50	覆土	右回、回糸切	
			11	土師器	甕	-	<6.5>	-	S、W、針	H	B	20	覆土		
第8号建物跡	S J 8	43	1	土師器	坏	13.6	6.1	5.4	R、B、C	E	B	80	床面	右回、回糸切	
			2	土師器	坏	(12.6)	4.5	(4.6)	R、C	G	B	40	床下	右回、内黒	
			3	土師器	坏	(15.0)	<3.7>	-	R、B、C	G	A	30	覆土	内黒	
			4	土師器	坏	(15.4)	<4.1>	-	R、B	G	B	30	覆土		
			5	土師器	甕	-	<4.5>	(7.8)	R、B、C	I	B	40	床面		
			6	須恵器	甕	-	<6.1>	-	W	F	B	-	床下	外 縄平叩	
	SD18	43	7	須恵器	坏	-	<1.7>	5.2	C、針	K	B	60	覆土	右回、回糸切、刻書	
			8	土師器	坏	(14.0)	<4.4>	-	W、C	H	B	20	覆土		
			9	土師器	坏	-	<1.6>	(5.2)	R、W、C	C	B	50	覆土	右回、回糸切	
			10	須恵器	甕	-	<5.9>	-	C、針	B	B	-	覆土	外 格子叩、内 無文当?、胎赤	
			11	須恵器	甕	-	<8.4>	-	C、針	B	B	-	覆土	外 格子叩、内 無文当?、胎赤	
			12	土師器	甕	(21.0)	<11.3>	-	S、C、W	C	B	40	覆土	外 粘土、内 木口ヨコ	
			13	土師器	甕	(11.4)	<8.3>	-	S、R、W	H	B	20	覆土	内 口縁ス	
			14	土師器	甕	(14.6)	<8.5>	-	S、B、W、針	C	B	40	覆土	内 口縁ス・胴木口ヨコ	
			15	土師器	甕	-	<6.6>	10.5	S、B、W	G	B	60	覆土	砂底	
	SD18内	SK1	43	16	土師器	小形土器	(7.2)	6.4	(4.8)	B、C	G	B	50	覆土	
				17	土師器	小形土器	(7.0)	<4.2>	-	R、B、C	C	B	30	覆土	
				18	土師器	小形土器	-	<4.5>	-	R、B、C	G	B	20	覆土	砂底
				19	土師器	甕	-	<5.6>	(9.0)	S、W	I	B	50	覆土	砂底
				20	須恵器	甕	-	<5.7>	-	C、針	B	B	-	覆土	外 格子叩、内 無文当?、胎赤
SD22	45	1	土師器	坏	(10.8)	<3.6>	-	S、B、W、C	G	B	20	覆土			
		2	土師器	甕	-	<6.5>	-	S、B、R、C	E	B	15	覆土	ロクロ成形		
第9号建物跡	S J 9	48	1	須恵器	甕	-	<7.8>	-	C、針	J	A	30	覆土	胎赤	
	SD19	48	2	土師器	甕	(18.0)	<5.0>	-	S、B、C	C	B	30	覆土		
第10号建物跡	S J 10	51	1	須恵器	長頸壺	(15.8)	<3.2>	-	C、針	J	B	30	覆土		
			2	須恵器	長頸壺	-	<3.9>	-	C、針	J	B	30	覆土		
	SD20	51	3	土師器	坏	12.9	5.2	5.2	R、B、W	C	B	90	覆土	右回?、摩滅	
			4	土師器	坏	(11.4)	<4.0>	-	S、W	C	B	30	覆土		
			5	土師器	甕	(16.0)	<5.4>	-	S、R、B、C	H	B	30	覆土	内 口縁ス	
			6	土師器	甕	(17.0)	<6.8>	-	S、C	G	B	30	覆土	ロクロ成形	
			7	土師器	甕	(21.0)	<7.4>	-	R、B、C	G	B	30	覆土	ロクロ成形	

遺物観察表(4)

遺構名	出土位置	層	層	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考			
第10号建物跡	S D20	51	8	土師器	甕	(19.2)	<5.0>	-	S、R、C	G	B	30	覆土				
			9	土師器	甕	(18.6)	<5.8>	-	S、W、C	C	B	30	覆土				
			10	土師器	甕	(20.2)	<4.5>	-	S、W、C	H	B	30	覆土				
			11	土師器	甕	-	<2.8>	6.0	S、B、W、C	G	B	60	覆土				
			12	土師器	甕	-	<2.8>	-	S、B、C	C	B	20	覆土	ロクロ成形?			
			13	土師器	坏	-	<1.5>	-	S、C	H	B	30	覆土	右回、回糸切			
			14	土師器	甕	-	<3.2>	-	S、B、C	I	B	30	覆土	砂底			
			15	土師器	甕	-	<3.7>	-	W、R、C	C	B	30	覆土	外 粘土、底 粘土、二次火熱			
			16	土師器	甕	-	<2.5>	-	S、B、C	G	B	15	覆土				
			17	須恵器	甕	-	<15.9>	-	C、針	J	B	-	覆土	外 格子叩・平行叩、内 無文当、胎赤			
			18	須恵器	甕	-	<7.3>	-	W	J	B	-	覆土	外 平行叩、内 平行当			
			19	須恵器	甕	-	<6.3>	-	W	J	B	-	覆土	外 縄格叩、内 無文当			
			20	土製品	勾玉	-	2.4	-	B、C	H	B	100	覆土	穿孔あり			
			21	土製品	勾玉	-	2.2	-	B、R	H	B	100	覆土	穿孔あり			
			第11号建物跡	S J 11	54	1	土師器	坏	(10.6)	5.0	(5.4)	R、B、針	G	B	30	ピット 3	右回、回糸切、内黒
						2	須恵器	坏	(13.2)	<4.9>	-	C	K	B	30	ピット 2	刻書
				S D23	54	3	須恵器	坏	17.0	<4.1>	-	W、針	J	A	20	覆土	内 一条?襷、胎赤、刻書
						4	須恵器	坏	16.0	<3.3>	-	W、針	J	B	15	覆土	
						5	須恵器	坏	13.2	5.0	5.4	W、針	F	B	90	覆土	右回、回糸切、内外 十字襷
						6	土師器	坏	(14.4)	<4.5>	-	S、W、R、針	G	B	40	覆土	
						7	土師器	坏	(13.6)	<5.1>	-	R、B	G	B	40	覆土	
8	須恵器	甕				(52.0)	<5.2>	-	W、針	J	B	20	覆土	胎赤			
9	須恵器	甕				-	<23.2>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄目叩、内 ヘラナデ・無文当、胎赤			
10	土師器	甕				(22.0)	<11.2>	-	S、B、C	G	B	40	覆土				
11	土師器	甕				(21.0)	<12.5>	-	S、W、C、R、針	H	B	30	覆土	外 粘土			
12	土師器	甕				(22.6)	<6.0>	-	S、W、C、R	G	B	50	覆土	ロクロ成形			
13	土師器	甕				(13.0)	<7.3>	-	S、R、W、C、針	C	B	30	覆土	ロクロ成形			
14	土師器	甕				(13.4)	<5.1>	-	S、W、針	H	B	30	覆土	内 口縁スス			
15	土師器	甕				(13.4)	<5.3>	-	S、W、C、針	C	B	40	覆土				
16	土師器	甕				-	<3.4>	(8.2)	S、W、C、針	C	B	50	覆土	砂底			
17	土師器	甕				-	<4.5>	8.6	S、W、針	H	B	60	覆土	砂底			
18	土師器	甕				-	<5.5>	(9.8)	S、W、C	G	B	50	覆土	ケズリ底			
19	土師器	甕				-	<2.4>	(5.4)	B、W、針	H	B	50	覆土				
20	土師器	甕				-	<12.7>	(6.8)	S、W、針、C	G	B	30	覆土				
第12号建物跡	S J 12	58	1	土師器	甕	(15.4)	<6.2>	-	R、B、C、針	E	B	30	ピット 3	ロクロ成形			
			2	土師器	坏	(13.0)	<4.0>	-	S、W	G	B	20	覆土				
	S D21	58	3	土師器	坏	(12.4)	<4.7>	-	R、B、W	G	B	30	覆土				
			4	土師器	坏	(11.4)	<3.5>	-	S、W	C	B	20	覆土				



## 遺物観察表 (5)

遺構名	出土位置	層	号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考			
第12号建物跡	SD21	58	5	土師器	甕	-	<2.0>	-	S、W、C	H	B	30	覆土	右回			
			6	須恵器	坏	-	<2.0>	-	W	F	B	30	覆土	内外 一条襷			
			7	須恵器	甕	-	<3.5>	-	W、針	J	B	20	覆土	外 縄平叩、内 無文当			
			8	須恵器	甕	-	<5.8>	-	W、針	J	B	20	覆土				
			9	土師器	甕	(21.6)	<12.8>	-	S、W、C	E	B	40	覆土				
			10	土師器	甕	(23.0)	<13.6>	-	S、W、B	E	B	40	覆土				
			11	土師器	甕	(24.0)	<12.2>	-	S、W、C	H	B	30	覆土				
			12	土師器	甕	(17.6)	<9.0>	-	S、R、W、C	G	B	30	覆土	ロクロ成形			
			13	土師器	甕	(25.0)	<4.9>	-	S、W、C	H	B	30	覆土	ロクロ成形			
			14	土師器	甕	(12.8)	<5.5>	-	C、W、針	C	B	30	覆土				
			15	土師器	甕	-	<5.0>	(11.0)	S、W、C	H	B	50	覆土	外 底部付近に線刻あり			
			16	土師器	甕	-	<3.5>	(9.8)	S、W、C	G	B	50	覆土				
			17	土師器	甕	-	<6.5>	7.0	S、W	C	B	60	覆土				
			第13号建物跡	SD26	61	1	須恵器	坏	(13.8)	4.6	-	W、針	F	B	30	覆土	右回、外 一条襷、胎赤
						2	須恵器	坏	(14.8)	<3.5>	-	W、針	K	B	30	覆土	
						3	須恵器	坏	(13.6)	<4.8>	-	W、針	J	C	40	覆土	
						4	須恵器	坏	(13.4)	<4.3>	-	W、針	C	C	30	覆土	内外 一条襷
5	須恵器	坏				(14.0)	<3.4>	-	W、針	J	B	30	覆土	胎赤			
6	須恵器	坏				-	<3.5>	5.4	W、針	E	C	60	覆土	右回、回糸切、外 一条襷、内 十字襷			
7	須恵器	坏				-	<2.8>	(5.6)	R、W、針	E	C	40	覆土	右回、回糸切			
8	土師器	皿				(13.2)	<3.2>	(5.6)	B、R、W	E	B	40	覆土	回糸切			
9	土師器	坏				14.0	5.1	6.4	W、R、C	E	B	60	覆土	右回、回糸切			
10	土師器	坏				(13.0)	<4.9>	-	W、R、針	E	B	30	覆土				
11	土師器	坏				(13.2)	(4.9)	-	S、W、B	G	B	30	覆土				
12	土師器	坏				(11.6)	<4.6>	-	W、R、針	G	B	30	覆土	内黒			
13	土師器	坏				-	<1.8>	(4.6)	R、W、針	G	B	50	覆土	右回、回糸切、内黒			
14	須恵器	碗?				(9.0)	<4.5>	-	S、W、C	G	C	30	覆土	SD16に類似資料あり			
15	須恵器	甕				19.2	5.0	-	W、針	J	B	30	覆土	内 口縁に自然釉、刻書、胎赤、追記2参照			
16	須恵器	長頸壺				(9.4)	<2.2>	-	W、針	K	B	30	覆土	胎赤			
17	須恵器	長頸壺				-	<5.0>	-	W、針	J	B	30	覆土				
18	須恵器	壺				-	-	-	W、針	J	B	-	覆土				
62	19	須恵器				甕	48.8	11.7	-	W、針	J	B	20	覆土	外 縄斜叩、内 肩ヘラナデ、刻書、胎赤		
20	須恵器	甕				-	<5.3>	-	W、針	F	B	15	覆土	外 格子叩、内 ヨコヘラナデ、胎赤			
21	須恵器	壺				-	<3.0>	(7.0)	W、針	J	B	60	覆土	内 ヘラナデ、底 ナデ底・草木灰付着の為凹凸著しい			
22	須恵器	壺				-	<3.0>	(9.0)	W、針	J	B	20	覆土				
23	須恵器	甕				-	<9.8>	-	W、針	J	B	40	覆土	外 縄格叩、内 ヘラナデ・平行当			
24	土師器	甕				(14.8)	<6.3>	-	S、W、C、針	H	B	40	覆土	内 口縁スス			
25	土師器	甕				(23.0)	<9.8>	-	S、W	H	B	30	覆土				
26	土師器	甕				(12.8)	<9.2>	-	S、W、針	C	B	40	覆土	ロクロ成形?、内 口縁スス、摩滅			

遺物観察表(6)

遺構名	出土位置	層	番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考	
第13号建物跡	SD26	62	27	土師器	甕	(23.0)	<10.1>	-	S、R、B	H	B	30	覆土		
			28	土師器	甕	(15.0)	<4.3>	-	R、W、針	H	B	40	覆土	内 口縁スス	
			29	土師器	甕	(23.4)	(9.5)	-	S、W、針	E	B	40	覆土	ロクロ成形?	
			.63	30	土師器	甕	(12.4)	<3.5>	-	S、W、針	H	B	30	覆土	ロクロ成形?
				31	土師器	甕	(26.2)	<8.4>	-	R、B、W	E	C	20	覆土	ロクロ成形
				32	土師器	甕	(24.0)	<6.8>	-	S、W	G	C	20	覆土	
				33	土師器	甕	(21.8)	<6.1>	-	S、W、C	G	C	40	覆土	
				34	土師器	甕	(25.0)	<5.0>	-	S、W、針	C	B	40	覆土	ロクロ成形
				35	土師器	甕	-	<5.9>	8.0	R、W、針	H	B	70	覆土	外 粘土
				36	土師器	甕	-	<3.5>	(11.0)	S、W、C	C	B	50	覆土	砂底
				37	土師器	甕	-	<3.3>	8.8	S、R、W、針	C	B	70	覆土	ロクロ成形、回系切
				38	土師器	甕	-	<7.0>	(10.2)	S、W、R、C	H	B	40	覆土	砂底
				39	土師器	甕	-	<4.7>	7.0	S、W、R、C	G	B	50	覆土	回系切
				40	土製品	-	-	-	-	S、W、B	H	B	-	覆土	ひも状
41	土製品	-	-	<3.3>	-	W、B	H	B	-	覆土	粘土塊、スサ等の混入なし、黒斑あり				
第14号建物跡	SD27	66	1	須恵器	坏	13.4	5.8	5.2	W、針	J	B	80	覆土	右回、回系切、内外 十字襷、刻書	
			2	須恵器	坏	(13.2)	<3.6>	-	W	J	B	20	覆土	胎赤	
			3	須恵器	坏	(10.8)	<3.0>	-	W、針	F	B	20	覆土	内外 火ダスキ、胎赤	
			4	土師器	坏	(12.6)	(5.1)	(5.2)	W、針	J	B	30	覆土	右回、回系切、外 十字襷	
			5	土師器	坏	(11.0)	<3.8>	-	S、W、C、針	E	B	30	覆土		
			6	須恵器	甕	-	<7.5>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 平叩、胎赤	
			7	須恵器	甕	-	<3.9>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 ユビナデ、胎赤	
			8	土師器	甕	(28.0)	<10.1>	-	S、W	G	B	20	覆土		
			9	土師器	甕	(20.0)	<3.9>	-	S、W	G	B	15	覆土		
			10	土師器	甕	(24.0)	<5.0>	-	C、S、W、針	I	B	30	覆土	ロクロ成形、内外黒色を呈す、胎土中の砂粒多し	
			11	土師器	甕	(18.6)	<5.5>	-	S、W	G	B	20	覆土		
			12	土師器	甕	(24.0)	<8.1>	-	S、W、C	E	B	40	覆土		
			13	土師器	甕	-	<7.1>	7.2	S、W	C	B	70	覆土		
			14	土師器	小形土器	-	<2.8>	(4.8)	S、W	G	B	30	覆土		
			15	土師器	甕	-	<4.4>	-	S、W、針	C	B	30	覆土		
第15号建物跡	SD28	69	1	須恵器	皿	(11.0)	<1.3>	-	W、針	J	B	20	覆土	刻書?	
			2	須恵器	坏	(12.8)	<3.4>	-	W、針	F	B	20	覆土	外 一条襷	
			3	土師器	ミチユア	2.6	1.9	2.0	B、W、針	E	B	90	覆土		
			4	土師器	皿	(14.0)	3.1	(7.0)	S、W、C	H	B	40	覆土	ロクロ成形、回系切、内外 口縁スス	
			5	土師器	坏	(14.4)	<4.4>	-	S、C、R、B	C	B	30	覆土		
			6	土師器	坏	(12.6)	<3.9>	-	R、W、針	H	B	40	覆土		
			7	土師器	坏	(12.2)	<4.8>	-	B、C	G	B	30	覆土		
			8	土師器	坏	-	<1.5>	5.2	R、W、針	E	B	60	覆土	右回、回系切	
			9	土師器	坏	-	<2.9>	(7.2)	S、B、C	G	B	50	覆土	右回、回系切	
			10	土師器	坏	-	<2.9>	5.4	S、R、B	H	B	70	覆土	右回、回系切	
			11	土師器	坏	-	<3.4>	5.4	W、B、C	G	B	30	覆土	右回、回系切、外 黒斑、内黒	
			12	土師器	坏	-	<2.2>	4.8	R、W、針	H	B	70	覆土	右回、回系切、内黒	

## 遺物観察表 (7)

遺構名	出土位置	層	順	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考		
第15号建物跡	SD28	69	13	須恵器	長頸壺	-	<6.8>	-	W、針	J	B	30	覆土	胎赤		
			14	須恵器	壺	-	<6.2>	-	W、針	J	B	-	覆土	胎赤		
			15	須恵器	壺	-	<5.3>	-	W、針	J	B	-	覆土	胎赤		
			16	須恵器	甗	-	<3.5>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 口頸部タタキ後ロクロナデ、内 ロクロナデ、胎赤		
			17	須恵器	甗	-	<6.0>	-	W、C	F	B	-	覆土	外 縄平叩、内 樹枝当?		
			18	土師器	甗	-	<6.3>	(15.0)	S、B、W、R	E	B	30	覆土			
			19	土師器	小形土器	(9.8)	<5.4>	-	S、W、針、C	H	B	30	覆土			
			20	土師器	甗	(17.0)	<5.3>	-	S、R、B、W	E	B	20	覆土	内 口縁スス		
			21	土師器	甗	(16.2)	<5.3>	-	S、B、W	C	B	20	覆土	内 口縁スス		
		70	22	土師器	甗	(16.0)	<6.5>	-	R、W、B、C	C	B	30	覆土	ロクロ成形		
			23	土師器	甗	(24.4)	<8.8>	-	S、R、B、C、 W	E	B	30	覆土			
			24	土師器	甗	(20.2)	<5.5>	-	S、B、C	C	B	20	覆土	ロクロ成形		
			25	土師器	甗	(25.0)	<5.3>	-	S、R、B	H	B	20	覆土			
			26	土師器	甗	(19.4)	<8.2>	-	S、W、C	H	B	30	覆土			
			27	土師器	甗	15.2	<5.7>	-	S、W、B、R	C	B	40	覆土	ロクロ成形?、摩滅		
			28	土師器	甗	-	<3.8>	-	S、R、W	E	B	15	覆土	ロクロ成形?、摩滅		
			29	土師器	甗	-	<2.5>	-	S、B	C	B	10	覆土	ロクロ成形?、内 口縁スス		
			30	土師器	甗	-	<3.0>	-	S、W、R	C	B	15	覆土	内 口縁スス		
			31	土師器	甗	-	<4.8>	(6.2)	S、B、C	H	B	30	覆土			
			32	土師器	甗	-	<4.3>	5.4	S、B、W、針	H	B	60	覆土			
			33	土師器	甗	-	<3.1>	6.2	S、B、W、C	C	B	70	覆土			
			34	土師器	甗	-	<1.9>	(8.2)	R、W、C、針	H	B	40	覆土			
			35	土師器	甗	-	<3.2>	(9.4)	S、B、R、C	H	B	50	覆土			
			36	土師器	甗	-	<4.3>	(9.2)	S、W、C	H	B	40	覆土	底 砂底上に粘土付着		
			37	土師器	甗	-	<6.0>	(8.4)	B、R、W、C	E	B	50	覆土	内 木口ナデ、底 二本の線刻を有す		
			38	土師器	甗	-	<1.7>	6.6	S、B、C	D	B	40	覆土	右回、回糸切		
			39	土師器	甗	-	<7.7>	(10.4)	S、W、C	H	A	30	覆土	外 粘土		
			40	土師器	甗	-	<10.1>	(11.2)	S、C	H	B	50	覆土	砂底		
			第16号建物跡	SD29	73	1	須恵器	坏	(14.0)	<2.6>	-	W、針	J	B	30	覆土
		2				土師器	坏	(10.8)	<3.0>	-	W、C	E	B	15	覆土	
		3				土師器	甗	(14.0)	<9.0>	-	B	E	B	50	覆土	外 粘土、内 口縁スス
		4				土師器	甗	(12.9)	<9.6>	-	B	E	B	50	覆土	
		5				土師器	甗	21.8	<27.0>	-	S、R、B	H	B	60	覆土	外 粘土
		6				土師器	甗	22.0	<22.5>	-	S、R、B、C	E	B	90	覆土	
		7				土師器	甗	(22.0)	<9.5>	-	S、R、B	G	B	40	覆土	
		8				土師器	甗	(21.8)	<11.3>	-	S、R、C	G	B	30	覆土	
		9				土師器	甗	(15.4)	<5.5>	-	S、R、B、W	H	B	50	覆土	内 口縁スス
		10				土師器	甗	-	<6.5>	(9.0)	S、R、B	H	B	50	覆土	外 粘土、砂底
		11				土師器	甗	-	<3.3>	7.3	R、B、C	H	B	70	覆土	右回、回糸切
		第17号建物跡	S J 17	79	1	須恵器	坏	(14.0)	5.0	(6.8)	C、針	K	B	40	覆土	外 十字襷、胎赤
2	須恵器				坏	(13.8)	<4.3>	-	W、針	K	B	20	覆土	外 一条襷、胎赤		
3	土師器				坏	(13.4)	<4.9>	-	R、W	H	B	30	床面	内黒		

## 遺物観察表(8)

遺構名	出土位置	綱	号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考		
第17号建物跡	S J 17	79	4	土師器	坏	(12.8)	<4.7>	-	R、B、C	G	B	30	覆土	ロクロ成形		
			5	須恵器	壺	(9.2)	<2.2>	-	W、針	K	B	30	床面	内外面共に円状の剝落多し		
			6	須恵器	壺	-	<4.9>	(10.4)	W、針	J	B	30	覆土	外 ヘラケズリ、内 木ロナデ		
			7	須恵器	甕	-	<3.2>	-	W、針	J	B	-	覆土			
			8	須恵器	甕	-	<4.0>	-	W、針	J	B	-	ピット 20	外 縄平叩、内 無文当、胎赤		
			9	須恵器	甕	-	<5.3>	-	W、針	J	B	-	床面			
			10	須恵器	壺	-	<4.4>	-	W、針	B	B	20	床面	内外 ロクロナデ		
			11	須恵器	壺	-	<6.8>	-	C、針	K	B	30	覆土	胎赤		
			12	土師器	甕	(12.4)	<3.6>	-	B、C、S	C	B	20	覆土	ロクロ成形、胴外スス		
			13	土師器	甕	-	<2.2>	-	S、W、針	H	B	30	覆土	外 粘土、砂底上に粘土付着		
			14	土師器	甕	-	<3.8>	-	B、C	G	B	20	覆土	右回?、回糸切、内外スス		
			SB12ピット6	79	15	土師器	甕	23.2	32.5	9.0	S、W、R、B、C	E	B	90	覆土	外 粘土、砂底、摩滅
			SD30	80	16	須恵器	坏	(12.8)	<4.1>	-	W	F	C	30	覆土	
					17	須恵器	坏	-	<2.5>	(5.4)	W、針	F	B	40	覆土	右回、回糸切、外 十字襷
	18	土師器			坏	(12.0)	(5.4)	(5.8)	R、B	H	B	50	覆土	右回、回糸切		
	19	土師器			坏	12.4	6.0	4.8	R、B	G	B	60	覆土	右回、回糸切		
	20	土師器			坏	12.0	4.9	-	S、W、針	B	B	70	覆土	右回、回糸切		
	21	土師器			坏	12.4	<5.2>	5.6	R、B	G	B	70	覆土	回糸切		
	22	土師器			坏	(13.6)	<5.7>	(5.8)	R、B、C	G	B	40	覆土			
	23	土師器			坏	(13.0)	(5.5)	(6.2)	R、B、C	G	B	40	覆土			
	24	土師器			坏	(12.8)	<3.5>	-	R、W、B	E	B	40	覆土	外 黒斑		
	25	土師器			坏	-	<2.8>	5.6	R、W、針	H	B	70	覆土	底部 回糸切後粗略なナデ調整		
	26	土師器			坏	-	<1.1>	4.8	R、B	H	B	60	覆土	右回、回糸切、外 粘土		
	27	土師器			坏	-	<1.2>	(5.2)	B、W、針	H	B	20	覆土	右回、回糸切		
	28	土師器			坏	-	<2.0>	(6.2)	R、B、C	G	B	40	覆土	回糸切、内黒		
	29	土師器			坏	13.4	5.2	6.0	B、C	E	B	90	覆土	右回、回糸切、内黒		
	30	土師器			坏	12.8	5.0	5.8	R、B	G	B	60	覆土	右回、回糸切、内黒		
	31	土師器			坏	(12.6)	<4.5>	-	B、C	G	B	30	覆土	内黒		
	32	須恵器			長頸壺	-	<11.0>	-	W、針	J	B	30	覆土			
	33	須恵器			壺	-	<5.8>	-	W、針	K	B	-	覆土	胎赤		
	81	34			須恵器	壺	-	<2.9>	-	W、針	H	B	-	覆土		
	35	須恵器			壺	-	<5.8>	-	W、針	K	B	-	覆土			
	36	須恵器			壺	-	<6.5>	7.2	S、W	J	B	-	覆土	内 ヘラ状工具によるロクロナデ、胎赤		
	37	須恵器			壺	-	2.6	8.0	S、W、針	F	B	-	覆土	胎赤		
	38	須恵器			甕	-	-	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 ロクロナデ、胎赤		
	39	須恵器			甕	-	<2.7>	-	W、針、C	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当?、胎赤		
	40	須恵器			甕	-	<6.4>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当、胎赤		
	41	須恵器			甕	-	<14.1>	-	針、W	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当、胎赤		
	42	須恵器			甕	-	<1.3>	-	W	F	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当、胎赤		
	43	須恵器			甕	-	<8.0>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 平行当		
	44	土師器			甕	(22.8)	<16.7>	-	S、R、B、C	G	B	30	覆土	ロクロ成形		
	45	土師器			甕	(15.4)	<4.7>	-	S、R、B、C	G	B	30	覆土			

## 遺物観察表 (9)

遺構名	出土位置	種別	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考	
第17号建物跡	SD30	81	46	土師器	甕	(20.2)	<7.4>	-	S,R,B,C	C	B	30	覆土	口唇部凹線状を呈す
			47	土師器	甕	(23.4)	<7.5>	-	S,B,W,針	E	B	30	覆土	
			48	土師器	甕	(20.2)	<5.6>	-	S,R,W	C	B	20	覆土	
		82	49	土師器	甕	(21.0)	<10.0>	-	S,R,B,W	G	B	30	覆土	ロクロ成形、内外 胴部にスス付着
			50	土師器	甕	(22.2)	<10.1>	-	S,R,B,C	H	B	30	覆土	
			51	土師器	甕	(26.4)	<11.3>	-	S,R,B,C	G	B	30	覆土	
			52	土師器	甕	(18.4)	<7.5>	-	S,B,C	E	B	30	覆土	ロクロ成形
			53	土師器	甕	(24.4)	<15.5>	-	S,R,B	G	B	30	覆土	
			54	土師器	甕	(22.2)	<11.1>	-	R,B,針,W	E	B	40	覆土	
			55	土師器	甕	(30.0)	<8.3>	-	B,R,S,C	G	B	20	覆土	
			83	56	土師器	甕	-	<6.3>	8.0	S,R,B,W	E	B	70	覆土
		57		土師器	甕	-	<2.3>	(6.8)	S,B,W	H	B	20	覆土	回系切
		58		土師器	甕	-	<4.3>	6.4	S,W,針,C	I	B	60	覆土	右回、回系切、外 スス
		59		土師器	甕	-	<4.0>	(10.8)	S,W,C,針	B	B	40	覆土	
		60		土師器	甕	-	<3.1>	(8.8)	W,B	H	B	50	覆土	底面 櫛状工具による格子状の条痕
		61		土師器	甕	-	<4.1>	(9.0)	S,B,C	H	B	40	覆土	
		62		土師器	甕	-	<2.5>	(9.8)	S,R,W,C	H	B	50	覆土	
		63		土師器	甕	-	<2.5>	(7.8)	S,B,C	H	B	40	覆土	
		64		土師器	甕	-	<1.6>	(8.8)	S,W	C	B	30	覆土	
		65		土師器	耳皿	12.8	3.3	5.6	R,C,W,B	E	B	60	覆土	右回、回系切
		66		土師器	耳皿	-	-	-	B,R	G	A	-	覆土	
67	土製品	土鈴		-	<4.2>	-	W,B	H	B	-	覆土	穿孔あり、紐部		
68	土製品	焼成粘土塊	-	-	-	B,W,R	E	B	-	覆土	第5章参照			
第18号土坑	SK18	88	1	土師器	坏	-	<1.8>	5.4	R,B,C	G	B	60	覆土	右回、回系切
第19号土坑	SK19	88	2	土師器	坏	-	<1.8>	-	R,B,C	G	B	30	覆土	回系切
			3	須恵器	甕	-	<3.2>	-	C,針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当、胎赤
第21号土坑	SK21	88	4	土師器	甕	-	<2.1>	-	S,C,W	C	B	40	覆土	
第22号土坑	SK22	88	5	土師器	甕	-	<2.9>	-	S,W,C	H	B	30	覆土	口唇部面取り
			6	土師器	甕	-	<1.1>	(7.6)	S,W,C	H	B	50	覆土	砂底
第23号土坑	SK23	88	7	須恵器	坏	(15.8)	<4.4>	-	W,針	F	B	30	覆土	刻書
第27号土坑	SK27	88	8	土師器	坏	13.2	5.8	5.6	B,C	G	B	70	覆土	右回、回系切、内黒
			9	土師器	坏	13.6	5.2	6.2	R,B,C	G	B	90	覆土	右回、回系切、内 ヘラナデ
			10	土師器	坏	(13.8)	5.5	(6.0)	R,B,C	G	B	50	覆土	右回、回系切
			11	土師器	坏	(14.0)	<4.4>	-	R,B,C	G	B	30	覆土	
			12	土師器	坏	(14.0)	<3.6>	-	R,B,C	H	B	30	覆土	
			13	土師器	坏	-	<2.2>	(6.0)	R,B,C	G	B	50	覆土	右回、回系切
			14	土師器	甕	-	<1.4>	(7.6)	R,B,C,針	C	B	50	覆土	砂底
			15	須恵器	甕	-	<6.3>	-	C,針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 平行当
			16	須恵器	甕	-	<10.6>	-	C,針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当
17	須恵器	甕	-	<10.5>	-	C,針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当			
第31号土坑	SK31	89	18	土師器	甕	-	<3.5>	-	B,W,針	G	B	15	覆土	
第32号土坑	SK32	89	19	須恵器	坏	-	<4.4>	(5.6)	B	F	B	50	覆土	右回、回系切
第33号土坑	SK33	89	20	土師器	坏	(14.0)	<5.1>	-	C,R,針	H	C	40	覆土	外 一条襷、内 二条襷
			21	土師器	甕	-	<2.8>	-	S,C,W	G	C	30	覆土	

遺物観察表 (10)

遺構名	略号	綱	号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考	
第36号土坑	SK36	89	22	土師器	甕	(15.6)	<4.5>	-	W、B、C	H	B	30	覆土		
			23	土師器	甕	(23.4)	<6.8>	-	S、R、B、C	G	B	30	覆土	内 木口ヨコ	
			24	土師器	甕	-	<4.5>	-	S	H	B	50	覆土	二次火熱	
第2号溝跡	SD2	97	1	須恵器	坏	(12.0)	<3.4>	-	W	J	B	30	覆土		
			2	須恵器	坏	-	<1.3>	-	W、針	J	B	40	覆土	右回、回糸切、胎赤	
			3	須恵器	坏	-	<2.0>	-	W	F	B	30	覆土	胎赤、回糸切	
			4	須恵器	坏	-	<2.3>	-	W	K	B	40	覆土	回糸切、外 火摩、胎赤	
			5	土師器	皿	(13.6)	3.1	(6.0)	B、R、C	G	B	50	覆土	右回	
			6	土師器	坏	(13.8)	4.0	8.0	S、B、C	H	B	30	覆土	右回、回糸切	
			7	土師器	坏	(12.4)	5.3	(5.2)	R、W、C	G	B	50	覆土	右回、回糸切	
			8	土師器	坏	(14.0)	4.5	(6.5)	W、C	H	B	30	覆土	内黒	
			9	土師器	坏	(14.0)	<3.9>	-	B	E	B	20	覆土		
			10	土師器	坏	(12.0)	<4.5>	-	W、C	C	B	30	覆土		
			11	土師器	坏	(12.0)	<4.5>	-	S、C	G	B	20	覆土		
			12	土師器	坏	-	<1.2>	-	R、B、C	C	B	30	覆土	右回、回糸切	
			13	須恵器	長頸壺	-	<4.0>	-	W	J	B	15	覆土		
			14	須恵器	壺	-	<4.0>	-	S、R、C	H	B	40	覆土	右回、回糸切、内黒	
			15	須恵器	甕	-	<6.0>	-	W	K	B	-	覆土	外 縄平叩・自然釉、内 無文当	
			16	須恵器	甕	-	<5.5>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄斜叩、内 無文当	
			17	須恵器	甕	-	<4.7>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 平行叩、内 無文当、胎赤	
			18	土師器	甕	(28.0)	<8.7>	-	W、B、S	G	B	30	覆土	内 木口ヨコ	
			19	土師器	甕	(20.0)	<7.8>	-	R、S	G	B	30	覆土		
			20	土師器	甕	(22.0)	<9.0>	-	S、W、C	H	B	40	覆土		
			98	21	土師器	甕	(20.0)	<5.8>	-	W、B、C、S	G	B	40	覆土	内 木口ヨコ
				22	土師器	甕	(15.6)	<5.3>	-	W、B	H	B	40	覆土	ロクロ成形
				23	土師器	甕	(20.0)	<5.0>	-	S、C	H	B	40	覆土	内 木口ヨコ
				24	土師器	甕	(22.8)	<7.0>	-	S、W、C	E	B	20	覆土	
				25	土師器	甕	(22.0)	<3.5>	-	R、C	H	B	30	覆土	ロクロ成形?
				26	土師器	甕	(22.0)	<6.0>	-	W、B、S	G	B	30	覆土	
				27	土師器	甕	(16.0)	<4.2>	-	W、B	H	B	30	覆土	内 口縁スス
				28	土師器	甕	(14.0)	<3.3>	-	S、W、B、C	D	B	30	覆土	内 口縁スス
				29	土師器	甕	-	<1.8>	-	S、W、C	H	B	20	覆土	砂底
第4号溝跡	SD4	98	30	土師器	甕	(19.0)	<8.5>	-	S、B、C、R	G	B	30	覆土	外 粘土	
			31	土師器	甕	-	<2.3>	-	S、B、C	C	B	50	覆土	砂底	
第5号溝跡	SD5	99	32	土師器	甕	(21.0)	<3.6>	-	S、B	G	B	20	覆土		
			33	土師器	甕	-	<7.0>	-	S、B	H	B	30	覆土		
			34	土師器	甕	-	<4.2>	-	S、R、B	E	B	20	覆土		
			35	土師器	甕	-	<3.3>	-	S、B	C	B	20	覆土	砂底	
			36	土師器	甕	-	<3.3>	-	S、R、W、針	E	B	15	覆土		
第6号溝跡	SD6	99	37	須恵器	坏	-	<3.0>	-	W	J	B	15	覆土		
			38	須恵器	坏	-	<2.8>	(5.6)	B、W	F	B	20	覆土	外 一条襷、ケズリ底	
			39	土師器	坏	-	<5.0>	-	R、W、S	C	B	15	覆土		
			40	土師器	坏	-	<3.6>	(4.8)	W、B、C、針	C	B	40	覆土	回糸切	
第15号溝跡	SD15	99	41	須恵器	坏	-	<2.4>	-	W	K	B	15	覆土		
			42	須恵器	坏	-	<2.5>	-	W	J	B	15	覆土	胎赤	



## 遺物観察表 (11)

遺構名	略号	綱	群	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考
第15号溝跡	SD15	99	43	土師器	坏	-	<4.3>	(6.4)	SC	G	B	30	覆土	右回、回糸切、内 内黒
			44	須恵器	甕	-	<4.9>	-	W、R、針	J	B	-	覆土	外 平行叩、胎赤
			45	須恵器	甕	-	<7.5>	-	W	F	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当
			46	土師器	甕	-	<5.8>	-	S、W、C	H	B	20	覆土	
			47	土師器	甕	-	<4.5>	-	S、C	C	B	20	覆土	外 スス、砂底
			48	土師器	甕	-	<2.0>	-	S、C	H	B	30	覆土	
			49	土師器	甕	-	<2.6>	-	S、R、W	H	B	30	覆土	
			50	土師器	甕	-	<2.0>	(9.0)	S、R、W、針	G	B	40	覆土	ナデ底
			51	土師器	甕	-	<2.8>	(7.6)	S、W、R	C	B	50	覆土	右回、回糸切
第13号溝跡	SD13	99	52	土師器	皿	-	<1.7>	5.3	W、C	C	A	60	覆土	右回、回糸切
第24号溝跡	SD24	99	53	須恵器	甕	-	<8.2>	-	W、C	F	C	-	覆土	外 縄格叩、内 無文当
			54	土師器	甕	-	<3.0>	(8.6)	R、W、針	H	A	15	覆土	
第25号溝跡	SD25	100	55	土師器	坏	(13.0)	4.4	(6.3)	W、針	C	B	50	覆土	右回、回糸切
			56	土師器	坏	-	<3.8>	(5.0)	B、C	C	A	50	覆土	右回、回糸切
			57	須恵器	甕	-	<7.0>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 樹枝当?、胎赤
			58	須恵器	甕	-	<8.4>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当、胎赤
			59	須恵器	甕	-	<14.5>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 格子叩、内 無文当、胎赤
			60	須恵器	壺	-	<5.4>	7.4	W、針	J	B	-	覆土	右回、回糸切、胎赤
			61	土師器	甕	-	<4.6>	(9.8)	R、W、S	G	B	30	覆土	
			62	土師器	甕	-	<1.7>	(11.4)	S、W、針	E	B	50	覆土	砂底
第32号溝跡	SD32	100	63	土師器	坏	13.0	<3.8>	-	B、針、W、C	G	B	30	覆土	
			64	土師器	坏	-	<1.6>	(5.8)	S、W、B	H	B	20	覆土	
			65	土師器	坏	-	<1.3>	(6.4)	B、W、針	E	B	30	覆土	右回、回糸切
			66	土師器	坏	-	<3.8>	-	S、B、W、C	C	B	15	覆土	内 口縁スス
			67	土師器	甕	-	<3.4>	-	R、B、W	C	B	10	覆土	ロクロ成形?、内 口縁スス
			68	須恵器	壺	(11.4)	<4.7>	-	W	J	B	40	覆土	
			69	土師器	甕	-	<2.4>	<7.4>	R、B、W、針	C	B	30	覆土	回糸切
			70	土師器	甕	-	<2.2>	(6.4)	R、S、B、W	H	B	20	覆土	
			71	須恵器	甕	-	<2.7>	-	R、W、針	K	B	-	覆土	外 平行叩、内 無文当?
			72	須恵器	甕	-	-	-	W、C	K	B	-	覆土	外 縄格叩、内 樹枝当?
第33号溝跡	SD33	100	73	須恵器	坏	(12.0)	<3.6>	-	W、針	K	B	20	覆土	内 一条禰
			74	須恵器	甕	-	<5.0>	-	W、針	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当?、胎赤
			75	土師器	甕	(21.0)	<5.0>	-	W、R、B	C	B	10	覆土	内 口縁スス
第36号溝跡	SD36	101	1	須恵器	坏	(11.2)	<3.0>	-	W、針	J	B	30	覆土	
			2	須恵器	坏	-	<1.3>	(4.8)	W、針	J	B	30	覆土	右回、回糸切、胎赤
			3	土師器	坏	(13.0)	(5.5)	(5.8)	S、B、C	E	B	50	覆土	右回?、回糸切、内黒
			4	土師器	坏	(12.0)	<4.6>	-	R、B、W	G	B	20	覆土	内黒
			5	土師器	坏	(12.0)	<3.4>	-	R、W、B	H	B	20	覆土	
			6	土師器	坏?	-	<3.5>	5.0	R、B、W、C	G	B	80	覆土	右回、回糸切
			7	須恵器	甕	-	<4.2>	-	W	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当?
			8	須恵器	甕	-	<3.0>	-	W	J	B	-	覆土	外 縄平叩、内 無文当?
			9	須恵器	壺	-	<2.3>	-	W、針	J	B	-	覆土	
			10	須恵器	壺	-	<4.2>	(7.8)	W、針	J	B	50	覆土	
			11	土師器	小形土器	8.0	7.4	5.2	S、C、B	G	B	70	覆土	
			12	土師器	小形土器	(8.6)	<3.4>	-	R、W、B、針	D	B	20	覆土	内 口縁スス

## 遺物観察表 (12)

遺構名	略号	総	科	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存	層位	備考
第36号溝跡	SD36	101	13	土師器	甕	(24.0)	<3.5>	-	R、B、C、S	C	B	15	覆土	ロクロ成形?
				土師器	甕	(12.4)	<3.3>	-	R、S、B	H	B	20	覆土	
				土師器	甕	(14.2)	<6.4>	-	S、B、C、R	C	B	10	覆土	
				土師器	甕	(18.0)	<5.0>	-	R、S、C	G	B	30	覆土	外 粘土
				土製品		-	<1.0>	-	B、W	H	B	-	覆土	口縁部か?
				土師器	甕	-	<3.2>	(10.0)	R、B、C、W、 S	G	B	40	覆土	
				土師器	甕	-	<1.8>	(4.8)	R、B、W	E	B	30	覆土	
				土師器	甕	-	<2.0>	(5.8)	R、S、B、W	E	B	50	覆土	砂底
				土製品	土鈴?	-	-	-	R、B、W、C	E	B	-	覆土	外 ケズリ・指頭圧痕、内 指頭圧痕、焼成前の穿孔あり、追記3参照
第1号埋設		104	1	土師器	甕	25.0	<19.5>	7.2	S、R、W、C、 針	D	B	60	覆土	砂底

## 観察表追記

## 追記1 (図34-31)

外周溝出土の甕形須恵器は、底部付近に円形を呈する二つの痕跡を有しており、それらはさながら備前焼の牡丹餅を思わせる(写真22)。この種の痕跡が認められるものはさほど珍しくはないが、これは恐らく、焼成時に丸い底部を安定させ、転倒防止のために焼台などで固定した痕跡かと思われる。本県における焼台の出土例は寡聞にして知らないが、秋田県能代市に所在する十二林遺跡や横手市富ヶ沢B窯跡で検出されており、特に前者では、須恵器の焼成温度以下で軟化及び熔融する軽石を用いているため、焼台に須恵器がめり込んだり融着しているものが確認されている。しかし、本資料はそれらを剥離した痕跡は見出せない。偶然融着しなかったのかもしれないが、それよりはむしろ、融着しない工夫を凝らしたのではなかろうか。村越潔氏が言われるように砂で焼き物を安定させたのか(北奥文化研究会編 1998)、または軽石よりも融点の高い礫などを用いたのか、或いは、焼成痕部分の焼け具合が坏形須恵器によくみる火ダスキ部分に似ることから、焼台と須恵器の間に藁などの草類を噛ませて融着を防いだ可能性も考えられなくもない。

## 追記2 (図61-15)

本資料の頸部には、肩部から連続するタタキメを撫で消した痕跡が認められる。よって頸部のタタキ調整が、口頸部を曲げてヨコナデを施す作業に先行することがわかる。タタキ調整の段階では口頸部がまだ作り出されておらず、肩部から直線的に伸びていたのだろう。

## 追記3 (図101-21)

本遺構で土鈴としたものは、本来用途不明の土製品などとすべきところではあったが、同一個体ではないにせよ、他の遺構で土鈴の鈕部が出土している点などを考慮して検討した結果、比較的可能性が高いと思われた土鈴として復元実測を行なったことをお断りしておく。ただ、浪岡町周辺では比較的多くの土鈴の出土が知られているものの(下山1996)、このタイプのものは少ないように思われる。敢えて近くに類似例をもとめるならば、青森市近野遺跡第16号住居出土のものがそれに該当しよう。

(佐藤 智生)



## 第 4 章 自然科学的分析

### 第 1 節 放射性炭素年代測定

野尻（1）遺跡の遺構内から出土した炭化材等を用いて放射性炭素による年代測定を実施した。その結果は下記の報告書に示すとおりである。

#### 学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書

木越邦彦

1997年 3月31日

1996年12月 9日受領いたしました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。

なお年代値の算出には<sup>14</sup>Cの半減期としてL I B B Yの半減期5570年を使用しています。また、付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差σにもとづいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また、試料のβ線計数率と自然計数率の差が2σ以下のときは、3σに相当する年を下限の年代値(B.P.)として表示してあります。また、試料のβ線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が2σ以下のときには、Modernと表示し、δ14C%を付記してあります。

#### 記

Code No.	試料	年代 (1950年よりの年数)
Gak-19506	No.1	
	第17号建物跡床面上の炭化材	1 4 4 0 ± 8 0 A.D. 5 1 0
Gak-19507	No.2	
	第22号土坑床面上の炭化材	1 4 9 0 ± 8 0 A.D. 4 6 0
Gak-19508	No.3	
	第20号溝跡(第10号建物跡外周溝) 覆土中の炭化物	1 1 8 0 ± 8 0 A.D. 7 7 0

## 第5章 考察とまとめ

遺構、遺物の概要や数量的なまとめについては第3章第1節及び巻末の報告書抄録を参照していただくこととし、ここでは特に注目される遺構、遺物について若干の考察を加えて、まとめにかえることとしたい。

### 第1節 外周溝の付け替えについて

野尻（1）遺跡では16棟の建物跡で外周溝が確認されている。その他に調査範囲等の関係で建物は確認できなかったものの、本来は外周溝であった可能性が考えられる溝跡も3条確認されている。

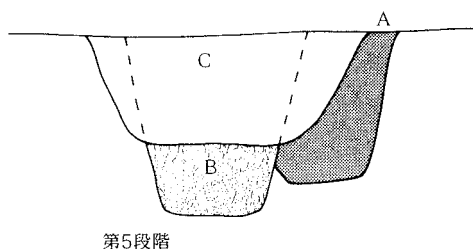
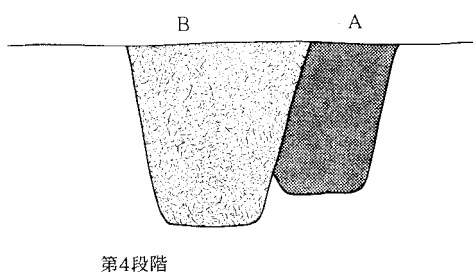
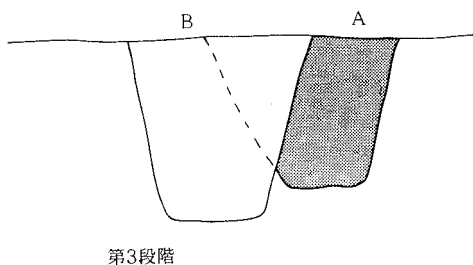
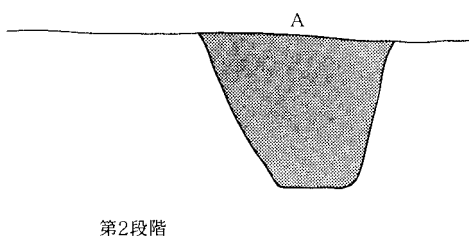
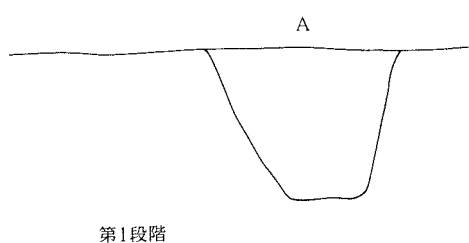
こうした外周溝が付随する建物跡や外周溝と思われる溝跡は、周辺の遺跡からも多数検出されているが（第2章第2節及び図5参照）、この検出例の多さは、本遺跡周辺がこの種の遺構の出自や消長を考える上で重要な地域であることを示唆している。

これらの建物跡の分類や特徴については隣接する野尻（4）遺跡の報告書で既に論じられており（新岡 1996）、竪穴部や掘立柱部における立替えについても指摘されている。今回の発掘調査でもそれらをほぼ追証する成果が得られているが、本稿では外周溝の付け替えについて若干の所見を述べてみたいと思う。

ここで付け替えとしたのは、同一の建物を囲む外周溝が複数認められる場合である。大別すると一部重複しながらも複数の外周溝が同心円的に同じ建物を囲む例（以下類型1）と、大半が重複するため平面的な見かけ上は単一の外周溝に見えながらも、土層断面の観察や溝底面、壁面の状態等から複数の外周溝の存在が想定される例（以下類型2）に分けられる。

類型1の例は第8号建物跡にみられる。同建物跡のS J 8部分を囲むように外周溝S D 22が巡り、その外側を一部重複しながらS D 18が巡る例がそれである。これほど明確に二重に巡る例は少ないが、第5号建物跡を囲む外周溝S D 11も同様に考えることができ、S J 5部分の西側でそれを読み取ることができる。南側も本来同様であったものが重複の加減で見かけ上単一に見える可能性が考えられる。また、不明な部分は多いが、第3号建物跡もS J 3部分の南側で三重に外周溝が巡る様子が見て取れる。北側部分は見かけ上単独だが、同一平面上での重複が考えられるものである。こうした例は建物の拡張に伴う場合があったと考えられ、その典型例を羽黒平（1）遺跡A区第19、20号住居跡に見出すことができる（川口 1995）。

一方、見かけ上単一に見えるながらも、実際には付け替えと考えられる類型2の例は、第10号建物跡の外周溝S D 20や第12号建物跡の外周溝S D 21、第15号建物跡の外周溝S D 28、第17号建物跡の外周溝S D 30などが考えられる。これらは土層断面等の観察結果から外周溝の重複が想定されたものであるが、重複のあり方はそれぞれ多様であり、同じ外周溝であっても場所によって重なり方が異なることが多い。従って図110に示した外周溝付け替えの模式図は、あくまでも土層断面の観察結果等からのモデルであって、第1段階で終わるものもあれば、第5段階以降に進むものもあることを付記しておく。



このような類型2の付け替えのあり方は、当初の外周溝の底面が露出したままの状態での次の外周溝が付け替えられるのではなく、前者を埋め戻した後に一定期間をおいてほぼ同じ場所が掘り返された

### 第1段階

最初の外周溝Aを掘る。

### 第2段階

外周溝Aを埋め戻す。溝の底面には埋め戻し以前の自然堆積土が見られることもある。また、溝を全部埋め切らず、人為的な堆積土の上に最終的に自然堆積土がのる場合もある。白頭山・苫小牧火山灰が挟在するのはこうした自然堆積部分である。

### 第3段階

外周溝Aとほぼ同じ場所に外周溝Bを掘る。AとBが部分的に重複する場合(3 a)、BがAを完全に切ってしまう場合(3 b)、逆にBがAの中に収まってしまう場合(3 c)、AとBが重複しない場合(3 d)があるが、図示したのは3 aである。

### 第4段階

外周溝Bを埋め戻す。自然堆積土の入り方については第2段階と同様である。

### 第5段階

外周溝Aや外周溝Bとほぼ同じ場所に外周溝Cを掘る。重複の仕方については第3段階と同様多様である。

以上の模式図を平面に置き換えると下記のように見えるものと思われる。

- ◎ 第1段階や第3段階の3 b、3 cの外周溝は、見かけ上は単純な1条の溝に見える。
- ◎ 第3段階の3 aは遺構確認時点では見かけ上1条の溝に見えるが、完掘すると底面が2条に分確認される。
- ◎ 第3段階の3 dは独立した2条の溝に見える。
- ◎ 第5段階は遺構確認時点では見かけ上1条の溝に見えるが、完掘すると底面が複数条確認されたり、壁の立ち上がりの途中に段を有することになる。

結果を示しているものと思われる。当初の外周溝の痕跡をトレースするように掘るのであろうが、それを正確に掘り返すには現在の発掘と同等の技術が必要となろうし、それほど厳密に掘り返す必要もなかったであろう。だいたいの場所とだいたいの深さが共通していれば問題なかったと見るべきであり、軸がぶれたり深さが一定しないのはむしろ類型2における付け替えの一般的な姿と考えられる。場所によって幅が異なるのも底面や壁面に段差が見られるのも軸のぶれに一因があったとも思われる。

次に外周溝付け替えの理由を考えてみる。

類型1の付け替えは、建物部分において規則的な柱穴の配列同士が重複する例がある点、きりあい関係等から判断すると、新規の外周溝は先行する外周溝の外側に位置する点等から、建物全体の拡張に伴うものとも考えることもできる。

類型2の付け替えは、建物の拡張や立替えに伴うものとも考えるには根拠に乏しく、外周溝の位置が大きくずれないことから他の理由を考えた方が妥当と思われる。

本遺跡での外周溝は、例外なく建物に対して標高の高い側を囲むように巡っている。周辺の遺跡も同様であることは図5からも解るが、このことから類推すると、高い側からの水の浸入を防ぐという役割が外周溝の機能の一つとしてあったことが考えられる。4月から11月の非降雪期間の調査区を見ると、これが最も有効に機能するのは間断なく流れてくる春先の雪解け水に対してであった。一時的な豪雨に対しても確かに有効ではあったが、流水がない場合は水が引くのも早く、最後まで水が残るのは外周溝の底面付近のみで、その部分はむしろ不衛生ですらあった。埋め戻す理由がこの不衛生さに起因するか否かは検証できないが、いずれにしろ建物の拡張以外の理由でも本遺跡では外周溝の付け替えがなされていたものと思われる。埋め戻しにあたっては土砂だけではなく、カマド起源と思われる粘土や焼土、土器片も混在している。土器片は、接合しても完形に復するものが少ないことから、埋め戻しに際しての外周溝は廃棄場としての側面ももっていたことが考えられる。

以上、外周溝の付け替えについて若干述べてみたが、これが本遺跡のみの特徴であるのか、傾斜地に立地する遺跡での特徴なのか、或いは普遍性をもたないものなのかはまだ検討不足である。今後の調査における留意事項として指摘しておきたい。

また、外周溝が盛行する時期に白頭山・苫小牧火山灰が降下しているため、外周溝に同火山灰が堆積していることも多く、遺構の年代決定の根拠とされている場合もしばしばである。しかし、ここまで見てきたように、一旦堆積した火山灰でもその後の外周溝の付け替えで欠失した場合があった可能性が想定される（註1）ことや、逆に既に埋め戻されていた外周溝は火山灰が降下してもそれが堆積する余地がない場合があったことも想定される（註2）ことから、遺構の年代決定に際して同火山灰に対して依存しすぎることの危険性も合わせて指摘しておきたい。

（太田原 潤）

註

（註1） 第3段階の3bの場合は、外周溝Aに火山灰が堆積したとしても、その後の外周溝Bの構築によって火山灰が除去されてしまうことが想定される。同様のことは第5段階の外周溝Cの構築によっても起こりうる。

（註2） 当地での白頭山・苫小牧火山灰は平地では確認しずらく、凹地でのみ確認される。従って第2段階において完全に埋め戻された後に降下した火山灰は依存しにくいことが想定される。

## 第2節 所謂ムシロ底の土器について

本遺跡においても、所謂ムシロ底(註1)の土器が1点確認された(図83-56)。この種の土器は、近年、稲野彰子氏によって集成が行われている。それによると、東北地方では3種5類の編物・織物痕が存在し、遺跡数も40遺跡で241点が確認され、時期は概ね平安時代に属す。そのうち青森県では、津軽地方の15遺跡で162点が知られ、時期も平安時代に相当し、全種類の編物・織物痕が存在する。

さて、本遺跡出土のものは、やや底面の凹みが顕著な甕形土師器で、稲野氏の分類のC種、即ち、スタレ、タワラに類似する薦編の圧痕を有す。その範囲は、縁辺部を除く底面全体に観察され、丁度、凹底の凹部に相当する。意識的な擦り消し痕跡は特に認められない。計測値(註2)は、タテ材の間隔が約16.50mm、ヨコ材は約3.00mmを測る。材質はワラ状のものと推定される。

C種は、東北地方でも主に津軽地方を中心に分布し、この度の調査においてもその一例を加えた訳であるが、調べてみると、青森県下においてムシロ底の土器を出土した遺跡は15遺跡に留まらない。現在、筆者の知る限りでは、津軽地方を中心として58遺跡約500固体を数え、一部、東北町栗山添(2)遺跡、六ヶ所村上尾駱(1)遺跡、八戸市熊野堂遺跡(註3)など、上北・南部地方でも散見される。本遺跡の近隣では、実吉遺跡、野尻(3)遺跡、山元(2)遺跡、浪岡城跡、源常平遺跡、杉の沢遺跡、松元遺跡、大沼遺跡、水木館遺跡などで確認できる。

土器の底面にムシロ痕が付く理由としては、焼成前に土器をムシロに置いたため等と一般的にいわれるが、本資料はやや凹みが顕著である故に、この考えは当てはまらない。また、底面の凹みが顕著な点から、凹底を意識して製作した可能性も捨てきれない(註4)。

(佐藤 智生)

### 註

(註1) 稲野氏の集成(稲野 1995)から、本遺跡のものは薦編圧痕としたいところだが、本文中では、ムシロ痕、ムシロ底と表記する。

(註2) 計測方法は稲野氏の方法に倣った。

(註3) 八戸市教育委員会宇部則保氏の御教示による。

(註4) 吉田生哉氏の研究(吉田 1992)によると、回転糸切り技法と器物安定のための凹底には密接な関係があるとされる。ムシロ底の土器にも凹底のものは少なくない。

### 第3節 所謂焼成粘土塊に類似する遺物について

所謂焼成粘土塊とは、片面に稲藁や草木類の痕跡が、もう片面にはユビナデなどの痕跡が認められるもので、今日、雲南方式と呼ばれる土師器焼成法(註1)に関連する遺物として理解されつつある。出土状況は、土器焼成土坑(註2)とされるものを初め、住居跡、貯蔵穴、溝などの覆土中からと様々である。時期は、弥生時代前期に既に認められ、奈良時代にも存在する(註3)。

ところで、本遺跡出土の焼成粘土塊は、第17号住居の外周溝覆土中から1点のみが出土した(註4)。焼成不良のため軟質であり、本来の形状を留めるものではないが、片面に草の茎と思われる圧痕が、顕著に観察されるのが大きな特徴である。胎土は土師器に類似する。

さて、本資料が一般的な焼成粘土塊に該当するかは判然としないが、片面に草の茎状の圧痕がみられることで表面的には類似点が見出せる。ただ、その性格的な解明となると容易ではない。今回の調査において土器焼成遺構の可能性が唯一考えられるのは第31号土坑(註5)であり、本資料が出土した遺構から最短距離にしてわずか6m程しか離れていない。この土坑に関しては本文中に詳しいが、隅丸長方形を呈し、浅い皿状の底面が火熱を受け赤化している。このような特徴は、概ね土師器焼成坑に相当するとみてよいだろう(註6)。この他、外周溝には生活廃材ともいべき遺物の廃棄が度々見受けられることから、第12号住居跡内で生じた廃棄物の可能性も考慮しなくてはならない。その場合、住居内で火熱を発するカマドの構築材が相当するものと思われ、その一部が剥落し、カマドを掃除した際に屋外に持ち出されて、手近に廃棄できる外周溝に投棄されたケースが想定される(註7)。また、胎土が土師器に似ることから、土器製作時に余った粘土を土器焼成時に一緒に焼いたか、焼台などに使用したことも考えられなくはない。現時点ではこれらの可能性を考えているが、いずれも決め手に欠ける。今後の調査にその性格解明を委ねたいが、調査時における見極めと、遺跡内における位置関係が重要なのはいうまでもない。

最後に、本県で刊行された報告書において、このような遺物の記載に関するものは皆無に等しいが、本遺跡のものが初例とは到底思えない。土器が存在する以上、その焼成遺構の存在は当然考えられることであり、それは須恵器も土師器も同様である。また、カマドやその他に起因するものとしても、その性格解明なくしては歴史の復元には繋がらない。何れにせよ、出土した遺物であることに変わりはないのであるから、他の遺物同様、その考究は当然為されるべきである。

(佐藤 智生)

註

(註1) 窯跡研究会編(1997)に詳しく、本文は同書を大いに参考とした。それによると、乾燥させた土器の上を草木で覆い、その上に粘土を塗って土器を焼成する方法で、名称の由来は中国雲南地方の民族例に基づく。焼成粘土塊は塗付された粘土が焼け上がったものとされるが、すべてがこの限りとは言い難いとの指摘も本書中においてなされている。

(註2) 全国で約110遺跡700基ほどが存在し、このうち東北地方に関しては、利部修氏、菅原祥夫氏の集成により34遺跡211基が確認されている。本県例は記載されていないが、羽黒平(1)遺跡や中里城跡に類似例があり、特に炭窯とされるものに関しては再検討の必要がある。

(註3) 弥生時代前期の福岡県津古土取遺跡ほか、奈良時代の例は三重県北野遺跡などで知られる。

- (註4) 焼成粘土塊を出土した遺跡は少なく、出土量も少ないようである。従って、粘土の混和材など、他の目的に利用された可能性が指摘されている。
- (註5) 第7号掘立柱建物跡(第12号住居跡に付随)の内部に存在する(図56)。この住居跡に伴うものかは不明であるが、もしそうだとすると、この住居跡が土器の製作或いは焼成に関わる工房的な性格を有す可能性が浮上する。因みに同様の遺構は97年度の調査においても数基検出されたが、住居跡には直接付随していないようである(来年度報告予定)。
- (註6) 但し、これらの要素から、俄かに土器焼成を行っていたと断言するつもりはない。
- (註7) カマドに利用されたかどうかは、カマドの本体及び焼成粘土塊の両方について胎土分析を行なう必要がある。無論、それ以外の場合も同様である。ところで、カマドの構築材として草木を用いる例は本県ではあまり聞かないが、北海道恵庭市ユカンボシE10遺跡第1号住居跡のカマドの築造に「補強もしくは成形材としてアシ状の植物の茎を簾状に編んだものを押し当てたと思われる焼けた粘土材が検出された。」(P54)とあり、類例が知られる。

## 引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1976 『鳥海山遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告 第32集
- 青森県教育委員会 1978 『三内遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第37集
- 青森県教育委員会 1978 『羽黒平遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第44集
- 青森県教育委員会 1978 『松元遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第46集
- 青森県教育委員会 1987 『山本遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第105集
- 青森県教育委員会 1993 『朝日山遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 152集
- 青森県教育委員会 1994 『山元（3）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第159集
- 青森県教育委員会 1995 『松山・羽黒平（1）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第170集
- 青森県教育委員会 1995 『山元（2）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第171集
- 青森県教育委員会 1995 『野尻（2）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第172集
- 青森県教育委員会 1996 『野尻（4）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第186集
- 青森県教育委員会 1996 『野尻（2）遺跡・野尻（3）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第186集
- 青森県教育委員会 1996 『平野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第193集
- 青森県教育委員会 1997 『隠川（3）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第210集
- 青森県教育委員会 1997 『朝日山（3）遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第215集
- 稲野彰子 1995 「いわゆるムシロ底について」 『北上市立博物館研究報告』 第10号  
北上市立博物館
- 窯跡研究会編 1997 『古代の土師器生産と焼成遺構』
- 川口 潤 1995 「羽黒平（1）遺跡A区の調査」 『松山・羽黒平（1）遺跡』
- 斎藤 淳 1990 『中里城跡』 中里町文化財調査報告書 第2集
- 佐原 真 1970 a 「土器の話（1）」 『考古学研究』 第16巻4号 考古学研究会
- 佐原 真 1970 b 「土器の話（2）」 『考古学研究』 第17巻1号 考古学研究会
- 佐原 真 1971 「土器の話（6）」 『考古学研究』 第18巻2号 考古学研究会
- 下山 信昭 1996 「東北地方における土鈴集成」 『研究紀要』 第1号 青森県埋蔵文化財調査センター
- 田中 琢 1962 「古代・中世における手工業の発達—窯業—（4）畿内」 『日本の考古学』
- 新岡 巖 1996 「建物跡と集落について」 『野尻（4）遺跡』
- 北奥文化研究会五所川原産須恵器の研究部会編 1998 『五所川原産の須恵器』
- 吉田 生哉 1992 「回転糸切りの基礎的研究（1）」 『いわき市教育文化事業団研究紀要』 第3号 財団法人いわき市教育文化事業団
- 村越 潔・新谷 武 1974 「青森県前田野目砂田遺跡発掘調査概報」 『北奥古代文化』 第6号
- 渡辺 俊一 1997 『ユカンボシE10遺跡』 北海道恵庭市発掘調査報告書 恵庭市教育委員会







写真1 調査区全景（東から）



1 調査区全景（西から）



2 調査区南側



3 調査区東側

写真2 調査区全景



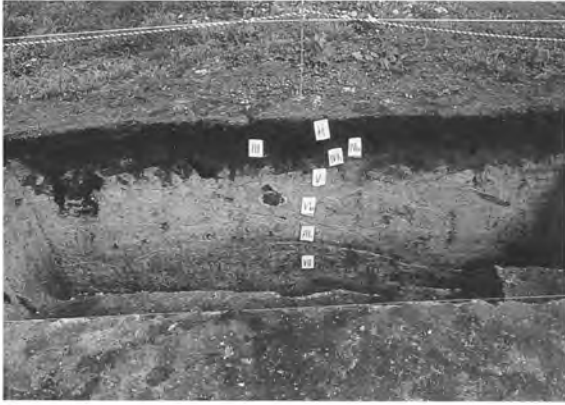


1 調査区南側全景（東から）



2 調査区北側全景（東から）

写真3 調査区全景



1 基本層序 (DF36)



2 基本層序 (DF36拡大)



3 基本層序 (CA38)



4 基本層序 (CU18)



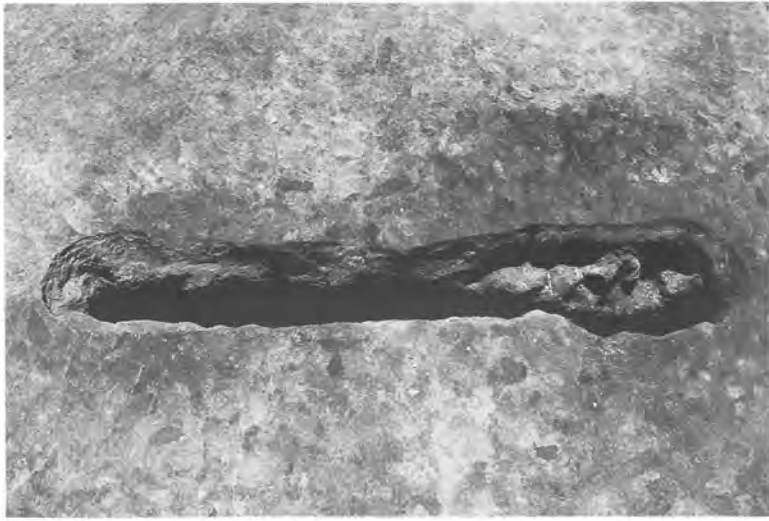
5 基本層序 (CG15)



6 基本層序 (BF14)

写真4 基本層序





1 第8号土坑（溝状土坑）



2 第8号土坑（溝状土坑）



3 第9号土坑（溝状土坑）



5 第9号土坑（溝状土坑）



4 第9号土坑（溝状土坑）

写真5 縄文時代の遺構



1 第1号建物跡（北西から）



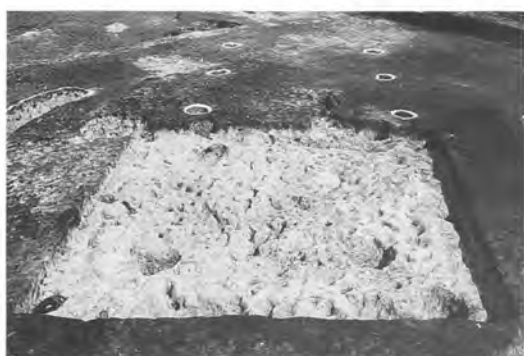
2 第1号建物跡（北東から）



3 第1号建物跡（東から）



4 第1号建物跡 掘り方



5 第1号建物跡 SJ1部分掘り方



6 第1号建物跡 カマド遺物出土状態



7 第1号建物跡 カマド断面



8 第1号建物跡 カマド

写真6 第1号建物跡





1 第2号住居跡



2 第2号住居跡 (断面)



3 第3号建物跡 (南から)



4 第3号建物跡 (東から)



5 第3号建物跡 (SD7・8・9)



6 第4号建物跡 (西から)



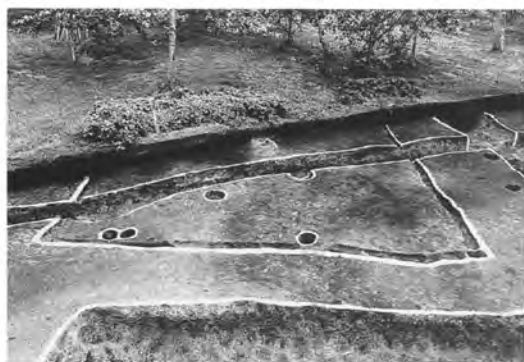
7 第4号建物跡 掘り方



8 第5号建物跡 (北から)

写真7 第2号～5号建物跡





1 第5号建物跡（西から）



2 第5号建物跡 SD11部分断面



3 第6号建物跡（西から）



4 第6号建物跡（東から）



5 第6号建物跡 掘り方



6 第6号建物跡 SD16部分断面



7 第6号建物跡 SD16部分断面



8 第6号建物跡 SD16内SK1遺物出土状態

写真8 第5号～6号建物跡



1 第6号建物跡 SD16内遺物出土状態



2 第7号・8号建物跡 (南西から)



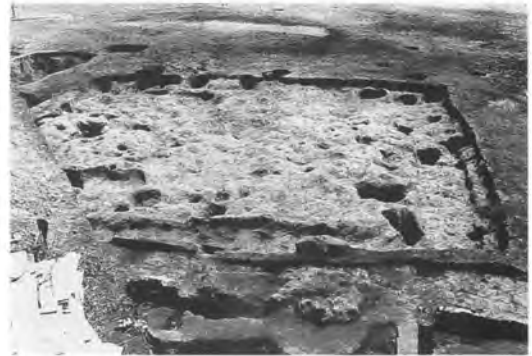
3 第7号建物跡 カマド



4 第8号建物跡 (南東から)



5 第8号建物跡 SJ8部分



6 第8号建物跡 掘り方



7 第8号建物跡 SD18部分断面



8 第9号建物跡 (北西から)

写真9 第6号～9号建物跡





1 第9号建物跡（南西から）



2 第10号建物跡（北西から）



3 第10号建物跡 SD20部分断面



4 第11号建物跡（南西から）



5 第12号建物跡（北西から）



6 第12号建物跡（南東から）



7 第13号建物跡（西から）

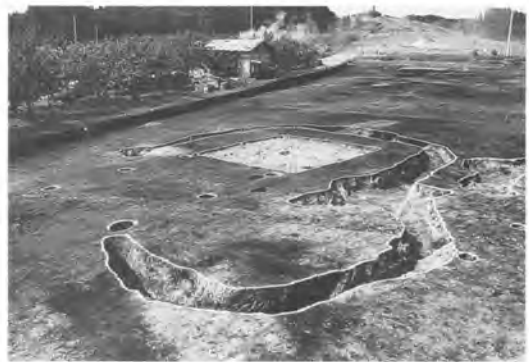


8 第13号建物跡 掘り方

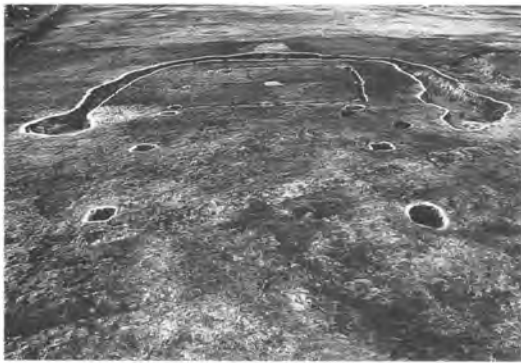
写真10 第9号～13号建物跡



1 第13号建物跡（北西から）



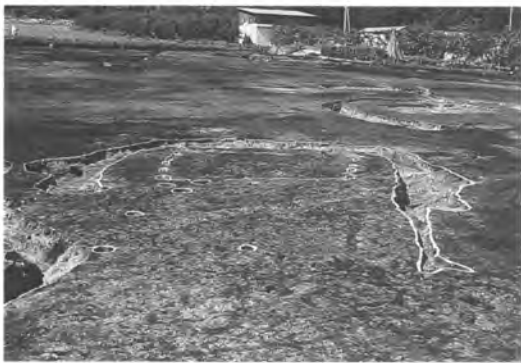
2 第13号建物跡（北東から）



3 第13号建物跡（南東から）



4 第14号建物跡（北西から）



5 第14号建物跡（南東から）



6 第14号建物跡 掘り方



7 第15号建物跡（北西から）



8 第15号建物跡 掘り方

写真11 第13号～15号建物跡





1 第15号建物跡（北西から）



2 第15号建物跡（東から）



3 第15号建物跡（北から）



4 第16号建物跡 掘り方



5 第16号建物跡（南東から）



6 第16号建物跡（東から）



7 第16号建物跡 掘り方



8 第16号建物跡 SD29部分断面

写真12 第15号～16号建物跡



1 第16号建物跡 SD29部分断面



2 第16号建物跡 SD29部分断面



3 第16号建物跡 SD29部分遺物出土状態



4 第17号建物跡 (北西から)



5 第17号建物跡 SJ17部分



6 第17号建物跡 SJ17部分掘り方



7 第17号建物跡 炭化材出土状態



8 第17号建物跡 炭化材出土状態

写真13 第16号～17号建物跡





1 第17号建物跡 SD30部分断面



2 第17号建物跡 SD30部分断面



3 第17号建物跡 SD30部分遺物出土状態



4 第17号建物跡 SB12-Pit 6遺物出土状



5 第3号土坑



6 第4号土坑



7 第5号土坑



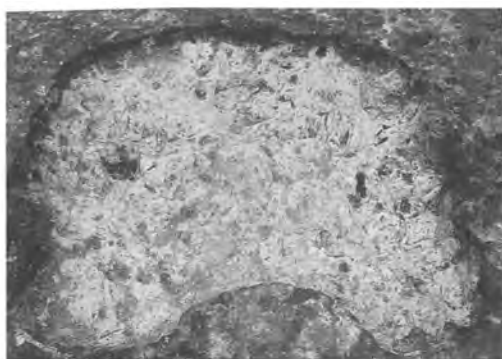
8 第6号土坑

写真14 第17号建物跡・第3号～6号土坑

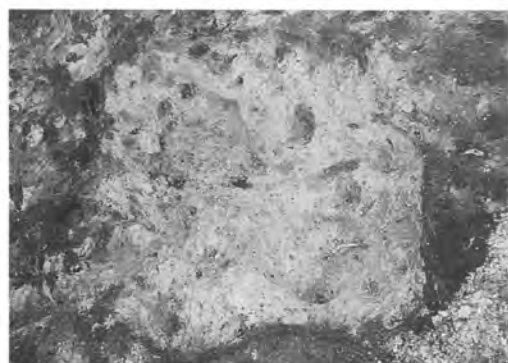




1 第7号土坑 (断面)



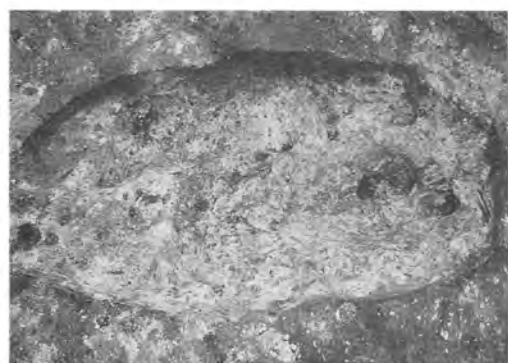
2 第12号土坑



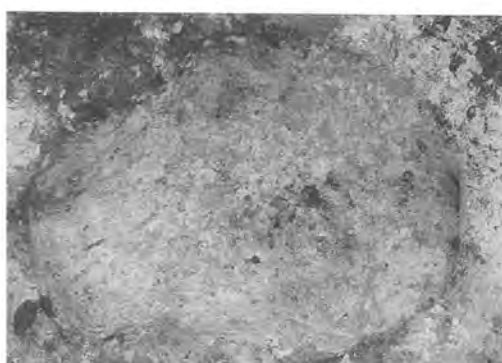
3 第13号土坑



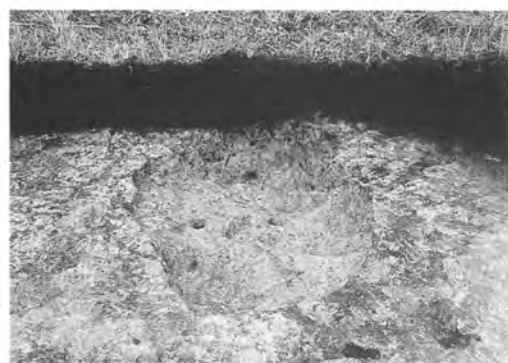
4 第14号土坑



5 第15号土坑



6 第16号土坑



7 第17号土坑



8 第18・19号土坑

写真15 第7号~19号土坑



1 第20号土坑



2 第22号土坑（断面）



3 第22号土坑（完掘）



4 第22号土坑（掘り方）



5 第23号土坑（断面）



6 第24号土坑



7 第25号土坑



8 第26号土坑

写真16 第20号～26号土坑

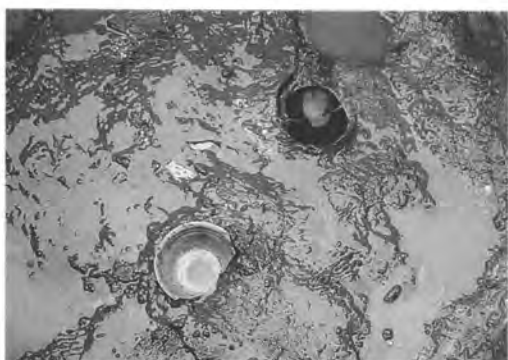




1 第27号土坑 (断面)



2 第27号土坑 (遺物出土状態)



3 第27号土坑 (遺物出土状態)



4 第27号土坑



5 第28号土坑 (断面)



6 第28号土坑



7 第29号土坑 (断面)



8 第29号土坑

写真17 第27号～29号土坑



1 第30号土坑（断面）



2 第33号土坑（断面）



3 第33号土坑



4 第36号土坑



5 第37号土坑



7 第39号土坑



6 第38号土坑

写真18 第30号～39号土坑





1 第2号溝跡 南半(北から)



2 第2号溝跡 北半(北から)



3 第2号溝跡 遺物出土状態



4 第2号・5号・6号溝跡(北から)



5 第5号・6号溝跡



6 第12号・13号・14号溝跡(北から)



7 第25号溝跡(北から)



8 第32号溝跡(南から)

写真19 溝跡



1 第36号溝跡



2 第36号溝跡断面



3 第36号溝跡断面



4 第11号堀立柱建物跡



5 第1号焼土遺構



6 調査風景



7 調査風景



8 調査風景

写真20 溝跡・堀立柱建物跡・焼土遺構他





图32-15



图34-31



图34-31



图34-31



图34-31



图34-31



图34-31



图34-31



图43-1



图43-9



图43-16



图51-3



图51-20



图51-21



图54-2



图54-5

写真21 遺構内出土遺物 (1)



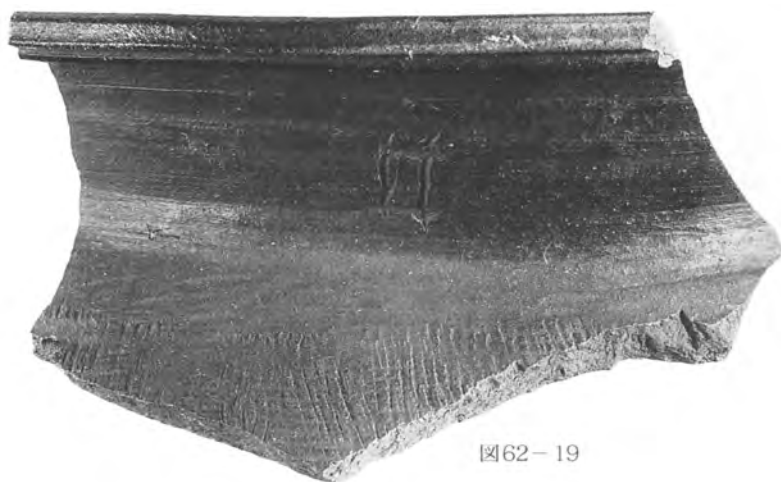


図62-19



図61-15



図63-40



図63-41



図66-1



図66-1



図69-4



図70-27

写真22 遺構内出土遺物(2)



图73-5



图73-6



图79-15

写真23 遺構内出土遺物(3)



图80-18



图80-19



图80-20



图80-21



图80-22



图80-29



图80-30



图83-67



图88-7



图88-8



图88-9



图100-55



图101-3



图101-11



图103-1

写真24 遺構内出土遺物(4)



写真25 遺構外出土遺物



## 報告書抄録

ふりがな		のじり(1)いせき						
書名		野尻(1)遺跡 I						
副書名		国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告						
巻次		I						
シリーズ名		青森県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号		第234集						
編著者名		太田原 潤・佐藤 智生・山内 実						
編集機関		青森県埋蔵文化財調査センター						
所在地		〒038 青森市大字新城字天田内152-15 TEL0177(88)5701 FAX0177(88)5702						
発行年月日		西暦1998年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のじり(1)いせき 野尻(1)遺跡	あおもりけんみなみつがるくんなみ 青森県南津軽郡浪 おかまちおおあざたかやしきあざ 岡町大字高屋敷字 のじり 野尻155-4、外	02364	29060	40°	140°	19960507	12,000	国道101号浪岡 五所川原道路 建設事業
				44′	35′	～		
				35″	05″	19961031		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
野尻(1)遺跡	散布地	縄文	溝状ピット 1基		縄文土器 石鏃	・遺物少量		
	集落跡	平安	建物跡	17棟	土師器	・集落跡を確認		
			掘立柱建物跡	1棟	須恵器	・掘立柱建物跡と外周溝が 伴う住居跡を多数検出		
			土杭	39基	土製品	・白頭山苦小牧火山灰降下 以前の遺構が多い		
			溝跡	19条	土製勾玉			
			焼土遺構	4基				

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第234号

野 尻 (1) 遺 跡 I

—国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 1998年3月31日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15

TEL0177-88-5701 FAX0177-88-5702

印 刷 所 青森コロニー印刷

青森市幸畑字松元62-3

TEL0177-38-2021

---



